

三島市  
子どもの生活実態調査

結果報告書

令和6年(2024年)3月

三島市

# 目 次

---

調査の概要 .....	1
調査の目的 .....	1
調査の方法 .....	1
報告書の留意点 .....	1
「生活困難」について .....	2
保護者票 集計結果 .....	4
あなた（ご回答者）とご家族について .....	4
あて名のお子さまのご両親について .....	10
お子さまについて .....	20
子育ての悩みや相談について .....	36
各種支援・サービスについて .....	43
ご家族のお世話について .....	50
世帯の経済的状況について .....	56
意見・要望等について .....	63
子ども票 集計結果 .....	75
あなたのことについて .....	75
ふだんの食事について .....	76
持っているものについて .....	89
ふだんの過ごし方について .....	95
ご家族のお世話について .....	104
学校のことや勉強のことについて .....	115
日常生活の中で感じていることについて .....	120
三島市子どもの生活実態調査課題の整理 .....	137
支援対象と支援方針 .....	137
主な課題 .....	137

---

# 調査の概要

## 調査の目的

本調査は、より安心して子どもを育てるために必要な取組を検討するにあたり、お子さまのいる家庭の生活状況や子どもの様子、また子育ての悩みや困りごと等の実態を把握するため実施したものです。

## 調査の方法

### (1)調査対象

保護者票：三島市立の小学校5年生と中学校2年生のお子さまをもつ保護者の方

子ども票：三島市立の小学校5年生と中学校2年生のお子さま

### (2)調査期間

令和5年11月27日（月）～令和5年12月8日（金）

### (3)調査方法

学校を通じて配付・回収

### (4)配付・回収状況

	配付数	回収数	有効回収数※	有効回収率※
保護者票	1823票	1571票	1555票	85.3%
子ども票	1823票	1583票	1580票	86.7%

※有効回収数・有効回収率は、回収票のうち、全問無回答を除いた回答票数（割合）

## 報告書の留意点

- 「集計結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 百分率による集計では、回答者数（該当設問においては該当者数）を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記します。そのため、割合の合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答（2つ以上選ぶ問）の設問では、すべての割合の合計が100%を超えることがあります。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表します。
- 図表の記載にあたり調査票の設問文、グラフ及び文章中の選択肢を一部簡略化している場合があります。

## 「生活困難」について

### (1)生活困難とは

本調査では、「困窮層」、「周辺層」、「一般層」の3つの要素に基づいて分類しています。そのうち、「困窮層」と「周辺層」を合わせた層を「生活困難層」とし、それ以外の層を「一般層」とした場合に、「生活困難層」の世帯の状況を「生活困難」と表します。

### (2)生活困難度判定

「子どもの生活実態調査」のアンケート調査において、3つの要素に該当する世帯及びその子どもを把握するための3つの設問を保護者票に設け、それぞれに該当する世帯の抽出を行いました。

要素①「低所得」では、世帯の可処分所得を把握する調査結果を基に、厚生労働省「令和4年国民生活基礎調査」から算出される基準未満（等価可処分所得の中央値 254 万円×50% = 127 万円をベースとした世帯数ごとの低所得基準）の世帯が該当。

要素②「子どもの体験や所有物の欠如」では、子どもの体験や所有物などに関する14項目のうち、6項目<sup>※1</sup>で金銭的に与えられていないと回答した世帯が該当。

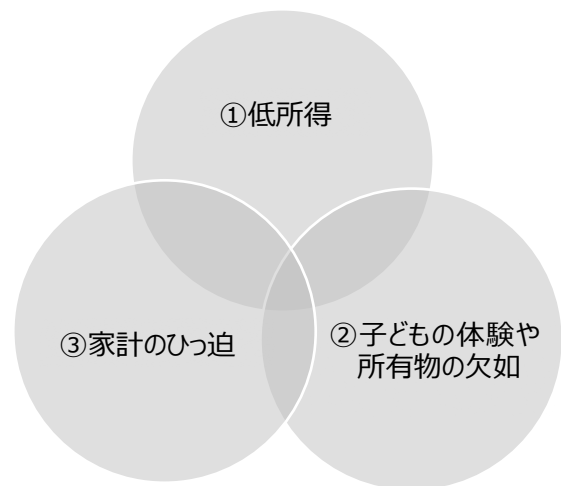
要素③「家計のひっ迫」では、経済的な理由で公共料金や家賃を支払えなかった経験や食料・衣類を買えなかった経験などの7項目のうち、5項目<sup>※2</sup>で「何度かあった」、「頻繁にあった」を1つ以上回答した世帯が該当。

### (3)困窮層、周辺層、一般層の判定

生活困難と判定された世帯のうち、2つ以上の要素に該当する世帯を「困窮層」、3つの要素のうち、いずれか1つの要素に該当する世帯を「周辺層」、いずれの要素にも該当しない世帯を「一般層」と判定しました。

#### ◆生活困難層（困窮層・周辺層）、一般層

生活困難層	困窮層 + 周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない



※1 子どもの体験や所有物などに関する14項目のうち、6項目：

P28 子どもの生活実態調査アンケート調査票(保護者票)の間 15 参照。

設問内の14項目のうち、生活習慣や医療利用、学習、進学に関わる「1日3回(朝・昼・夕)の食事」、「毎日の入浴(風呂・シャワーなど)」、「必要ときに病院・診療所に行く」、「子どもが家で勉強できる環境」、「希望すれば高校・高専への進学」、「希望すれば大学等への進学」の6項目を示します。

※2 経済的な理由で公共料金等の滞納や食料・衣類を買えなかった経験などの7項目のうち、5項目：

P57 子どもの生活実態調査アンケート調査票(保護者票)の間 34 参照。

設問内の7項目のうち、基本的な生活水準を保つことが難しいと考えられる公共料金や食料・衣類の費用に関わる「必要な食料が買えなかった」、「必要な衣類が買えなかった」、「電気・ガス・水道料金の滞納」、「電話料金の滞納」、「家賃の滞納」の5項目を示します。

#### (4)生活困難層の割合

子どもの生活実態調査の保護者票の集計結果から生活困難度判定を行い、「困窮層」、「周辺層」、「一般層」に該当する票を抽出し、生活困難層の割合を算出しました。また、生活困難度判定結果に基づき、子ども票も同様に生活困難層の割合を算出しました。

○ 保護者票の生活困難層の割合：

		困窮層	周辺層	一般層	不明 <sup>※3</sup>	計
小学5年生 保護者票	該当票数	40票	95票	534票	159票	828票
	割合 <sup>※4</sup>	4.8%	11.5%	64.5%	19.2%	100.0%
中学2年生 保護者票	該当票数	32票	63票	479票	153票	727票
	割合 <sup>※4</sup>	4.4%	8.7%	65.9%	21.0%	100.0%
全体	該当票数	72票	158票	1013票	312票	1555票
	割合 <sup>※4</sup>	4.6%	10.2%	65.1%	20.1%	100.0%

○ 子ども票の生活困難層の割合：

		困窮層	周辺層	一般層	不明 <sup>※3</sup>	計
小学5年生 子ども票	該当票数	40票	95票	532票	170票	837票
	割合 <sup>※4</sup>	4.8%	11.4%	63.6%	20.3%	100.1%
中学2年生 子ども票	該当票数	32票	63票	477票	171票	743票
	割合 <sup>※4</sup>	4.3%	8.5%	64.2%	23.0%	100.0%
全体	該当票数	72票	158票	1009票	341票	1580票
	割合 <sup>※4</sup>	4.6%	10.0%	63.9%	21.6%	100.1%

#### (5)世帯タイプ別の割合

子どもの生活実態調査の保護者票の集計結果から世帯タイプ別判定を行い、「ふたり親世帯」と「ひとり親世帯」に該当する票を抽出し、世帯タイプの割合を算出しました。

○ 保護者票の世帯タイプ別の割合：

		ふたり親 世帯	ひとり親 世帯	その他 世帯	不明 <sup>※3</sup>	計
小学5年生 保護者票	該当票数	627票	158票	12票	31票	828票
	割合 <sup>※4</sup>	75.7%	19.1%	1.4%	3.7%	99.9%
中学2年生 保護者票	該当票数	538票	156票	7票	26票	727票
	割合 <sup>※4</sup>	74.0%	21.5%	1.0%	3.6%	100.1%
全体	該当票数	1165票	314票	19票	57票	1555票
	割合 <sup>※4</sup>	74.9%	20.2%	1.2%	3.7%	100.0%

※3 不明：生活困難層の割合では、困窮層、周辺層、一般層は、生活困難を定義づける3つの要素に基づき該当者を抽出したものです（「生活困難」の定義については、2ページを参照）が、この3つの要素のいずれか1つでも無効の回答があった票を「不明」としています。

世帯タイプ別の割合では、世帯構成を把握する設問で有効な回答ではない票を「不明」としています。

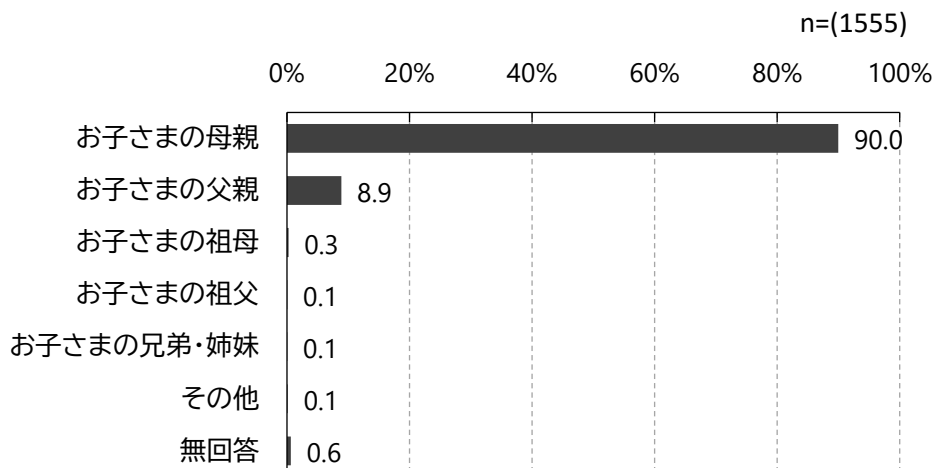
※4 割合：端数処理の関係で、割合の合計が100%にならない場合があります。

# 保護者票 集計結果

## あなた(ご回答者)とご家族について

問 1 お答えいただくのは、どなたですか。

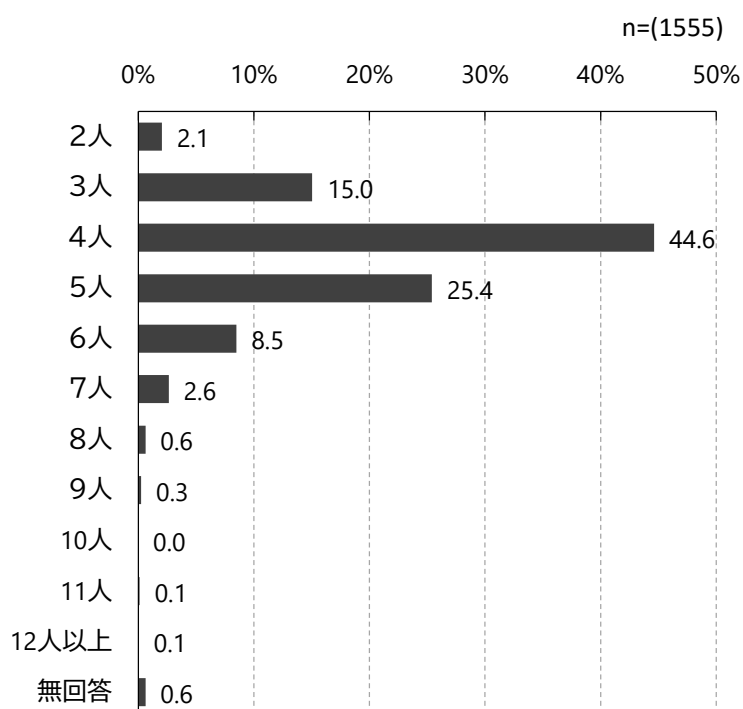
回答いただいた方についてみると、「お子さまの母親」が最も多く 90.0%、次いで「お子さまの父親」が 8.9%、「お子さまの祖母」が 0.3%となっています。



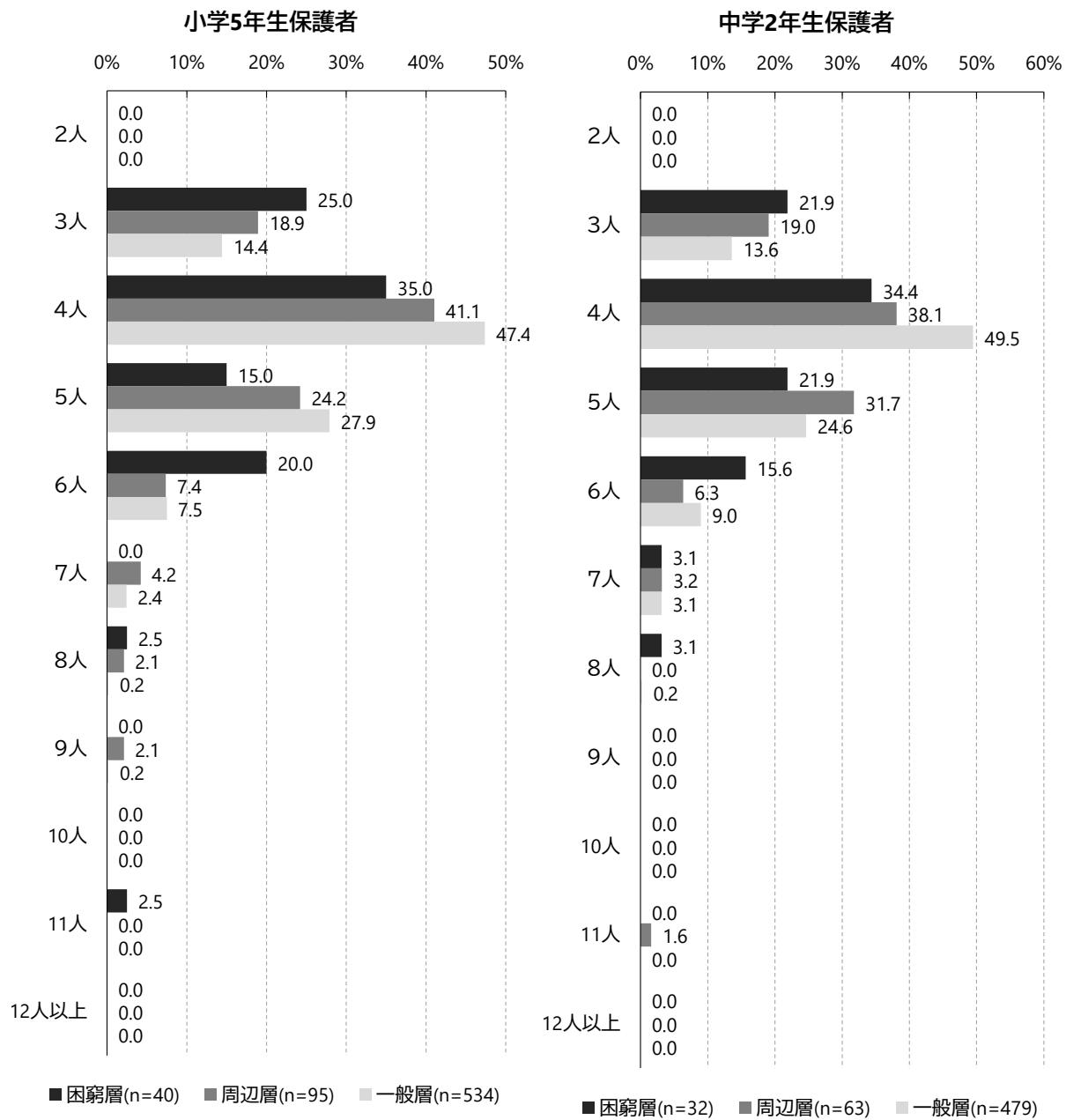
問 2 普段一緒にお住まいで、生計(食費や生活費など)を共にしている方(世帯員)は、あなたとお子さまを含めて何人ですか。また、お子さまの人数は何人ですか。

(1)一緒に住んでいる方の人数(あなたとお子さまを含めた)

回答いただいた方と子どもを合わせた同居人数についてみると、「4人」が最も多く 44.6%、次いで「5人」が 25.4%、「3人」が 15.0%となっています。

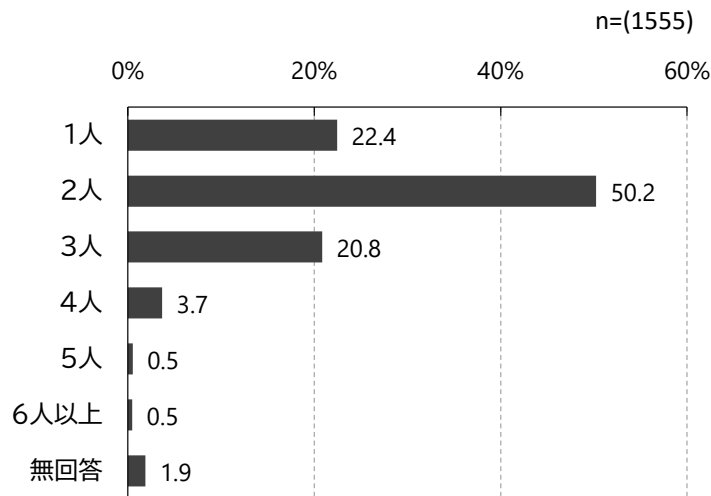


問2の一緒に住んでいる人の人数について、生活困難度別にみると、一般層より困窮層の割合が高いものは小学5年生、中学2年生ともに「3人」、「6人」、「8人」で、小学5年生のみ「11人」も高くなっています。

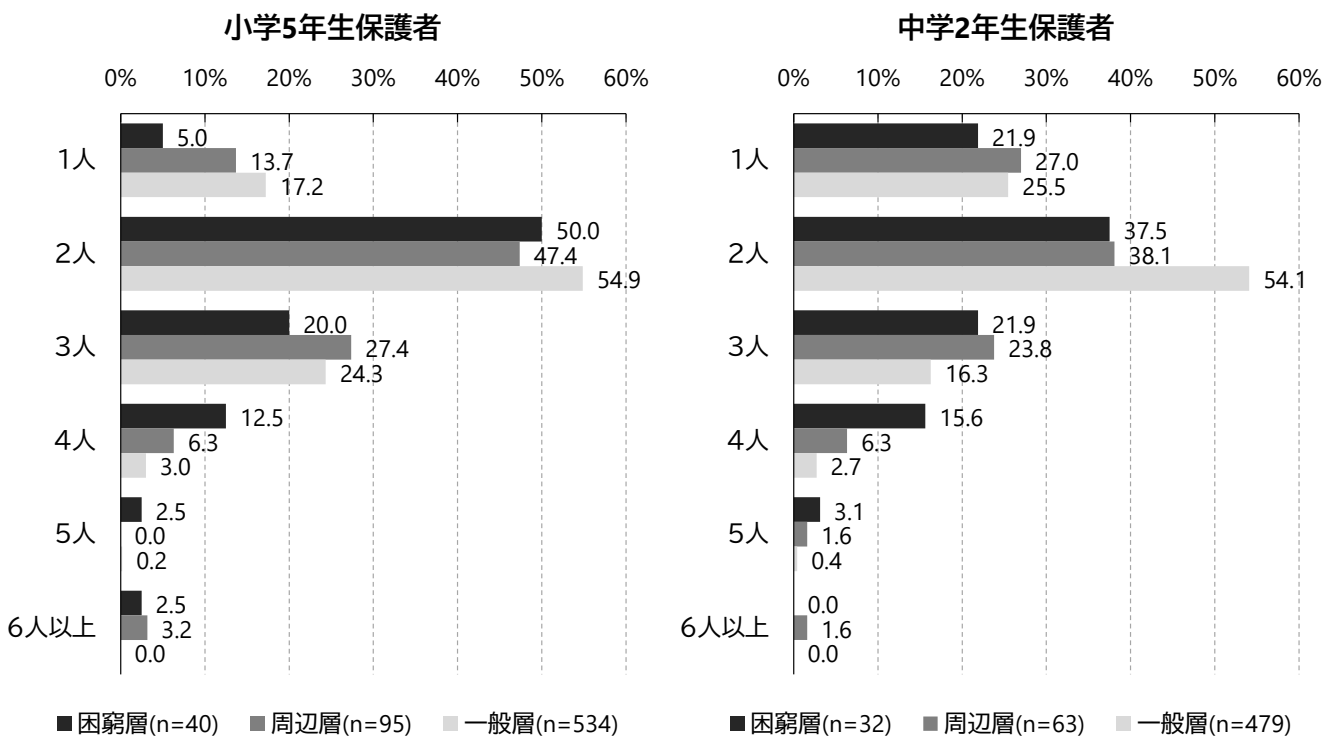


## (2)17 歳以下のお子さまの人数

17 歳以下の子ども的人数についてみると、「2 人」が最も多く 50.2%、次いで「1 人」が 22.4%、「3 人」が 20.8%となっています。



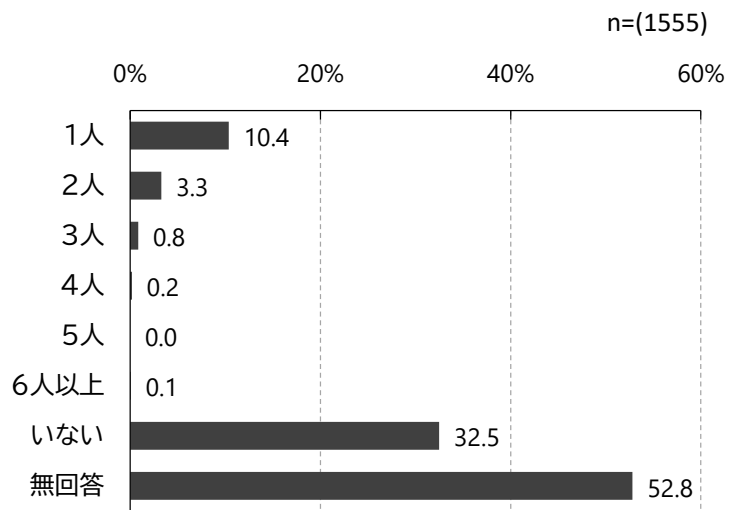
問2 (2) の一緒に住んでいる人のうち、17 歳以下の子ども的人数について、生活困難度別にみると、一般層より困窮層の割合が高いものは小学5年生では「4 人」、「5 人」、「6 人以上」、中学2年生では「3 人」、「4 人」、「5 人」となっています。





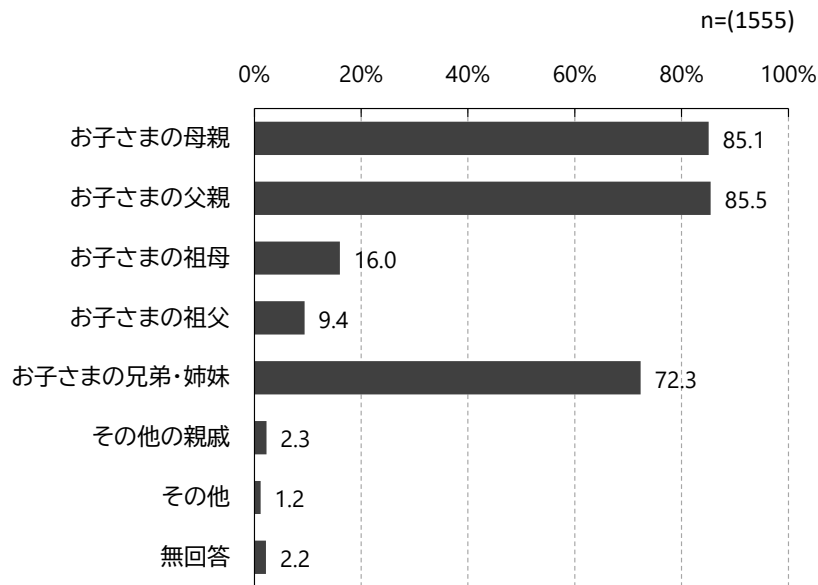
### (3)18 歳以上のお子さまの人数

18 歳以上の子ども的人数についてみると、「いない」が最も多く 32.5%、次いで「1 人」が 10.4%、「2 人」が 3.3%となっています。



問3 あなたの世帯は、どなたと一緒に暮らしていますか。(複数回答)

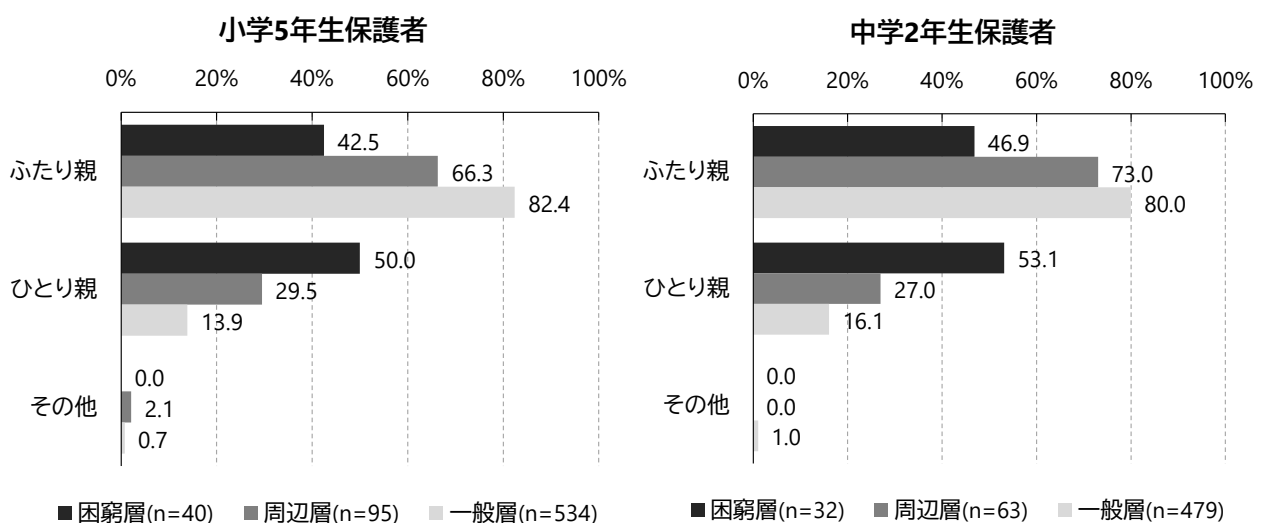
一緒に暮らしている人についてみると、「お子さまの父親」が85.5%、「お子さまの母親」が85.1%、「お子さまの兄弟・姉妹」が72.3%となっています。



世帯タイプ別(「ひとり親世帯」と「ふたり親世帯」)の生活困難度

問3で「お子さまの母親」と「お子さまの父親」のどちらかのみ回答した世帯を「ひとり親」世帯、どちらも回答した世帯を「ふたり親」世帯、どちらも回答しなかった世帯を「その他」世帯と仮定した場合の世帯タイプ別で、小学5年生と中学2年生のそれぞれの生活困難度を集計しました。

世帯タイプ別でみると、小学5年生、中学2年生ともに「ひとり親」では、困窮層が一般層より35ポイント以上上回っています。



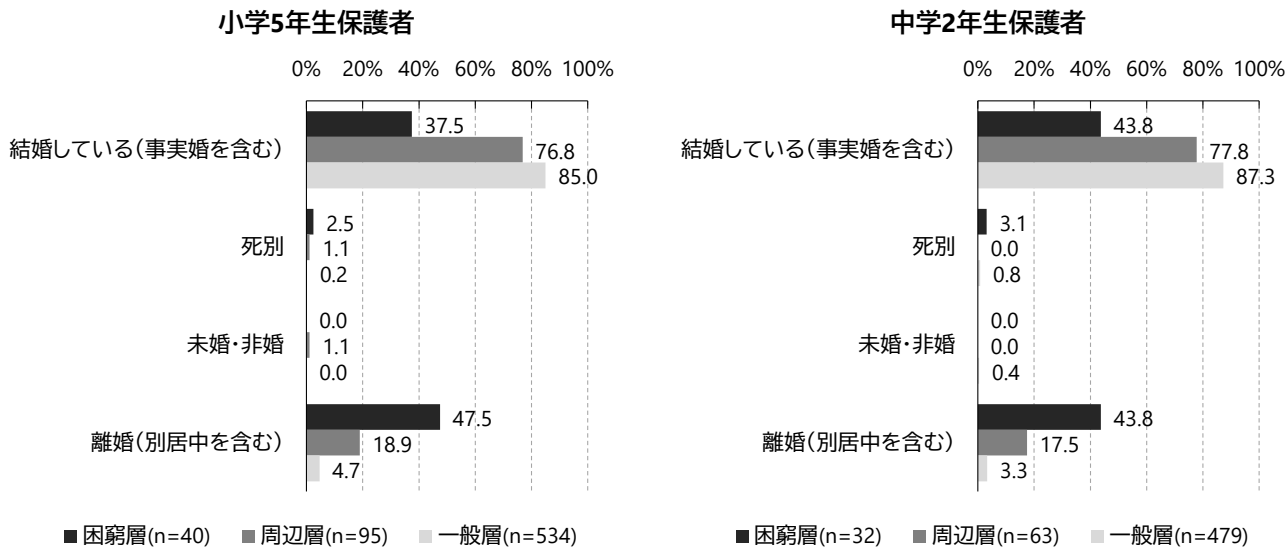
(1) あなた（ご回答者）とご家族についてのまとめ

- ひとり親は、ふたり親世帯より困窮層、周辺層の割合が高いことから、ひとり親世帯のほうが、生活が困窮する可能性が高いことが分かります。
- ひとり親世帯は困窮層、周辺層で支援の対象になる傾向があります。
- 困窮層は生計を共にする家族の人数が3人、6人、8人の世帯が、一般層より高くなっており、また子どもの数も、4人以上から一般層よりも高くなる傾向があり、多子世帯でも生活が困窮している世帯があることがうかがえます。

## あて名のお子さまのご両親について

### 問4 お子さまのご両親の婚姻状況についてお答えください。

両親の婚姻状況についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「離婚（別居中を含む）」は困窮層が一般層より40ポイント以上上回っています。

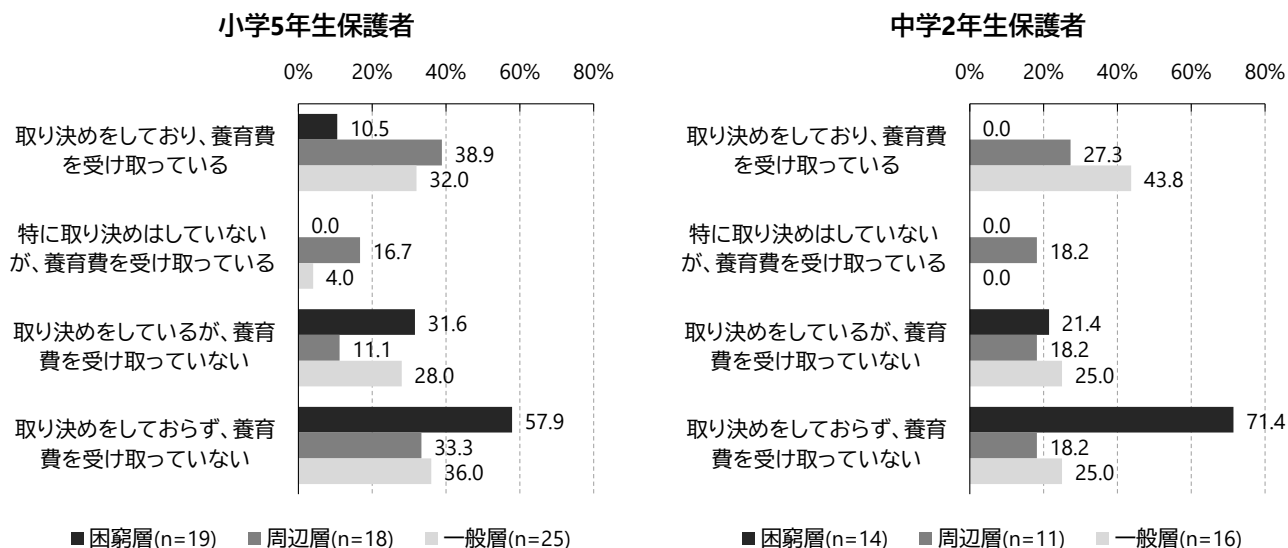


### 問4で「離婚(別居中を含む)」と回答した方

### 問5 離婚されている場合、離婚相手とはお子さまの養育費の取り決めをしていますか。

離婚相手との子どもの養育費の取り決めについてみると、小学5年生の困窮層では「取り決めをしており、養育費を受け取っている」と「特に取り決めはしていないが、養育費を受け取っている」を合計した割合は10.5%で、中学2年生の困窮層では0.0%となっています。

一方、小学5年生の一般層では「取り決めをしており、養育費を受け取っている」と「特に取り決めはしていないが、養育費を受け取っている」を合計した割合は36.0%で、中学2年生の困窮層では43.8%となっています。

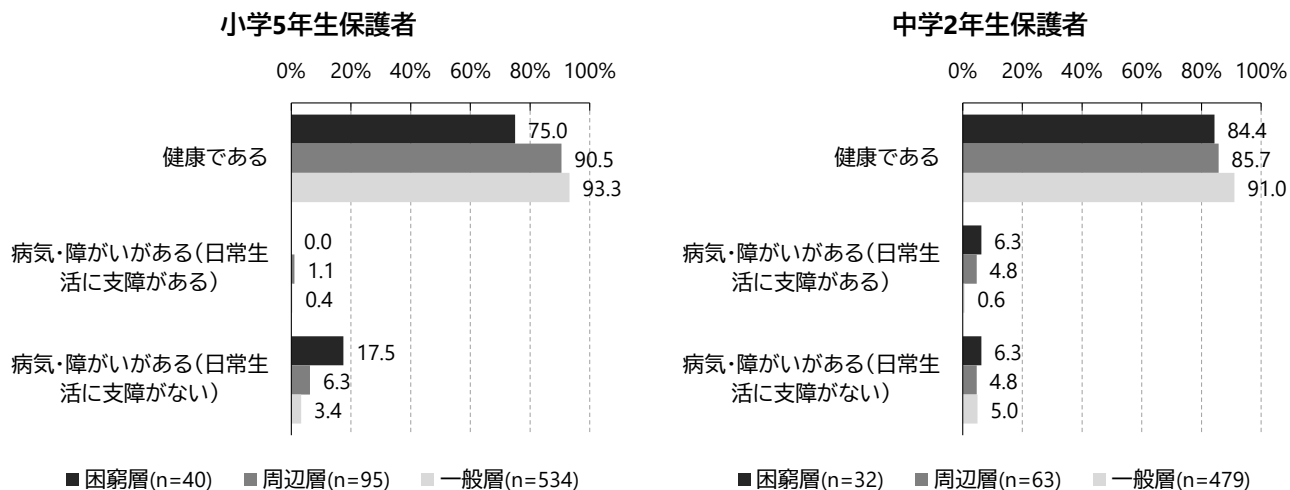


問 6 お子さまのご両親の健康状態についてお答えください。

(1)母親の健康状態

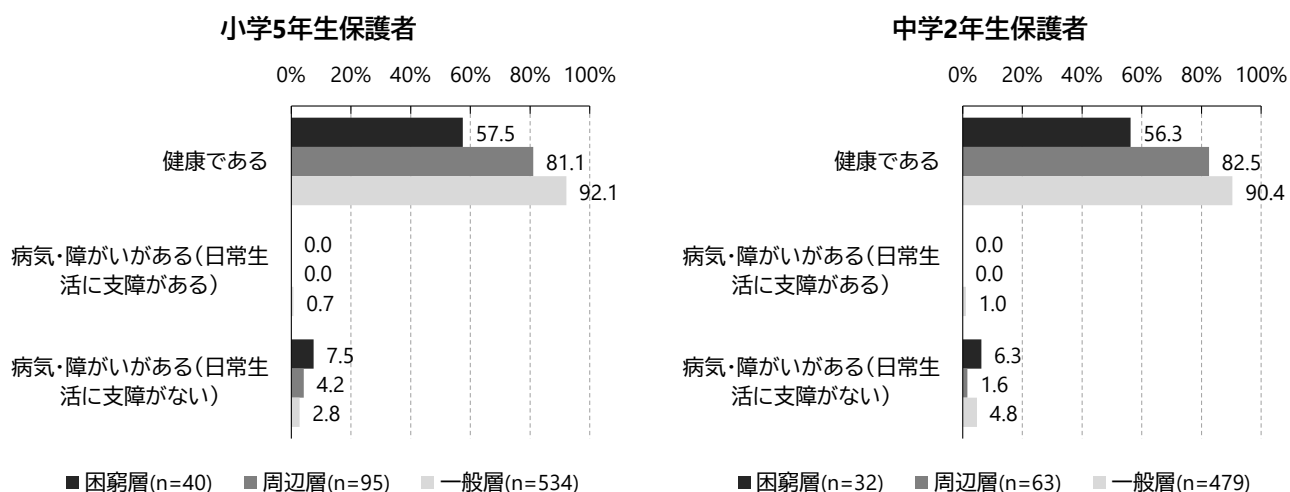
母親の健康状態についてみると、小学5年生では「健康である」は困窮層が一般層より 15 ポイント以上、中学2年生は5 ポイント以上下回っています。

また、小学5年生では「病気・障がいがある（日常生活に支障がない）」は、困窮層が一般層より 10 ポイント以上上回っています。



(2)父親の健康状態

父親の健康状態についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「健康である」は困窮層が一般層より 30 ポイント以上下回っています。

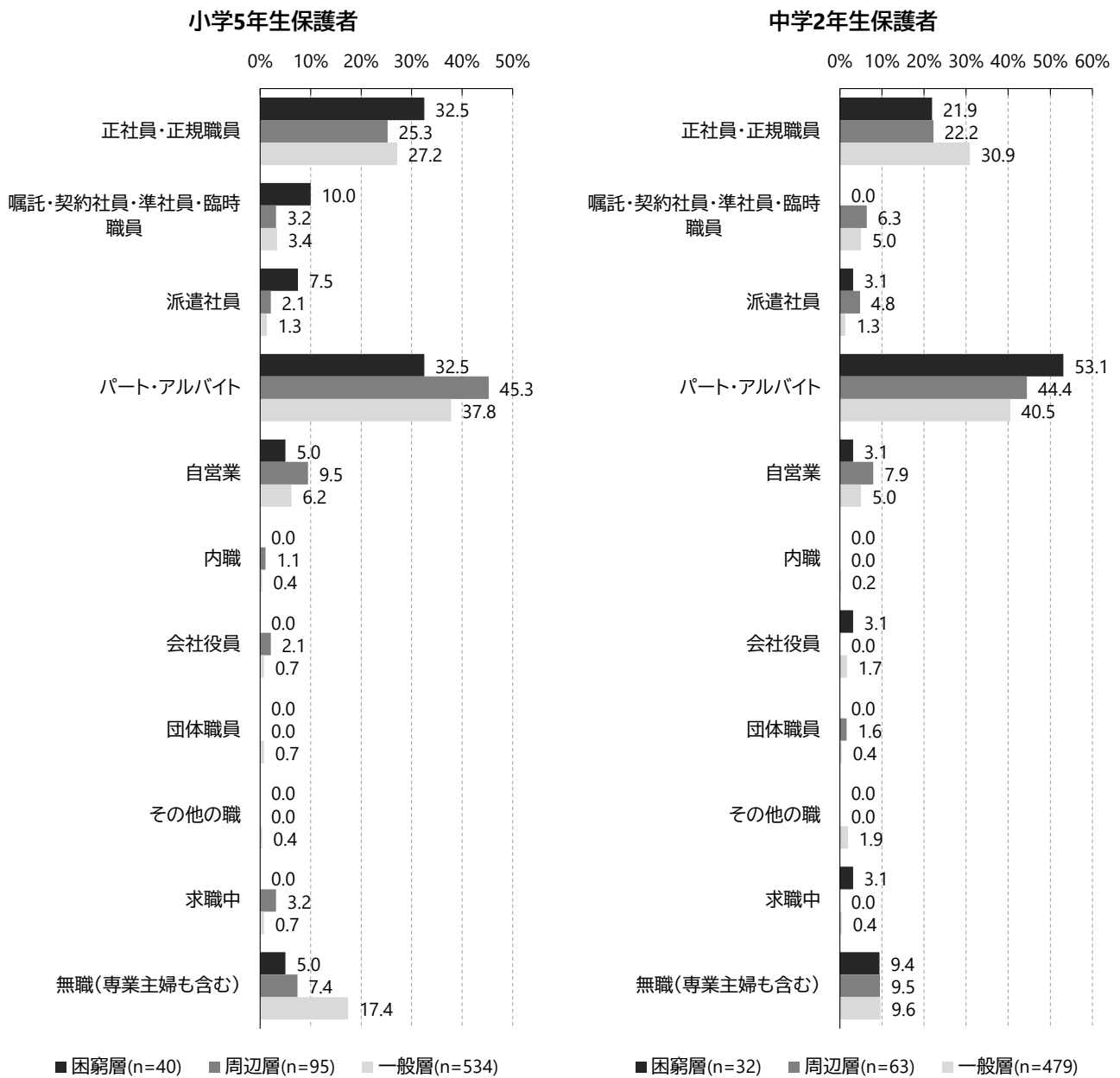


問 7 お子さまのご両親の主な就業状況についてお答えください。

(1)母親の就業状況

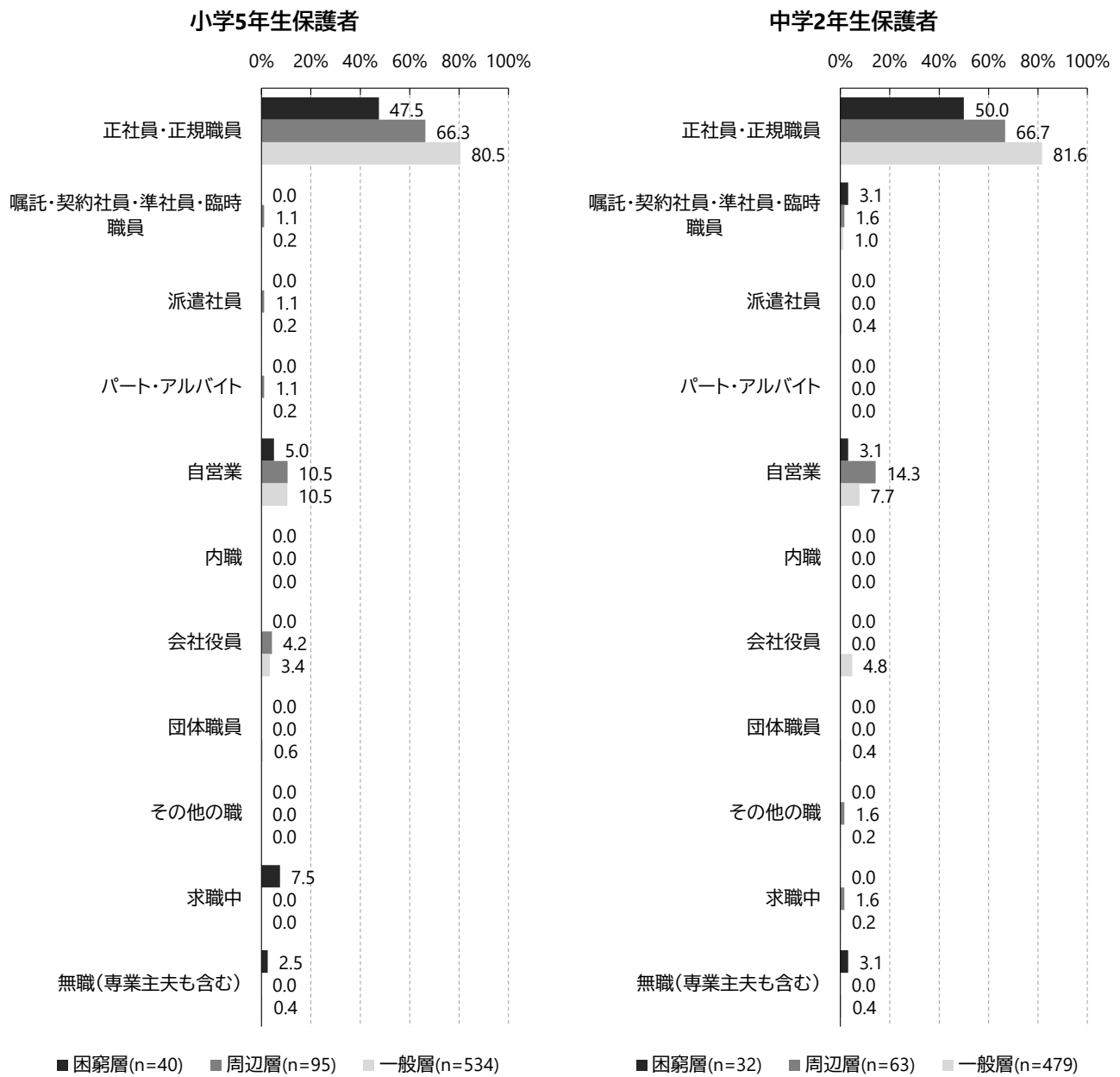
母親の就業状況についてみると、小学5年生では「正社員・正規職員」、「嘱託・契約社員・準社員・臨時職員」、「派遣社員」がそれぞれ、困窮層が一般層より5ポイント以上上回っており、「無職（専業主婦も含む）」は困窮層が一般層より10ポイント以上下回っています。

また、中学2年生では「パート・アルバイト」で、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っています。



## (2)父親の就業状況

父親の就業状況についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「正社員・正規職員」は、困窮層が一般層より30ポイント以上下回っています。

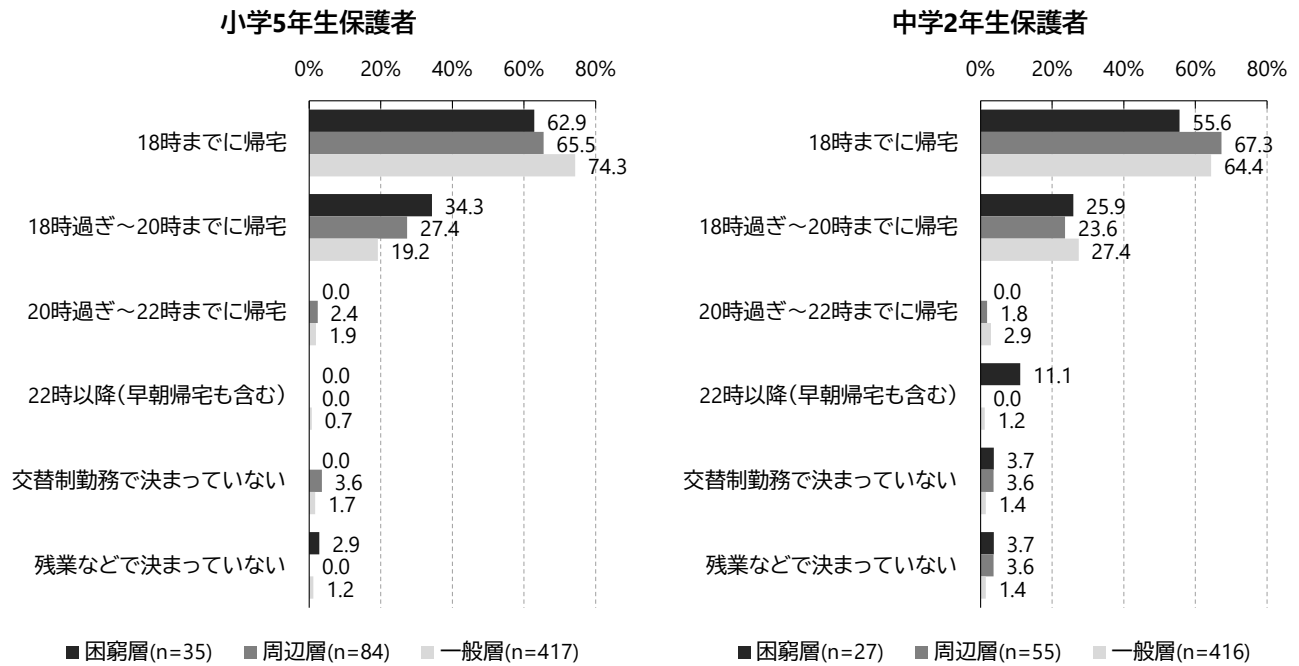


問 8 お子さまのご両親の普段の帰宅時間で、最も多い時間帯をお答えください。

(1)母親の最も多い帰宅時間帯

母親の最も多い帰宅時間帯についてみると、小学5年生では「18時までに帰宅」は、困窮層が一般層より10ポイント以上、中学2年生では5ポイント以上上回っています。

また、小学5年生では「18時過ぎ～20時までに帰宅」は、困窮層が一般層より15ポイント以上上回っており、中学2年生は「22時以降（早朝帰宅を含む）」で、困窮層が一般層より5ポイント以上上回っています。



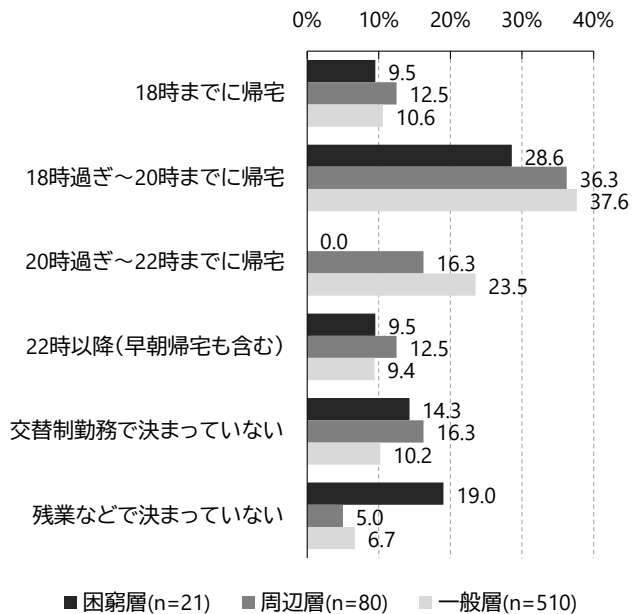


## (2)父親の最も多い帰宅時間帯

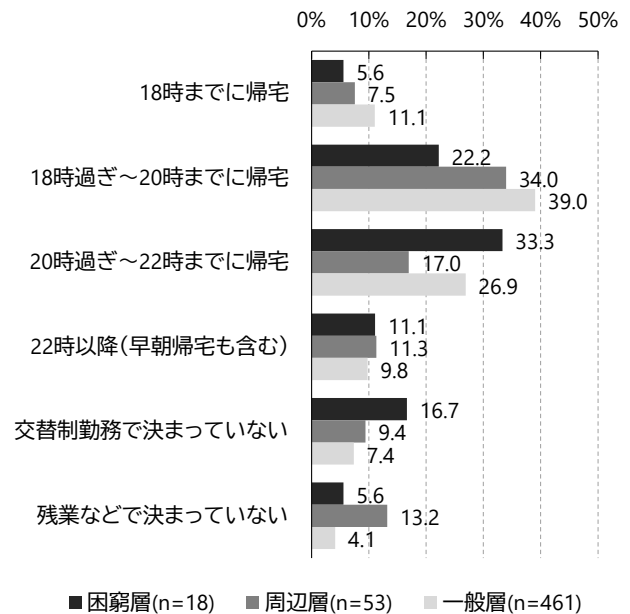
父親の最も多い帰宅時間帯についてみると、小学5年生では「18時過ぎ～20時までに帰宅」は、困窮層が一般層より5ポイント以上、中学2年生は15ポイント以上下回っています。

また、小学5年生では「残業などで決まっていない」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っており、中学2年生は「交替制勤務で決まっていない」で、困窮層が一般層より5ポイント以上上回っています。

### 小学5年生保護者



### 中学2年生保護者

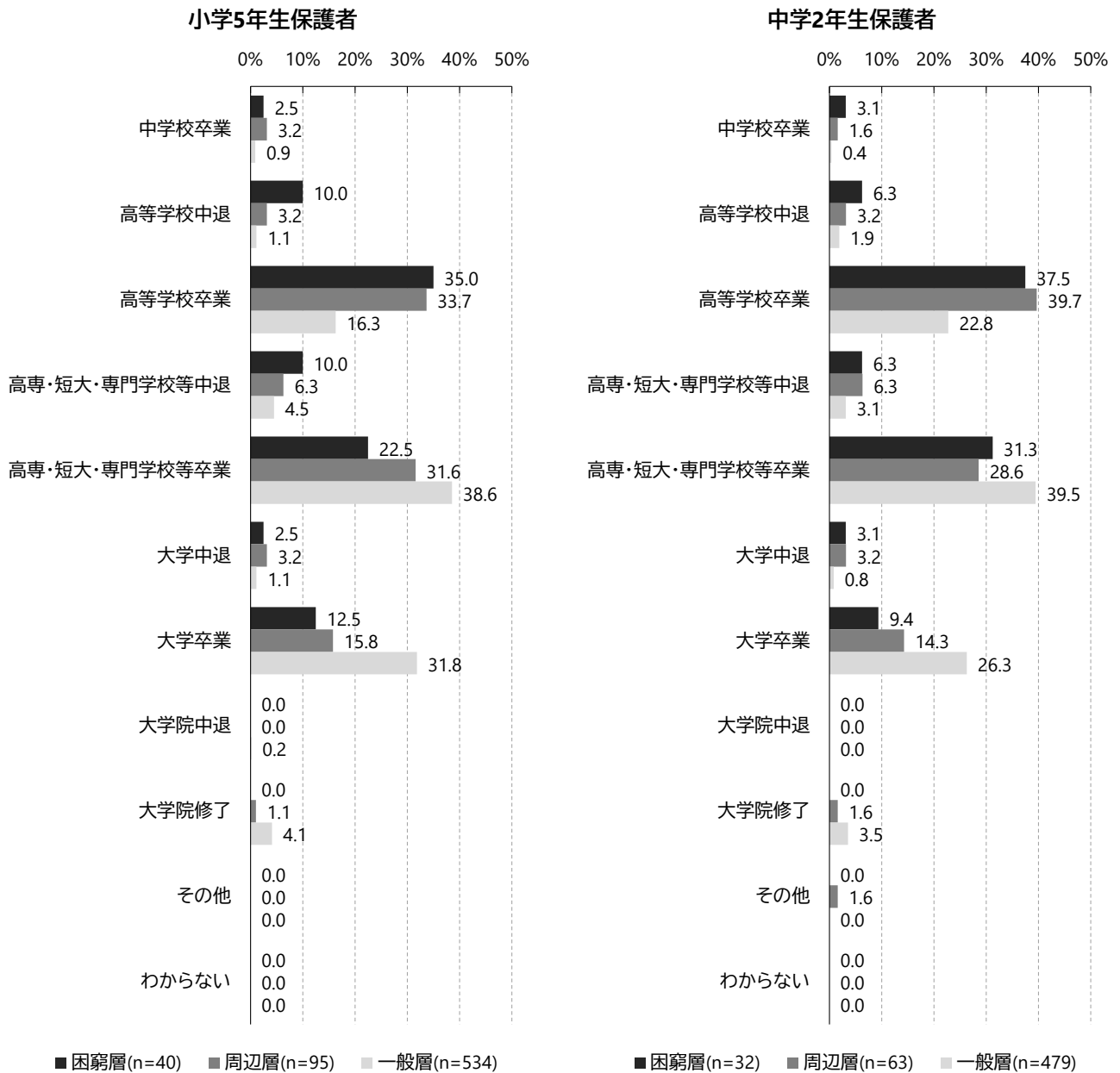


問 9 お子さまのご両親が最後に通った学校についてお答えください。

(1)母親が最後に通った学校

母親が最後に通った学校についてみると、小学5年生では「高等学校卒業」は、困窮層が一般層より15ポイント以上、中学2年生は10ポイント以上上回っています。

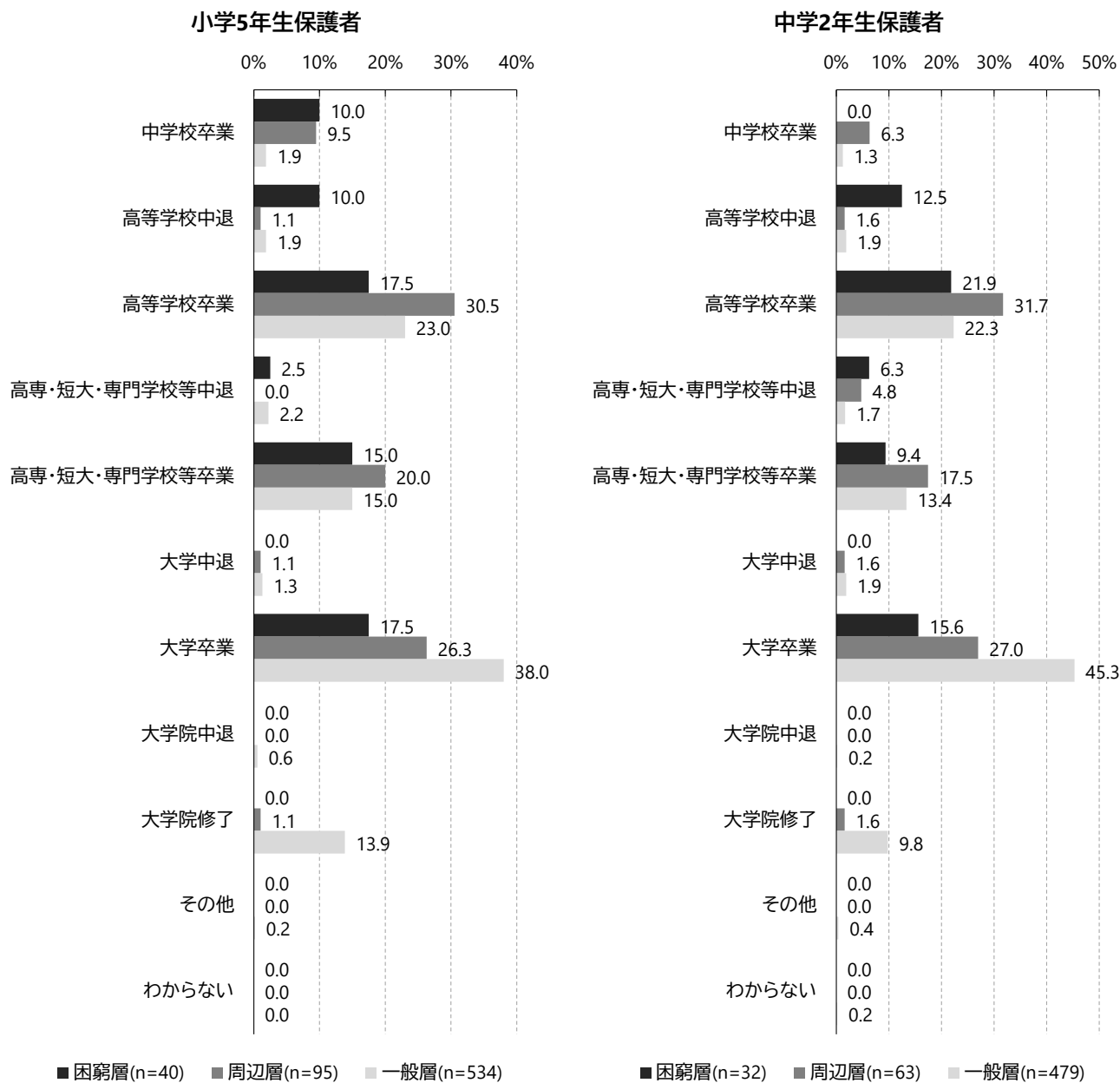
また、小学5年生、中学2年生ともに「大学卒業」は、困窮層が一般層より15ポイント以上下回っています。



## (2)父親が最後に通った学校

父親が最後に通った学校についてみると、小学5年生では「高等学校中退」は、困窮層が一般層より5ポイント以上、中学2年生では10ポイント以上上回っています。

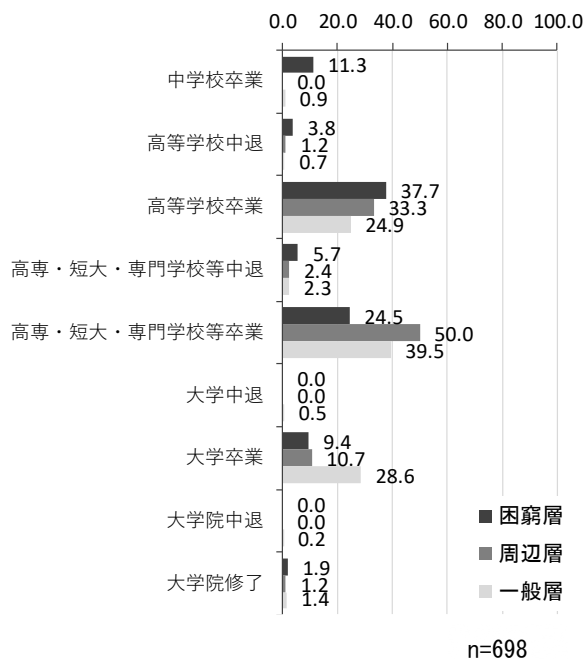
また、小学5年生、中学2年生ともに「大学卒業」は、困窮層が一般層より20ポイント以上下回っています。



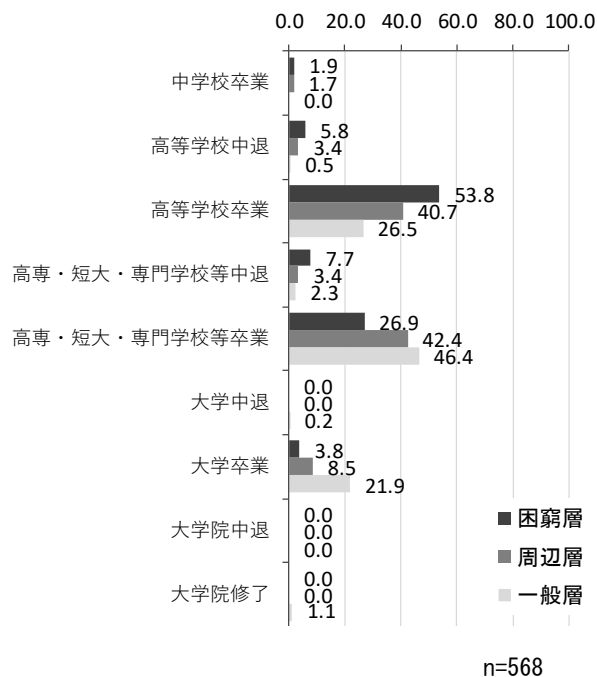
## 前回調査結果との比較

前回調査結果における両親の最終学歴についてみると、小学5年生、中学2年生の貧困層のいずれも「大学卒業」は困窮層が一般層より下回っており、この傾向は今回調査と比べて変わりありません。

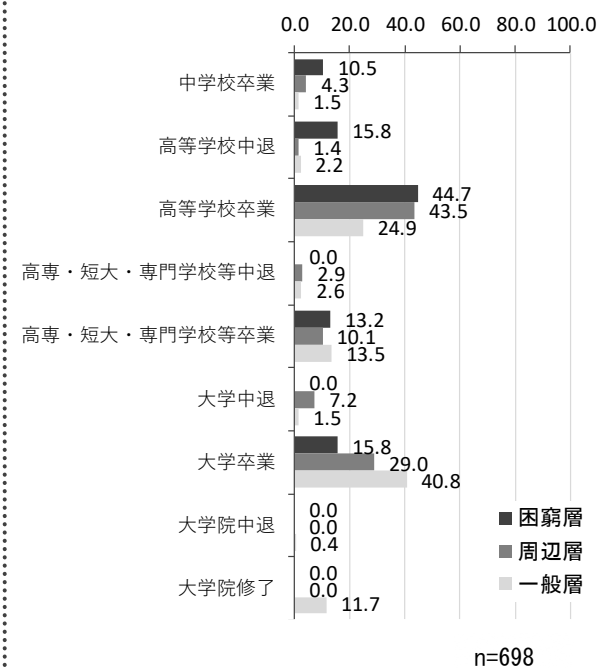
### 小学5年生の母親



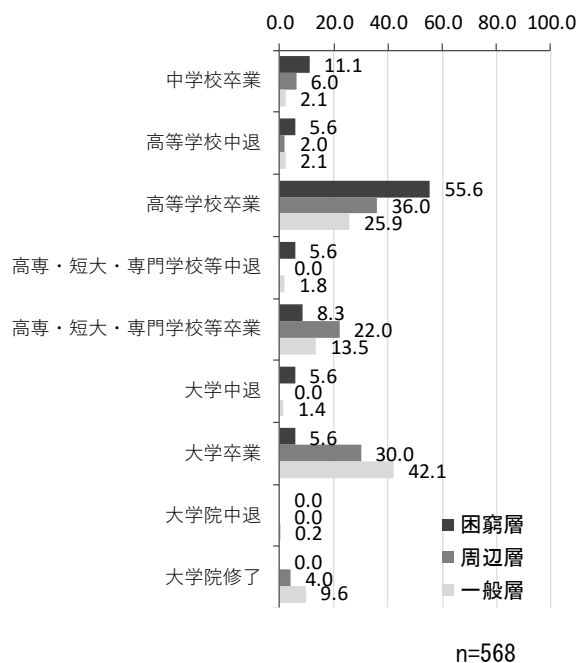
### 中学2年生の母親



### 小学5年生の父親



### 中学2年生の父親



(2) あて名のお子さまのご両親についてのまとめ

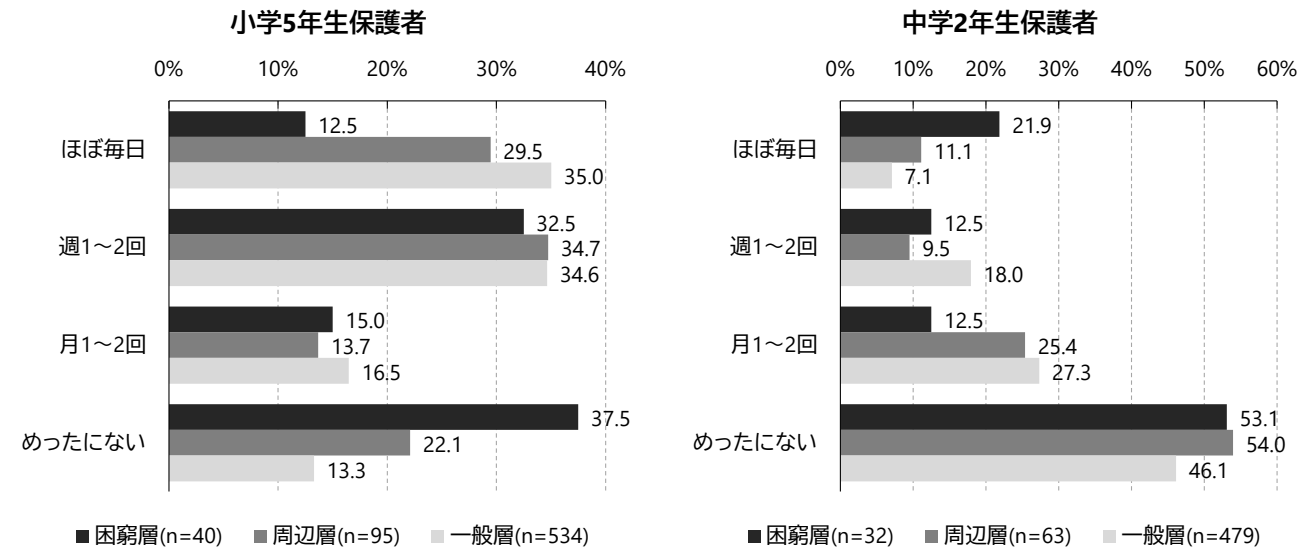
- 困窮層の家庭の半数は、両親が離婚（別居中を含む）している状況にあり、かつ、そのほとんどの世帯は子どもの養育費を受け取れていません。
- 困窮層の家庭では、日常生活に支障がない範囲で病気や障がいがある親がいることが一般層より高い傾向にあり、子どもの貧困対策においても親の心身の健康状況のサポートが求められます。
- 困窮層の家庭の親の最終学歴は、一般層に比べて大学卒業までしている割合が低く、この傾向は5年前の調査結果と変わっていません。親の最終学歴が現在の生活困窮状況に影響している可能性を考えると、貧困の連鎖を断ち切る観点から、子どもの進学が家庭の経済状況によらない社会づくりを検討していくことが求められます。

## お子さまについて

問 10 あなたの世帯(家庭)では、お子さまと次のようなことをすることができますか。

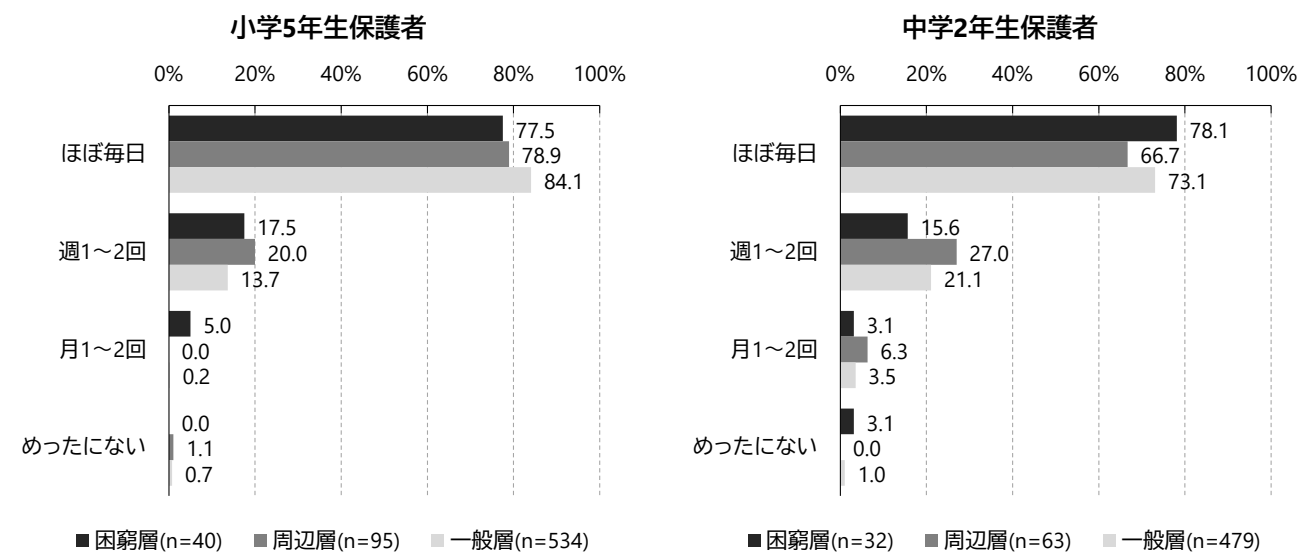
### ① 勉強をみる

子どもと一緒にいることのうち、子どもの勉強をみるについてみると、小学5年生では「めったにない」は、困窮層が一般層より20ポイント以上、中学2年生は5ポイント以上上回っています。



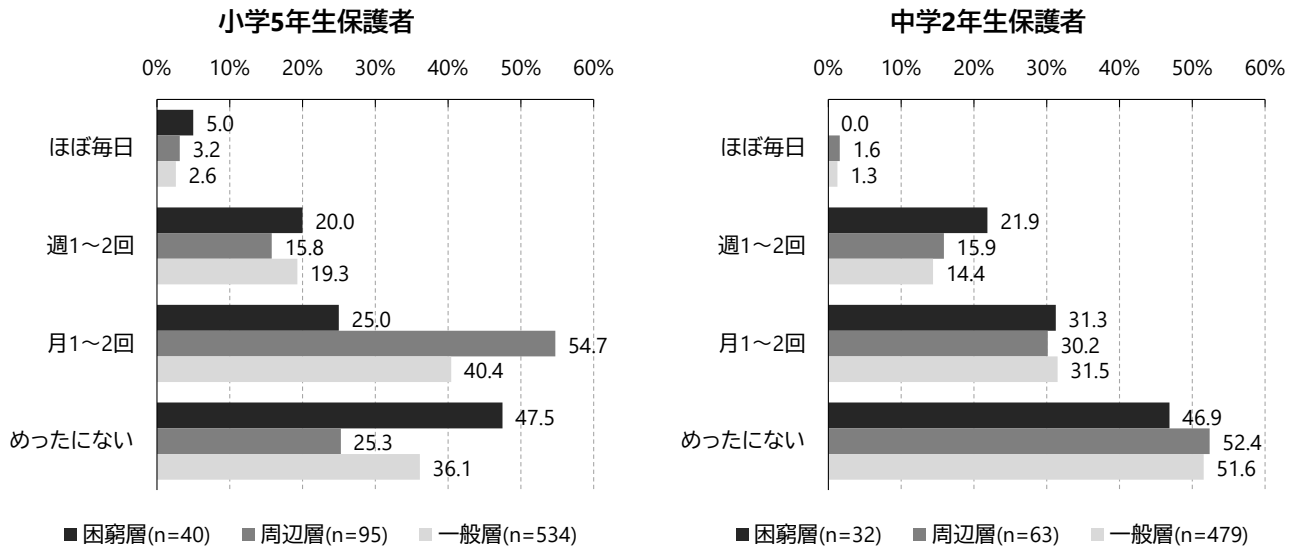
### ② 学校生活の話をする

子どもと一緒にいることのうち、子どもと学校生活の話をするについてみると、小学5年生、中学2年生ともに「めったにない」は、困窮層、周辺層、一般層のいずれもほとんど差がありません。



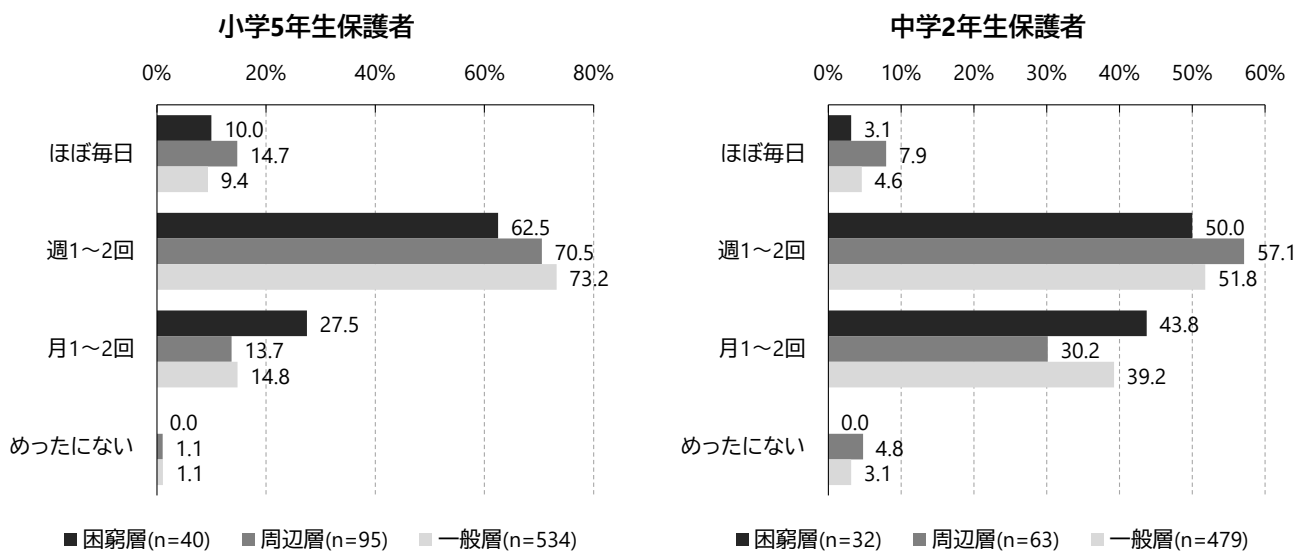
### ③ 一緒に料理をする

子どもと一緒にいることのうち、子どもと一緒に料理をするについてみると、小学5年生では「めったにない」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っており、中学2年生は同程度となっています。



### ④ 一緒に外出する

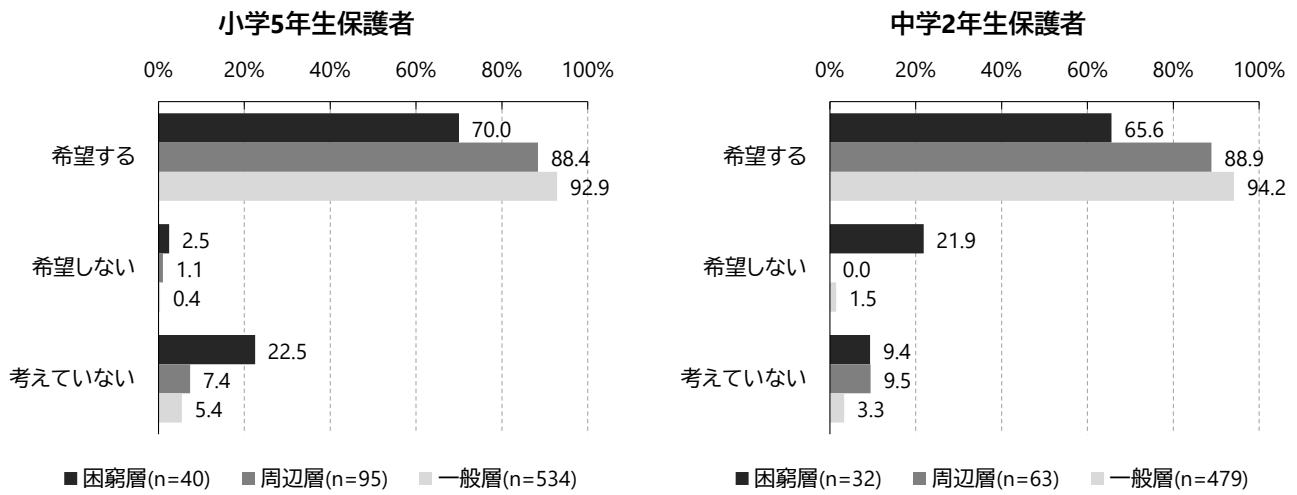
子どもと一緒にいることのうち、子どもと一緒に外出するについてみると、小学5年生、中学2年生ともに「めったにない」は、困窮層、周辺層、一般層のいずれもほとんど差がありません。



問 11 あなたは、お子さまの高等学校以上の進学を希望されますか。

子どもの高等学校以上の進学希望についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「希望する」は、困窮層が一般層より20ポイント以上下回っています。

また、中学2年生では、「希望しない」は、困窮層が一般層より20ポイント以上上回っています。



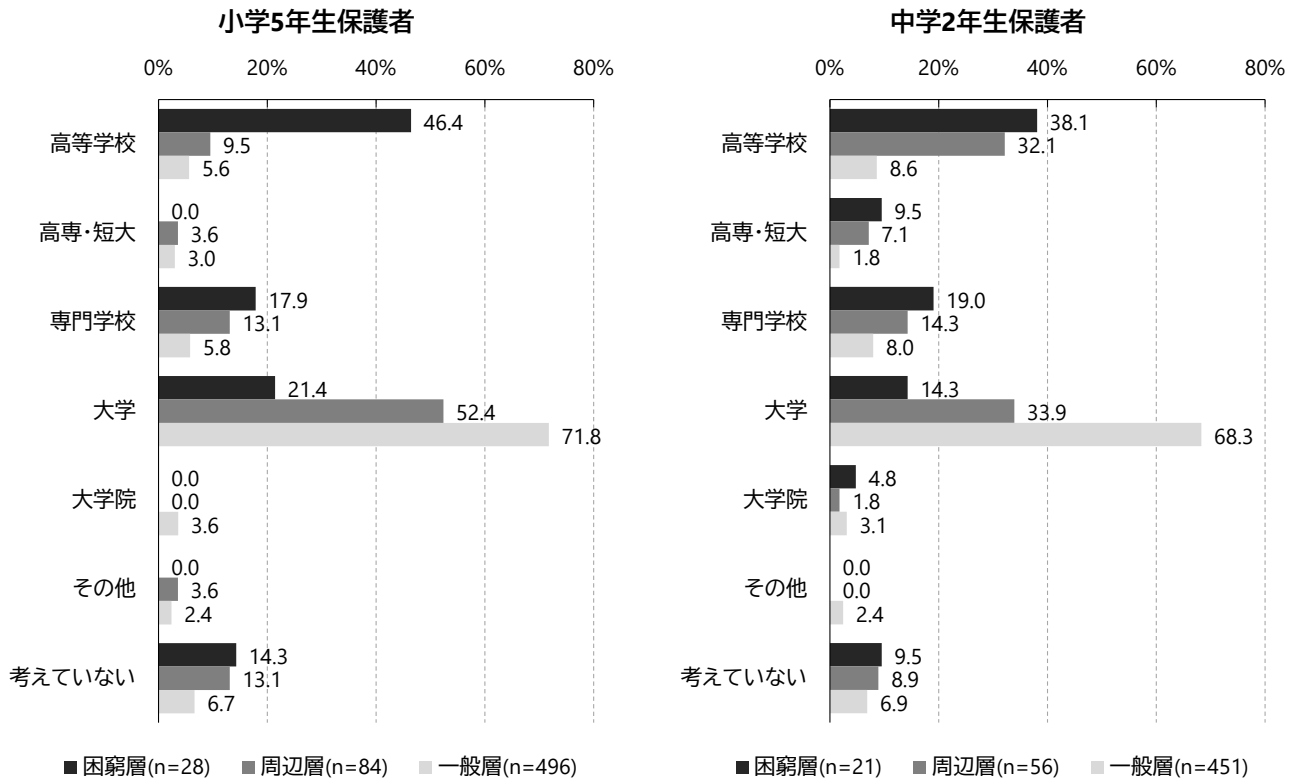


問 11 で「希望する」と回答した方

問 12 お子さまの進学についてどこまで希望されていますか。

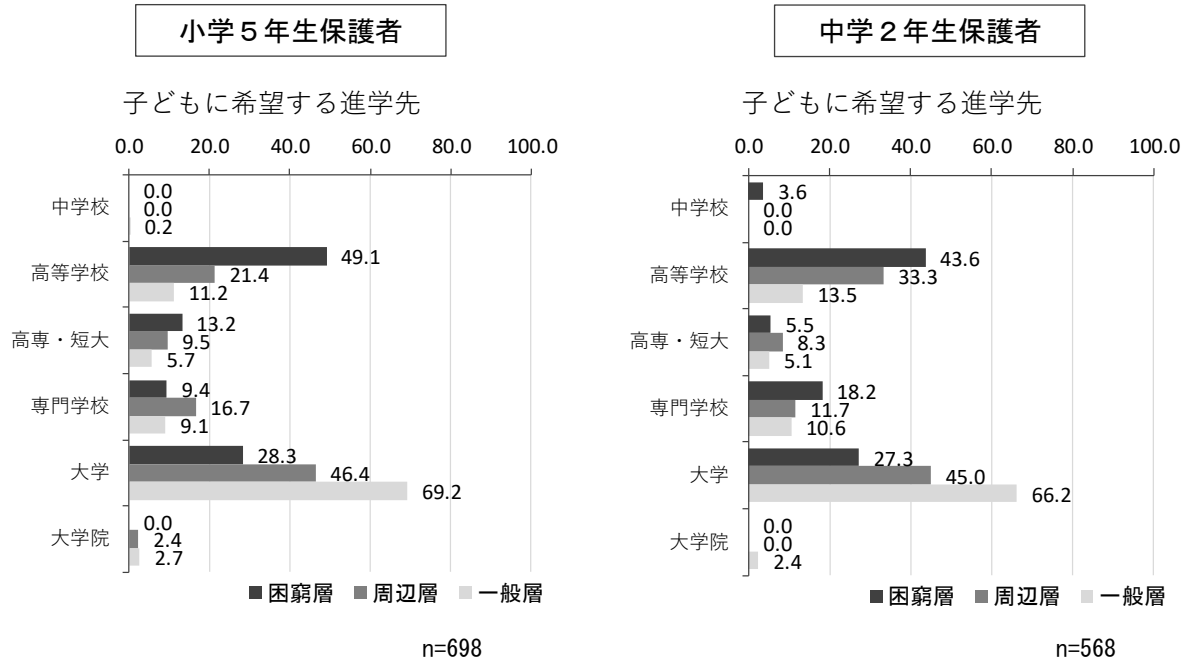
子どもの進学希望についてみると、小学5年生では「高等学校」で、困窮層が一般層より40ポイント以上、中学2年生は25ポイント以上上回っています。

また、小学5年生では「大学」は、困窮層が一般層より50ポイント以上、中学2年生は50ポイント以上上回っています。



## 前回調査結果との比較

前回調査結果における子どもの進学希望についてみると、小学5年生、中学2年生の貧困層のいずれも「高等学校」は困窮層が一般層より上回っており、また、「大学」は困窮層が一般層より下回っています。この傾向は今回調査と比べて変わりありません。

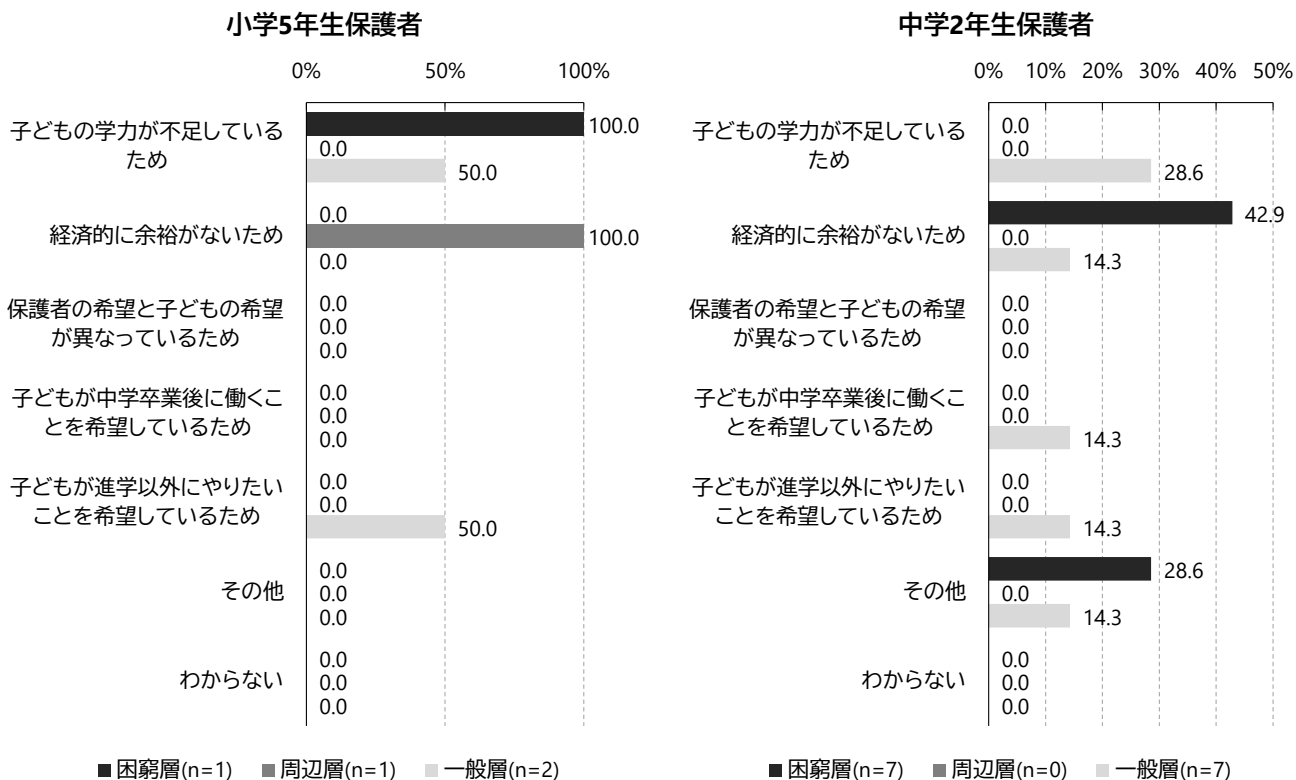


問 11 で「希望しない」と回答した方

問 13 高等学校以上の進学を希望しない理由として、主なものをお答えください。

子どもの高等学校以上の進学を希望しない理由についてみると、小学5年生では「子どもの学力が不足しているため」が、困窮層の回答の100%を占めています。

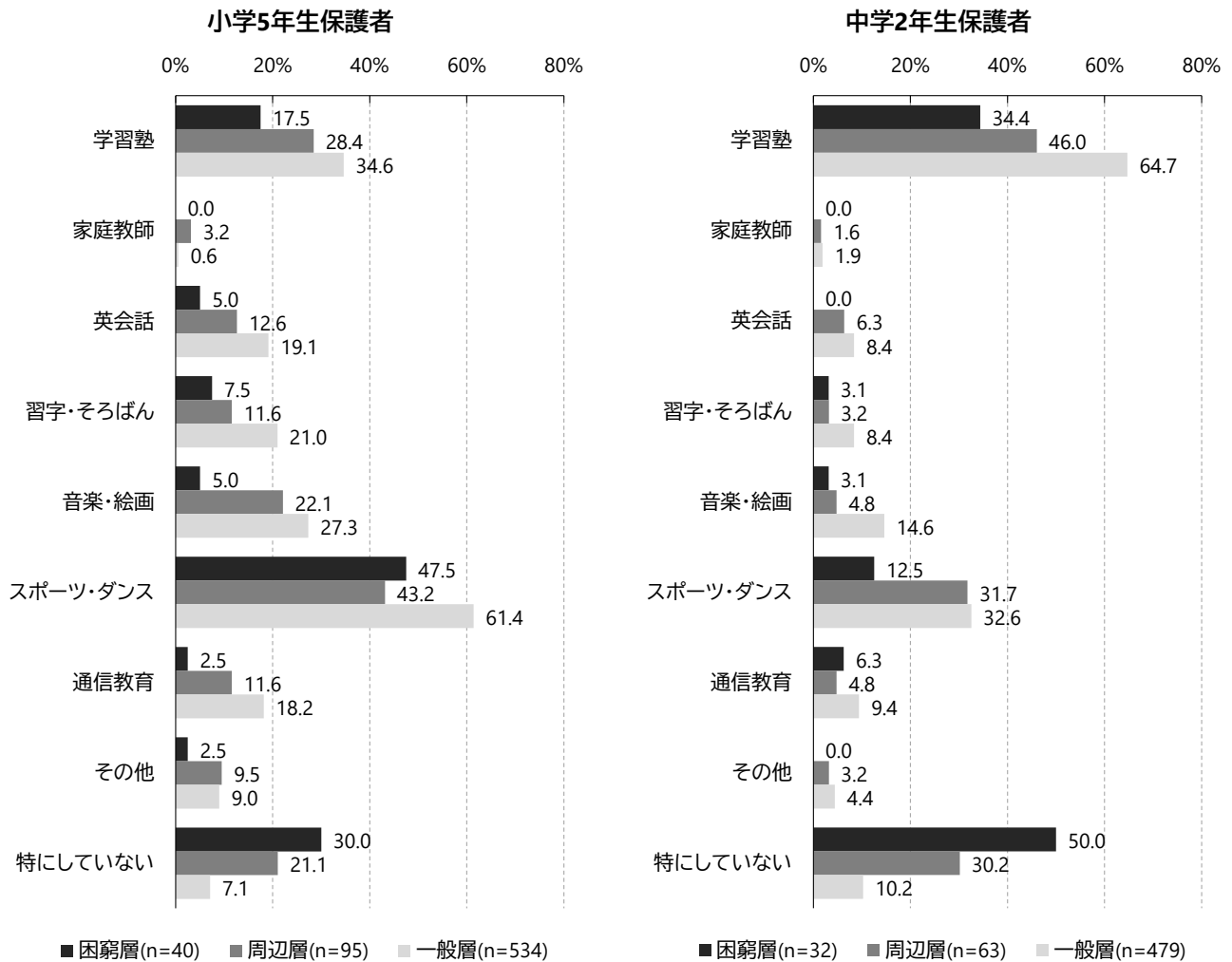
また、中学2年生では、「経済的に余裕がないため」は、困窮層が一般層より25ポイント以上上回っています。



問 14 お子さまは、現在、どのような習い事等をしていますか。(複数回答)

子どもの習い事等についてみると、小学5年生では「学習塾」は、困窮層が一般層より 15 ポイント以上、中学2年生は 30 ポイント以上下回っています。

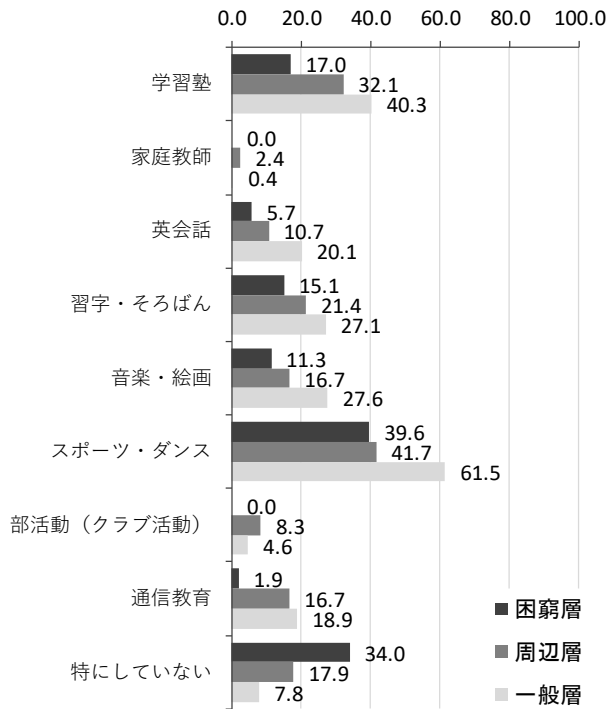
また、小学5年生では「特にしていない」は、困窮層が一般層より 20 ポイント以上、中学2年生は 35 ポイント以上上回っています。



## 前回調査結果との比較

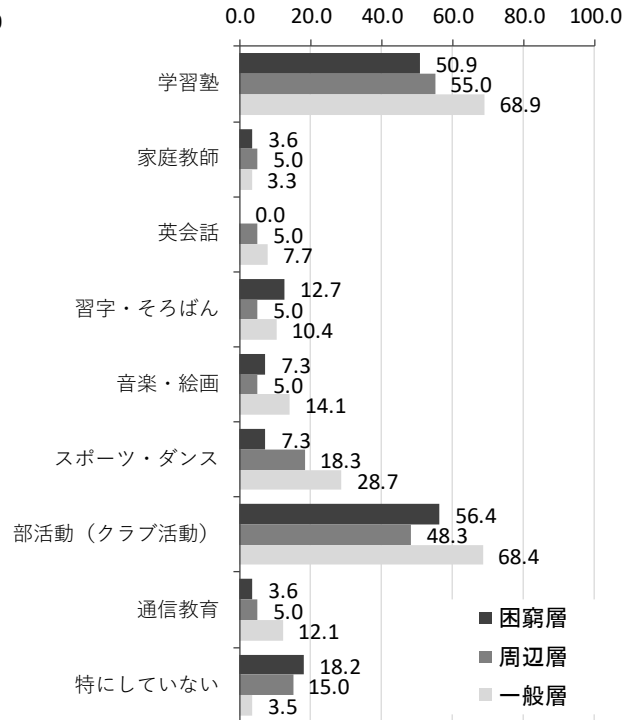
前回調査結果における子どもの習い事等についてみると、小学5年生、中学2年生の貧困層のいずれもほとんどの項目で困窮層が一般層より下回っています。この傾向は今回調査と比べて変わりありません。

小学5年生保護者



n=698

中学2年生保護者

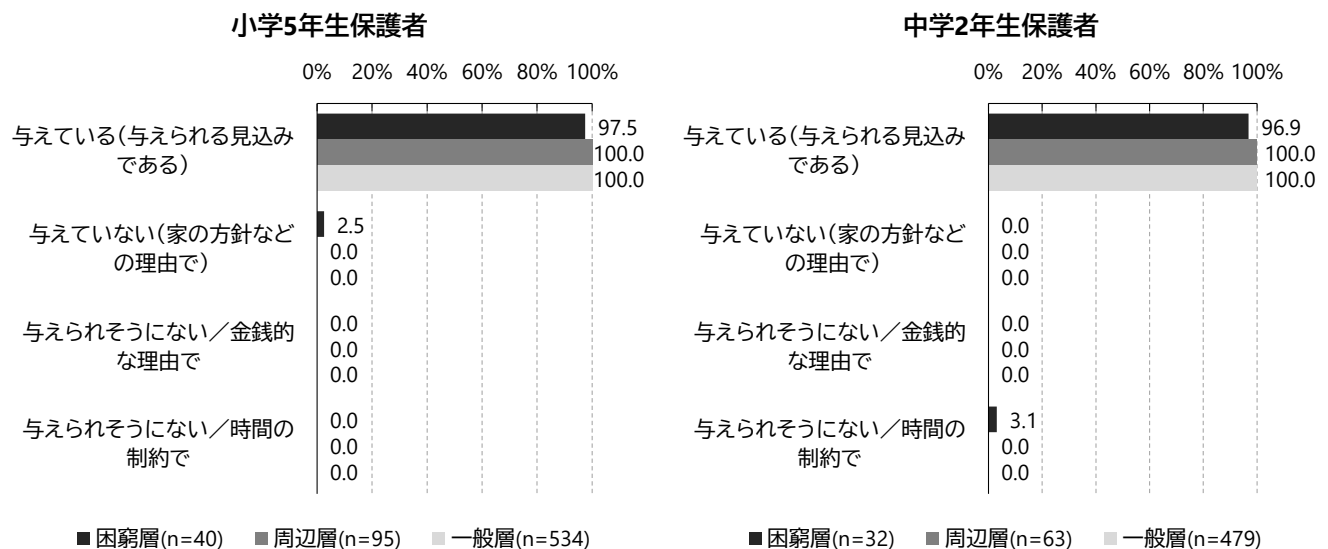


n=568

問 15 次のような環境・ものについて、あなたの家庭ではお子さまに与えていますか。または、与えていませんか、与えられそうにありませんか。

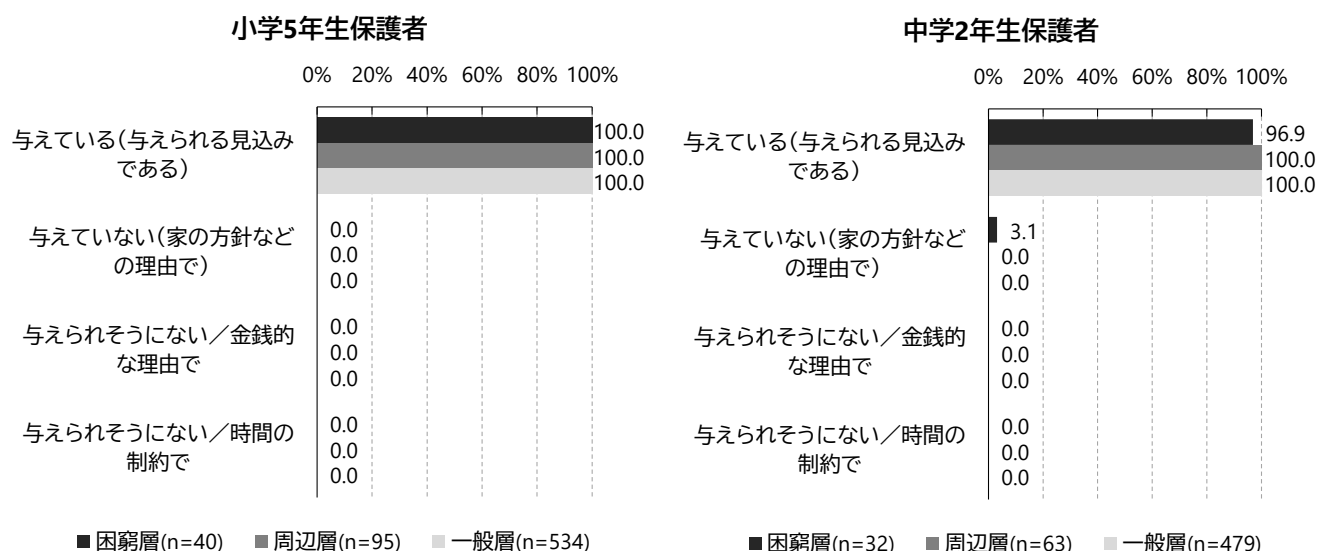
① 1日3回(朝・昼・夕)の食事

子どもに与えているもののうち、1日3回(朝・昼・夕)の食事についてみると、小学5年生、中学2年生ともに、「与えている(与えられる見込みである)」は、困窮層、周辺層、一般層のいずれもほとんど100%の回答です。



② 毎日の入浴(風呂・シャワーなど)

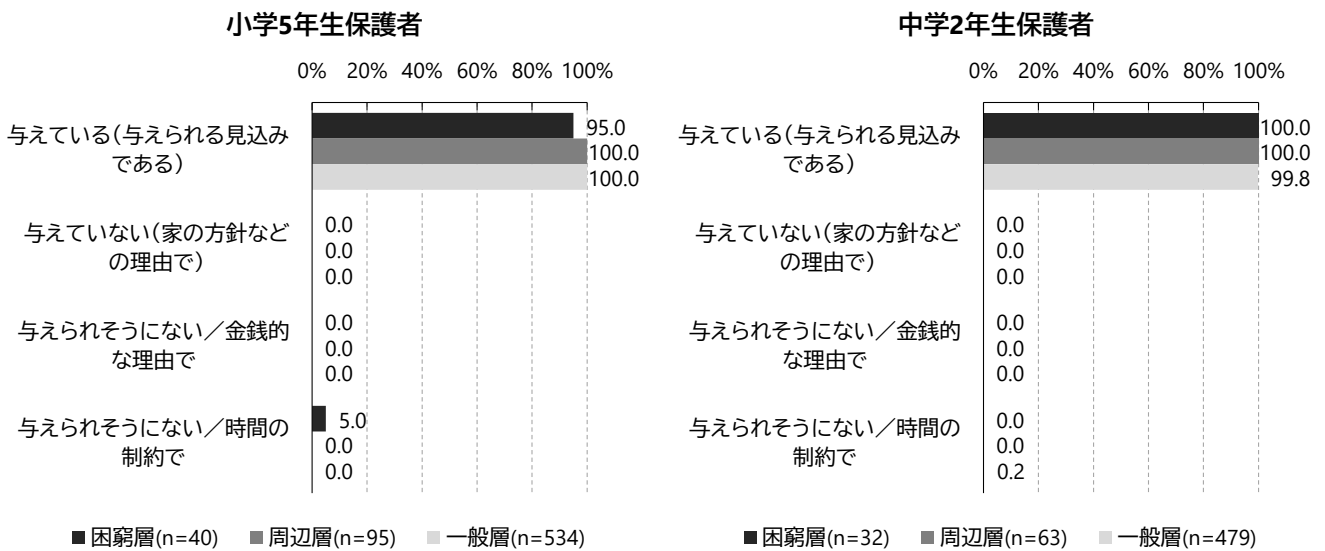
子どもに与えているもののうち、毎日の入浴(風呂・シャワーなど)についてみると、小学5年生、中学2年生ともに、「与えている(与えられる見込みである)」は、困窮層、周辺層、一般層のいずれもほとんど100%の回答です。



### ③ 必要なときに病院・診療所に行く

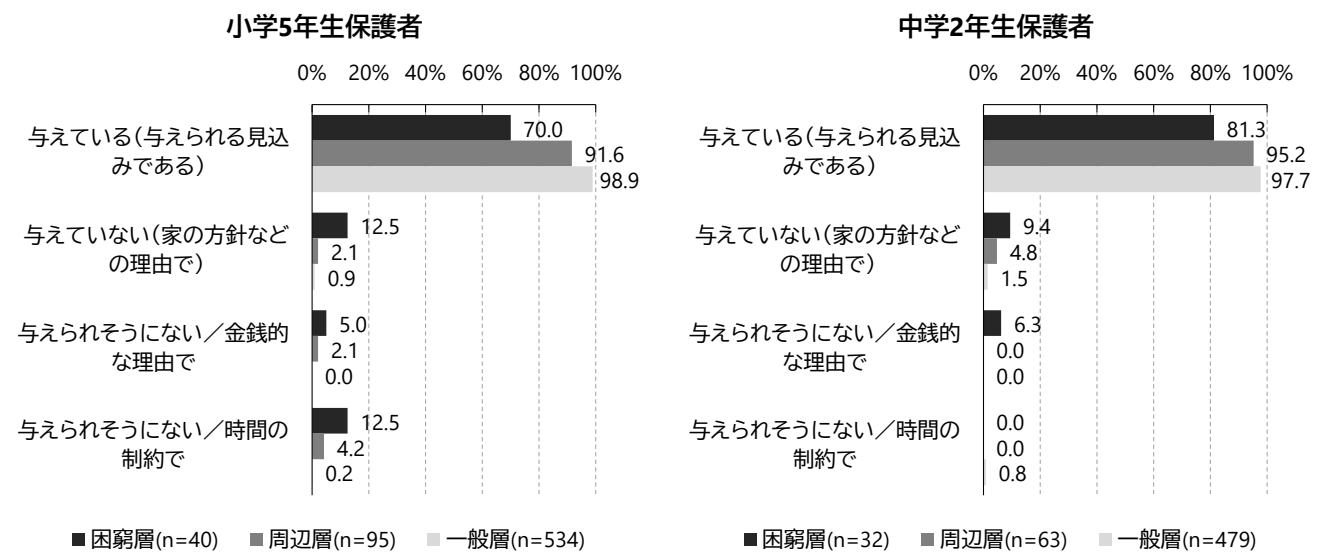
子どもに与えているもののうち、必要なときに病院・診療所に行くについてみると、小学5年生、中学2年生ともに、「与えている（与えられる見込みである）」は、困窮層、周辺層、一般層のいずれもほとんど100%の回答です。

しかし、小学5年生では「与えられそうにない／時間の制約で」が、困窮層のみの回答で5.0%となっています。



### ④ 本(絵本や子ども用の本も含む)

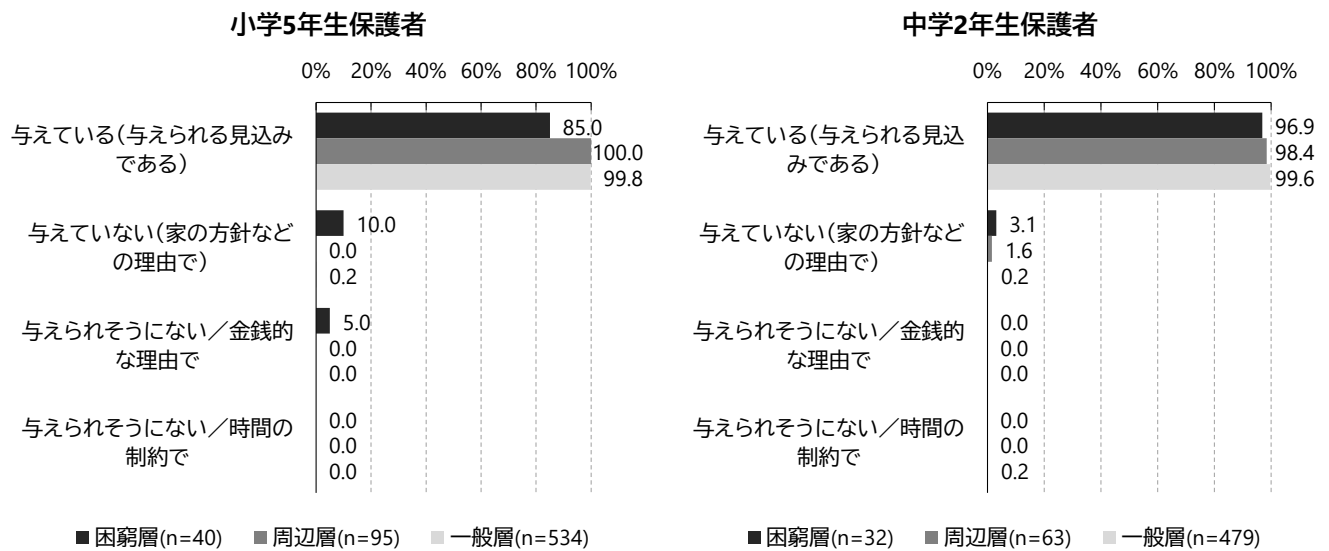
子どもに与えているもののうち、本（絵本や子ども用の本も含む）についてみると、小学5年生では「与えている（与えられる見込みである）」は、困窮層が一般層より25ポイント以上、中学2年生は15ポイント以上下回っています。



## ⑤ 新しい文房具

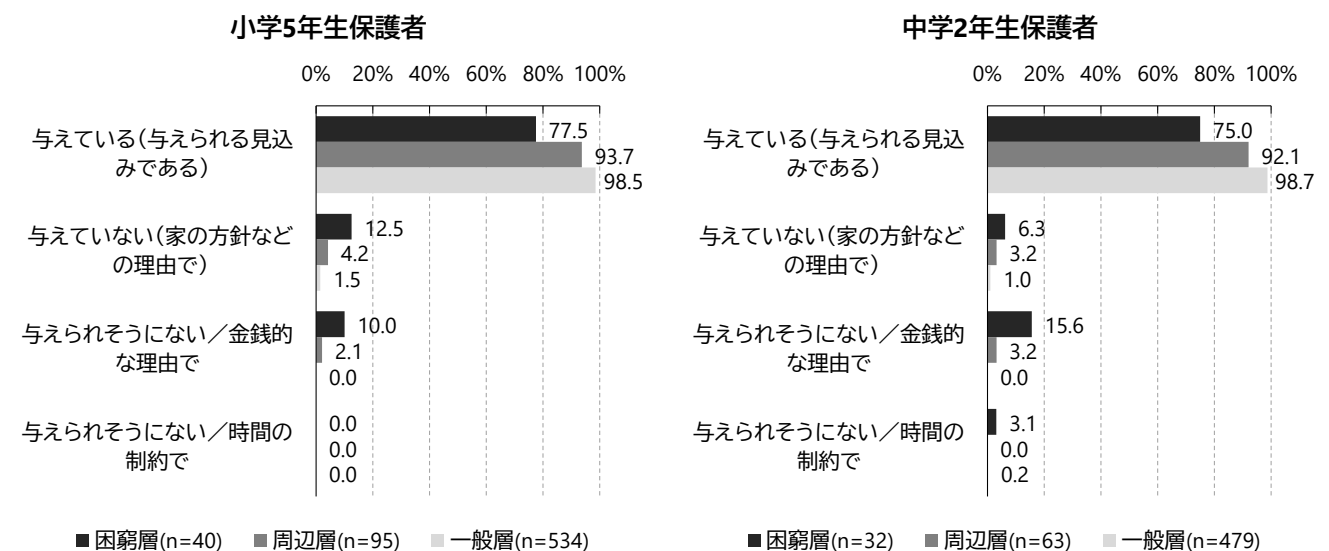
子どもに与えているもののうち、新しい文房具についてみると、小学5年生では「与えている（与えられる見込みである）」は、困窮層が一般層より10ポイント以上下回っており、「与えていない（家の方針などの理由で）」と「与えられそうにない（金銭的な理由で）」は、困窮層が一般層より5ポイント以上上回っています。

また、中学2年生は「与えている（与えられる見込みである）」は、困窮層、周辺層、一般層のいずれもほとんど100%の回答です。



## ⑥ 子どもが気に入った服

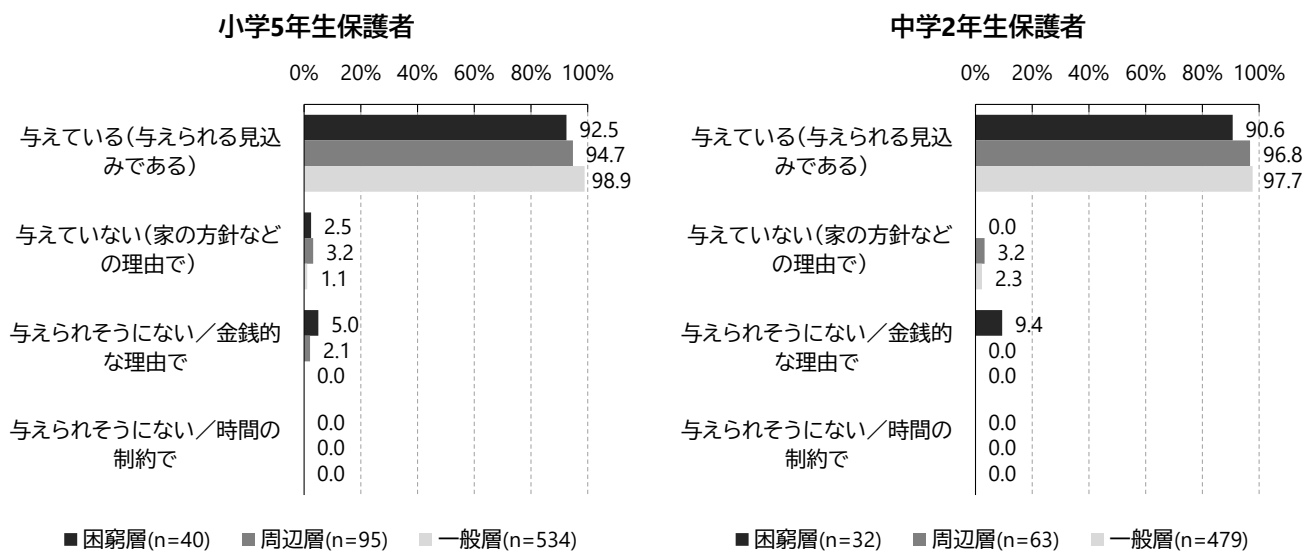
子どもに与えているもののうち、子どもが気に入った服についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「与えている（与えられる見込みである）」は、困窮層が一般層より20ポイント以上下回っています。





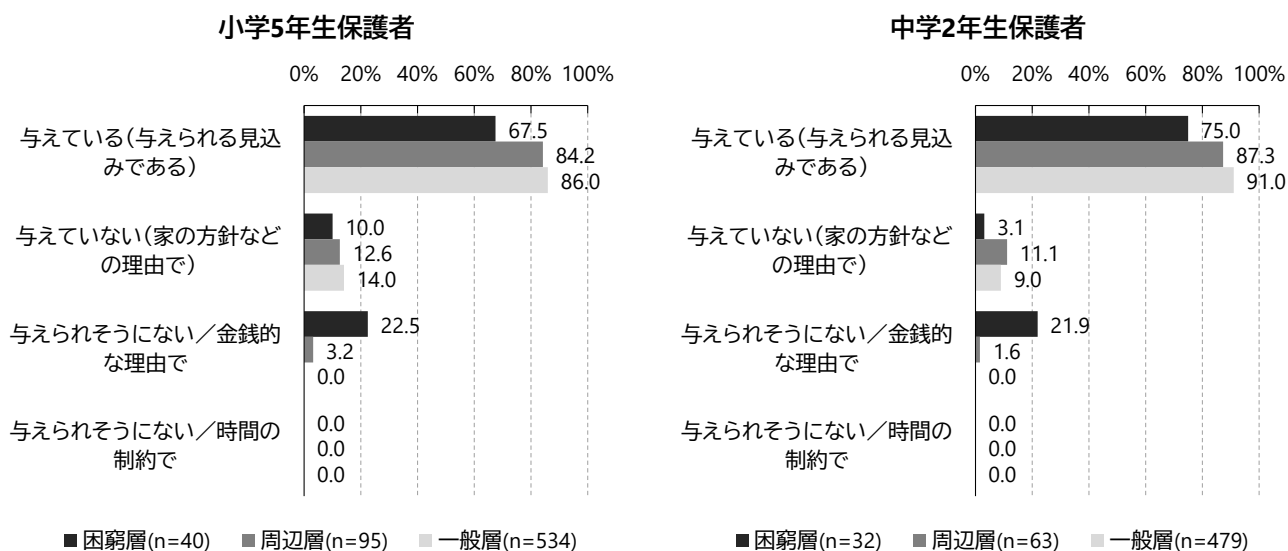
## ⑦ 誕生日のプレゼント

子どもに与えているもののうち、誕生日のプレゼントについてみると、小学5年生、中学2年生ともに「与えている（与えられる見込みである）」は、困窮層が一般層より5ポイント以上下回っています。



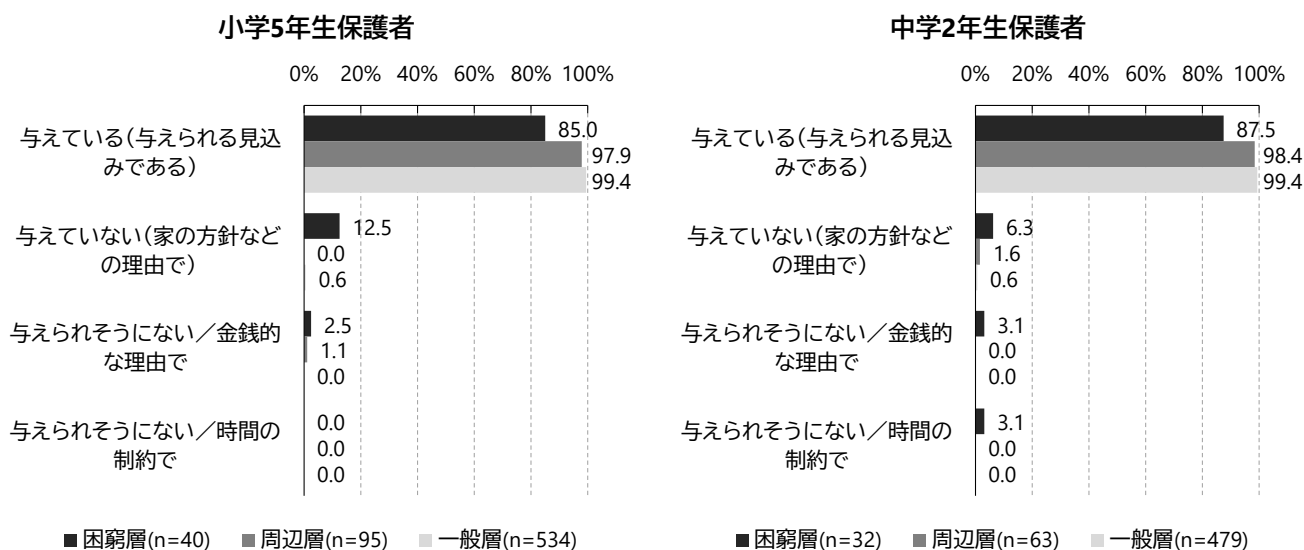
## ⑧ 適当なおこづかい

子どもに与えているもののうち、適当なおこづかいについてみると、小学5年生、中学2年生ともに「与えている（与えられる見込みである）」は、困窮層が一般層より15ポイント以上下回っています。



## ⑨ 子どもが家で勉強できる環境

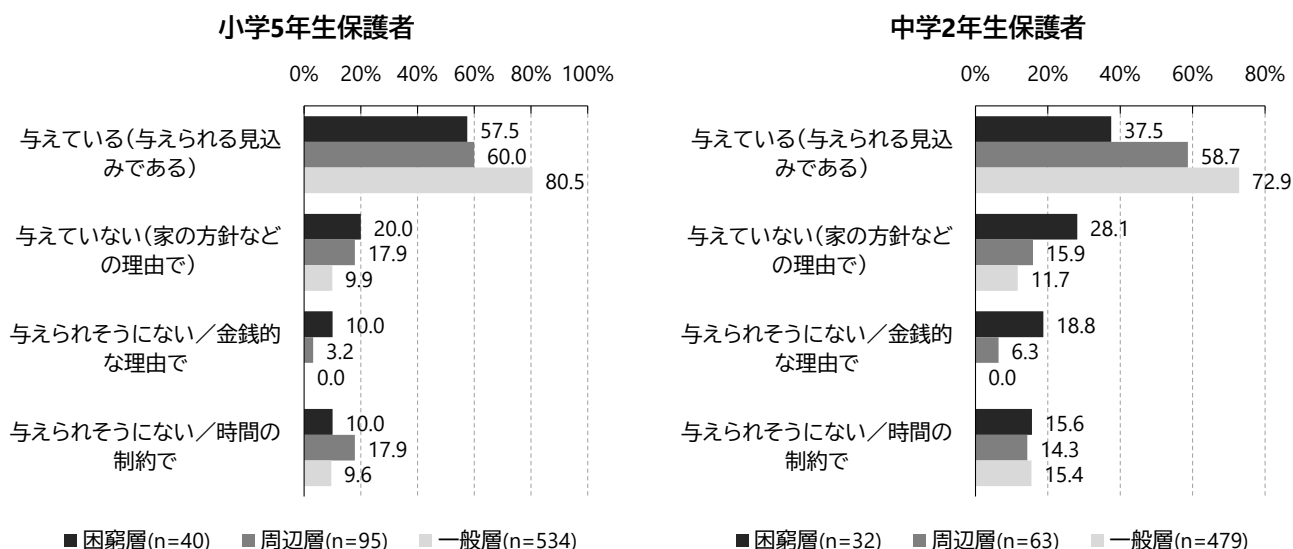
子どもに与えているもののうち、子どもが家で勉強できる環境についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「与えている（与えられる見込みである）」は、困窮層が一般層より10ポイント以上下回っています。



## ⑩ キャンプなど自然体験活動への参加

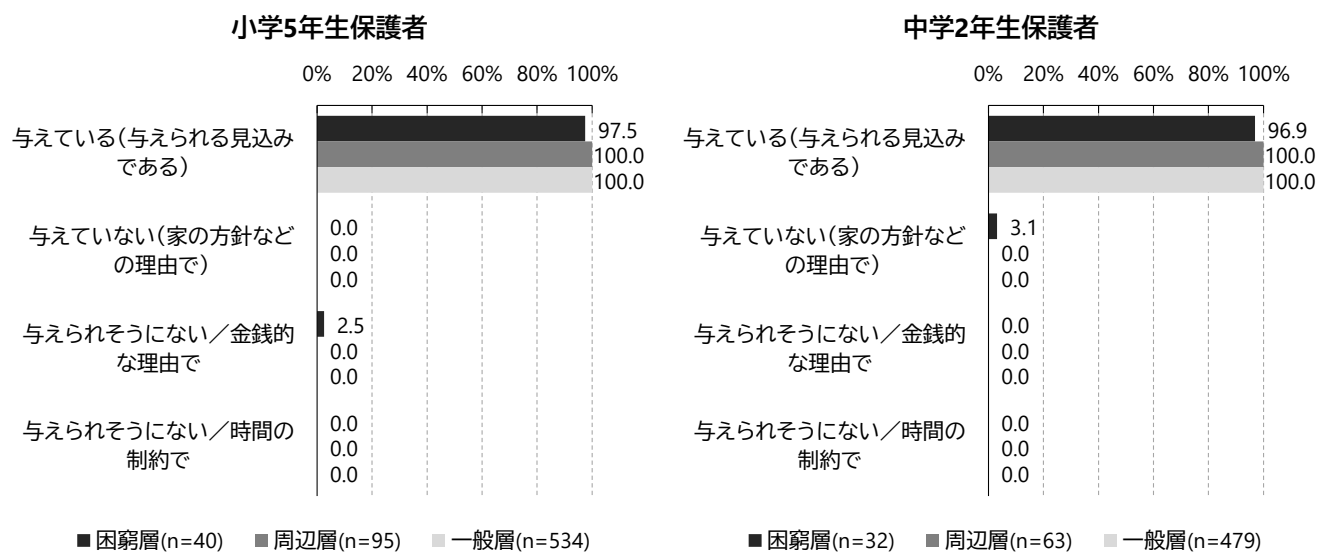
子どもに与えているもののうち、キャンプなど自然体験活動への参加についてみると、小学5年生では「与えている（与えられる見込みである）」は、困窮層が一般層より20ポイント以上、中学2年生は35ポイント以上下回っています。

また、小学5年生では、「与えていない（家の方針などの理由で）」は、困窮層が一般層より10ポイント以上、中学2年生では15ポイント以上上回っています。



## ⑪ 遠足・修学旅行等の学校行事への参加

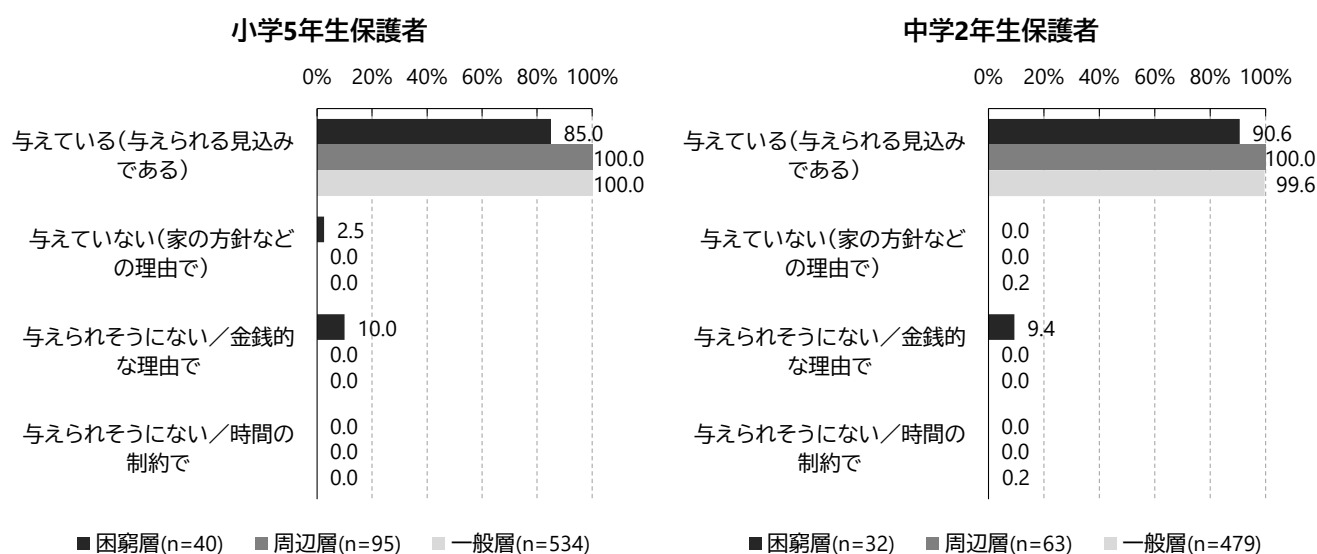
子どもに与えているもののうち、遠足・修学旅行等の学校行事への参加についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「与えている（与えられる見込みである）」は、困窮層、周辺層、一般層のいずれもほとんど100%の回答です。



## ⑫ 希望すれば高校・高専への進学

子どもに与えているもののうち、希望すれば高校・高専への進学についてみると、小学5年生では「与えている（与えられる見込みである）」は、困窮層が一般層より15ポイント、中学2年生は5ポイント以上下回っています。

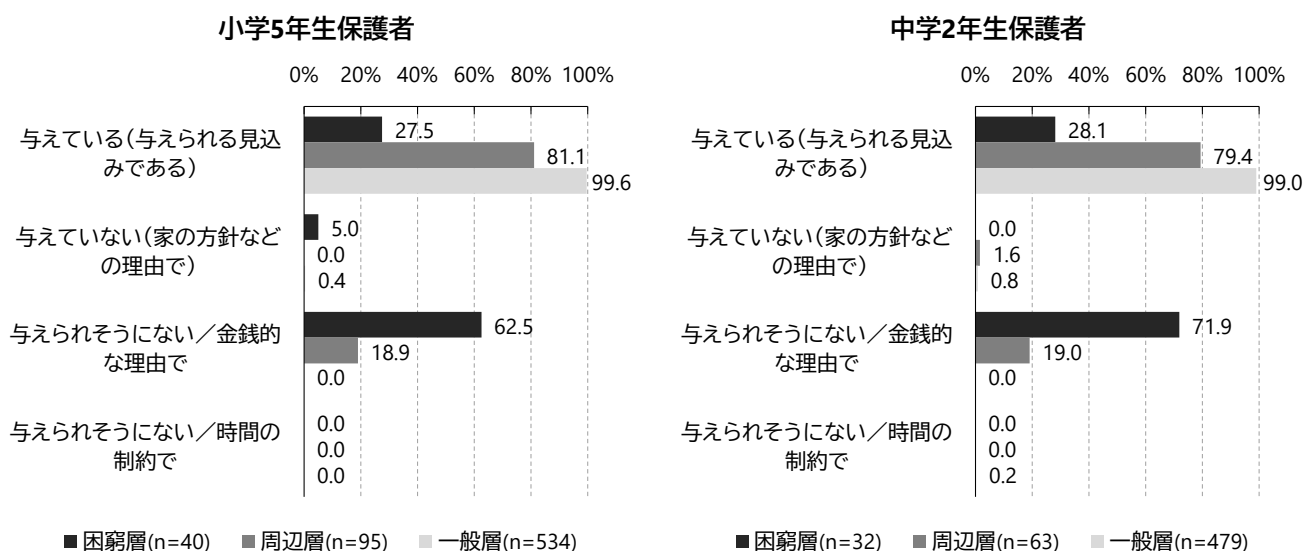
また、小学5年生、中学2年生ともに「与えられそうにない（金銭的な理由で）」は、困窮層のみで10%程度の回答となっています。



### ⑬ 希望すれば大学等への進学

子どもに与えているもののうち、希望すれば大学等への進学についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「与えている（与えられる見込みである）」は、困窮層が一般層より70ポイント以上下回っています。

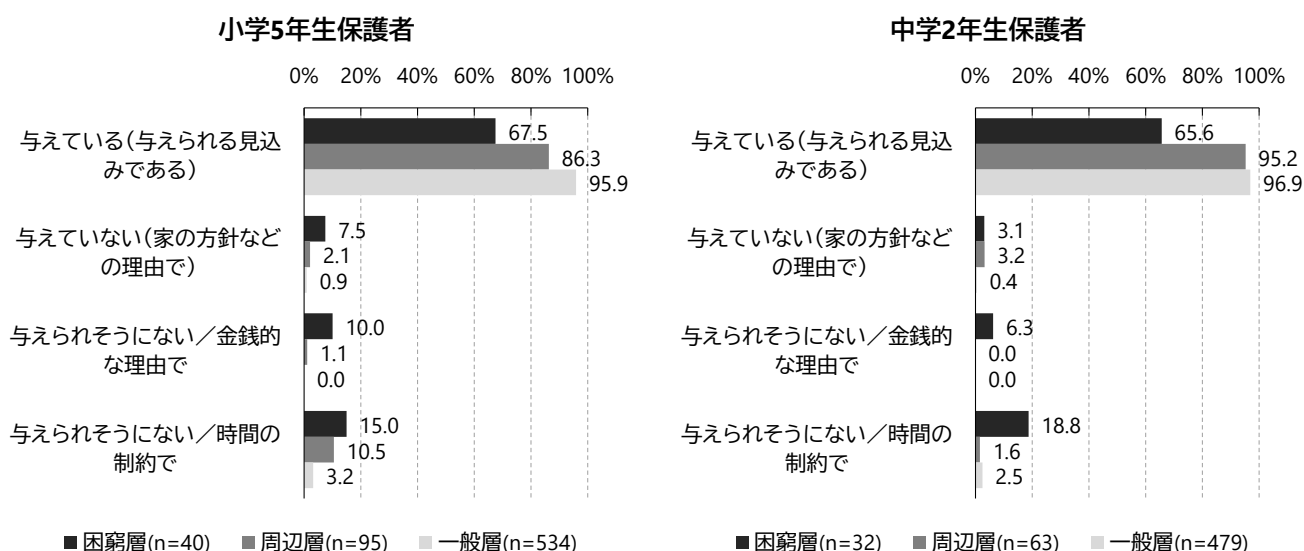
また、小学5年生では「与えられそうにない（金銭的な理由で）」は、困窮層が一般層より60ポイント以上、中学2年生は70ポイント以上上回っています。



### ⑭ 子どもの学校外活動への送迎

子どもに与えているもののうち、子どもの学校外活動への送迎についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「与えている（与えられる見込みである）」は、困窮層が一般層より25ポイント以上下回っています。

また、小学5年生、中学2年生ともに「与えられそうにない（時間の制約で）」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っています。



### (3) 子どもについてのまとめ

- 困窮層の家庭で小学5年生の子どものいる家庭では、家で子どもの勉強をみる割合が一般層と比べて低く、親が仕事や家事等が忙しい、精神的に余裕がない可能性が示唆されます。
- 困窮層の家庭では、子どもを高等学校以上の進学まで希望すると回答している割合が一般層と比べて低く、小学5年生では「考えていない」の回答が、中学2年生では「希望しない」の回答が一般層と比べて高くなっており、生活困窮状況が子どもの進路の選択肢の幅に影響ことが示唆されます。また、高等学校以上を希望しても、生活が困窮している家庭では、大学までの進学と回答している割合は一般層と比べて低く、高等学校までの進学と回答している割合は高く、いずれも大きな差がみられます。この傾向は、5年前の調査結果から変わっていません。
- 困窮層の家庭では、英会話や習字・そろばん、スポーツ・ダンスなどの子どもの習い事をさせている割合が一般層と比べて低く、特に学習塾に大きな差が見られます。この傾向は、5年前の調査結果から変わっていません。
- 困窮層の家庭では、子どもに与えている（与えられる見込みである）“もの”として、本（絵本や子ども用の本も含む）、子どもが気に入った服、適当なおこづかいの割合が一般層と比べて低くなっています。また、子どもに与えている（与えられる見込みである）“環境や体験”として、子どもが家で勉強できる環境、キャンプなど自然体験活動への参加、子どもの学校外活動への送迎の割合が一般層と比べて低くなっています。これらは、子どもの学びの機会の充実や自尊心等の育みに影響することが考えられ、家庭で与えることが難しいものは、まちのサービスや地域との連携による外部のサポートで補えることが望ましいです。

# 子育ての悩みや相談について

問 16 現在のお子さまについて、しつけや子育て、教育に関する悩みや不安は、どのようなことですか。  
(複数回答)

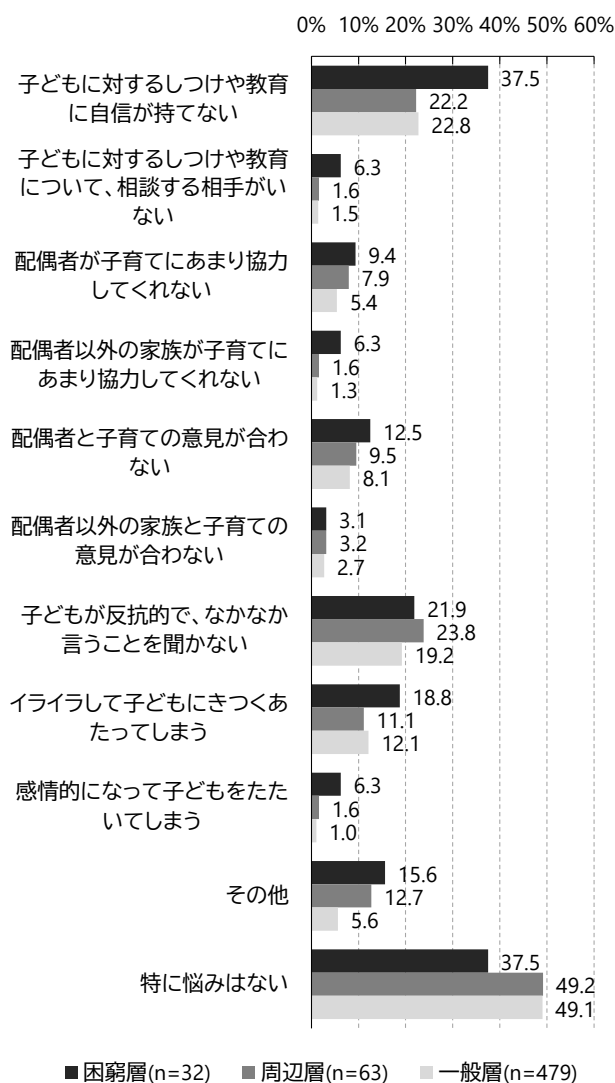
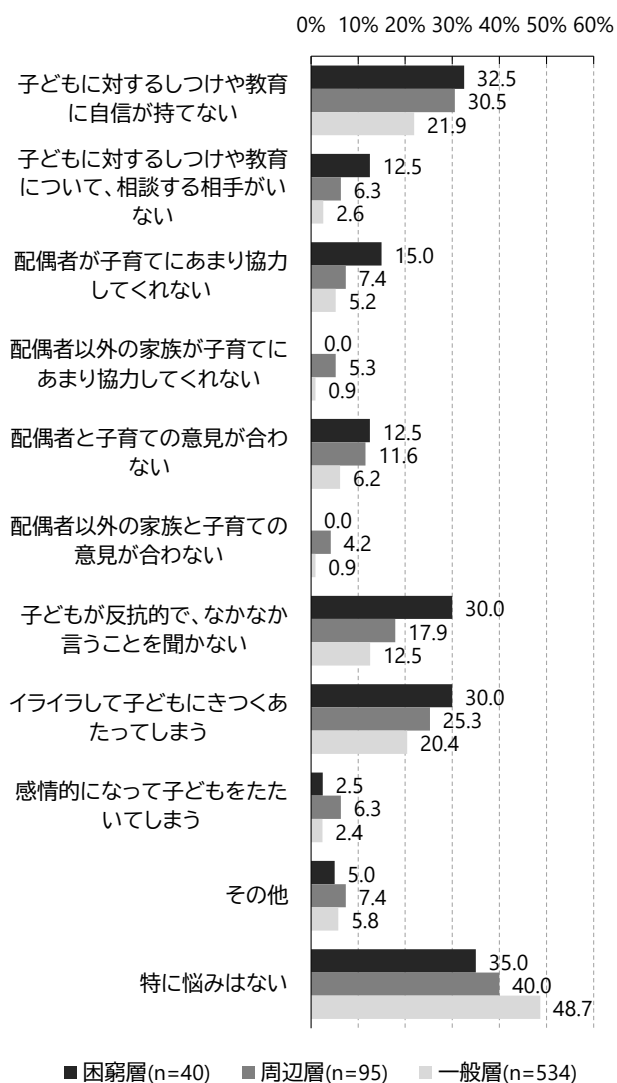
子どものしつけや子育て、教育に関する悩みや不安についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「子どもに対するしつけや教育に自信が持てない」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っています。

また、小学5年生では、「子どもが反抗的で、なかなか言うことを聞かない」は、困窮層が一般層より15ポイント以上上回っています。

さらに、小学5年生、中学2年生ともに「特に悩みはない」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っています。

小学5年生保護者

中学2年生保護者

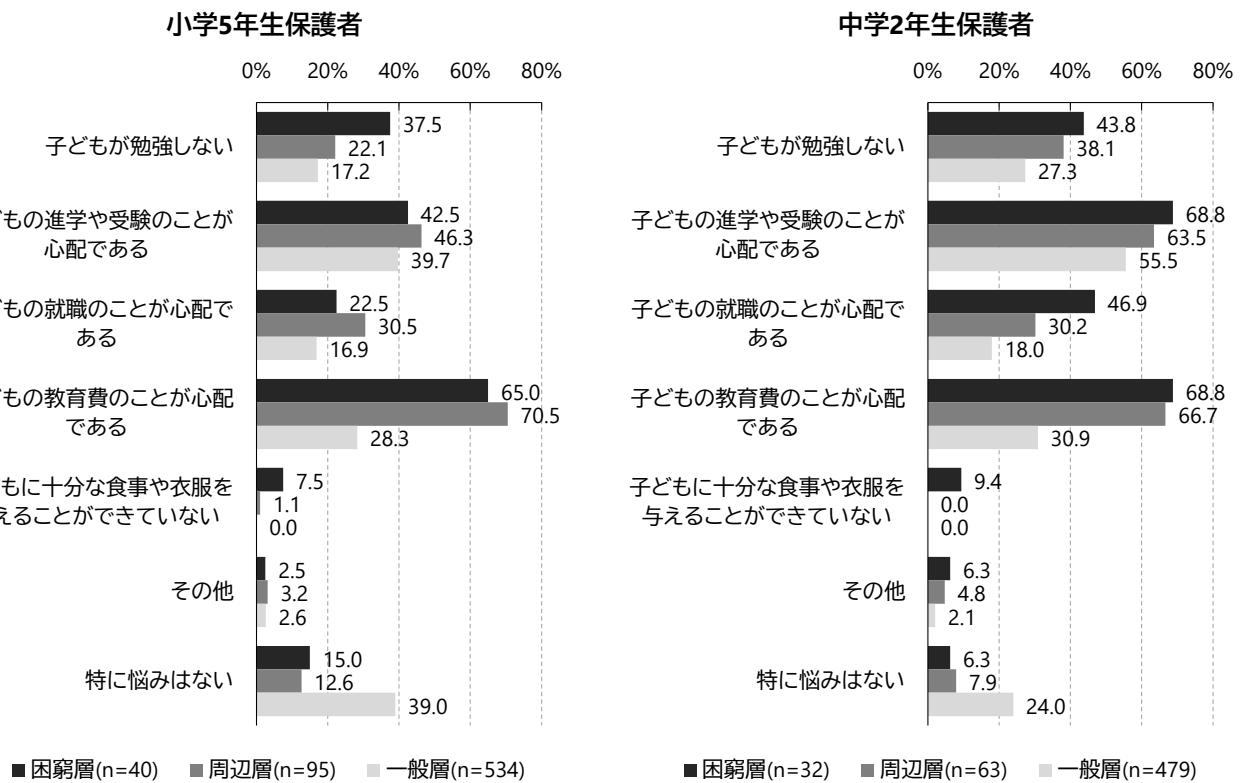


問 17 現在のお子さまについて、勉強や進学、就職、経済的なことに関する悩みや不安は、どのようなことですか。(複数回答)

子どもの勉強や進学、就職、経済的なことに関する悩みや不安についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「子どもの教育費のことが心配である」は、困窮層が一般層より 35 ポイント以上上回っています。

また、小学5年生、中学2年生ともに、「子どもが勉強しない」は、困窮層が一般層より 15 ポイント以上上回っています。

さらに、小学5年生では「特に悩みはない」は、困窮層が一般層より 20 ポイント以上、中学2年生は 15 ポイント以上下回っています。



問 18 現在のお子さまについて、お子さま自身に関する悩みや不安は、どのようなことですか。

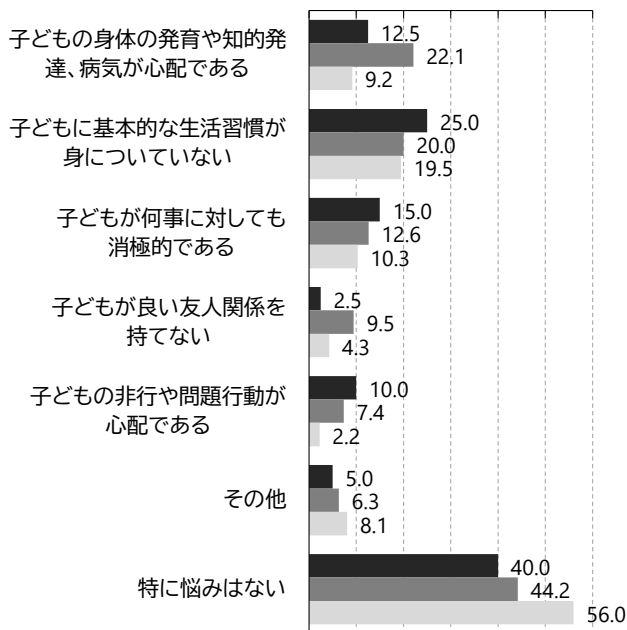
(複数回答)

子ども自身に関する悩みや不安についてみると、中学2年生では「子どもの身体の発育や知的発達、病気が心配である」は、困窮層が一般層より10ポイント以上、「子どもに基本的な生活習慣が身についていない」は、15ポイント上回っています。

また、「特に悩みはない」は、小学5年生、中学2年生ともに、困窮層が一般層より15ポイント以上下回っています。

小学5年生保護者

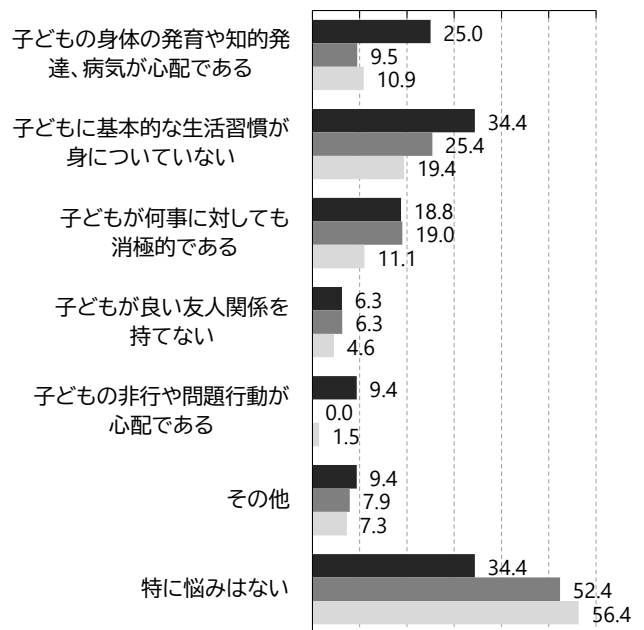
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



■ 困窮層(n=40) ■ 周辺層(n=95) ■ 一般層(n=534)

中学2年生保護者

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



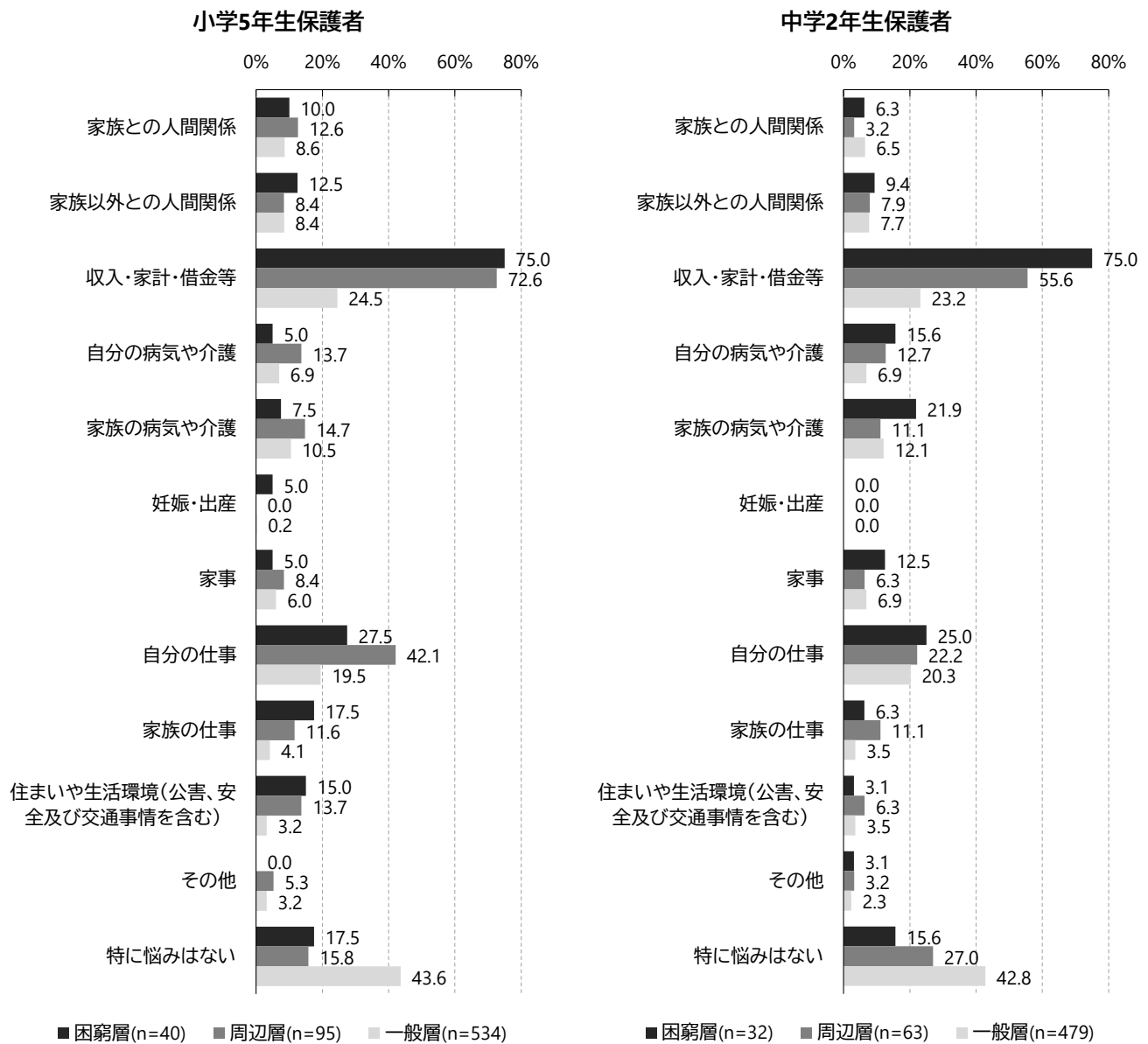
■ 困窮層(n=32) ■ 周辺層(n=63) ■ 一般層(n=479)



問 19 あなたは、お子さまに関すること以外で、心配や悩み事がありますか。(複数回答)

子どもに関すること以外の心配や悩み事についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「収入・家計・借金等」は、困窮層が一般層より50ポイント以上上回っています。

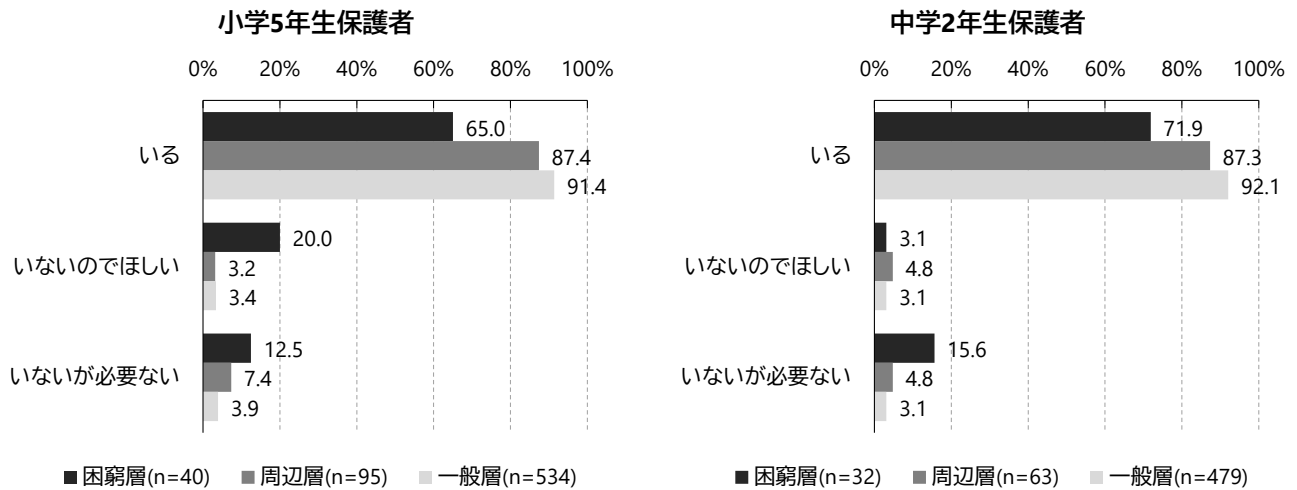
また、「特に悩みはない」は、小学5年生、中学2年生ともに、困窮層が一般層より25ポイント以上上回っています。



問 20 あなたには、現在、頼れる相手や心おきなく相談できる相手がありますか。

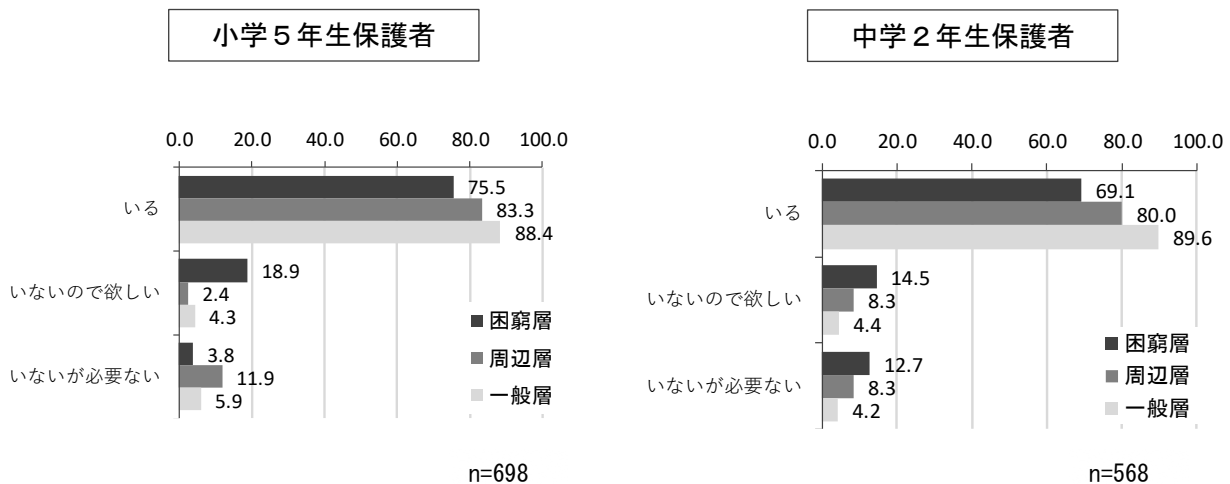
現在、頼れる相手や心おきなく相談できる相手がいるかどうかについてみると、小学5年生、中学2年生ともに「いる」は、困窮層が一般層より20ポイント以上下回っています。

また、小学5年生では「いないのでほしい」は、困窮層が一般層より15ポイント以上上回っています。



前回調査結果との比較

前回調査結果における頼れる相手や心おきなく相談できる相手がいるかどうかについてみると、小学5年生、中学2年生の貧困層で「いる」は困窮層が一般層より下回っています。この傾向は今回調査と比べて変わりありません。



問 20 で「いる」または「いないのでほしい」と回答した方

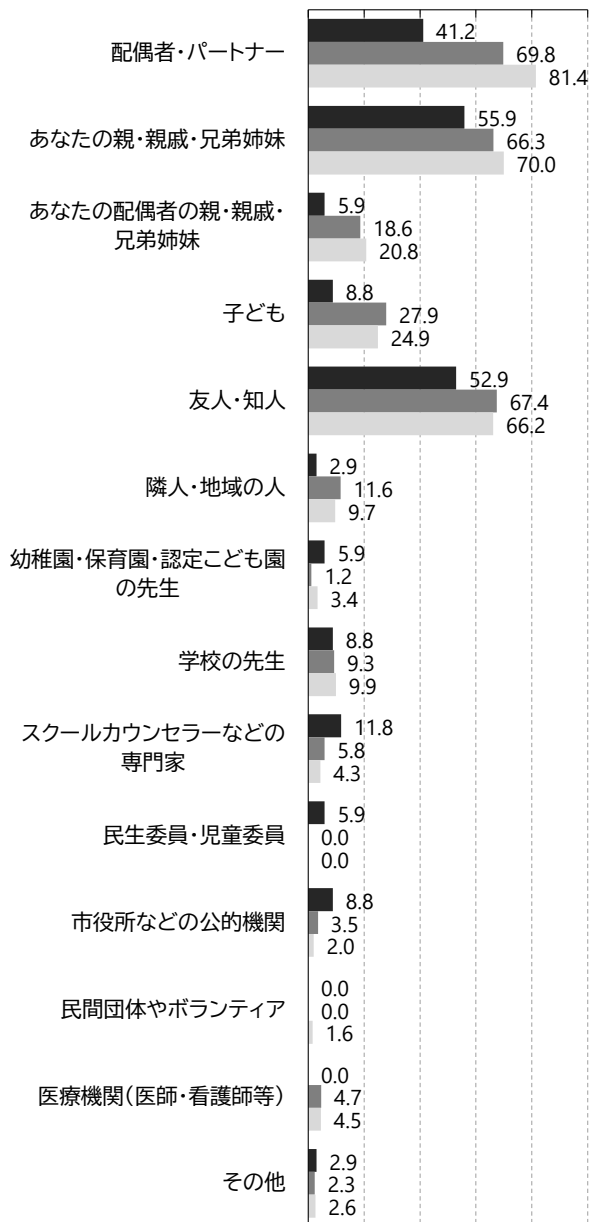
問 21 相談相手がいる方は、それは誰ですか。また、相談相手がほしい方はどのような相手に相談したいと思いますか。(複数回答)

頼れる相手や心おきなく相談できる相手または相談したいと思う相手についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「配偶者・パートナー」は、困窮層が一般層より 35 ポイント以上、「子ども」では 15 ポイント以上下回っています。

また、中学2年生では「友人・知人」は、困窮層が一般層より 20 ポイント以上下回っており、「学校の先生」は 10 ポイント以上上回っています。

小学5年生保護者

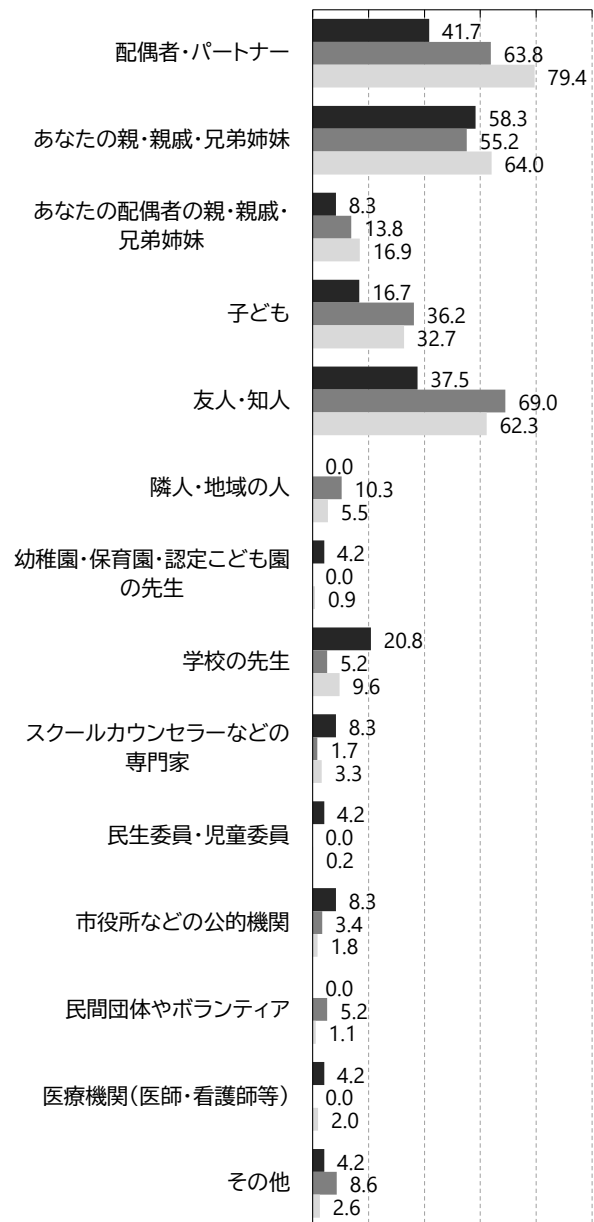
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 困窮層(n=34) ■ 周辺層(n=86) ■ 一般層(n=506)

中学2年生保護者

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 困窮層(n=24) ■ 周辺層(n=58) ■ 一般層(n=456)

#### (4) 子育ての悩みや相談についてのまとめ

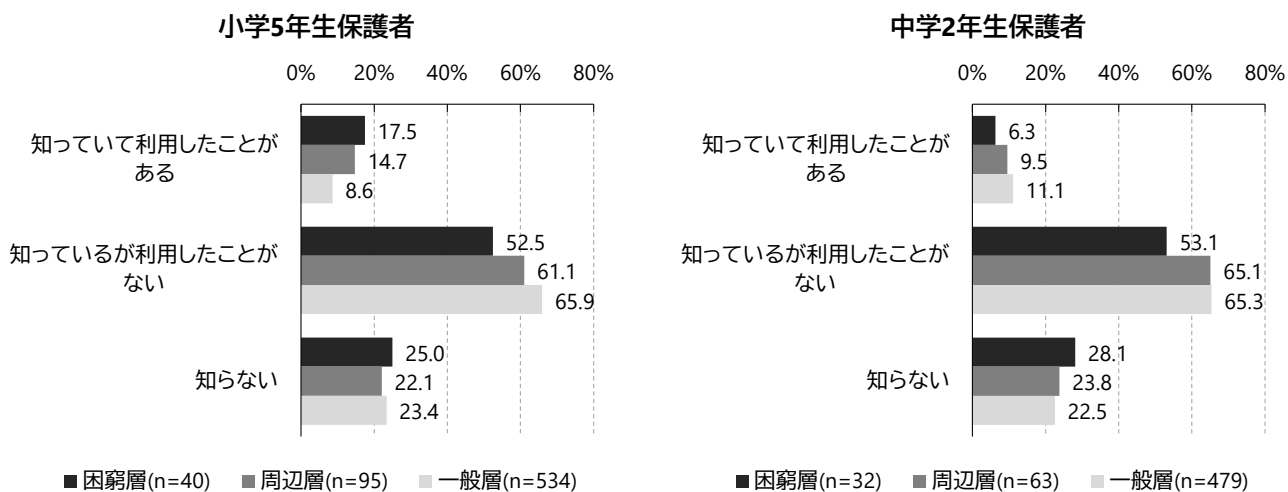
- 困窮層の家庭では、小学5年生の子どもへの悩みのうち勉強や進学以外では、「子どもが反抗的で、なかなか言うことを聞かない」の割合が一般層と比べて差が大きく、中学2年生の子どもへの悩みとして、「子どもに対するしつけや教育に自信が持てない」の割合が一般層と比べて差が大きくなっています。
- 困窮層の家庭の親は、頼れる相手や心おきなく相談できる相手がいる割合が一般層と比べて低くなっています。この傾向は、5年前の調査結果から変わっていません。

## 各種支援・サービスについて

問 22 あなたは、次のような支援・サービス等を知っていますか。また、利用したことがありますか。

### ① 家庭児童相談室(市子育て支援課)

支援・サービス等の認知状況のうち、家庭児童相談室（市子育て支援課）についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「知っているが利用したことがない」は、困窮層が一般層より10ポイント以上下回っています。

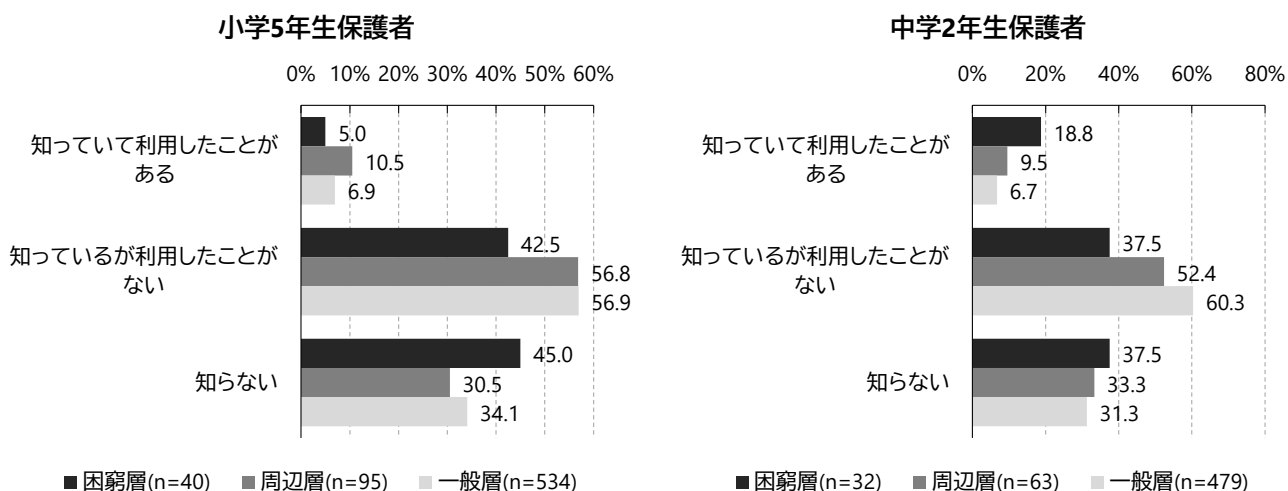


### ② 青少年相談室・ふれあい教室(生涯学習センター)

支援・サービス等の認知状況のうち、青少年相談室・ふれあい教室（生涯学習センター）についてみると、小学5年生では「知っているが利用したことがない」は、困窮層が一般層より10ポイント以上、中学2年生は20ポイント以上下回っています。

また、小学5年生では「知らない」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っています。

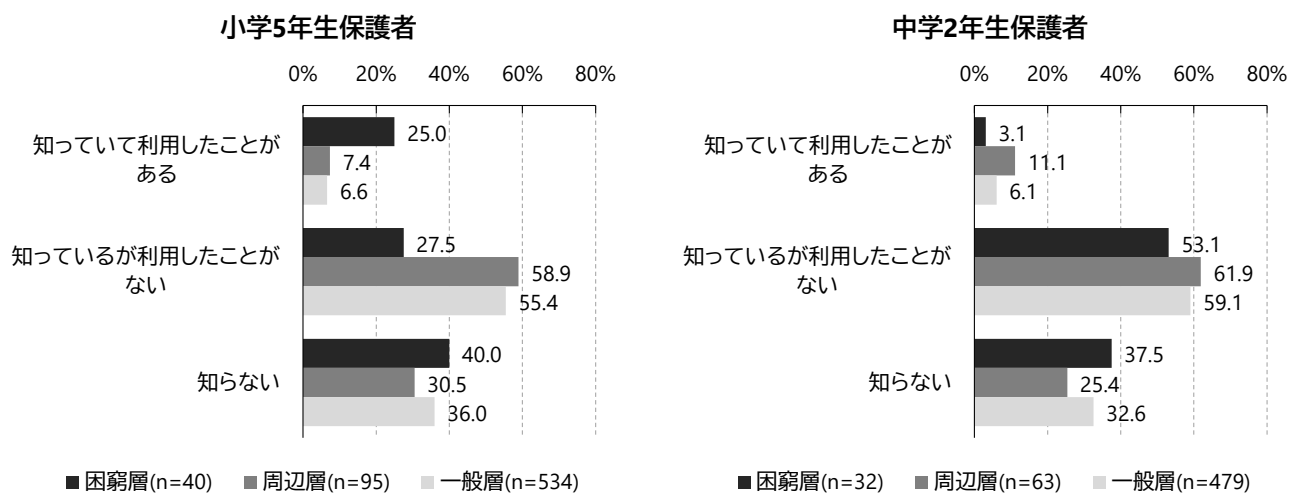
さらに、中学2年生では「知っていて利用したことがある」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っています。



### ③ 生活支援センター(三島市東本町)

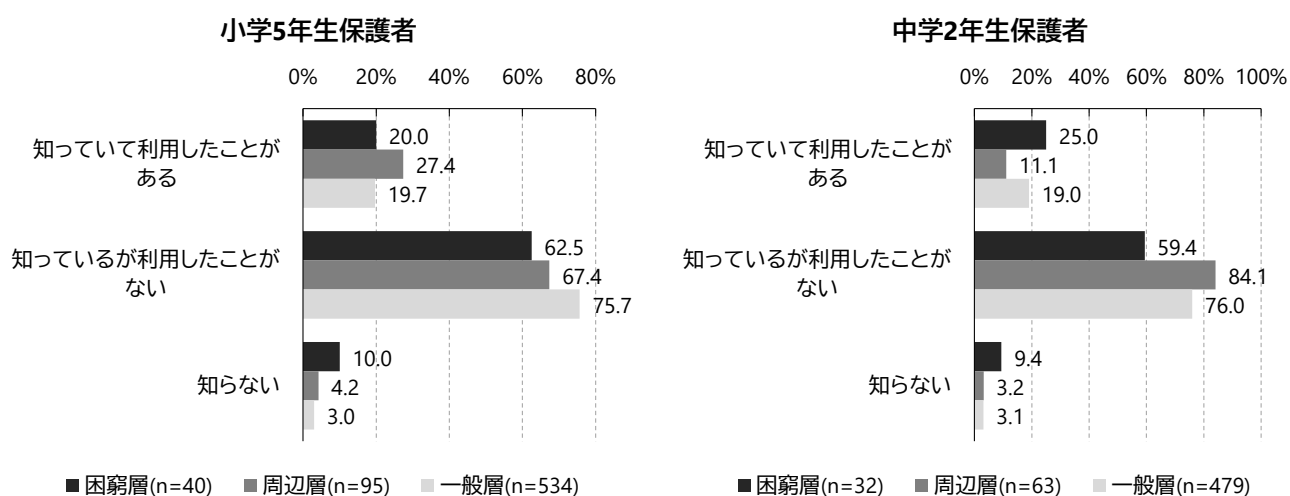
支援・サービス等の認知状況のうち、生活支援センター（三島市東本町）についてみると、小学5年生では「知っているが利用したことがない」は、困窮層が一般層より25ポイント以上下回っています。

また、小学5年生では「知っていて利用したことがある」は、困窮層が一般層より15ポイント以上上回っています。



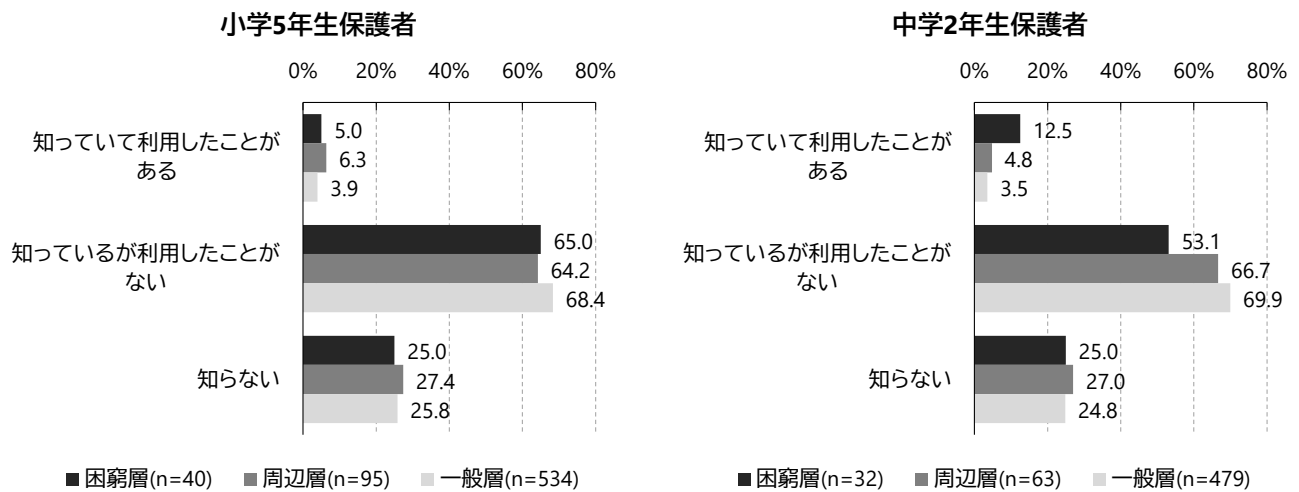
### ④ スクールカウンセラー(各学校)

支援・サービス等の認知状況のうち、スクールカウンセラー（各学校）についてみると、小学5年生では「知っているが利用したことがない」は、困窮層が一般層より10ポイント以上、中学2年生は15ポイント以上下回っています。



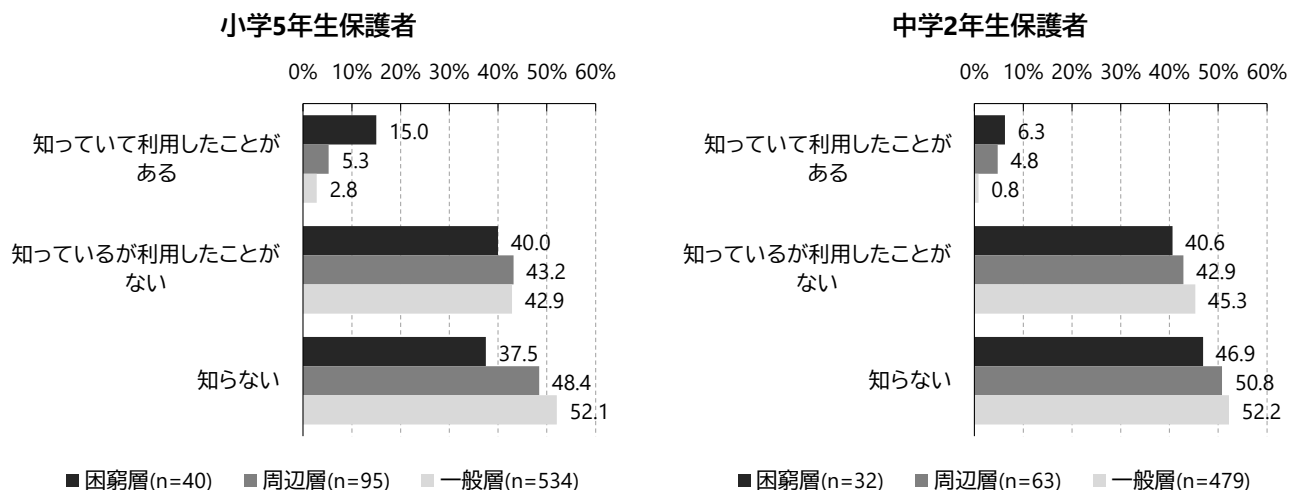
## 問 22 ⑤ スクールソーシャルワーカー(各学校)

支援・サービス等の認知状況のうち、スクールソーシャルワーカー（各学校）についてみると、中学2年生では「知っているが利用したことがない」は、困窮層が一般層より15ポイント以上下回っています。



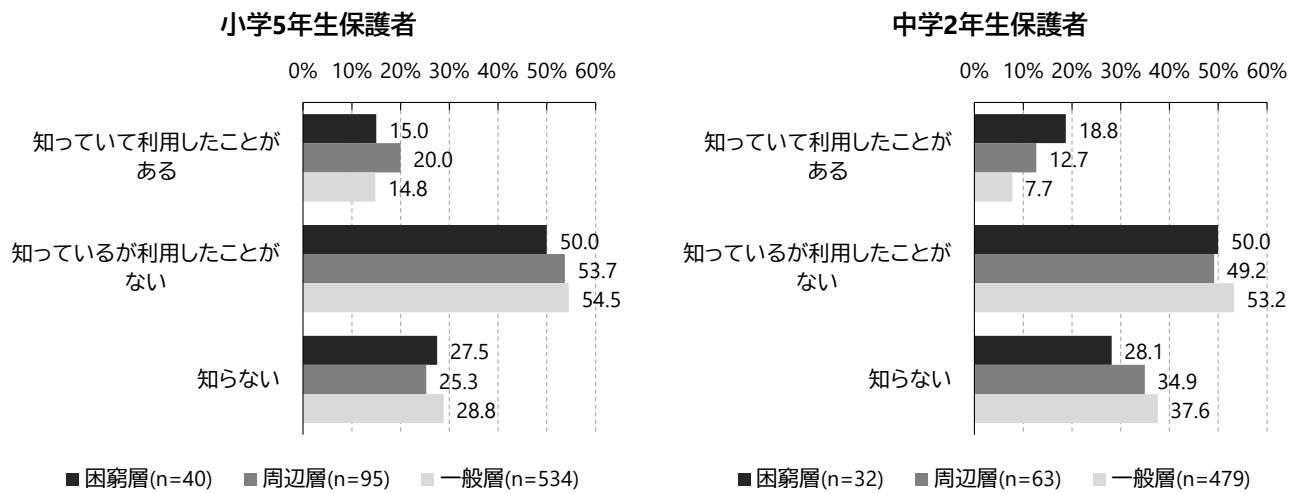
## ⑥ 女性相談員(市子育て支援課)

支援・サービス等の認知状況のうち、女性相談員（市子育て支援課）についてみると、小学5年生では「知っているが利用したことがある」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っており、「知らない」は10ポイント以上下回っています。



⑦ 発達支援センター(市発達支援課)

支援・サービス等の認知状況のうち、発達支援センター（市発達支援課）についてみると、中学2年生では「知っていて利用したことがある」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っています。

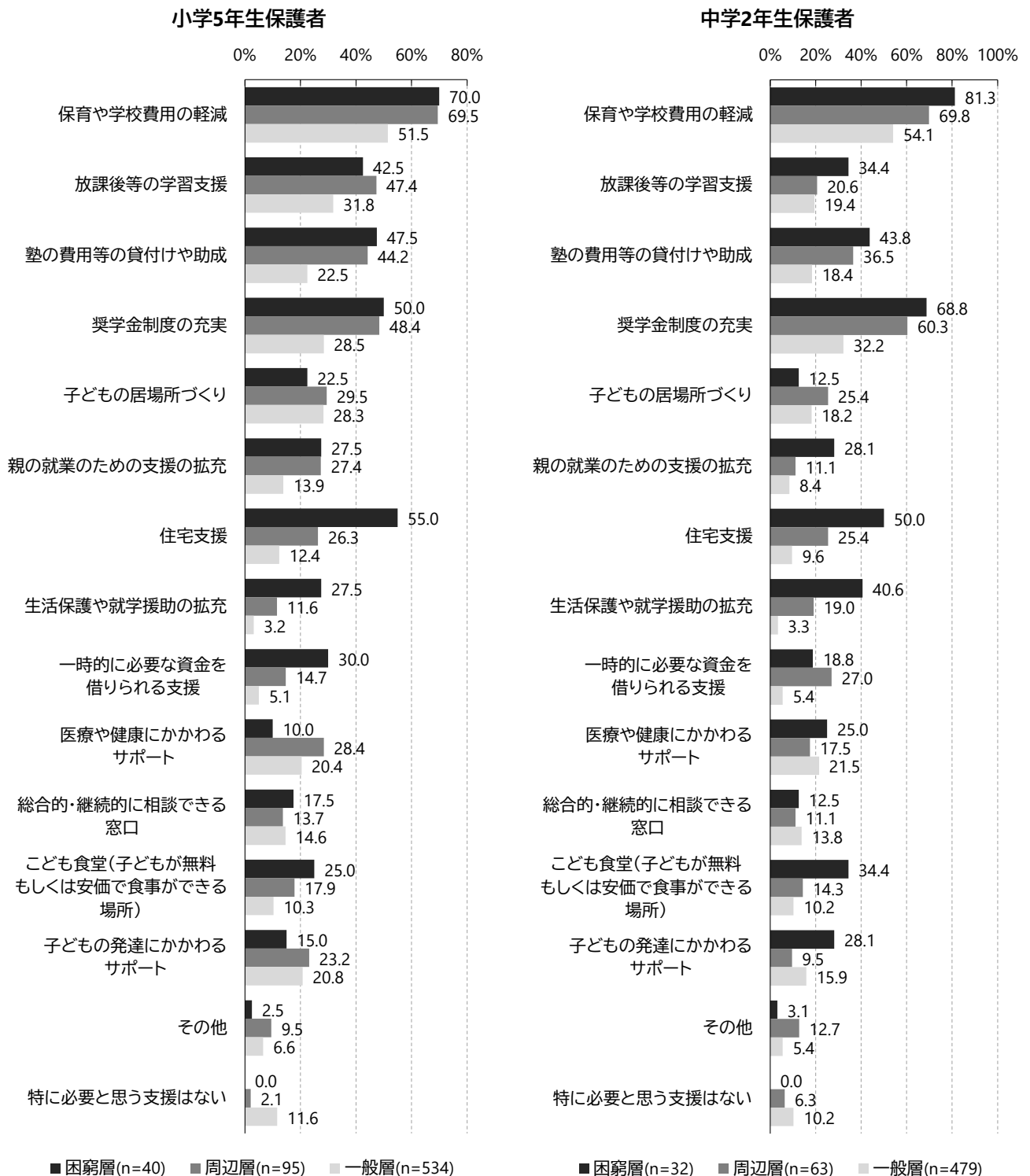




問 23 あなたが必要だと思う支援は、どのようなことですか。(複数回答)

必要だと思う支援についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「住宅支援」は、困窮層が一般層より40ポイント以上、「塾の費用等の貸付けや助成」は25ポイント以上上回っています。

また、中学2年生では「奨学金制度の充実」は、困窮層が一般層より35ポイント以上上回っています。



問 24 市の子育て支援に関する情報は、どこから(どのように)入手できるとよいと思いますか。  
(複数回答)

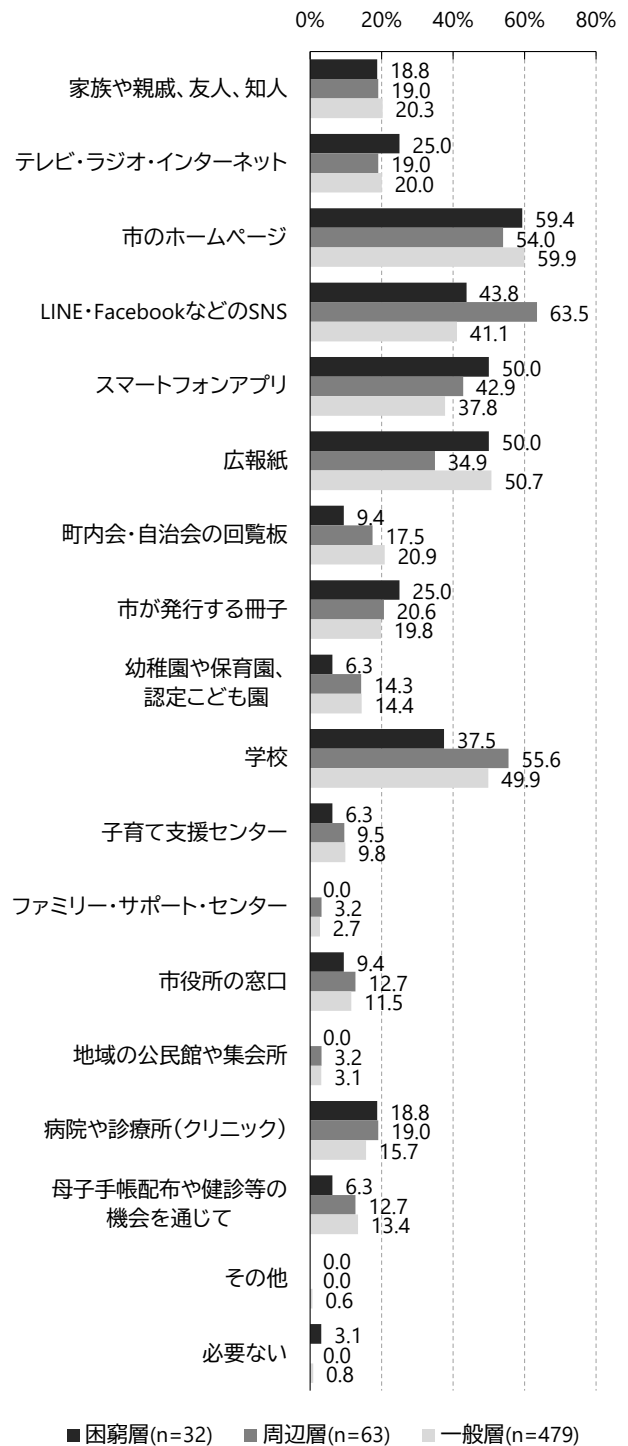
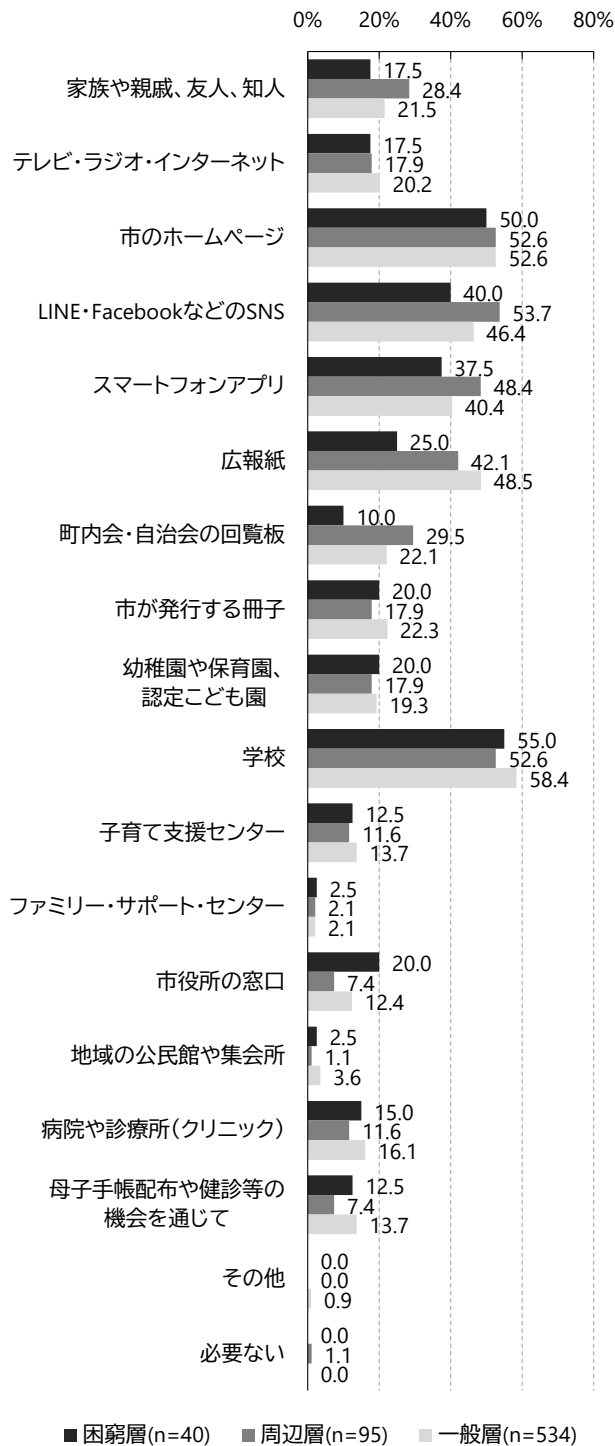
市の子育て支援に関する情報の入手方法の希望についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「町内会・自治会の回覧板」は、困窮層が一般層より10ポイント以上下回っています。

また、小学5年生では「広報紙」は、困窮層が一般層より20ポイント以上下回っています。

さらに、中学2年生では「スマートフォンアプリ」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っており、「学校」は10ポイント以上下回っています。

小学5年生保護者

中学2年生保護者



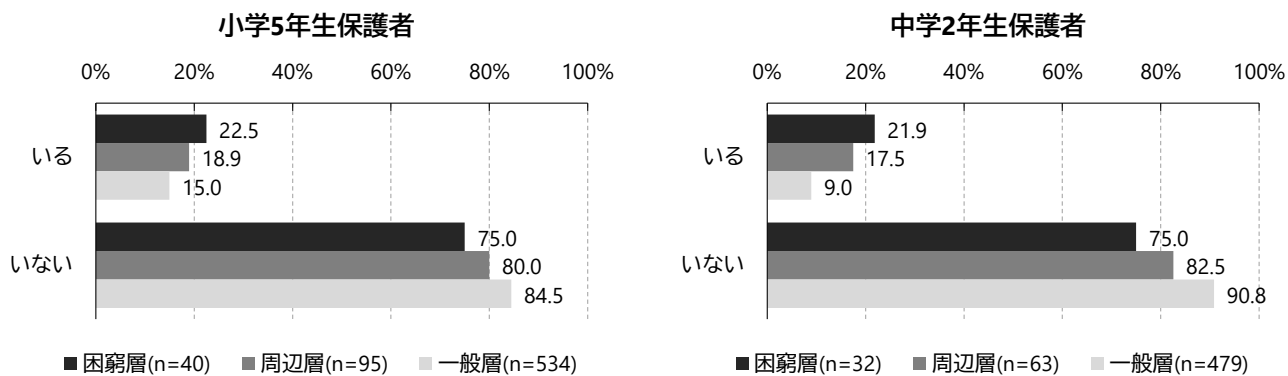
#### (5) 各種支援・サービスについてのまとめ

- 困窮層の家庭が必要としている支援のうち、小学5年生、中学2年生の子どものいる家庭で「住宅支援」の割合が一般層と比べて最も差が大きく、高い要望となっています。次いで一般層と比べて差が大きい支援・サービスは、小学5年生では「塾の費用等の貸付けや助成」で、子どもの学校外での学習機会を求めていることが分かります。中学2年生では、「生活保護や就学援助の拡充」になりますが、一般層が生活保護を希望しないことを考えると、次に多い「奨学金制度の充実」を含めて考える必要があり、高等学校以上の進学費用の確保を強く望んでいることがうかがえます。
- 市の子育て支援に関する情報の希望する取得先について、小学5年生の子どものいる困窮層の家庭では、「広報紙」と「町内会・自治会の回覧板」の割合が一般層と比べて特に低く、地域との関わりの希薄さが影響している可能性が考えられます。中学2年生の子どものいる困窮層の家庭では、「スマートフォンアプリ」の割合が一般層と比べて高く、情報を取得する媒体として活用したいことがうかがえるため、アプリケーションの内容の充実を図っていく検討が有効であると考えられます。

## ご家族のお世話について

問 25 あなたのご家族の中に、日ごろから身の回りのお世話を必要とする人はいますか。

家族の中に日ごろから身の回りのお世話を必要とする人がいるかどうかについてみると、小学5年生では「いる」は、困窮層が一般層より5ポイント以上、中学2年生は10ポイント以上上回っています。

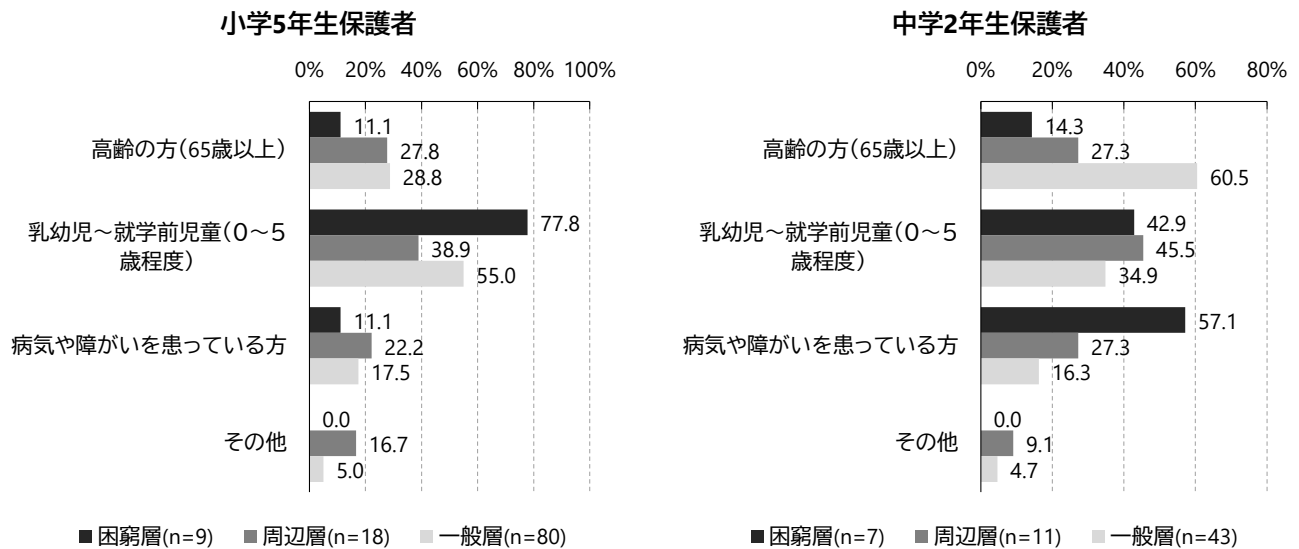


問 26～27 は、問 25 で、お世話を必要とする人が「いる」と回答した方

問 26 日ごろから身の回りのお世話を必要とする人はどのような方ですか。(複数回答)

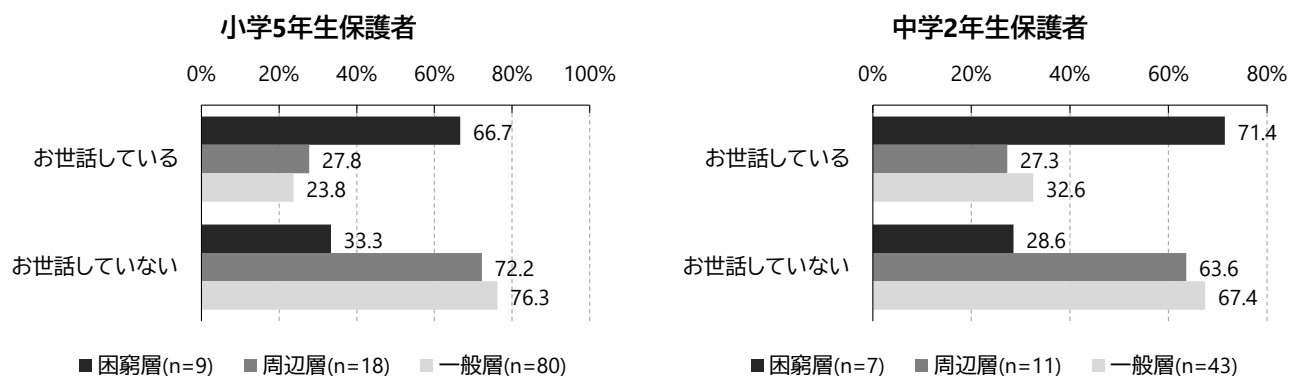
日ごろから身の回りのお世話を必要とする人についてみると、小学5年生では「乳幼児～就学前児童(0～5歳程度)」は、困窮層が一般層より20ポイント以上上回っています。

また、中学2年生では「病気や障がいを持っている方」は、困窮層が一般層より40ポイント以上上回っています。



問 27 問 26 で回答した方のお世話を、お子さまもしていますか。

日ごろから身の回りのお世話を必要とする人を子どもがお世話しているかについてみると、小学5年生、中学2年生ともに「お世話している」は、困窮層が一般層より35ポイント以上上回っています。



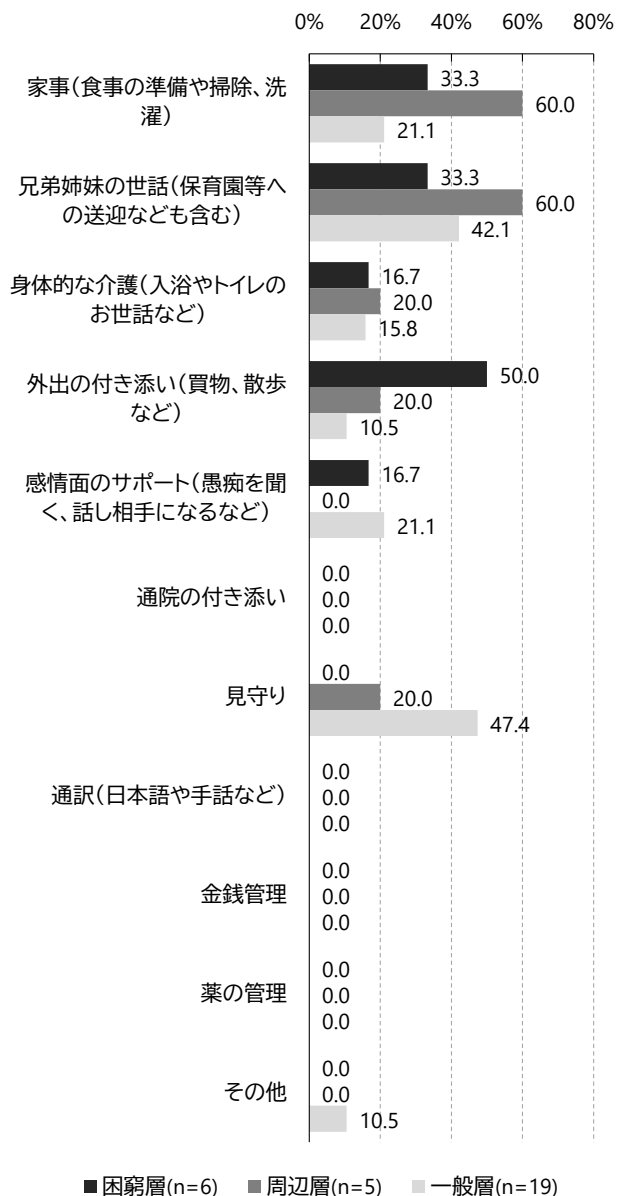
問 28～31 は、問 27 で、お子さまも「お世話している」と回答した方

問 28 お子さまが行っているお世話の内容をお答えください。(複数回答)

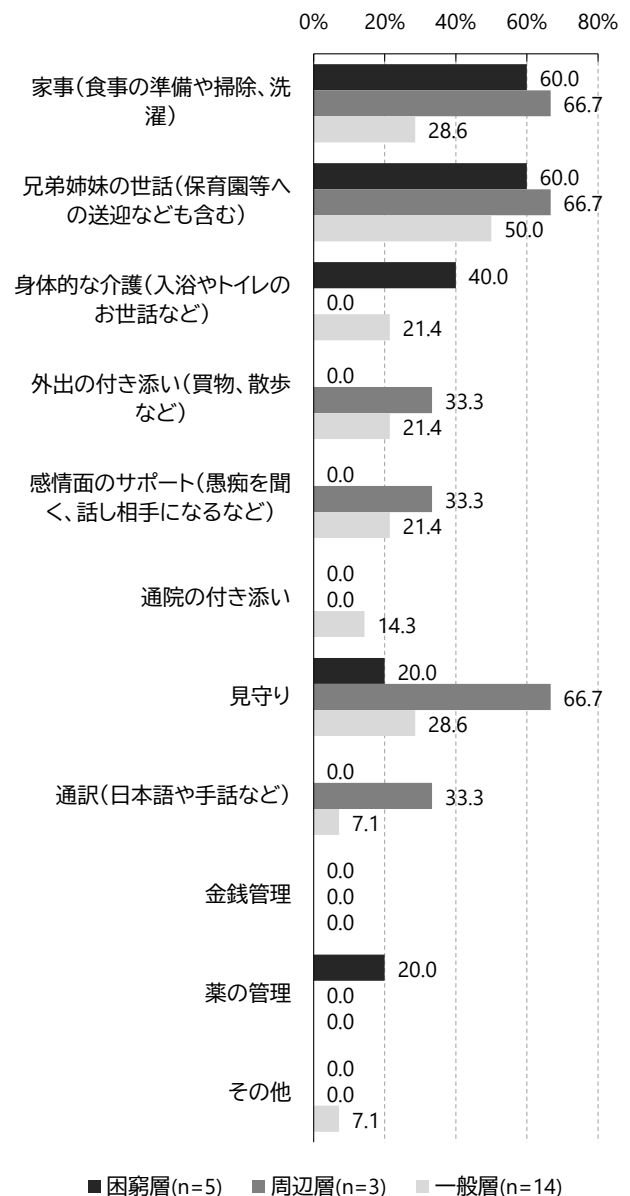
子どもが行っているお世話の内容についてみると、小学5年生では「外出の付き添い(買物、散歩など)」は、困窮層が一般層より 35 ポイント以上上回っています。

また、中学2年生では「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」は、困窮層が一般層より 30 ポイント以上、「身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)」は 15 ポイント以上、「兄弟姉妹の世話(保育園等への送迎なども含む)」は 10 ポイント上回っています。

小学5年生保護者

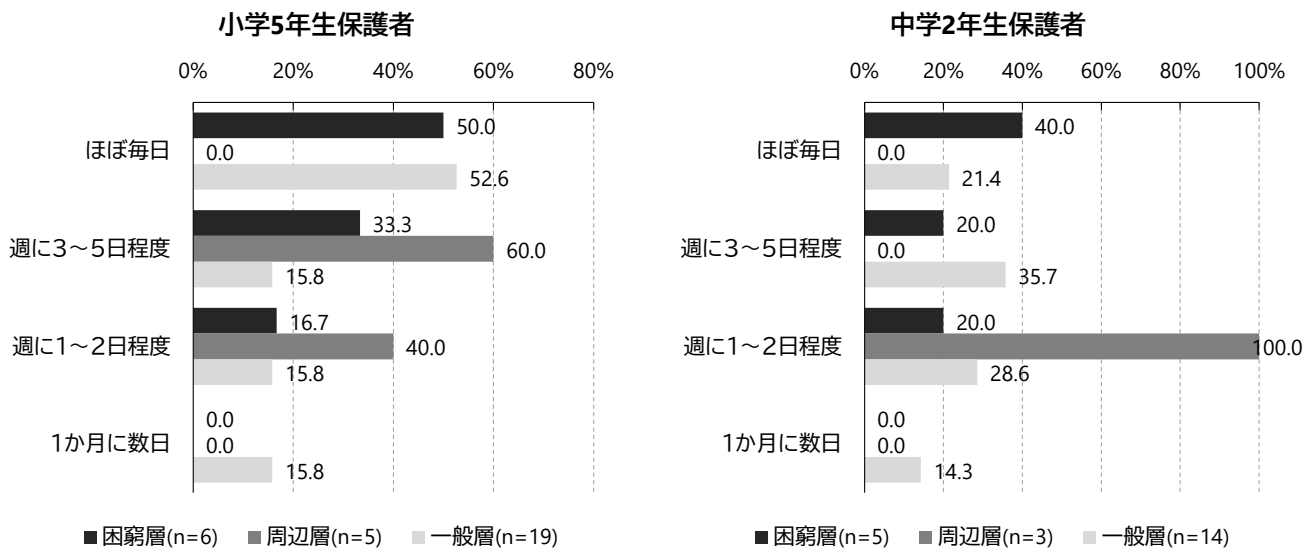


中学2年生保護者



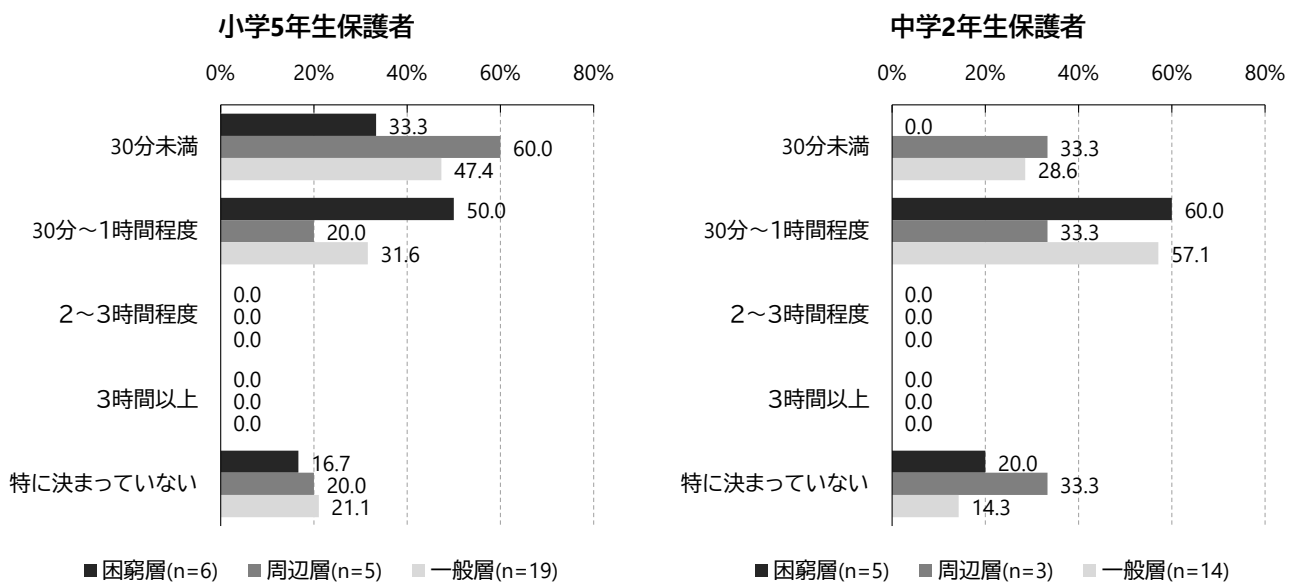
問 29 お子さまがお世話をしている頻度をお答えください。

子どもがお世話をしている頻度についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「ほぼ毎日」は、困窮層で最も多い回答です。



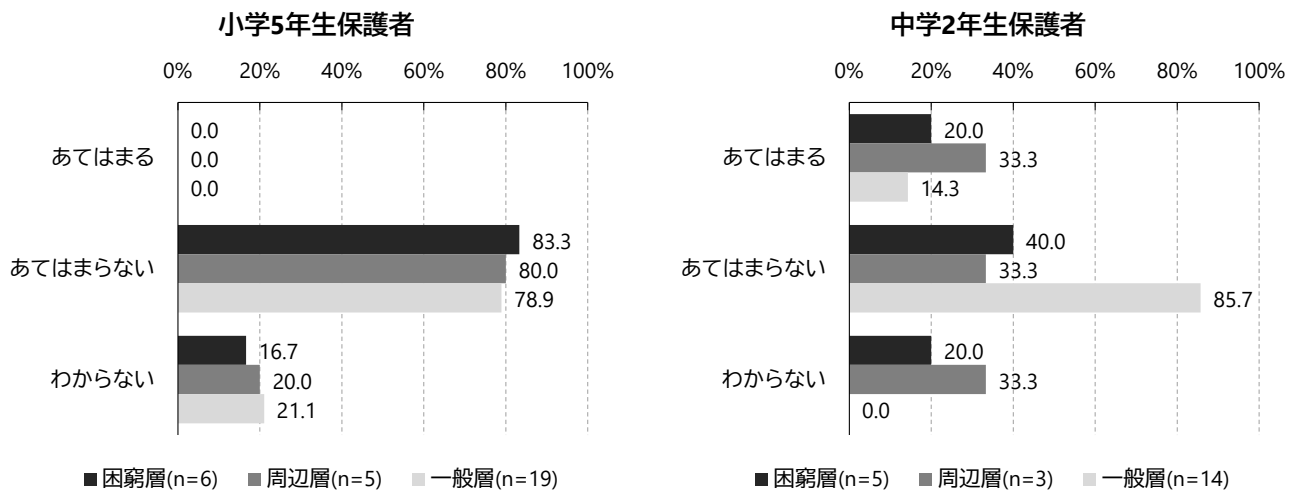
問 30 平日にお子さまがお世話をしている時間は1日何時間くらいですか。

子どもがお世話をしている1日の時間についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「30~1時間程度」は、困窮層で最も多い回答です。



問 31 お子さまは、「ヤングケアラー」にあてはまると思えますか。

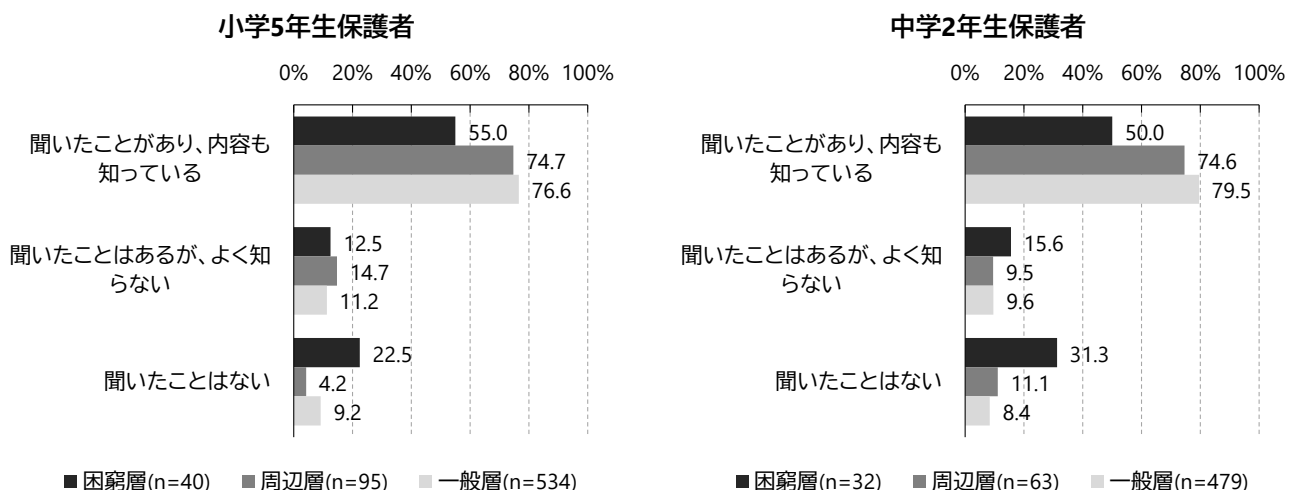
子どもが「ヤングケアラー」にあてはまると思うかについてみると、小学5年生では「あてはまる」は、貧困層で0.0%、中学2年生は20.0%の回答です。



問 32 あなたは、「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。

「ヤングケアラー」の認知状況についてみると、小学5年生では、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、困窮層が一般層より20ポイント以上、中学2年生は25ポイント以上下回っています。

また、小学5年生では「聞いたことはない」は、困窮層が一般層より10ポイント以上、中学2年生は20ポイント以上上回っています。





(6) ご家族のお世話についてのまとめ

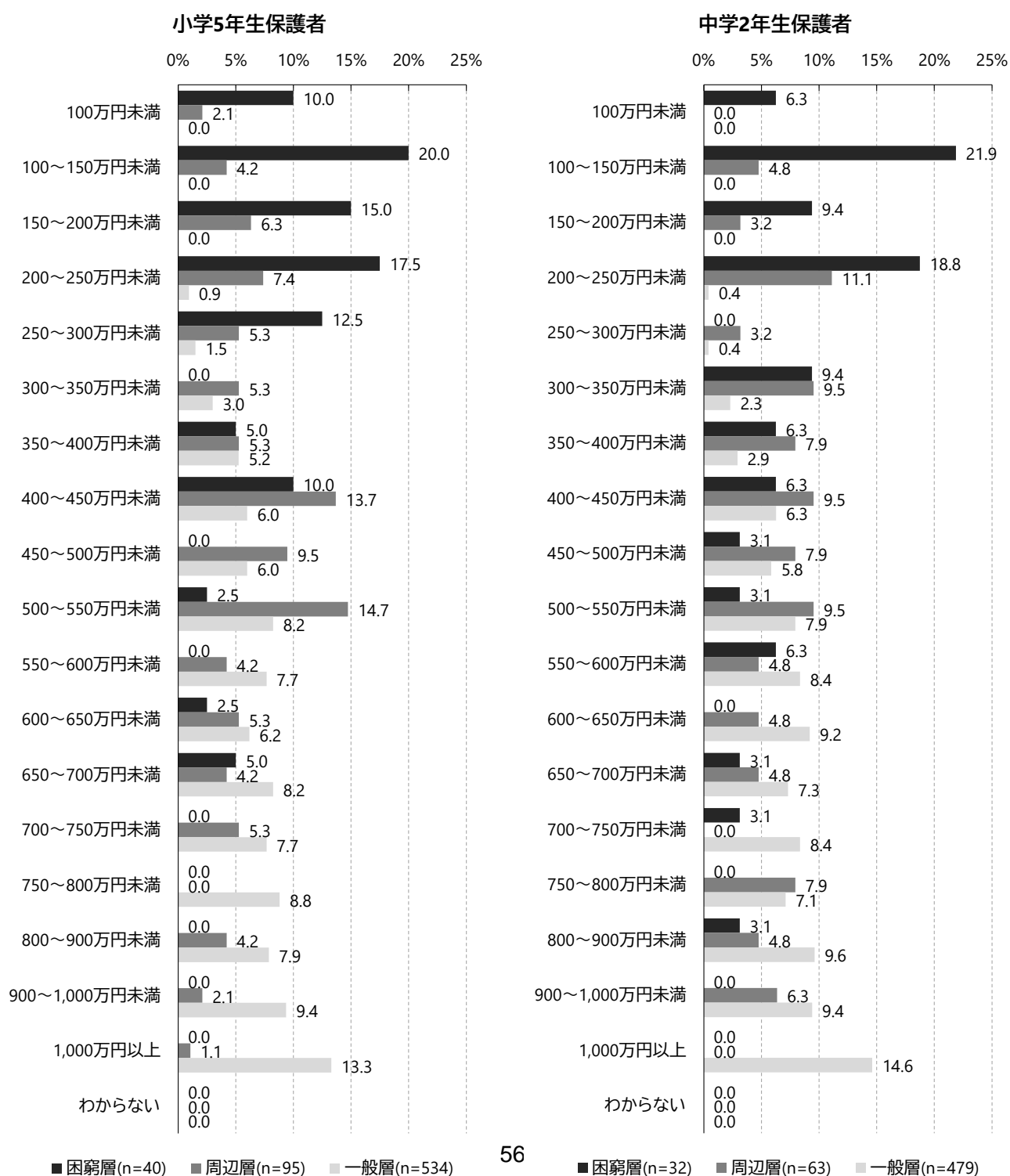
- 困窮層の家庭では、日ごろから身の回りのお世話をする人がいる割合が一般層と比べて高くなっています。また、お世話をする必要のある人は、小学5年生では「乳幼児～就学前児童（0～5歳程度）」が多くを占めており、中学2年生では「乳幼児～就学前児童（0～5歳程度）」に加えて「病気や障がいを持っている方」も多くなっています。困窮層の家庭のおよそ半数は離婚（別居中を含む）していることから、身の回りのお世話が必要な人がいる家庭では特に保護者の負担が大きくなっていることがうかがえます。

## 世帯の経済的状況について

問 33 前年(令和4年)の世帯全員の収入を合わせた手取り額(収入から税や保険料を支払った後の額)の合計は、およそいくらでしたか。

世帯全員の収入を合わせた手取り額(収入から税や保険料を支払った後の額)についてみると、困窮層では、小学5年生、中学2年生ともに「100～150万円未満」が最も多く、それぞれ20.0%、21.9%、次いで「200～250万円未満」がそれぞれ17.5%、18.8%、「150～200万円未満」がそれぞれ15.0%、9.4%(中学2年生は「300～350万円未満」も同率)となっています。

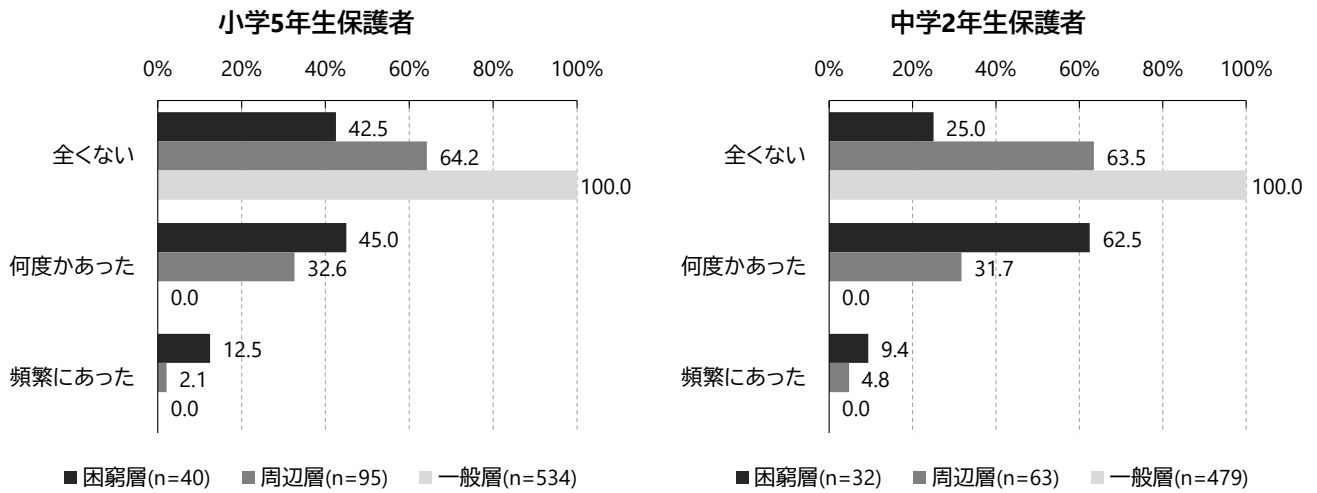
一方で、一般層は小学5年生、中学2年生ともに「1,000万円以上」が最も多く、それぞれ13.3%、14.6%となっています。



問 34 あなたの世帯(家庭)では、過去1年間に、経済的な理由による次のような経験がありましたか。

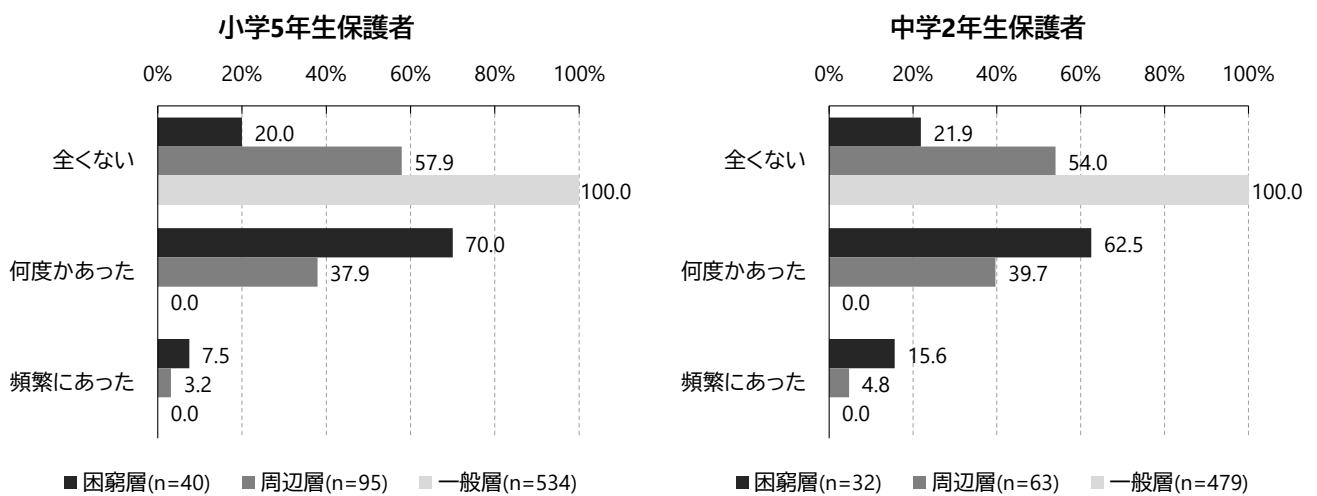
①必要な食料が買えなかった

過去1年間の経済的な理由による経験のうち、必要な食料が買えなかったについてみると、小学5年生の貧困層では「何度かあった」と「頻繁にあった」を合計した割合は57.5%で、中学2年生の貧困層は71.9%となっています。



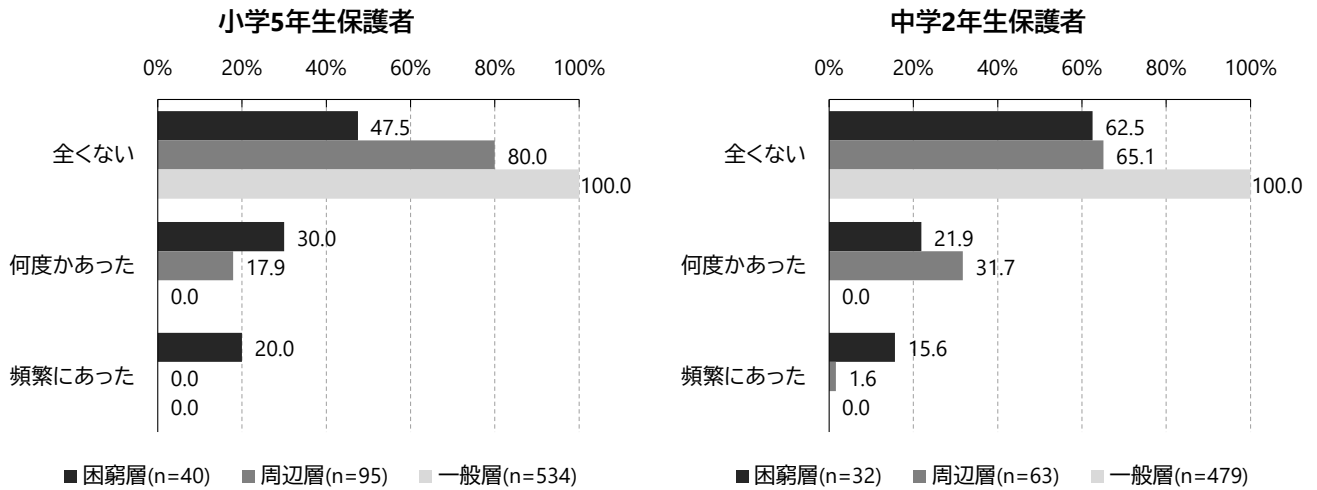
②必要な衣類が買えなかった

過去1年間の経済的な理由による経験のうち、必要な衣類が買えなかったについてみると、小学5年生の貧困層では「何度かあった」と「頻繁にあった」を合計した割合は77.5%で、中学2年生の貧困層は78.1%となっています。



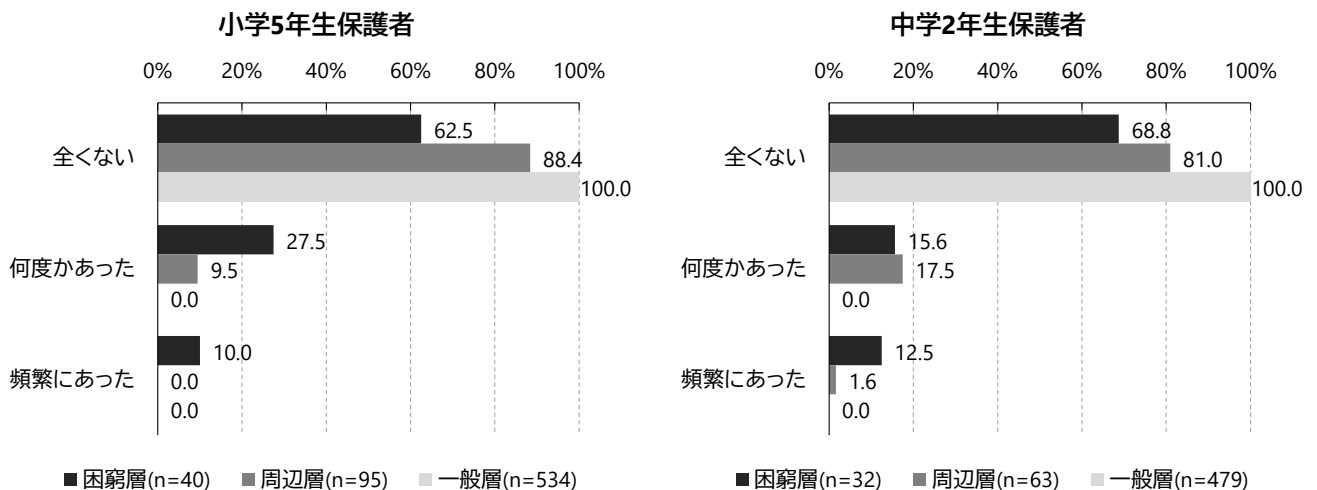
### ③電気・ガス・水道料金の滞納

過去1年間の経済的な理由による経験のうち、電気・ガス・水道料金の滞納についてみると、小学5年生の貧困層では「何度かあった」と「頻繁にあった」を合計した割合は50.0%で、中学2年生の貧困層は37.5%となっています。



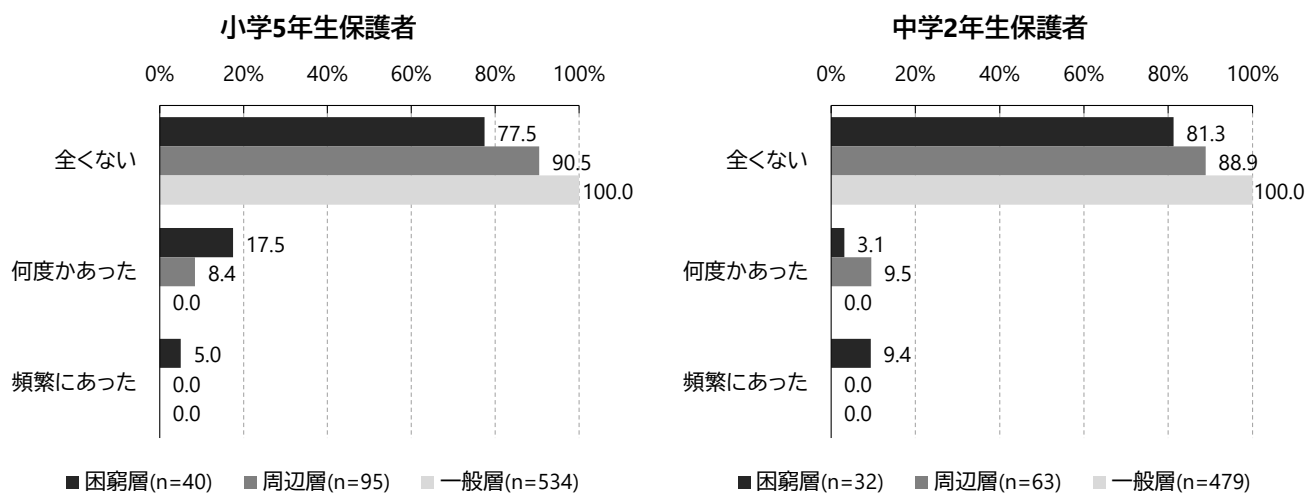
### ④電話料金の滞納

過去1年間の経済的な理由による経験のうち、電話料金の滞納についてみると、小学5年生の貧困層では「何度かあった」と「頻繁にあった」を合計した割合は37.5%で、中学2年生の貧困層は28.1%となっています。



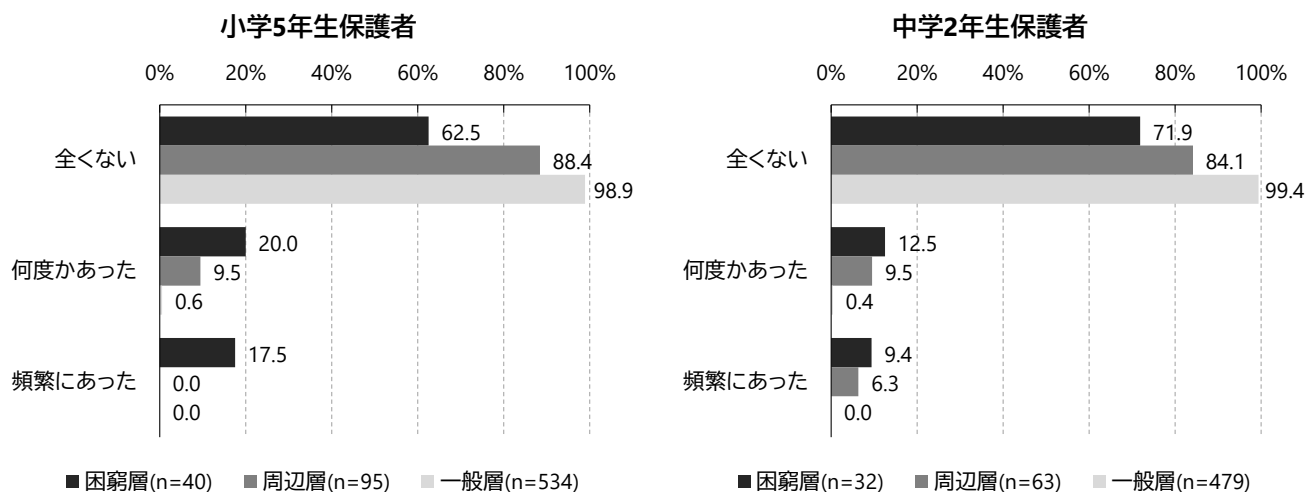
## ⑤家賃の滞納

過去1年間の経済的な理由による経験のうち、家賃の滞納についてみると、小学5年生の貧困層では「何度かあった」と「頻繁にあった」を合計した割合は22.5%で、中学2年生の貧困層は12.5%となっています。



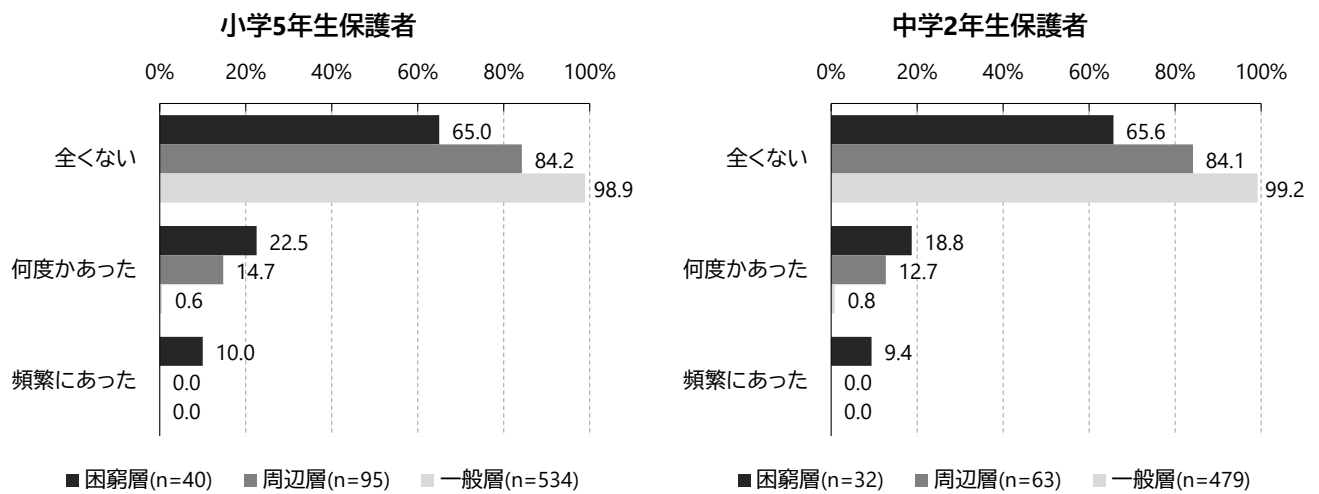
## ⑥給食費の滞納

過去1年間の経済的な理由による経験のうち、給食費の滞納についてみると、小学5年生の貧困層では「何度かあった」と「頻繁にあった」を合計した割合は37.5%で、中学2年生の貧困層は21.9%となっています。



## ⑦借入金・ローンの返済ができなかった

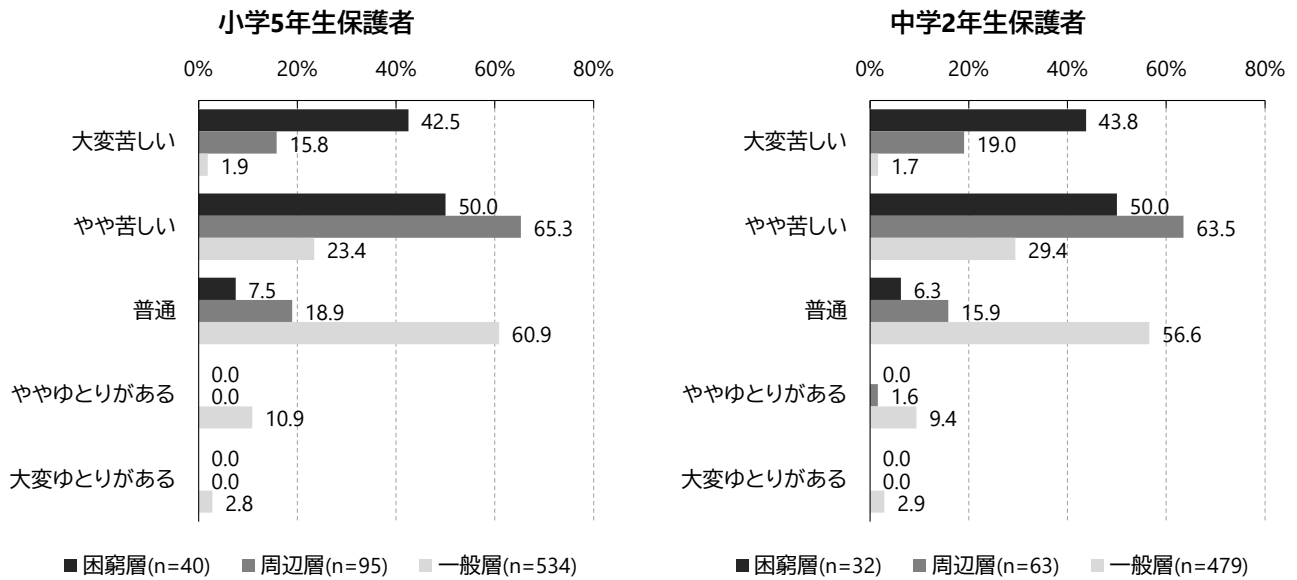
過去1年間の経済的な理由による経験のうち、借入金・ローンの返済ができなかったについてみると、小学5年生の貧困層では「何度かあった」と「頻繁にあった」を合計した割合は32.5%で、中学2年生の貧困層は28.2%となっています。



問 35 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じますか。

現在の暮らしの状況を総合的にみて感じることにしてみると、小学5年生の貧困層では「大変苦しい」と「やや苦しい」を合計した割合は92.5%で、中学2年生の貧困層は93.8%となっています。

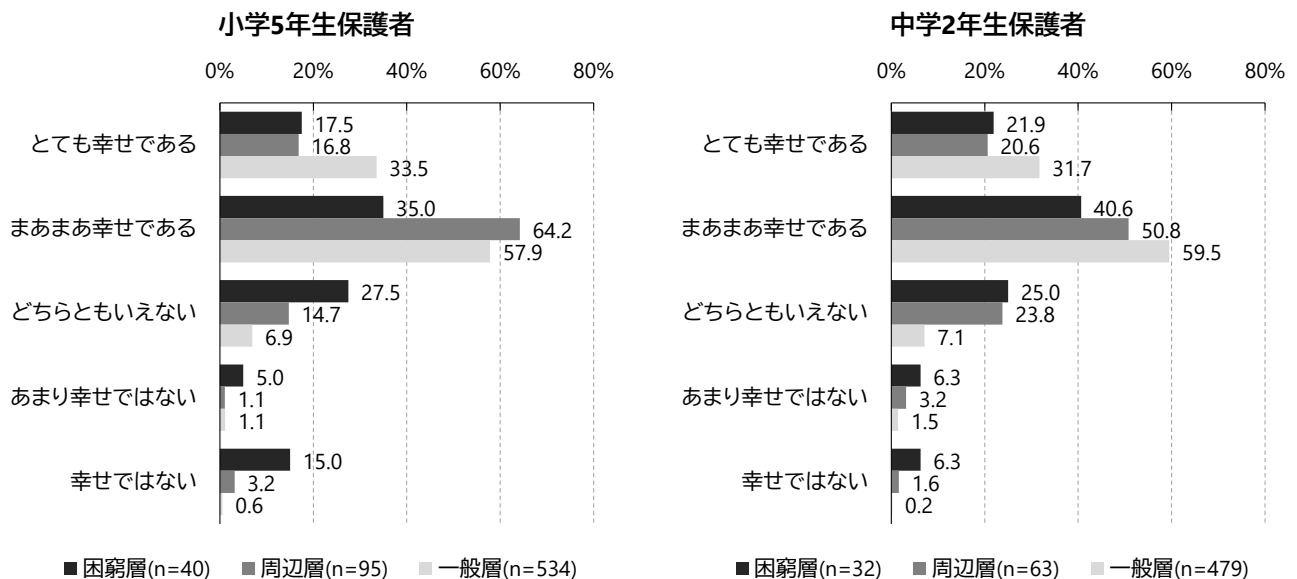
一方、小学5年生の一般層では「大変苦しい」と「やや苦しい」を合計した割合は25.3%で、中学2年生の一般層は31.1%となっています。



問 36 あなたは現在、幸せだと思いますか。

現在、幸せだと思うかについてみると、小学5年生の貧困層では「とても幸せである」と「まあまあ幸せである」を合計した割合は52.5%で、中学2年生の貧困層は62.5%となっています。

一方、小学5年生の一般層では「とても幸せである」と「まあまあ幸せである」を合計した割合は91.4%で、中学2年生の一般層は91.2%となっています。



(7) 世帯の経済的状況についてのまとめ

- 困窮層の家庭では、現在の暮らしの状況を総合的にみて、9割以上が「苦しい」と回答しており、家計がひっ迫していることがうかがえます。また、周辺層でも8割以上が「苦しい」と回答しており、困窮層と大きな差がない状況です。
- 困窮層の家庭では、現在「幸せだと感じている」割合は小学5年生の子どもがいる家庭で5割以上、中学2年生の子どもがいる家庭で6割以上となっていますが、一般層では小学5年生、中学2年生ともに9割以上が「幸せだと感じている」ことから、大きな差があると言えます。



## 意見・要望等について

問 37 お子さまを含め、子どもたちが、これからも健やかに育っていくために必要だと思う行政の支援やサービス、地域でできることなどについてご意見、ご要望等がありましたらご自由にお書きください。(自由記述)

### ▼小学5年生保護者票\_生活困難度別区分別の意見等(一部抜粋・要約)

#### 【困窮層の意見等】

学校環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>●給食で子ども達が着る白衣はもうやめてもらいたい。衛生面的にも良くないと思う。【母親・ひとり親】</li> <li>●塾に行かないで、学校で勉強が完成出来るようにしてほしい。【母親・ふたり親】</li> <li>●通級を勧められたが、母子家庭のため、仕事を休む事が出来ずに利用する事が出来ない。保護者が必ず付き添わなければならない状況が改善されればと考える。子どもは発達に特性があり、周りに理解されにくく誤解される事が多々ある。学校の授業などで多様性について学ぶ機会があれば、誤解される事も減るような気がする。【母親・ひとり親】</li> </ul>
進学・将来	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの進学や就労に関するの情報を知りたい(金銭、どのような進路パターンがあるのか)。【母親・ふたり親】</li> </ul>
地域活動・交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地区の子ども会が強制でビックリ。毎日、仕事で帰りが6時過ぎで疲れている。休みの日は夜19時頃から集まり、子連れはダメ。母子家庭はどこに子どもたちを夜に預けるのか?時間があいている人で子どもたち預ける場所がある人がやれば良い。生きるだけで大変。【母親・ひとり親】</li> </ul>
就労	<ul style="list-style-type: none"> <li>●仕事の紹介があるととても嬉しい。生活ができる金額が稼げる仕事をしたい、働きたい。子どもが留守できるようになったので夜勤は無理でも動ける時間が増えたの。先が見えなくてすべてを終わらせたい。【母親・-】</li> </ul>
児童扶養手当・児童手当等子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●義務教育中に関わるお金(給食費など)を無料にしてもらいたい。お金を支払うならノート代や消しゴム代、鉛筆代もその支払ったお金から子どもたちへ支給してもらいたい。【母親・ひとり親】</li> <li>●児童扶養手当を受給しているが、収入が増えても手当が減るので、一向に楽にはならない。まして自分や家族の病気で仕事を休んでしまうと、途端に生活が苦しく、削るものは食事や衣服となってしまう。昨年コロナで約3週間働けず、有給もなく、給料が半分に。もう少し最低限の生活が保障されると、良いと思う。【母親・ひとり親】</li> <li>●児童手当など子どもの援助の費用を金額が足りない。【母親・ふたり親】</li> </ul>
ひとり親	<ul style="list-style-type: none"> <li>●シングルは物価高騰で生活が苦しくなっている。光熱費の支援や食料支援があると助かる。【母親・ひとり親】</li> </ul>
多子世帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今すぐ給食費無償化にしてほしい。3人以上の子どもがいる家庭に対してもっとお金を支援してほしい。シングルばかり不公平だと感じる。シングルの方がお金に余裕があることを知っているのか?だから離婚が多い。もっと多子のファミリーに手当を増やしてほしい。【母親・ふたり親】</li> <li>●ひとり親への支援を少し見直ししてほしい。児童扶養手当の所得制限の改正など…同じ子ども4人でも、年齢で変えてほしい。小さい子4人と、ある程度大きい子4人では、かかる食費も違い、男の子4人だと更にかかるので、少しの所得オーバーで扶養手当が全額停止されるのは厳しい。【母親・ひとり親】</li> <li>●両親の住民税、所得税など子どもの人数によって免除するなど少しでも支出を減らしたい。【母親・ふたり親】</li> </ul>

## 【周辺層の意見等】

学習・塾・習い事	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナウィルス 5 類移行になって、少しずつで良いのでグループ学習など増やしてほしい。コミュニケーション能力が下がると思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●低価格な塾代（教師を引退した方が教えてくれる場所。）オンライン（リモート）授業の利用回数を増やしたい。【母親・ふたり親】</li> <li>●母子家庭で小学生の子どもが 1 人いるが、経済的・時間的理由でどうしても塾に通わせることができない。しかし、学校での勉強を理解しないまま次の科目へ入ってしまっている状況で、勉強の遅れがあり、家庭でも母親・祖母と宿題をみてはいるが、どうしても教え方に限界を感じる。もし今後、人員等に余裕があるならば、放課後等の空いている時間（休み時間でも）で、毎日でなくても少し勉強を教えてくれる先生以外の方が学校にいる又は来てくれるようになると良いと思う（学校なら子どもも学校に行っている中で教わることができるので）。【母親・ひとり親】</li> </ul>
学校環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもが不登校になった時に相談できる場所や、子どもの居場所が調べないと分からない状況を変えてほしい。特に中学校は、不登校に対する理解をもった先生の差が大きい。不登校でもオンライン授業で対応していただき、成績の対象になってくれるのを切に願う。【母親・ひとり親】</li> <li>●学校も休みの日は利用出来ないのはおかしい。昔は学校で遊んでも OK だった。【母親・ふたり親】</li> <li>●教材費を無くしてほしい。（リコーダー、ハーモニカ、その他家庭科などで使うエプロン等）が、突発的に注文書が届き、家にちゃんと揃ったものがあるわけではないので、子ども 1 人に注文するが、そういうものが度々来たり、お金の準備したりするのは大変。そういうもの込みで学年費として、初めから予算に入れてもらいたい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
進学・将来	<ul style="list-style-type: none"> <li>●受けたい教育を受けられること、やりたいことを見つける機会を与えてもらえること、他の家庭と比べて金銭面であきらめなければいけないようなことが無くなること。【母親・ふたり親】</li> <li>●高校や大学の費用も分かりにくい部分があるので、もっと今の時点で分かりやすく教えてもらえたら、教育資金の備えができると思う。中学校進学するにあたり、制服や体育着など揃えるものの準備金が高いので、何か助成があるとありがたい。【母親・ふたり親】</li> <li>●収入がある程度あっても支出が多く、大学等に進学させる際、お金がとてめにかかるため、今の生活ができなくなるのが不安。受けられる支援にどんなものがあるのか知りたい。【母親・ひとり親】</li> </ul>
子どもの遊び場・居場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校に行けない子の居場所づくり、学校でフリーの先生が必要だと思う。先生たちに余裕がなく、必要な支援が行き届いてない。今の子どもたちに詰め込み教育が合っていないので、不登校が増えていると思う。小学生が身体を動かして遊ぶ場所がない。【母親・ひとり親】</li> <li>●子ども達がおもいきり遊べる公園を増やしてほしい。バスケットゴールやサッカーゴールを使用出来る場所が少ない。学校も休みの日は利用出来ないのはおかしい。昔は学校で遊んでも OK だった。【母親・ふたり親】</li> <li>●休みの日は公園へ行くが三島は遊具が少なく残念。無料のアスレチックや遊具をもっと増やしてほしい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
コミュニケーション・心のケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今、家は当てはまっていないが、虐待家庭で苦しむ子どもをこれ以上増やしてほしくない。【母親・ふたり親】</li> </ul>
防犯・交通安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域によっては道路の車の出入が激しく、子どもを遊びに出したくても心配である。【母親・ふたり親】</li> </ul>
地域活動・交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>●駄菓子屋のように、地域の人のつながりが出来る気軽な場所、あいさつ、お金の勉強にもなり、友だちとのつながりも育てられる環境が近くにあるとよいと思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●家庭や学校だけでなく地域で子どもたちを育てていけること。共働きでなければ生活できない家庭が大半な中、子どものことも全てスムーズにやっていくのは難しく感じる時がある。そんな時頼りになるのはやはりママ友。「自分だけで全てこなす」というのは今の時代しんどいと思う（自分が子どもだった頃の気持ち、シングルの時の気持ちも含めて書きました）。その中でも、三島市は前向きに子育てをしやすい市だと思っています！【母親・ふたり親】</li> </ul>

就労	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一度仕事を離れた人や経済的理由ですぐに仕事を見つけなければならない時に、保育園に入れるまで認可外保育園に預けたり、子どもがいながら就職活動をするのはすごく大変。子どもをもつ女性が仕事に就きやすいようなサポートがもっと充実すればいいと思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●障害者で働こうと思っても年収で損をするなど、とても不平等。【母親・ふたり親】</li> <li>●保育園に上の子も下の子も入れず、幼稚園に入った。働くことはできるが、一緒に幼稚園に通ってる子達は14時に帰り、「なんで私だけママのお迎えが遅いの?」と何度も聞かれ、泣かれた。なぜ、保育園に入れないのか。不思議だった。休職中の人が入れているのに…なぜわが家だけ?とってしまう。【母親・ふたり親】</li> </ul>
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中学へ行ってからの部活動がどのように変化するのか、情報がほしい。外部委託になるのか、その場合、費用がどれくらいかかるのか。それによって子どもの活動に格差が出る可能性があるのか。【母親・ふたり親】</li> <li>●来年以降の中学校の部活動がなくなる・なくなるという情報はありますが、詳しい情報は全く分からない。【母親・ひとり親】</li> <li>●支援やサービスなど、長年住んでいても知らない事があったので、もっと知ってもらって気軽に利用できるようなといいと思う。子ども服や不用品のおゆずり会を、定期的に開催してほしい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
児童扶養手当・児童手当等子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家族や子どもに障害がある場合、障害の重さに関係なく税の優遇や手当の支給がされるべき。また、年収の壁もなくすべき。【母親・ふたり親】</li> <li>●給食費の無償化、高校の給食・授業料の無償化。【母親・ふたり親】</li> <li>●非課税世帯への給付金ばかりで子育てしながら税金を払っている私達は物価が上がっていくばかり。収入は増えず、苦しいばかり。物価上昇に伴い、生活が圧迫されているのは非課税世帯ばかりではないということを、もっと知ってほしい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
ひとり親	<ul style="list-style-type: none"> <li>●離婚ではなく別居世帯にも支援していただきたい。【母親・ひとり親】</li> <li>●シングル家庭には年収を問わず給付金が欲しい。【父親・ひとり親】</li> </ul>
多子世帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>●親の所得で子どもの教育機会が狭められる事のないよう、支援を充実してほしい。兄弟や姉妹が多いと、どうしても制限が生じる。経済的理由で諦めさせなくてはならない事もあり、親として心苦しい場面がある。やりたい事にチャレンジする、チャレンジ出来る社会であってほしい。【母親・ふたり親】</li> <li>●収入は悪くはないが、年子や年令に近い子がいるので、費用を貯める時間の猶予がない。【母親・ふたり親】</li> <li>●多子世帯に対する減税や給付金加算等の優遇。【母親・ふたり親】</li> </ul>

## 【一般層の意見等】

学習・塾・習い事	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校や教室に行けない子ども達が、教育を受けられる場所、機会を増やして欲しい。【母親・ふたり親】</li> <li>●小学校での放課後（寺子屋みたいなサポート）を全学年で行われると、子どもも楽しく勉強ができていいと思う。子どもの教育格差を改善すべきかと思う。生まれてくる所を選べないのならば、自分の力で生きられる力を子ども達には平等に与えるべきだと思う。【母親・-】</li> <li>●親の経済状態で子どもの学力が決まってしまう場合があると思う。習い事にお金をかけられない家もある。放課後に習字やそろばん、英会話等無料で子どもに教えてくれるサービスがあると嬉しい。【母親・ひとり親】</li> </ul>
学校環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校生活になじめない子が学校、教室以外で自分のペースで過ごせる場所があるといいと思う。できれば各小学校に支援の先生（カウンセラー）が常について、子どもが逃げることができる部屋があると不登校にならずにすむこともあるのかなと思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●障害がある子とない子の関わり。身体の障害は目に見えるが、発達障害、軽度の子との関わりを増やして、理解がほしい。それが早い段階からあれば、支援級ではなく普通級に通わせることを考えやすいし、全ての学校にほしい。兄弟で違う学校になることは、ちょうしんどい。全ての兄弟が同じ学校になることが正しいかどうかは分からないが。【母親・ふたり親】</li> <li>●容易なことではないが、子どもが校内で起こることへの疑問や苛立ち（友人関係や担任の言動など）をもっと表出しやすい場が校内に出来たらいいと思う。スクールカウンセラー等は現状月に数回。毎日、いつでも門戸が開いているような居場所があると親としても安心。マンパワーが必要なことであり、難しいことは重々承知しているが、多感な子どもを育てていて感じたこと。【母親・ふたり親】</li> </ul>
進学・将来	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもが経済的な理由で進学を諦めたりすることのないように、高等学校や大学での費用の援助などを充実させた方が良くと思う。特に、医学や教育に関わる事に良い人材、才能ある人材を集めていかなければ、将来の日本社会が崩れると思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●小さい頃から発達に心配な部分があり、療育支援室の先生など、たくさんの方にお世話になった。おかげで現在、特に問題もなく過ごすことができているが、今後の進学・就職のことを考えるとやはり心配は尽きない。大きくなるほど相談先が少なくなるように感じているので、専門の先生にすぐつながることのできる安心感があればいいと思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●将来について本気で考え、頑張っている若者に対して本当の奨学金（育英会のような奨学金の貸付は除く。）がどんどん増え、優秀でやる気のある人が家庭の経済状況に関わらず、進学できる地域になって欲しい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
子どもの遊び場・居場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>●三島市は自分が子どもの頃に比べ、子どもが参加しやすいイベントが増えたり、楽寿園、佐野美術館の無料の券を配布してくれたり、子どものお出かけがしやすい環境になっていると思う。これからも体験型のイベントなどが、どんどん増えてくれるとよい。【母親・ふたり親】</li> <li>●放課後児童クラブに入らなくなった子（4年生以上）の居場所づくり。【母親・ふたり親】</li> <li>●放課後子どもが体を動かして遊べる場所が少ないようで、あまり学校外でスポーツをする様子を見ない。子どもだけでも安全に遊べるような公園の整備や、校庭の開放など、検討していただけるとありがたい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
コミュニケーション・心のケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「不登校親の会」を作ってほしい（NPOではなく、公的なものとして）。家から出られない、ふれあい教室やフリースクールにも通えない不登校児がいると、母親はつきっきりで外出もできないため、同じ境遇の方とつながりたい。情報交換したい。【母親・ふたり親】</li> <li>●家庭に対しては、子育てで苦しい時の助けとなるよう、保健センターや発達支援の人員を増やし、サポートやサービスを気軽に利用できると良いと思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●小学校に入ると比較的子どもも手が離れ、物理的に子育てが楽になるが、同時に親同士、支え合うようなコミュニティへの帰属は減るため、何げない悩み相談をする場が減るように感じる。もちろん母親の就業により、雑談どころではなくなってはくるのだが。思春期から巣立ちに向けた親、子それぞれの心の支えとなれるサービスがあると良いと感じる。【母親・ふたり親】</li> </ul>

防犯・交通安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校登下校時（7:30-8:00、15-17 時位）の見守り（警察とかにやってもらおうと安心。女の子の 1 人だと不安）。【母親・ひとり親】</li> <li>●安心して通学できる環境の整備（歩道、信号機、街灯、ガードレール、倒れそうなコンクリートブロック等）。【父親・ふたり親】</li> <li>●天候が悪い日も、通学時間に横断歩道に立ってくださるボランティアの方々がとても有難い。学校だけでなく、市長や教育長などから感謝の意を伝えていただける機会があると、ボランティアの方々のモチベーションも上がると思う。未来ある子どもの命を、日々守ってくださる方を大切にする市であってほしい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
地域活動・交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>●母親の私も夫も郷里が遠く、子育てに親の手助けを求めるのが難しい中、ご近所の方々の協力があって、ストレスなく 3 人の子育てをすることができている。地域の方の温かいサポートがあるからこそ、安心して賑やかで発達障害のある子ども達をここまで育てることができた。【母親・ふたり親】</li> <li>●子どもは、学校、家庭、塾（習い事）以外で地域の大人と接する機会が本当に少ないと思うので（親も子も本当に忙しい）、様々な大人と何げなく関われる機会が、あると良いと思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●他学区の大人・子どもたちとの交流の場。以前、青年会議所主催のイベントで、知らない学校の、年齢も違う仲間と交流できて刺激を受けていた。子どものうちに、多様な人と交流することは視野を広げる経験になると思う。習い事でもその側面が一番のメリットだと考えている。子どもが参加したくなるような交流イベントを企画してほしい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
余暇	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いくら母親も仕事をして収入を増やしても、税金が増えていくとやるせない気持ちになる。私はたくさん働きたいとは思っていない。本当は息子が帰って来るまでに家へ帰り、バタバタせずゆっくりと親子の時間を過ごしたいと思っているが、実際は母親も働かなくては生活が苦しく、進学等の不安がある。子どもはもっと欲しいと思っていたが、現在 1 人子育てしているだけで精一杯。もっと親子の時間をゆっくり過ごしたいと思うのはわがままなのか。ずっと考えている。【母親・ふたり親】</li> </ul>
医療・健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小児科の予約が大変。朝に発熱すると小児科の予約が取れず、仕事や下の子どもの送り迎えもできないことがある。【母親・ふたり親】</li> <li>●歯の健康をもっとサポートできたら良いと思う。例えば、小学校への出張チェックアップ（3 か月に 1 度、子ども達の歯のクリーニングを行う、等）。【母親・ふたり親】</li> <li>●発達に心配がみられる子の相談先の充実。担任・先生方以外で専門に相談にのり、適切な場へつなげる職員の配置。【母親・ふたり親】</li> </ul>
就労	<ul style="list-style-type: none"> <li>●親が少しだけ働いている場合、子は学童に入れないことが多いと思う。働いている間、預けられる場所があるととても助かると思うことがあった。小学校に入ると、ぐっと預ける場所が減ると思います。年齢も上がってきて、必要性も減るとは思いますが、1、2 年生など一人では心配な場合もあり、週 3 回等、少ない時間だけ働いている人も預けられたらありがたい。【母親・ひとり親】</li> <li>●子どもが病気になった時に、預かってくれる施設があるが、登録していてもいつでもいっばいで、断られてしまう。働いているお母さんが安心して働けるように、そういった施設を増やしたり仕事がすぐに抜けられるような環境を整えてほしいと思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●精神的な障害をもつ子どもへの支援とその家族の就業（在宅ワーク、内職）支援。特に、不登校児がいると働くことができず、家計の負担が大きいため。【母親・ふたり親】</li> </ul>
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校就学時点で、三島市として、不登校や発達障がいになった場合の相談窓口一覧を全員へ配布してほしい。スクールカウンセラーやソーシャルワーカーも含めて、「こういう場合はここに相談できる」というものを一覧化してほしい。不登校になった場合、親が初動を誤ると子どもは取り返しのつかない状態になる。親がすぐに支援にたどりつけるルートを事前に発信してほしい。【母親・ふたり親】</li> <li>●自然にふれあえるイベント等はあるが、それが子どもや親が知らないで過ごしていることが多いので、子どもが小さいうちは、チラシや学校のプリントみたいに配布してほしい。【父親・ふたり親】</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校入学以降に発達障がいが見つかった場合、本人と保護者へのサポートを手厚くしてほしい。どの病院へ行けばよいか、どこで知能検査を受けられるか、等の情報が少なく、診断もらうまで8か月かかった。診断がなければ学校では全く配慮してもらえない。【母親・ふたり親】</li> </ul>
<p>児童扶養手当・児童手当等子育て支援</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育に関する費用が親の負担がとても多く、共働きしていないと保てない家庭が多いと思う。その現実があるので、育てていく自信が持てない大人が増えていき、少子化へつながっていていると思う。子育てしやすくなるには、それなりのお金が必要になるので、せめて教育費と病院の費用がかからなければ、安心して子どもを産もうと思うのではないか。お金に対する不安を抱えての子育てが子どもにも伝わり、子どもが親へ気を使って、やりたい事に挑戦できない事も多いと思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●給食費の無償化が他の自治体で進んでおり、三島市にも導入してもらえたら、助かる家庭は多いと思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●小中については、義務教育のため金銭的にも余裕だが、高校の私学になると、補助はあっても公立高校並みの金額にならず（また、補助金対象から外れてしまうが）支払う金額の負担が大きい。もし可能なら、公立・私立どちらを選んでも同じくらいの金額になるように、支援をしてもらいたい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
<p>ひとり親</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●単身赴任や、シングルマザー、シングルファザーで普段頼れる人がいなくて、ワンオペ育児している人が、万が一入院や病気などで子どもの世話ができなくなった時に、サポートしてくれるヘルパーさんや、居場所となる施設があると安心できる。【母親・ふたり親】</li> <li>●シングル親、金銭的支援。低所得者ギリギリ入らない人の方が、生活的に苦しい人が多いように感じる。そこの部分の金銭的支援。【母親・ふたり親】</li> <li>●保育園の入りやすさ。【母親・ひとり親】</li> </ul>
<p>多子世帯</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●第三子以降の保育料無償化は大変ありがたい。小学校～大学とお金がいくらかかるか分からないので、その分貯蓄にまわせる。小学校に入ると、多子世帯の軽減が何もなくなるので、児童館の費用の軽減をしてほしい（児童館に通っている子分しか対象にならないので、歳の差があるきょうだいと常に満額かかってしまう）。子どもが将来目指すものによって、教育費がいくらかかるか分からないため、経済面での余裕は全くない。子どもが増えれば増えるほどのため、多子世帯へのサービスを充実させてほしい（親の所得に関わらず）。【母親・ふたり親】</li> <li>●子どもが多くいる世帯は、どうしてもかかる費用も高くなってしまいうため、もう少し援助をしてもらえると助かる。子どもが多いことがメリットになるような金銭面での支援がないと、出費だけが増えてしまい、与えたくても与えられないといった状態になりやすいと思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●子どもが3人いるので成長とともにお金がかかるため、子ども手当を高校生まで引き上げてもらえたり、子どもの数え方も年齢関係なく、3番目の子の年齢に合わせてもらえると嬉しい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
<p>その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●家から出られない不登校児への訪問サービスがあると嬉しい。第三者と関わってほしいため。【母親・ふたり親】</li> <li>●フードバンクをもっと広め、利用しやすいように。食材廃棄量を減らし、フードバンクや子ども食堂への材料の提供に回すなど、活用できると良いのではないか。【母親・ふたり親】</li> <li>●ヤングケアラーやその家族の負担（家事や買い物等だけでも）が少しでも減らせるように、家事やケアの対象となっている家族の世話を代行できる安価または公費のサービス。【母親・ひとり親】</li> </ul>

▼中学2年生保護者票\_\_生活困難度別区分別の意見等(一部抜粋・要約)

【困窮層の意見等】

学校環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>●支援級の子でも通常級に移動しなくても良いように、高校などの選択を増やしてほしい(通信や私立しかないため)。【母親・ひとり親】</li> <li>●子ども達と、お世話になっている学校のために協力できることは、なるべくしていきたいと思っはいるが、PTA・地区委員の仕事が正直大変。この6年連続で、何らかの役を小・中学校としているが、一方で一回も何もやらない方達も多く…自営業なので融通は利くが、その分その時間は無収入。PTAの仕事の簡素化、もしくは各学校でのPTA活動のみ(市・県・全国の所属を抜けるなど)にしてもらいたい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
進学・将来
<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもがどの家庭でも平等に教育を受けられるように無償化にさせていただいたのは助かるが、結局はお金持ちしか私立高校へは行かせることが出来ない世の中。【母親・ふたり親】</li> </ul>
就労
<ul style="list-style-type: none"> <li>●共働きをしないと生活が難しいが、子どもを取り巻く環境が働きづらくしていると感じる。学童保育の申し込みについても、仕事をするために預け先を求めているのに、仕事をしていないと預けられないというのは、とても矛盾していると思う。もう少し働きやすい環境になればと思う。【母親・ひとり親】</li> </ul>
児童扶養手当・児童手当等子育て支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>●高校まで無償化にしてほしい。【母親・ひとり親】</li> <li>●学校給食費の無償化や入学時にかかる学校の制服や上履きやカバンなど、みんな同じに使うものに対するものは無料にしてほしい。中学になる時は(義務教育なのに)とてもお金がかかり、頼れる祖母がいないような家庭は大変。【母親・ふたり親】</li> <li>●生活支援及び教育費免除。【母親・ひとり親】</li> </ul>
多子世帯
<ul style="list-style-type: none"> <li>●給食費も高くて3人分(1人はまだ4才)小×2、中×1払っていて家計がいっぱい。子ども手当から引かれてしまう。給食費すぐに無料～半額にして下さい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>●神奈川県から静岡県に引っ越ししたため学校も転校になったが、県によって支援の内容が違い支援できずに子どもが中学校になじめず、別室登校になった。県によって支援内容が違うことのないようにしてほしい。【母親・ひとり親】</li> </ul>

## 【周辺層の意見等】

学習・塾・習い事	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中学校で放課後、日大生が勉強を教えてくれるボランティアを行ってほしい。小学校で放課後、北高生が勉強を教えてくれるボランティアを行ってほしい。中学校で放課後、日大生がテニス、バスケットかスポーツを教えてくれるボランティアを行ってほしい。【父親・ふたり親】</li> </ul>
学校環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子育てしやすい市を謳っているが、子ども達の支援になっている行政のサービスとは?まず、保育園・幼稚園・小学校・中学校の環境整備はすぐにでも行ってほしい、古すぎる。遊具もボロすぎて、ガムテープで補強したり酷い。【母親・ふたり親】</li> </ul>
進学・将来	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育費のピークは子どもが高校～大学に通う時期と言われている。親の所得で子どもの進路選択肢が狭められることのないよう、支援の充実をお願いしたい。また、兄弟姉妹間で差が生じる事のないよう、平等な教育機会を保障してほしい。【母親・ふたり親】</li> <li>●子どもが大きくなると経済面で圧迫される。子どもの希望する進路を尊重してあげたくてもできないことも。各家庭によって違いもあるが、国の助けがあればと考える。【母親・ふたり親】</li> <li>●子どもが成長していく上で必要なことのサポートをもっと充実させてほしい。特に高校、大学の学費のサポートを充実させてほしい。金銭面で子どもが自由に志望校を受けさせてあげられていない。子どもが好きな勉強をさせてあげたくても生活出来ないの、子どもに我慢させてしまっているの辛い。【母親・ふたり親】</li> </ul>
子どもの遊び場・居場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育園で親が休みの日も保育を行ってほしい。子どもの学校の行事でさえ、今小さい子どもを連れて行ってはだめだし、PTAの集まりなども連れていけない。ファミサポを使うにも高いし、小学生になるとさらに子どもの預け先はなく、子どもだけの留守番も増える。放課後の過ごす場所もなく、公園さえほとんど遊具がなくなっていく三島市。放課後の児童館も高学年になる前には定員数の関係で入れず、子ども達で遊ぶにも本当に遊び場がなくてかわいそう。【母親・ふたり親】</li> <li>●大きな公園（駐車場付き）、子どもと散歩ができる遊歩道が欲しい。【母親・ひとり親】</li> </ul>
地域活動・交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治体・子ども会に入らない家庭も新しく増えてきたようで、近くなのに知らない子、というのが増えているように感じる。無理に入会等ではなく、何かつながる知れる機会があれば。【母親・ふたり親】</li> </ul>
余暇	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもが小さい時は育てることに精一杯で、時間のゆとりや、ひとりになる、ほっとする時間が必要だと思う。行政のサポート（例えば一時預りの機関、ファミサポの充実）。【母親・ふたり親】</li> </ul>
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの支援サービスは、割と情報も得ることがしやすく充実してきている気がするが、子どもを安心・安全に育てるための親への支援サービスは探してもわかりにくく、1人で悩み込みやすい状況にあると実感している。情報発信をわかりやすくしてほしい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
窓口対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>●申請をもっと簡単にしてほしい。仕事を休んだり早退して申請に出向いたり、書類を取り寄せたりが手間に感じる。公的機関同士がマイナンバーカード等で紐づけ出来て、申請はアプリで出来ると大変ありがたい。【母親・ひとり親】</li> </ul>
児童扶養手当・児童手当等子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●親の収入による教育の格差をなくすことが、これからの支援で重要なことと考える。【母親・ふたり親】</li> <li>●高校生、大学生のほうが、お金がかかり大変なので、小学中学同様に支援がほしいと思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●給食代の無償化をしていただけたら、とても助かる。【父親・ふたり親】</li> </ul>
ひとり親	<ul style="list-style-type: none"> <li>●母子家庭。市営（県営）住宅がだいぶ古いので、改修していただけるとありがたい。現在、一般のアパートに住んでいるが家賃の支出が大きな割合を占めているので…。【母親・ひとり親】</li> </ul>



多子世帯
<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもが3人いる。幼稚園や小・中学校は無償化が進んでいるのに、高校・大学はとてもお金がかかる。大人になるまで（自立）保障が続かないと子どもも育てていけない。少子化対策と言っているが、幼少期だけの補助では子育ては無理。なぜ分からないのか、疑問。【母親・ひとり親】</li> <li>●夫婦ともに自営業。所得が多い年もあれば、少ない年もある。児童手当、給付金もらえないことがあった。子どもが3人いるので生活は苦しい。子どもは全て平等にしてほしい。高校就学支援金も、前年の所得が多ければもらえないと思うので私立になった場合、負担が大きくなると思う。がんばって働けば働くほど、苦しくなる状況。子どもが私立に行きたいとなったら、がんばって払うつもりだが、もう少し、子どものことについては平等にしてもらいたい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>●夏休みや冬休みなどの長期の休みでも給食をやってほしい。我が家ではなく食べられない子のために。【母親・ひとり親】</li> <li>●年齢に関わらず、親の介護が必要な世帯に金銭的援助をしてほしい。子の負担にならない方法はないのか？【母親・ひとり親】</li> <li>●子どもがヤングケアラーではないが、母親の私の体が不自由で、進行していくため今我慢させている事が多く、特に学校の行事の参加、子どもの送迎など難しいため、送迎などの支援、そして車いすでも行ける環境などできたらと思う。そして、病気の親は健康な親と同じことはできず、健康な親の家庭が当たり前のルールはやめてほしい。学校行事の参加がとても苦で、悩まされていることを知ってほしい。PTAなど、参加したくてもできない家庭もあることを知ってほしい。いじめだと思う。【母親・ふたり親】</li> </ul>

## 【一般層の意見等】

学習・塾・習い事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●塾に行けない子の学習サポートが絶対必要だと思う。勉強がしたい（分かるようになりたい）のに、自分だけでは何をしたらいいのかわからないまま、授業がどんどん進んでしまうのはとても不安。自己肯定感も下がり、将来に希望も持たず、捨て鉢になってしまうのではないかと心配（息子の周りを見ていて）。学校の先生も働き方改革で時間を取ってもらう事は望めない。【母親・ふたり親】</li> <li>●県内でも不登校児童、生徒が増加していると直近の静岡新聞の記事で知った。民間のフリースクールが認知されつつあるが、行政の補助・支援は（方法は検討せねばなりません）必要だと思う。もしくは、公的なフリースクールを設置することも今後考えていくべき。ふれあい教室をもう少し現状に合わせ、変えていくことも含めて。どのような形でも、子どもたちに学ぶ環境を整えてあげたい。【母親・ふたり親】</li> <li>●中高生が自習する場所として、三島市立図書館は利用しづららしく、函南や清水町の図書館を時々利用している。長子（高3）は自習室使用のためだけに入塾している。長時間の利用、グループ学習のスペース、個別に集中できるスペースがあるとありがたい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
学校環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>●三島市内で地域差があるのが気になる。納めている税金は同じなのに施設が古かったり、利用しにくいなどがある。学校の差はかなりあると思う。設備、先生の質など。不信感を抱いている。【母親・ふたり親】</li> <li>●子どもの悩み（学校内で起こっている事）を学校に相談しても何も意味がない。親身になって話は聞いてくれるが何一つ解決しない。そういった内容をどこに相談して良いかもわからないし、子どもが転校したいと言っても学区が決まっているので簡単に事は進まない。もっと自由に選べるようになれば良い。【母親・ふたり親】</li> <li>●学校の先生がよく子どものことをみていただけるので、先生の負担が荷重にならないよう、サポートしてほしい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
進学・将来
<ul style="list-style-type: none"> <li>●どの家庭の子どもも、勉強する意欲のある子は大学進学をさせてあげられる支援が必要だと思う。所得制限における交付金のあり、なしは不公平であると思う。平等に大学資金は皆かかるため。【母親・ふたり親】</li> <li>●高校・大学へ行く支援。お金が一番かかる時期の支援。【母親・ふたり親】</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>●親の収入にかかわらず、子どもは平等に支援を受けられるようになってほしい。共働き世帯への支援が欲しい。大学生の子どもも含めて、子どもの数としてカウントしてほしい。※子が3人いても成長する頃には子としてカウントされず学費だけが上がり進学の実績が減る。【母親・ふたり親】</li> </ul>
<b>子どもの遊び場・居場所</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●小学生や中学生がスポーツ（または遊び）ができるような広い公園がほとんどないので作ってほしい。0才～6才までの子どもが利用できる施設は多いが、小学生や中学生が利用できる施設が事実上ない。なので、そういった場所も作ってほしい。【母親・ふたり親】</li> <li>●学童保育をやめたあとに行けるような子どもの居場所がもっと近くにあるといいです。【母親・ふたり親】</li> <li>●学童で積極的に支援を必要とする子どもを預かり、夕食を提供するなど。子ども食堂を増やす。【母親・ふたり親】</li> </ul>
<b>コミュニケーション・心のケア</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●現在もスクールカウンセラーの方がいて、事実、私も娘も相談したことがあるが、気軽に相談できたか?と問われるとそうでなかった。日本では、まだカウンセラーに相談する、ということが何か特別なことであり、良くないイメージにとられやすいので、誰でも自由に話を聞いてもらえる、気軽に話せるサービスになってほしいと思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●不登校児童・生徒が増えている。受け皿となる体制が必要だと感じる。学校に通うことがすべてではない時代。学校だけに任せるのではなく、行政が手助けをする必要があると思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●子どもを通して、クラスメイトに小学生時代からリストカットや市販薬のオーバードーズをしている子達がいると聞いた。子どもも自分もショックだった。家庭環境が安定していなくて、ストレスや不安を抱えている子達に、何かサポートできることはないかと悩んでいるが、具体的な策が思いつかない。放課後に学習サポート&amp;カウンセリングなど、居場所や自信がつけられる環境があれば良いと思う。【母親・ふたり親】</li> </ul>
<b>防犯・交通安全</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●三島の道幅はとても狭い所が多々あり、そこに車や自転車、歩行者が通るため、見通しが悪く危険な場所がよくある。事故を予防するための安全対策を（道幅を広くしたり、ミラーを設置したり）してほしい。【母親・ふたり親】</li> <li>●自転車に乗る機会の増える中学生に、定期的（年2回ほど）に講習を学校で開催し、ルール・マナーや事故の恐怖など、身近に感じる場を増やしてほしい。ヘルメットも普及させて、装着が一般的となる世の中になることを希望する（中・高生）。【母親・ひとり親】</li> <li>●防犯カメラ、街灯などの設置もしてほしい。真っ暗な道がたくさんある。【母親・ふたり親】</li> </ul>
<b>地域活動・交流</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●お年寄りや中学生がもっとコミュニケーションを取れる行事を学校でやってほしい。中学生が地元の農家さんの手伝いをする体験があると良い（職場体験のように農業体験）。地元の部農会と話し合ってもちつきをしたり、稲刈りをしたり体験してほしい。【母親・ふたり親】</li> <li>●子ども達が健やかに育っていくために、地域の大人と子ども達が触れ合えるイベントは必要だと思う。お祭りや町内の運動会、防災訓練など、地域の大人達で子ども達を見守る行事は必要だし重要だと思う。コロナで中止になり、他の地域は今年復活しているのに、ここの地域は復活できていない。【母親・ふたり親】</li> <li>●町内の子どもしゃぎりに参加出来、伝統的なことに触れることが出来、自分以外の大人の人の人の関わり、異年齢の子ども達と関わったり、お祭りに参加したりと楽しく過ごせた。親としては感謝している。【母親・ふたり親】</li> </ul>
<b>医療・健康</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●医療費についても学生の間は（大学生、専門生等も）、学生と確認出来る場合は無料としてほしい。【母親・ふたり親】</li> <li>●発達支援の検査が小学校入学前まではセンターでやってくれるが、就学後も継続してできるようにしてほしい。就学後の支援の方が大切である。【母親・ふたり親】</li> <li>●引き続き、医療費助成（18未満）をお願いしたい。ありがたい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
<b>就労</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●両親特に母親が充実した生活を送ることが家族の幸せに必要な条件だと思う。自立した母親（十分な給与、適正な働く時間）の支援が、子どもが健やかに育つために必要だと思う。【母親・ふたり親】</li> </ul>
<b>情報</b>

<ul style="list-style-type: none"> <li>●三島市のホームページについて、時々情報を探すので見ることはあるが、とても見づらい。どこに何があるか、それはどんなサービスなのか探しにくい。現にこの冊子で知った各種支援サービスもいくつかあった。せっかく機関があるのに利用できない。スクールカウンセラーも多忙のようで、結局何ヶ月も待つ。必要な時に利用できない。【母親・ふたり親】</li> <li>●行政のサービス・支援を知る機会を増やしてほしい。【母親・ふたり親】</li> <li>●三島市の取り組みが、なかなか市民に伝わっていない。【母親・ふたり親】</li> </ul>
<p>窓口対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●思春期や女性がナプキンを市役所などまでもらいに行くのは、とても恥ずかしいことだと思うので、申請したら毎月自宅に郵送されるシステムはどうか？【母親・ふたり親】</li> </ul>
<p>児童扶養手当・児童手当等子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●共働きでも2人の子の学費はかなりの負担。できれば、高校の無償化は対象にしてほしい。多くの税金を納めているのに不公平。【母親・ふたり親】</li> <li>●給食費を無料にして子どもたちの子も元気で過ごせるようにしてほしい。【母親・ふたり親】</li> <li>●中学校入学時に必要な経費が多くびっくりした。ほぼ、登下校時しか着用しない制服がもう少し安いとありがたい。制服・ジャージの合計で13万ぐらいかかった。入学時の助成金があるとありがたい。【母親・ふたり親】</li> </ul>
<p>ひとり親</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●一人親家庭や低所得家庭の子どもでも、その子の望む教育が受けられるような支援（金銭等）を期待する。【母親・ひとり親】</li> <li>●金銭的な面で、様々な助成があるといい。母子家庭の助成がもらえるので、世帯分離している人もいる。ちょっと悲しい気持ちになった。夫婦でも金銭的につらい時はあるので…。【母親・ふたり親】</li> <li>●ひとり親に対しての支援の基準をもう少し考えてほしい。子どもとの時間を少なくしてでも、Wワークをしなければ生活できない（物価高騰）家庭を考えてほしい。就学支援をひとり親家庭すべてに対応させてほしい。【父親・ひとり親】</li> </ul>
<p>多子世帯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国で子育てに関する支援は決まっていると思うが、市でも内容を充実させてほしい。子どもが多いと何かと出費が多いし、収入があると税金を払うばかりなのに、支援の枠からは外され困っている。母子を優先させるばかりでなく、多子家庭もどうかしてほしい。【母親・ふたり親】</li> <li>●収入がある程度あっても子どもが多く、進学が進むと金銭が追いつかない。これからの育児の拡充だけでなく、今現在の拡充をしてほしい。【母親・ふたり親】</li> <li>●大阪や東京都のように、高校授業料の無償化をぜひ進めてほしい。限度額を超えてしまい、第1子（現在高1）は助成が受けられていない。4人子どもがいて、この後に続く妹弟も、授業料満額かかるのは家計的に厳しい。税金もたくさん納めているのに不公平だ。【母親・ふたり親】</li> </ul>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ヤングケアラーのサポート（ホームヘルパー等）が出来る制度があれば良いと思う。【母親・ふたり親】</li> <li>●家庭環境に恵まれず、長期の休みに入るとごはんに困っている子どもがいるので、周囲に相談しづらい環境を変えてあげてほしい。【母親・ふたり親】</li> <li>●ヤングケアラーや支援が必要な家庭を見かける。テレビ等で報道されているだけのことだと思っていたが、身近にあって見かける。市のサービス等で何とかならないものかと思うが、きっと行政はSOSを発信してくれるのを待っているだけなのかと思ってしまう。ヤングケアラーや支援が必要な家庭で犠牲になっているのは子ども達で、子どもが大人にSOSを発信はできないと思う（特に行政には）。どうかそういう子ども達を見つけて、助けてあげてほしい。【母親・ふたり親】</li> </ul>

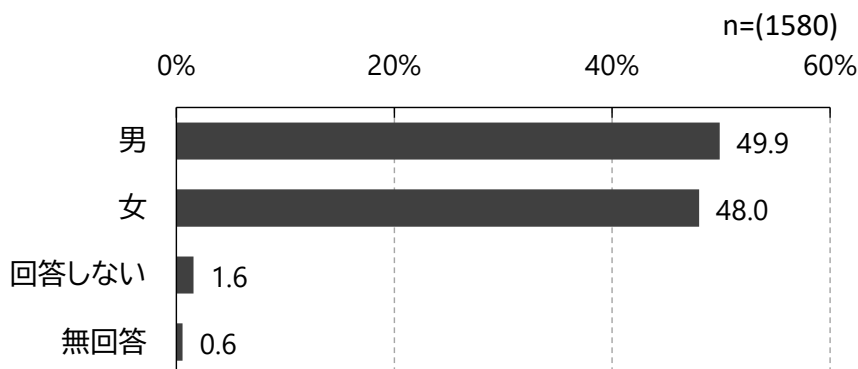


# 子ども票 集計結果

## あなたのことについて

問1 あなたの性別を教えてください。

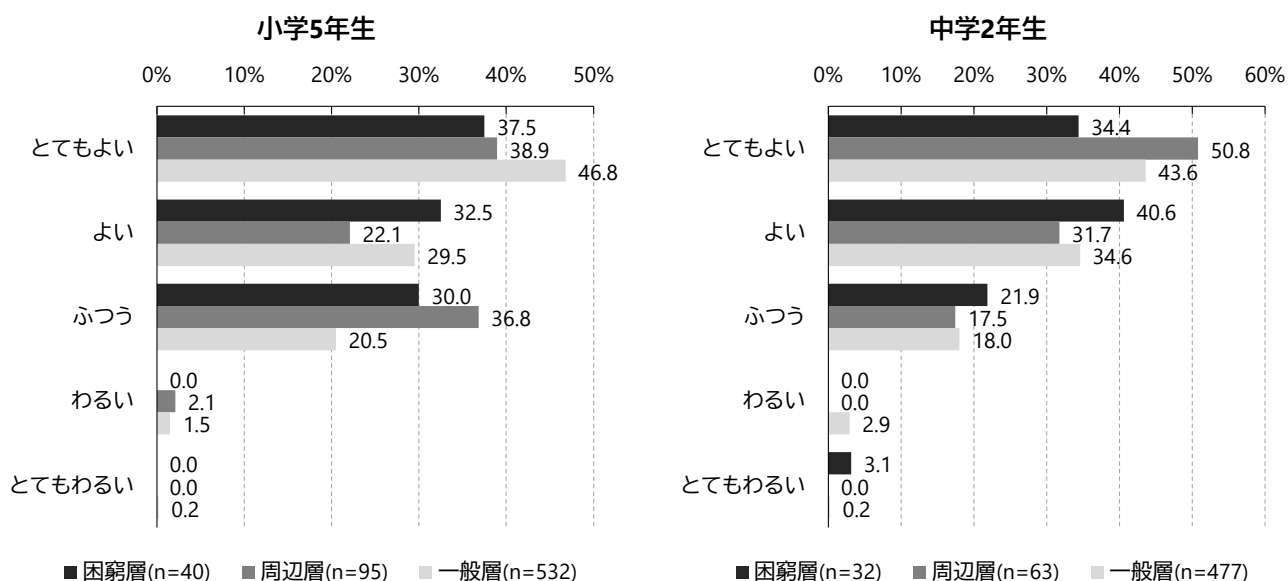
回答された方の性別についてみると、「男性」が49.9%、「女性」が48.0%となっています。



問2 あなたの健康状態について教えてください。

健康状態についてみると、小学5年生の困窮層では「わるい」と「とてもわるい」の合計は0.0%で、中学2年生の困窮層は3.1%となっています。

一方、小学5年生の一般層では「わるい」と「とてもわるい」の合計は1.7%で、中学2年生の困窮層は3.1%となっています。

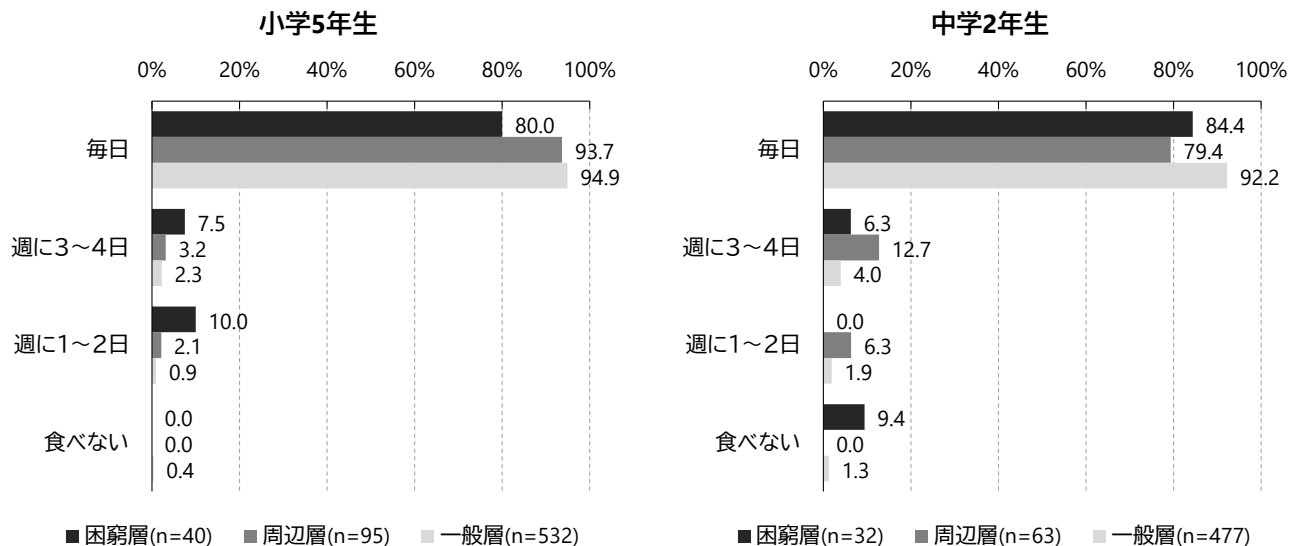


## ふだんの食事について

問3 あなたは学校のある日(月～金曜日)、朝ご飯、夕ご飯を週にどれくらい食べていますか。

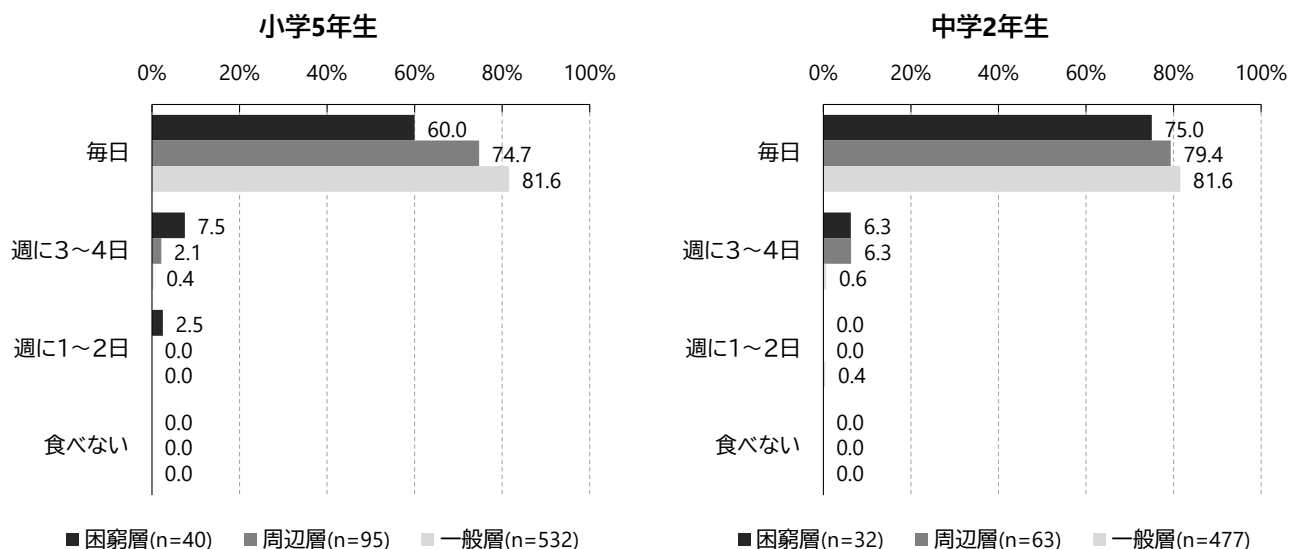
### (1) 朝ご飯を週にどれくらい食べていますか(学校のある日)

学校のある日に、ご飯を食べる週単位の頻度のうち、朝ご飯についてみると、小学5年生では「毎日」は、困窮層が一般層より10ポイント以上、中学2年生は5ポイント以上下回っています。



### (2) 夕ご飯を週にどれくらい食べていますか(学校のある日)

学校のある日に、ご飯を食べる週単位の頻度のうち、夕ご飯についてみると、小学5年生では「毎日」は、困窮層が一般層より20ポイント以上、中学2年生は5ポイント以上下回っています。



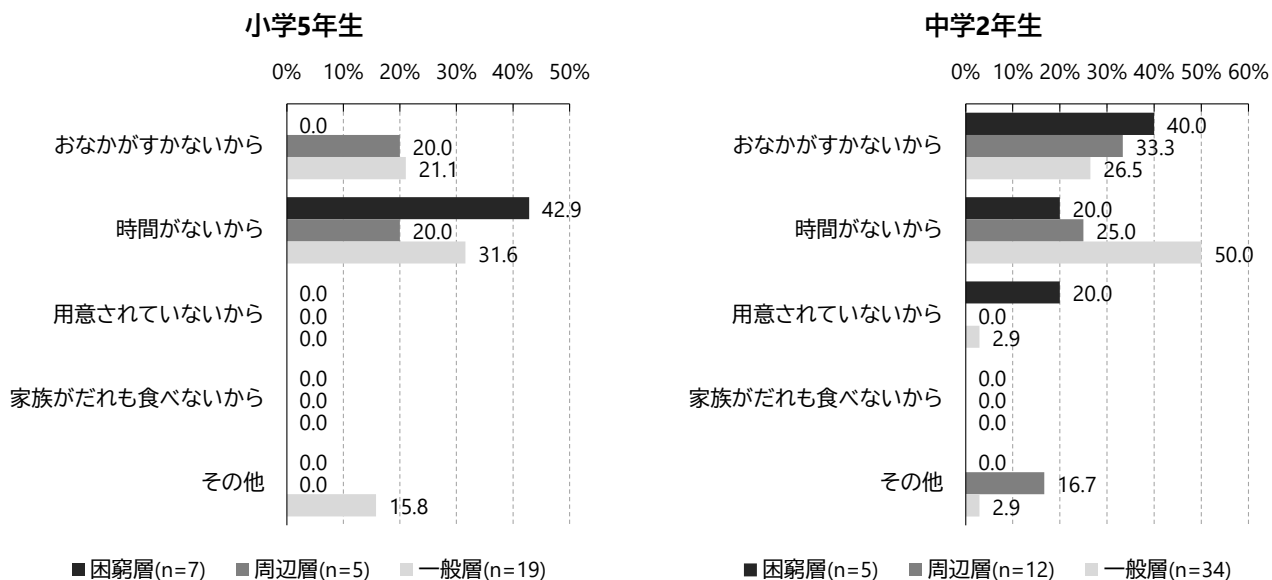
問3で毎日食べないと回答した方

問4 毎日、朝ご飯、夕ご飯を食べない日がある理由は何ですか。

(1)朝ご飯を毎日食べない理由

学校のある日に、毎日、朝ご飯、夕ご飯を食べない日がある理由のうち、朝ご飯についてみると、小学5年生の困窮層では「時間がないから」のみの回答で、一般層より10ポイント以上上回っています。

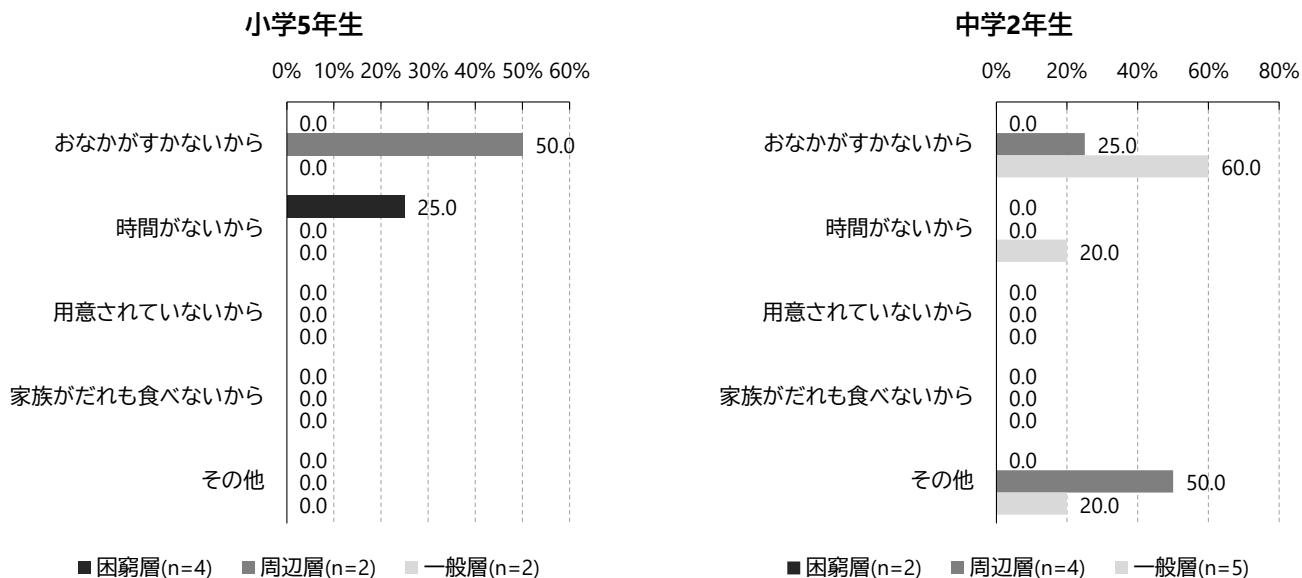
また、中学2年生の困窮層では「おなかがすかないから」が最も多く、一般層より10ポイント以上、次いで多い「用意されていないから」は15ポイント以上上回っています。



(2)夕ご飯を毎日食べない理由

学校のある日に、毎日、朝ご飯、夕ご飯を食べない日がある理由のうち、夕ご飯についてみると、小学5年生の困窮層では「時間がないから」のみの回答で、25.0%となっています。

中学2年生の困窮層の回答はありませんでした。

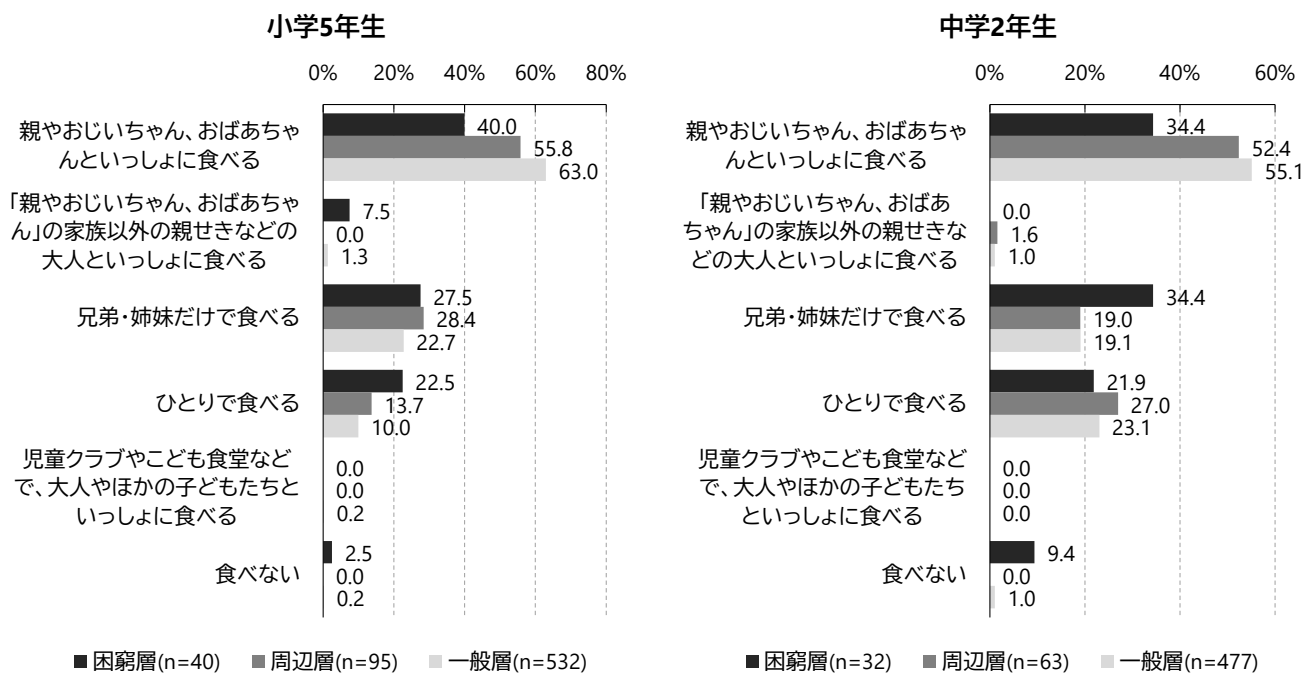


問5 あなたは学校のある日(月～金曜日)、主にだれといっしょに朝ご飯、夕ご飯を食べていますか。

(1)朝ご飯をだれといっしょに食べていますか(学校のある日)

学校のある日に、だれといっしょにご飯を食べているかのうち、朝ご飯についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「親やおじいちゃん、おばあちゃんといっしょに食べる」は、困窮層が一般層より20ポイント以上下回っています。

また、小学5年生では「ひとりで食べる」は、困窮層が一般層より10ポイント以上、中学2年生は「兄弟・姉妹だけで食べる」が15ポイント以上上回っています。

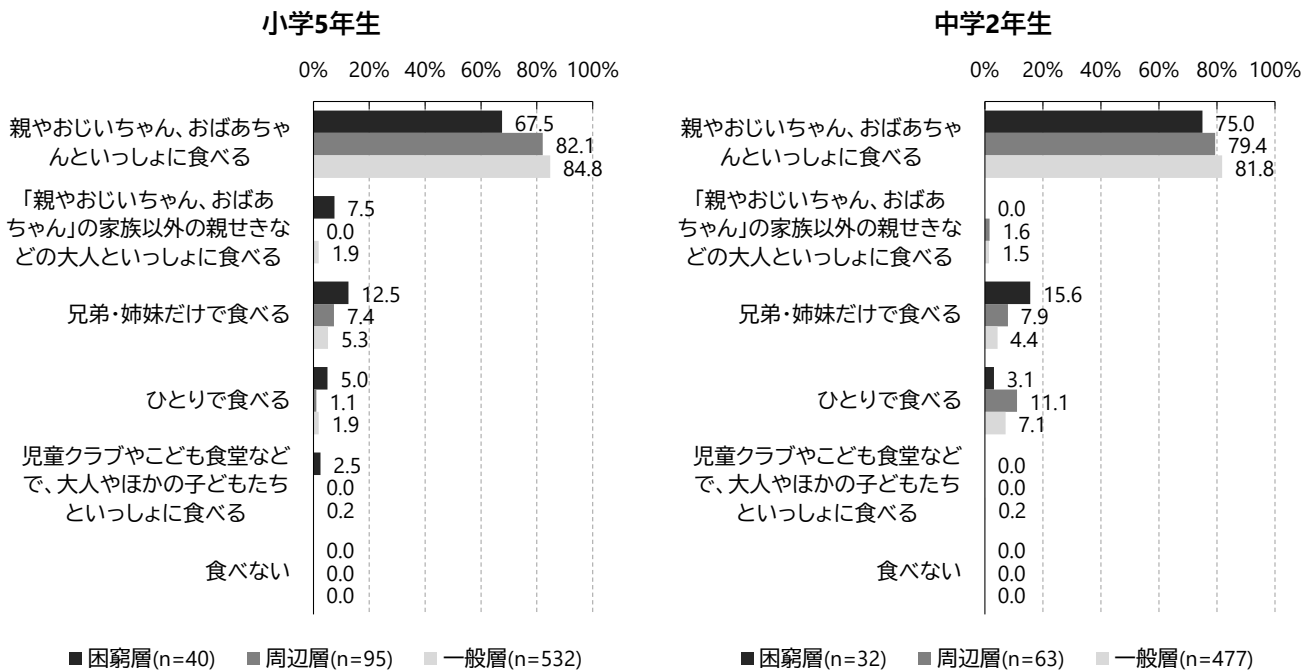




## (2)夕ご飯をだれといっしょに食べていますか(学校のある日)

学校のある日に、だれといっしょにご飯を食べているかのうち、夕ご飯についてみると、小学5年生では「親やおじいちゃん、おばあちゃんといっしょに食べる」は、困窮層が一般層より15ポイント以上、中学2年生は5ポイント以上下回っています。

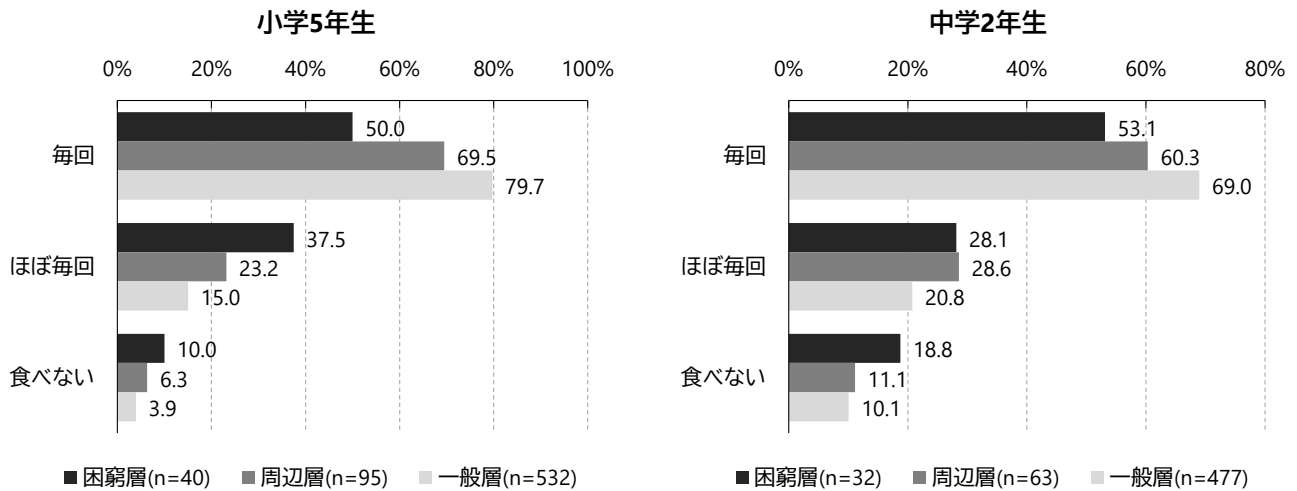
また、中学2年生では「兄弟・姉妹だけで食べる」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っています。



問 6 あなたは学校のない日(土、日曜日や祝日などのお休みの日)、朝ご飯、昼ご飯、夕ご飯をどれくらい食べていますか。

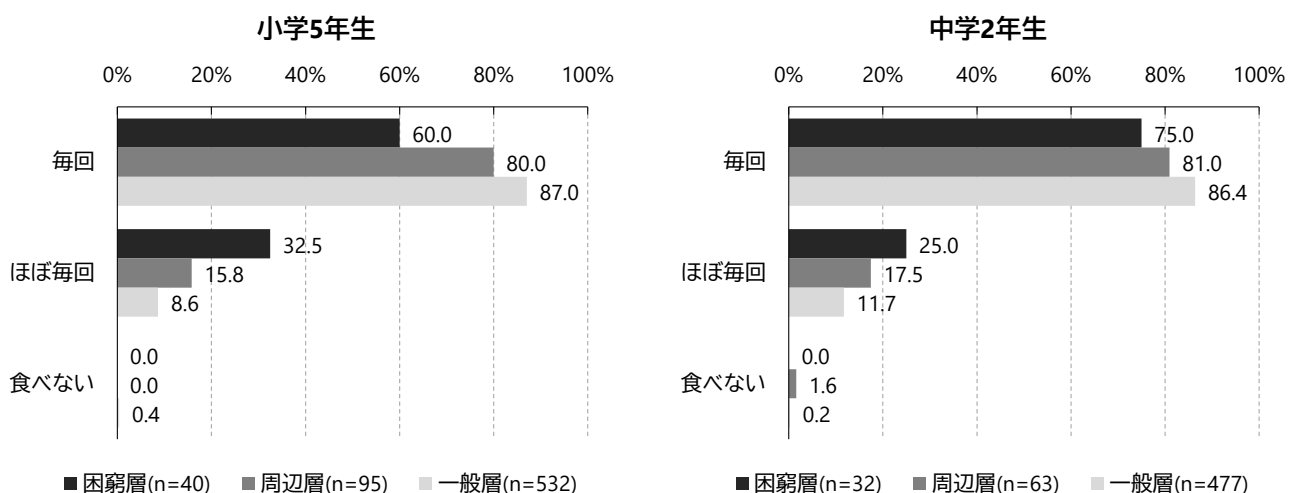
(1)朝ご飯をどれくらい食べていますか(学校のない日)

学校のない日に、ご飯を食べる週単位の頻度のうち、朝ご飯についてみると、小学5年生では「毎日」は、困窮層が一般層より 25 ポイント以上、中学2年生は 15 ポイント以上下回っています。



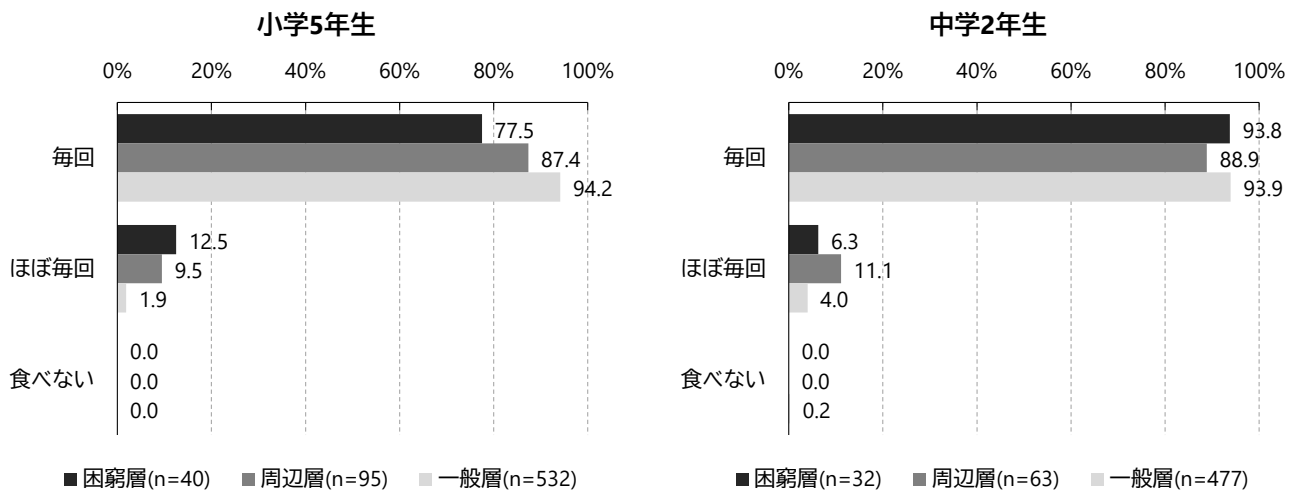
(2)昼ご飯をどれくらい食べていますか(学校のない日)

学校のない日に、ご飯を食べる週単位の頻度のうち、昼ご飯についてみると、小学5年生では「毎日」は、困窮層が一般層より 25 ポイント以上、中学2年生は 10 ポイント以上下回っています。



### (3)夕ご飯をどれくらい食べていますか(学校のない日)

学校のない日に、ご飯を食べる週単位の頻度のうち、夕ご飯についてみると、小学5年生では「毎日」は、困窮層が一般層より15ポイント以上下回っていますが、中学2年生は同程度となっています。



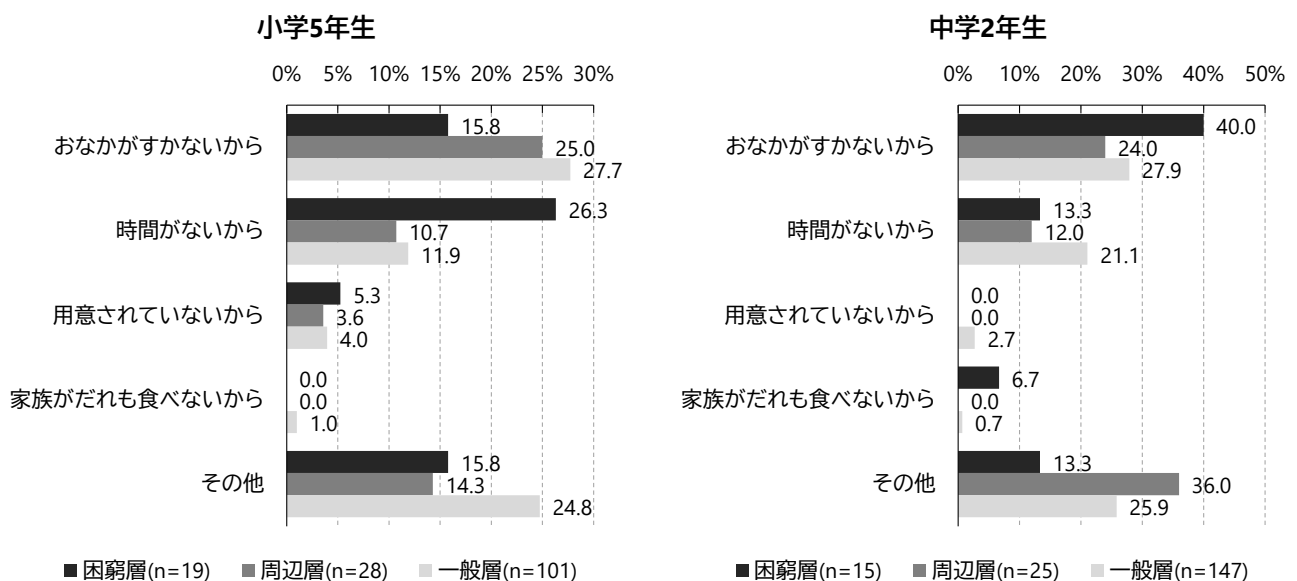
### 問6で「ほぼ毎回」または「食べない」(毎回は食べない)と回答した方

問7 毎回、朝ご飯、昼ご飯、夕ご飯を食べない日がある理由は何ですか。

#### (1)朝ご飯を毎回食べない理由

学校のない日に、毎回、朝ご飯、夕ご飯を食べない日がある理由のうち、朝ご飯についてみると、小学5年生の困窮層では「時間がないから」が最も多く、一般層より10ポイント以上上回っています。

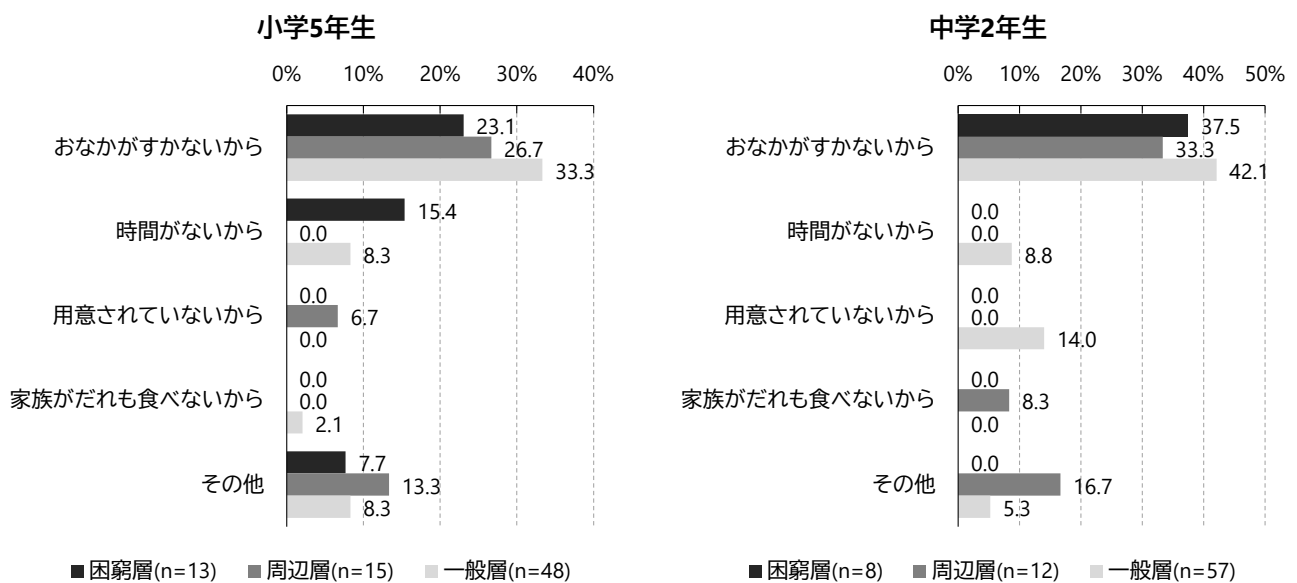
また、中学2年生の困窮層では「おなかがすかないから」が最も多く、一般層より10ポイント以上上回っています。



## (2) 昼ご飯を毎回食べない理由

学校のない日に、毎回、朝ご飯、夕ご飯を食べない日がある理由のうち、昼ご飯についてみると、小学5年生の困窮層と一般層のいずれも「おなかがすかないから」が最も多いですが、困窮層が一般層より10ポイント以上下回っています。また、「時間がないから」は、困窮層が一般層より5ポイント以上上回っています。

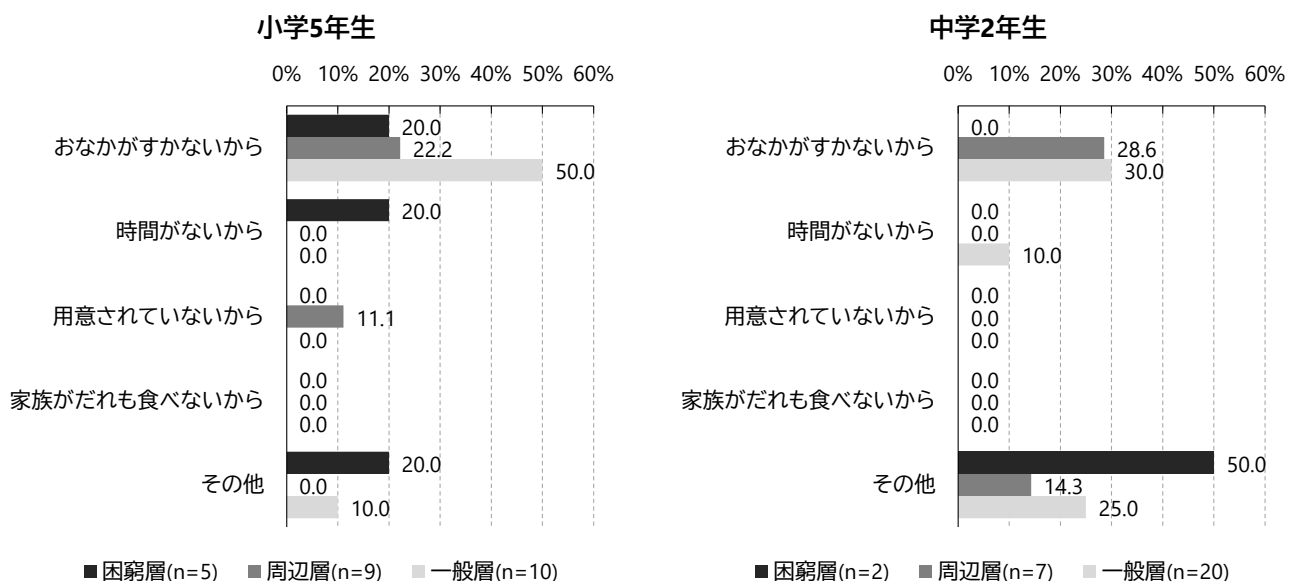
中学2年生の困窮層では「おなかがすかないから」のみの回答で、一般層より5ポイント未満ですが下回っています。



## (3) 夕ご飯を毎回食べない理由

学校のない日に、毎回、朝ご飯、夕ご飯を食べない日がある理由のうち、夕ご飯についてみると、小学5年生の困窮層では「おなかがすかないから」が最も多いですが、一般層より30ポイント下回っています。

また、中学2年生の困窮層では「その他」のみの回答で、一般層より25ポイント下回っています。

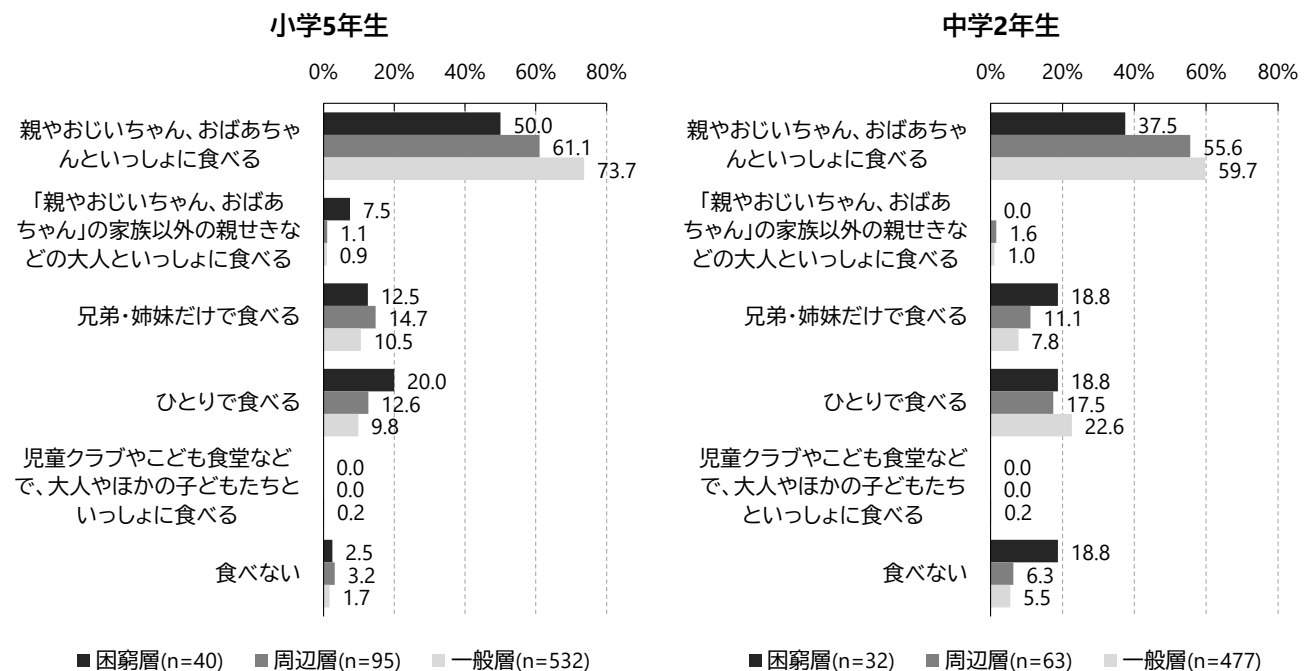


問 8 あなたは学校のない日(土、日曜日や祝日などのお休みの日)、主にだれといっしょに朝ご飯、昼ご飯、夕ご飯を食べていますか。

(1)朝ご飯をだれといっしょに食べていますか(学校のない日)

学校のない日に、だれといっしょにご飯を食べているかのうち、夕ご飯についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「親やおじいちゃん、おばあちゃんといっしょに食べる」は、困窮層が一般層より20ポイント以上下回っています。

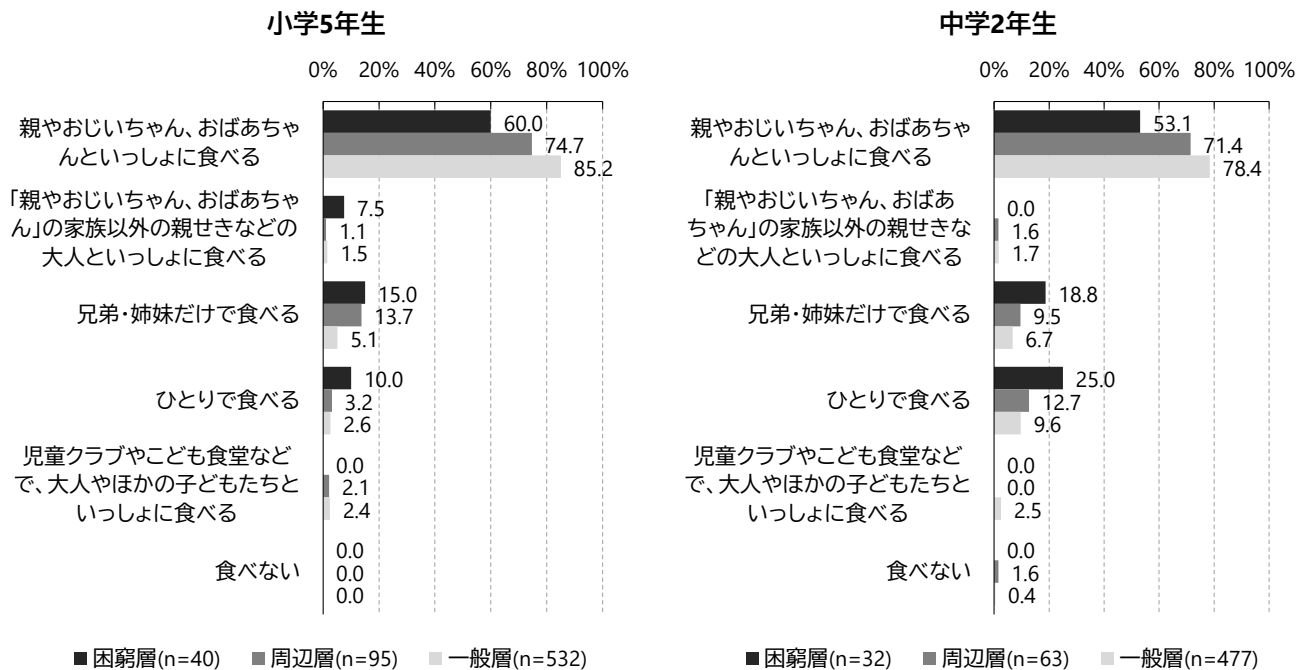
また、小学5年生では「ひとりで食べる」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っており、中学2年生では「兄弟・姉妹だけで食べる」が10ポイント以上上回っています。



## (2)昼ご飯をだれといっしょに食べていますか(学校のない日)

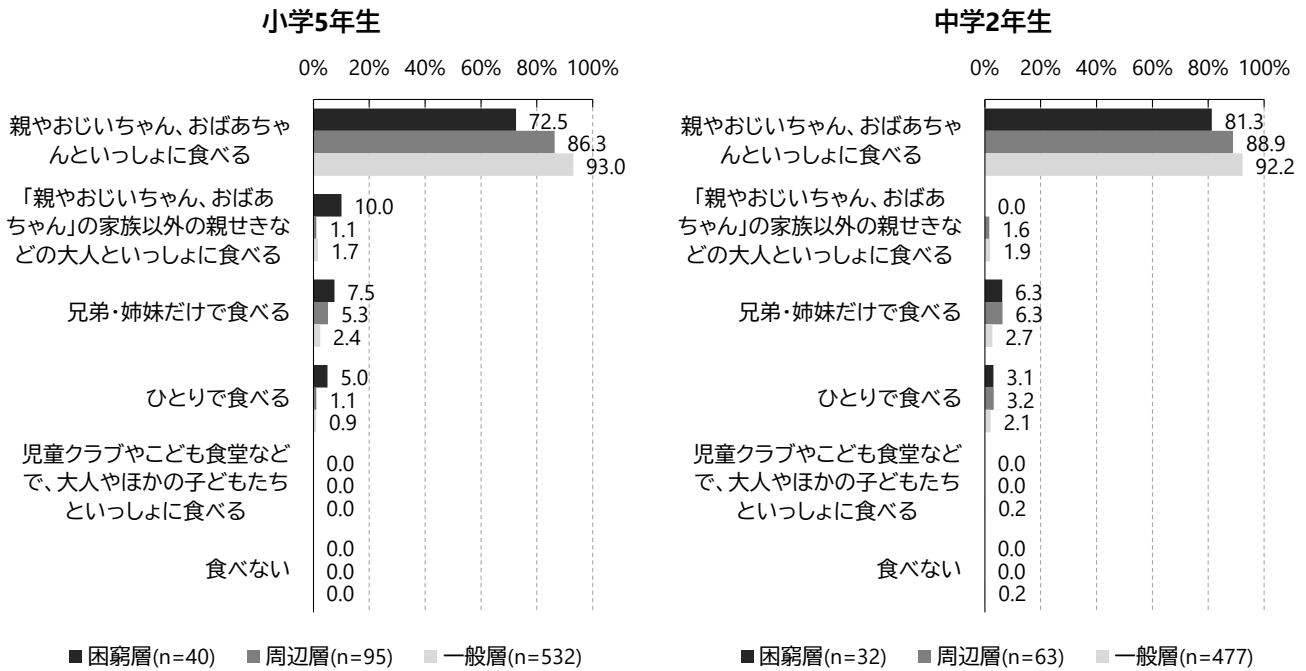
学校のない日に、だれといっしょにご飯を食べているかのうち、昼ご飯についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「親やおじいちゃん、おばあちゃんといっしょに食べる」は、困窮層が一般層より25ポイント以上下回っています。

また、中学2年生では「兄弟・姉妹だけで食べる」が10ポイント以上、「ひとりで食べる」が15ポイント以上上回っています。



### (3)夕ご飯をだれといっしょに食べていますか(学校のない日)

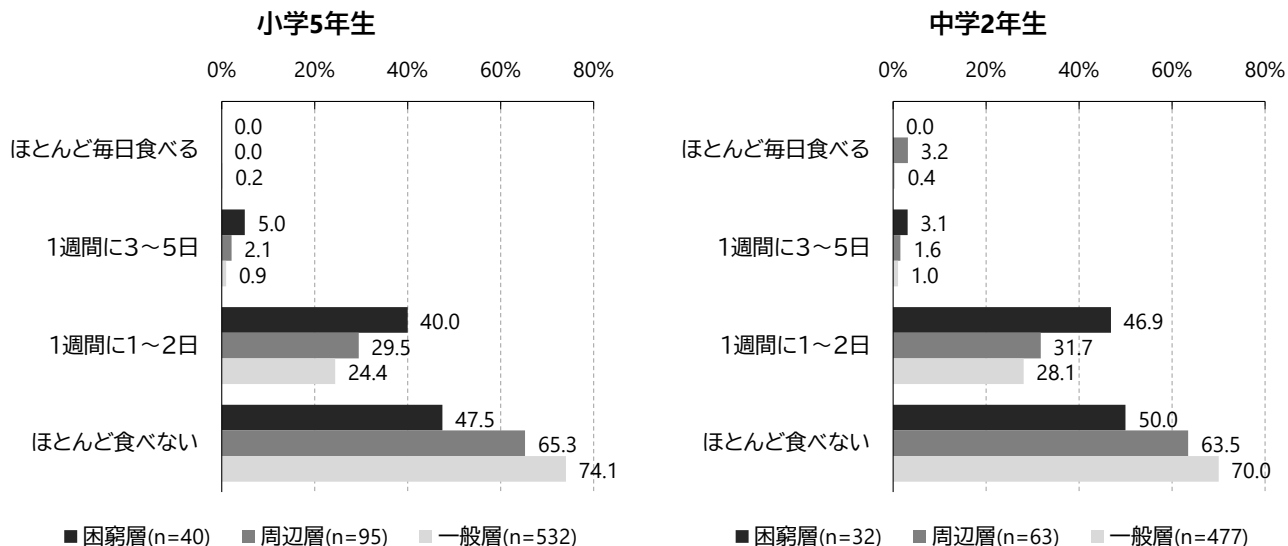
学校のない日に、だれといっしょにご飯を食べているかのうち、夕ご飯についてみると、小学5年生では「親やおじいちゃん、おばあちゃんといっしょに食べる」は、困窮層が一般層より20ポイント以上、中学2年生は10ポイント以上下回っています。



問9 あなたは、以下の食べ物をふだん食事としてどれくらい食べますか。

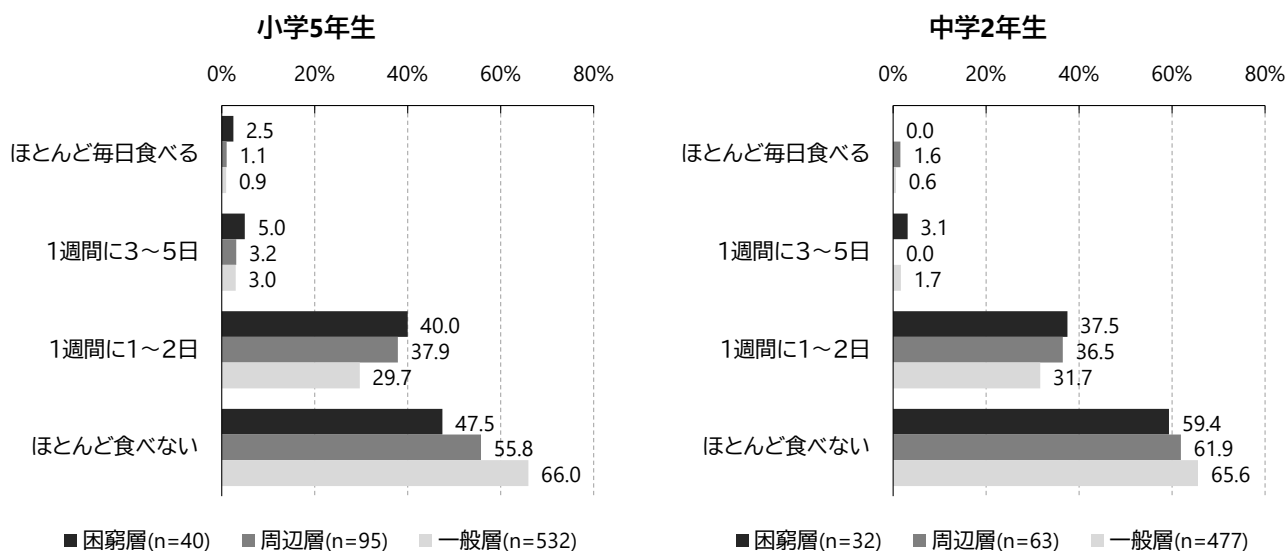
①カップめん・インスタントめん

ふだんの食事として食べているもののうち、カップめん・インスタントめんについてみると、小学5年生、中学2年生ともに「1週間に1～2日」は、困窮層が一般層より15ポイント以上上回っています。



②コンビニのおにぎり・お弁当

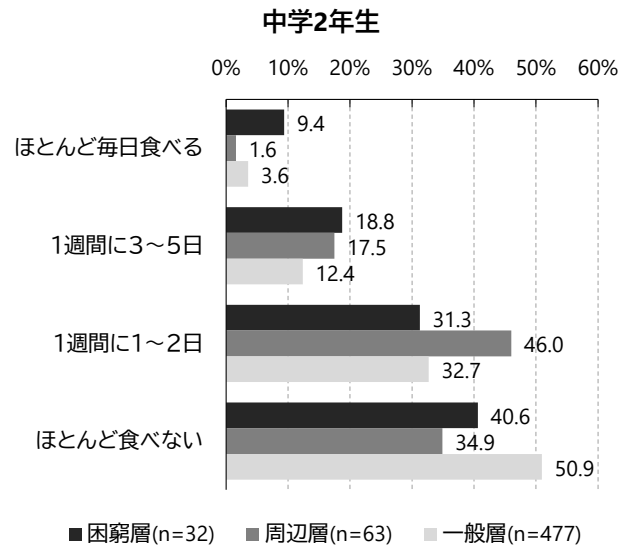
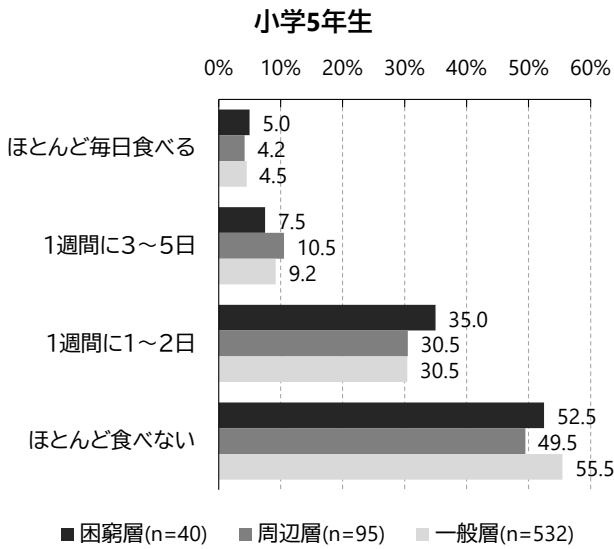
ふだんの食事として食べているもののうち、コンビニのおにぎり・お弁当についてみると、小学5年生では「1週間に1～2日」は、困窮層が一般層より10ポイント以上、中学2年生は5ポイント以上上回っています。





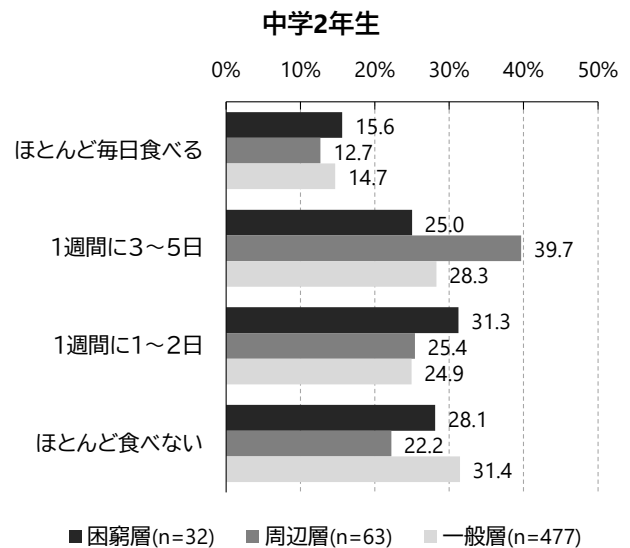
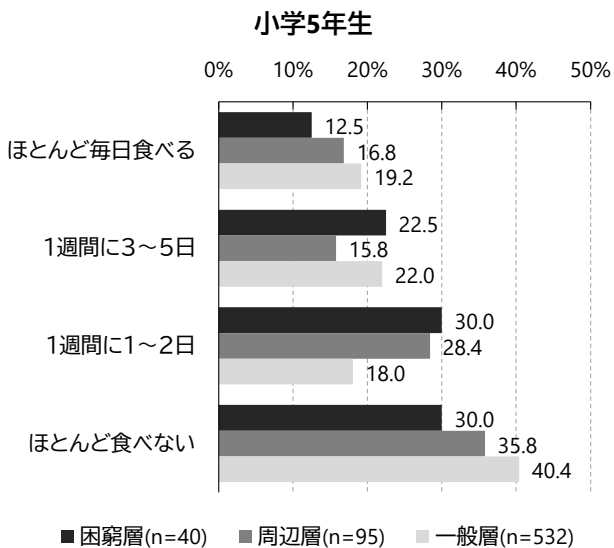
### ③かしパン

ふだんの食事として食べているもののうち、かしパンについてみると、小学5年生、中学2年生ともに「1週間に1～2日」は、困窮層と一般層で5ポイント未満の差で同程度となっています。



### ④スナックなどのおかし

ふだんの食事として食べているもののうち、スナックなどのおかしについてみると、小学5年生では「1週間に1～2日」は、困窮層が一般層より10ポイント以上、中学2年生は5ポイント以上上回っています。



(1) 健康とふだんの食事についてのまとめ

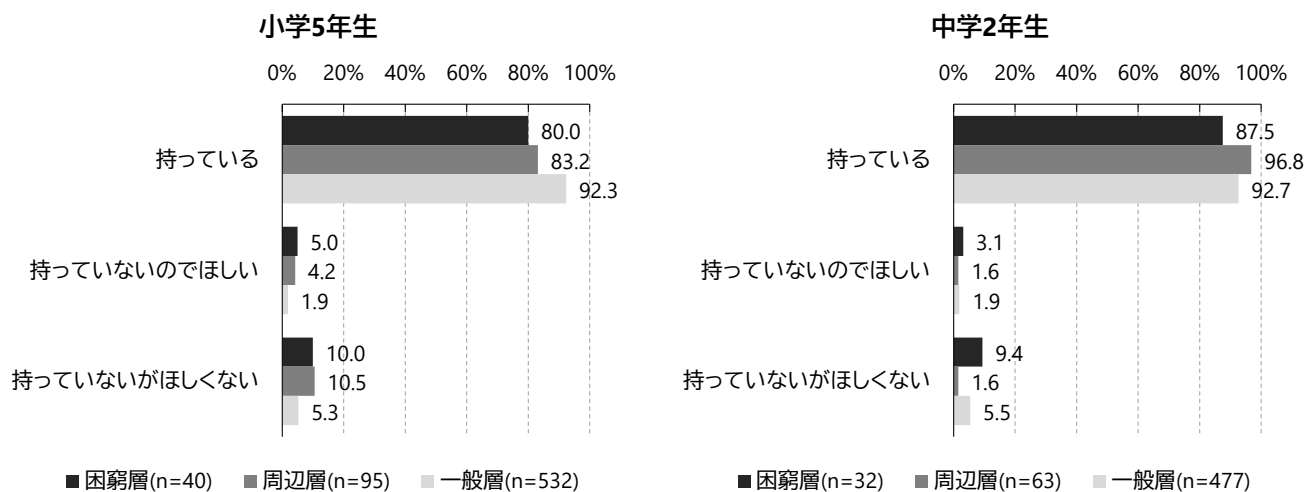
- 「健康状態がよい」と感じている子どもは、困窮層、周辺層、一般層で大きな差はなく、生活困難度は健康状態に大きく影響していないことがうかがえます。
- 困窮層の家庭の小学5年生の子どもは、朝食と夕食を「毎日食べる」割合が一般層と比べて低く、また、「ひとりで食べる」割合が高くなっています。その主な理由は、「時間がないから」と回答しており、発育に必要な栄養を毎日摂取できていない可能性はもとより、食事を楽しむ習慣が欠如してしまうことも懸念されます。
- 困窮層の家庭の子どもは、ふだんの食事としてカップめん・インスタントめん、コンビニのおにぎり・お弁当を「ほとんど食べない」と回答している割合が一般層と比べて低く、「1週間に1～2日」と回答している割合が高くなっており、食習慣や栄養素に偏りが出してしまう可能性が考えられます。

## 持っているものについて

問 10 次の中に、あなたが持っているものがありますか。

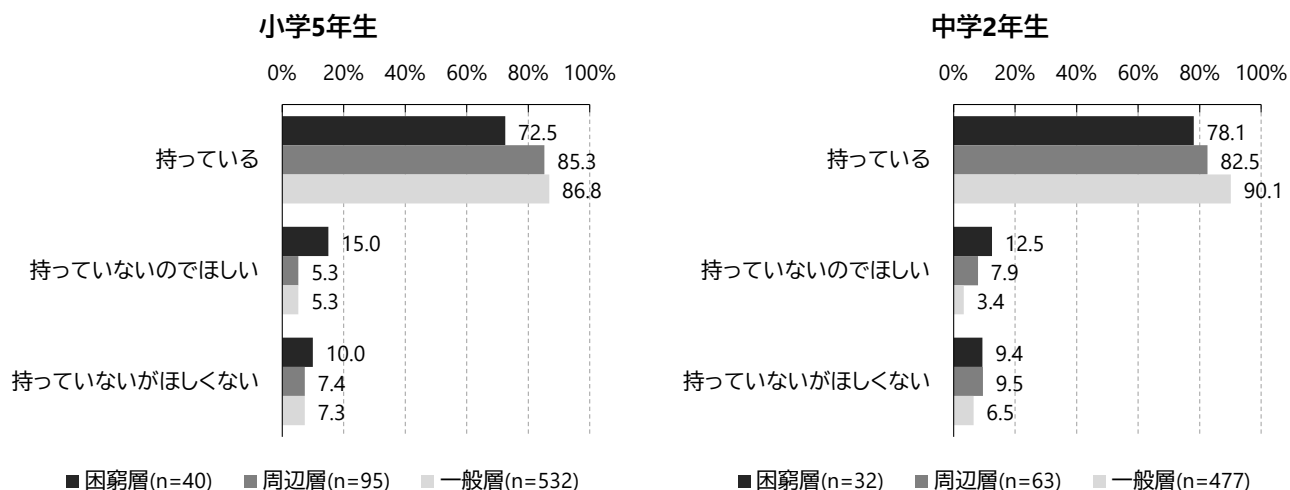
### ①自分だけの本・まんが(教科書はのぞきます)

子どもが持っているもののうち、自分だけの本・まんが(教科書はのぞきます)についてみると、小学5年生では「持っている」は、困窮層が一般層より10ポイント以上、中学2年生は5ポイント以上下回っています。



### ②新しい文ぼう具

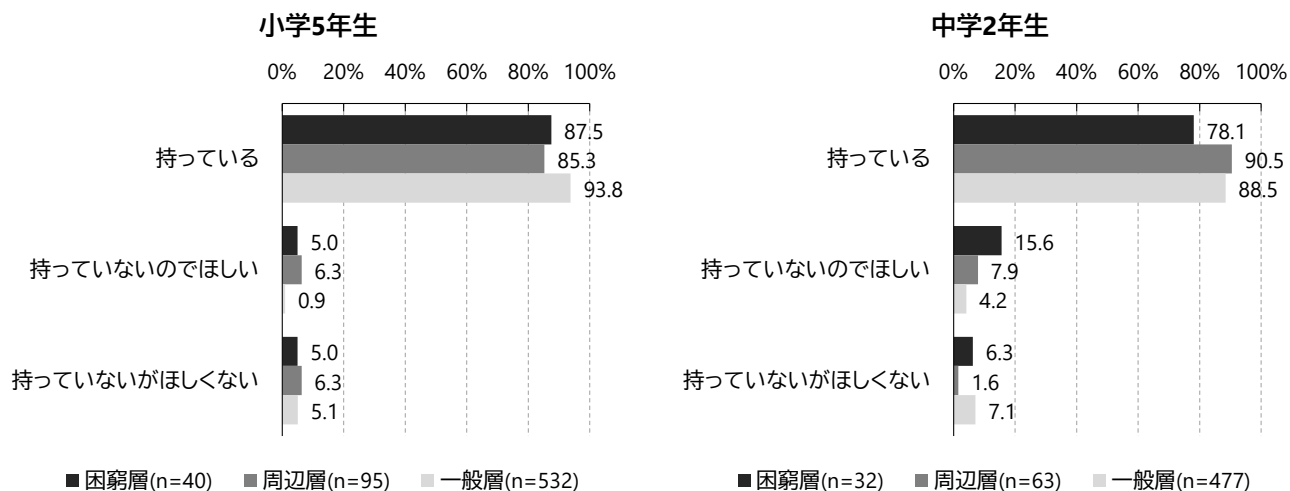
子どもが持っているもののうち、新しい文ぼう具についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「持っている」は、困窮層が一般層より10ポイント以上下回っています。



### ③お気に入りの服・くつ

子どもが持っているもののうち、お気に入りの服・くつについてみると、小学5年生では「持っている」は、困窮層が一般層より5ポイント以上、中学2年生は10ポイント以上下回っています。

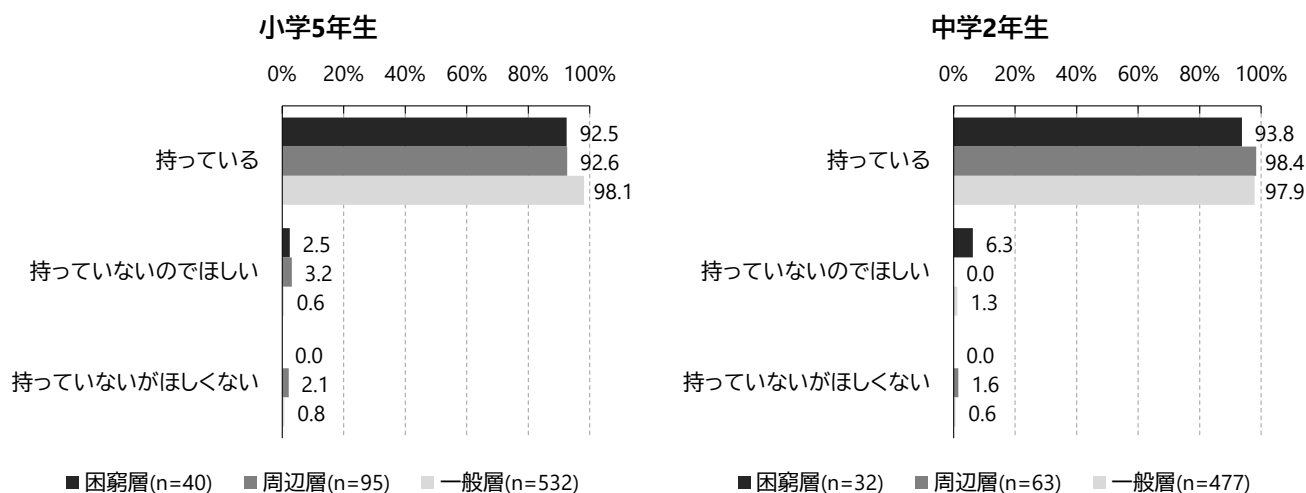
また、中学2年生では「持っていないのでほしい」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っています。



### ④たんじょう日にもらったプレゼント

子どもが持っているもののうち、たんじょう日にもらったプレゼントについてみると、小学5年生では「持っている」は、困窮層が一般層より5ポイント以上下回っています。

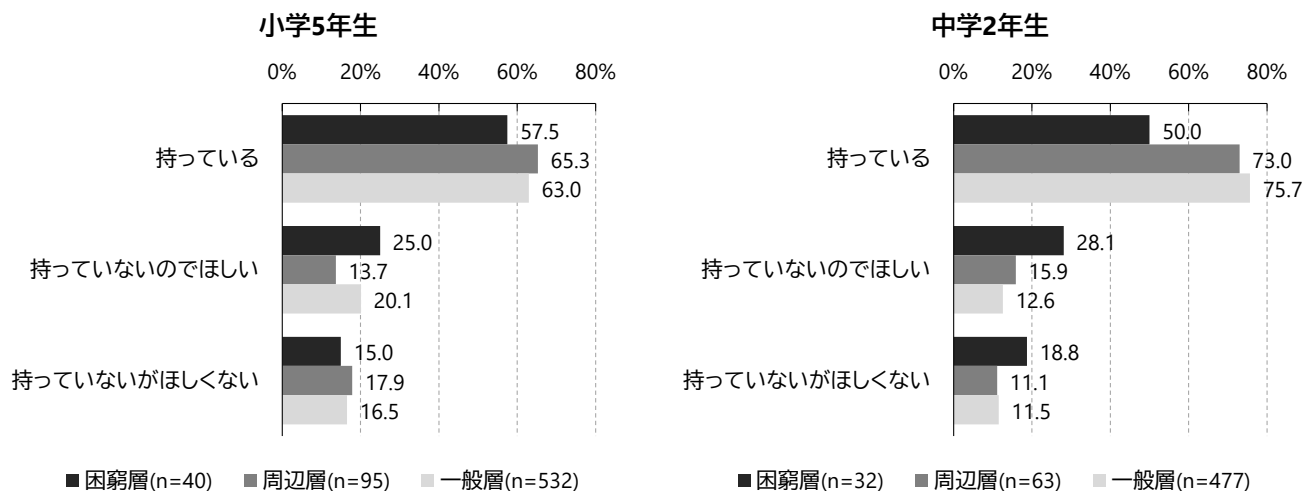
また、中学2年生では「持っている」は、困窮層と一般層で5ポイント未満の差で同程度となっています。



### ⑤友達と同じくらいのおこづかい

子どもが持っているもののうち、友達と同じくらいのおこづかいについてみると、小学5年生では「持っている」は、困窮層が一般層より5ポイント以上、中学2年生は25ポイント以上下回っています。

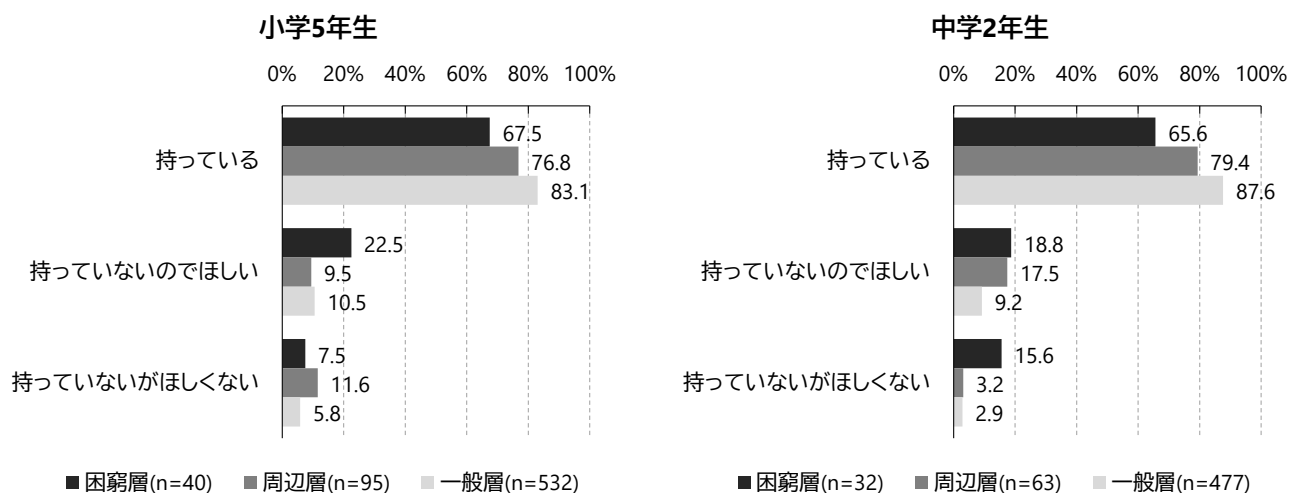
また、中学2年生では「持っていないのでほしい」は、困窮層が一般層より15ポイント以上上回っています。



### ⑥家で集中して勉強できる場所

子どもが持っているもののうち、家で集中して勉強できる場所についてみると、小学5年生では「持っている」は、困窮層が一般層より15ポイント以上、中学2年生は20ポイント以上下回っています。

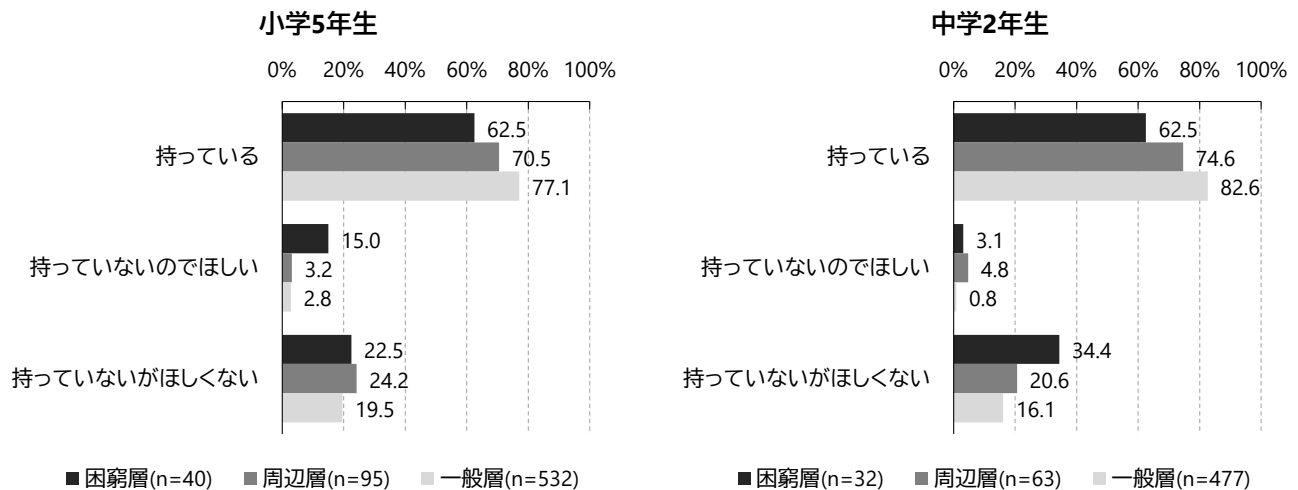
また、小学5年生では「持っていないのでほしい」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っており、中学2年生では「持っていないがほしくない」が10ポイント以上上回っています。



### ⑦スポーツ用品(グローブ、ラケット、せん用のくつなど)

子どもが持っているもののうち、スポーツ用品（グローブ、ラケット、せん用のくつなど）についてみると、小学5年生では「持っている」は、困窮層が一般層より10ポイント以上、中学2年生は20ポイント以上上回っています。

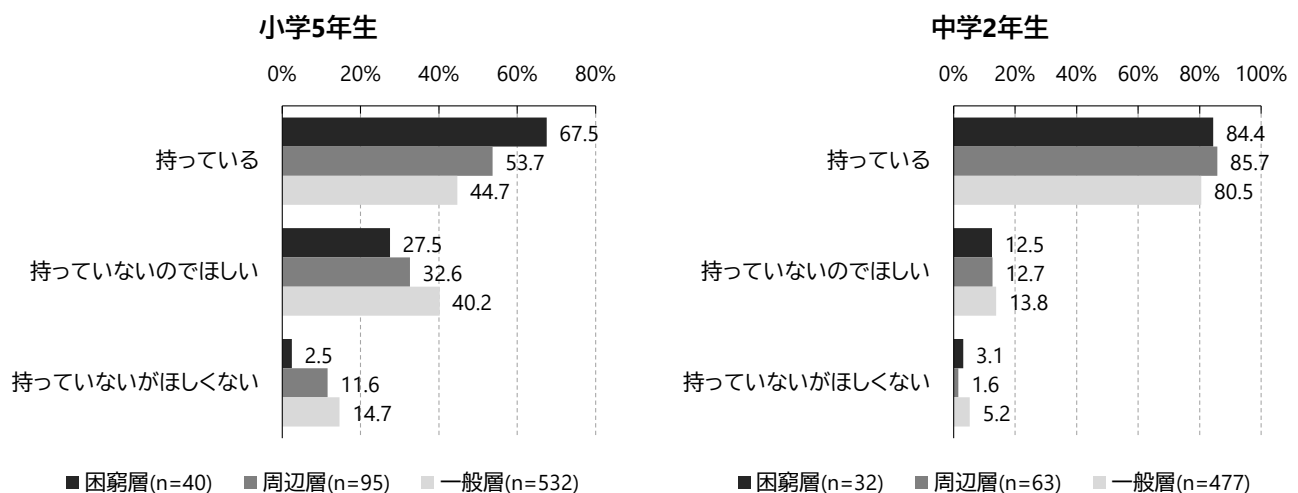
また、小学5年生では「持っていないのでほしい」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っており、中学2年生では「持っていないがほしくない」が15ポイント以上上回っています。



### ⑧携帯電話、スマートフォン

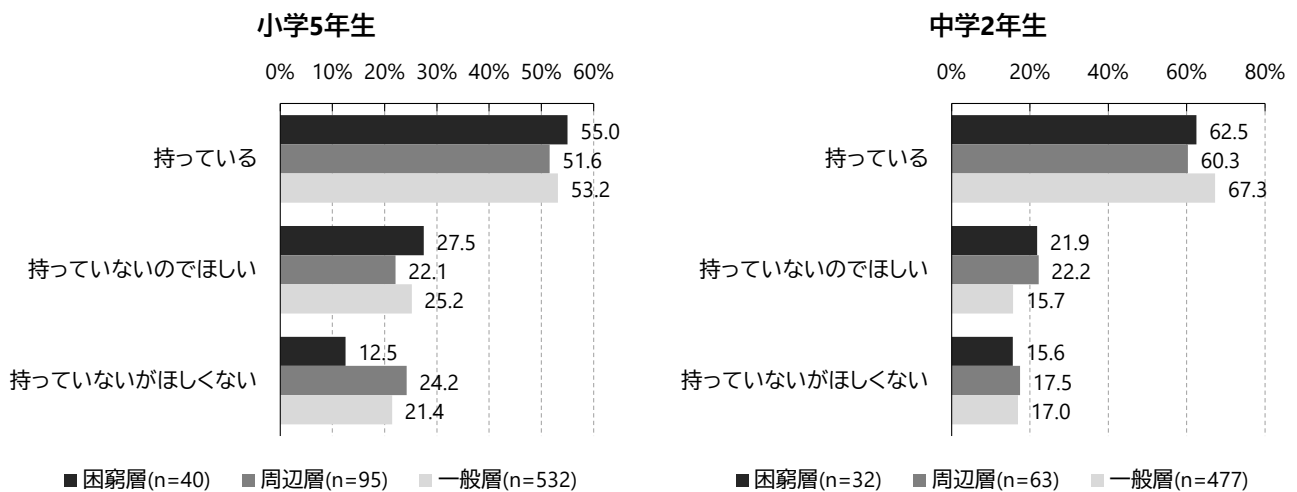
子どもが持っているもののうち、携帯電話、スマートフォンについてみると、小学5年生では「持っている」は、困窮層が一般層より20ポイント以上上回っています。

また、中学2年生では「持っている」は、困窮層と一般層で5ポイント未満の差で同程度となっています。



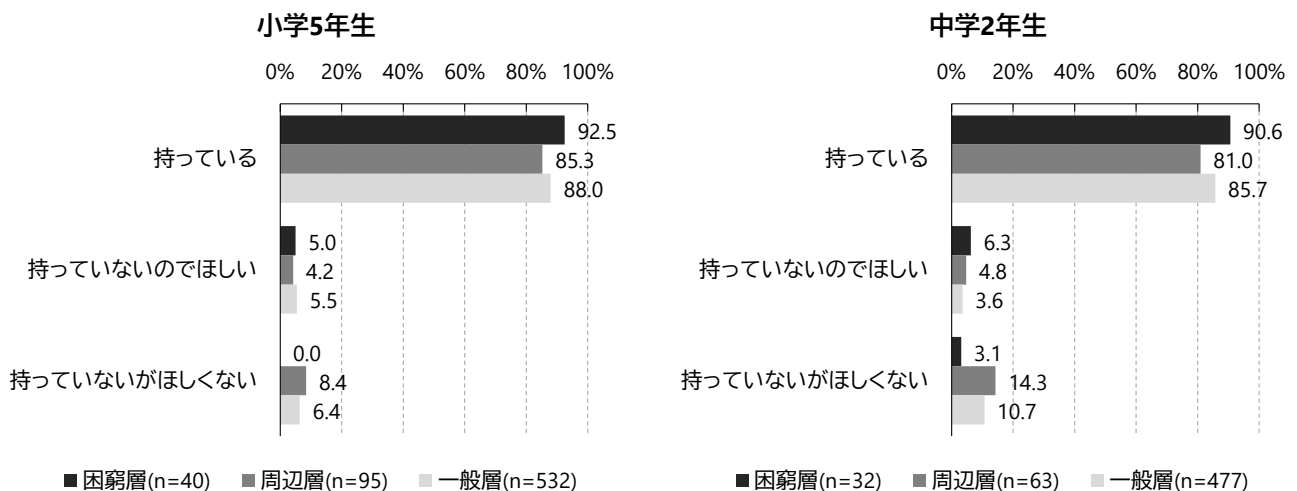
### ⑨インターネットにつながるパソコン、タブレット(学校から配布されたタブレットはのぞく)

子どもが持っているもののうち、インターネットにつながるパソコン、タブレット（学校から配布されたタブレットはのぞく）についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「持っている」は、困窮層と一般層で5ポイント未満の差で同程度となっています。



### ⑩ゲーム機・ゲームソフト

子どもが持っているもののうち、ゲーム機・ゲームソフトについてみると、小学5年生、中学2年生ともに「持っている」は、困窮層と一般層で5ポイント未満の差で同程度となっています。



(2) 持っているものについてのまとめ

- 困窮層の家庭の子どもは、“新しい文房具”と“スポーツ用具（グローブ、ラケット、せん用のくつなど）”を「持っている」と回答している割合が一般層と比べて低く、クラブや部活動を含む学校生活や友達と遊んだり勉強をする際に不自由や不便さを感じたり、友達と比べてしまう引け目から自尊心を低下させる可能性があるため、周囲の配慮や工夫を検討する必要があるかもしれません。その他、“家で集中して勉強できる場所”の回答も低く、すべての子どもが平等に勉強できる機会が与えられる観点から、学校と家以外でも勉強ができる場所を検討することも必要です。
- 困窮層の家庭の小学5年生の子どもは、“けい帯電話”を持っている割合が一般層と比べて高くなっています。これは、学校以外の時間をひとりもしくは子どもたちだけで過ごすことが一般層よりも多く、連絡手段として所持している子どもが多いからと推察されます。



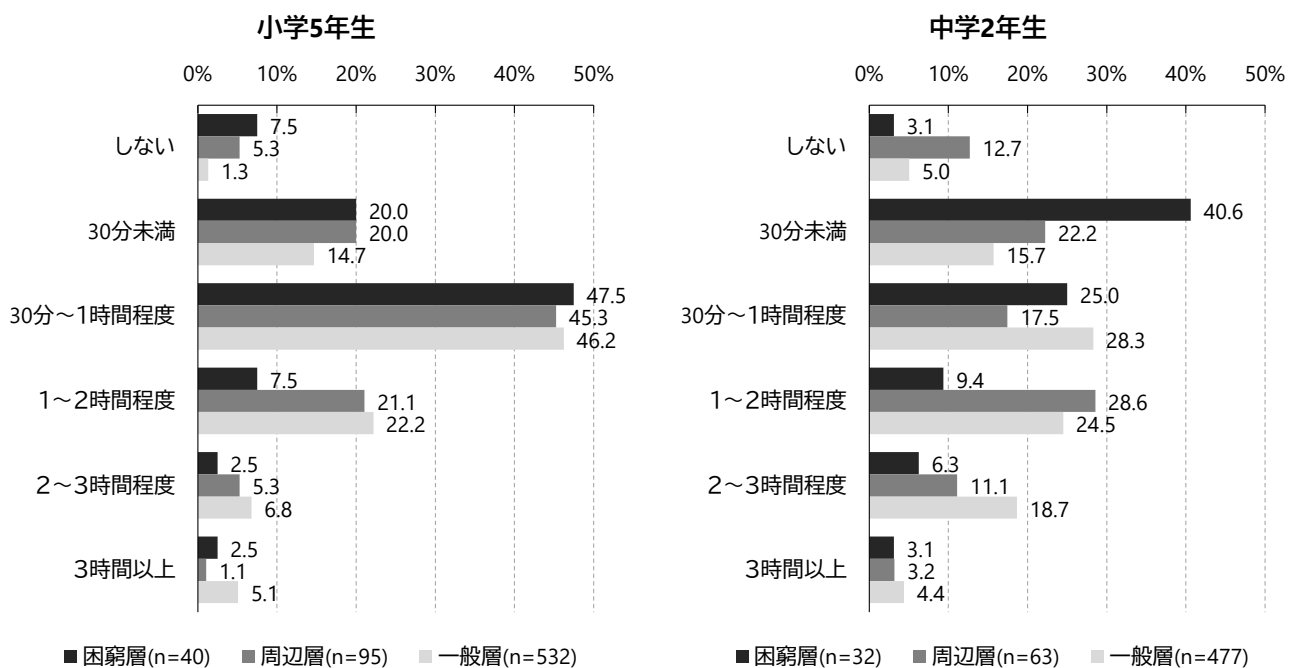
## ふだんの過ごし方について

問 11 あなたは、学校のある日(月～金曜日)の放課後の時間について、次のことをどれくらいしていますか。それぞれの時間について教えてください。

### (1)勉強や宿題をする(学習じゅくをふくむ)

学校のある日の放課後の過ごし方(時間)のうち、勉強や宿題をする(学習じゅくをふくむ)についてみると、小学5年生の困窮層では「30分～1時間程度」が最も多く47.5%で、一般層と5ポイント未満の差で同程度となっています。また、一般層も「30分～1時間程度」が最も多くなっています。

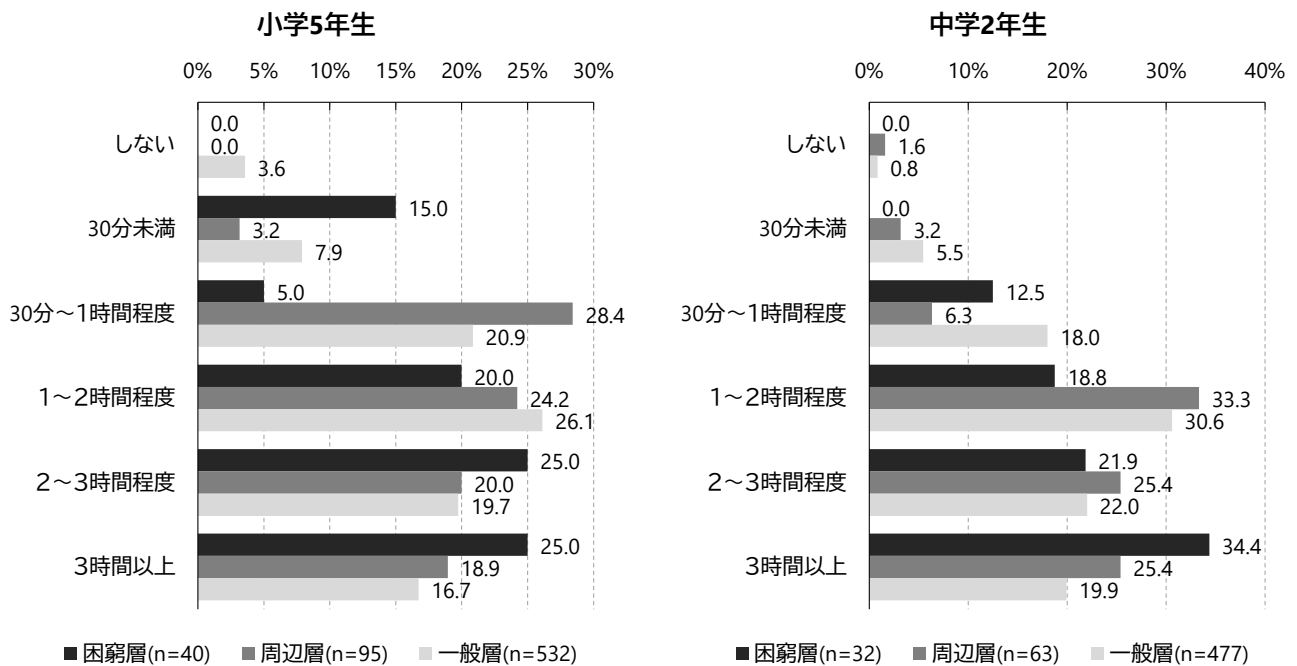
中学2年生の困窮層では「30分未満」が最も多く40.6%で、一般層より20ポイント以上上回っています。また、一般層は「30分～1時間程度」が最も多くなっています。



## (2)動画を見る(テレビ、インターネット等)

学校のある日の放課後の過ごし方(時間)のうち、動画を見る(テレビ、インターネット等)についてみると、小学5年生の困窮層では「2～3時間程度」と「3時間以上」が多くそれぞれ25.0%で、どちらも一般層より5ポイント以上上回っています。また、一般層は「1～2時間程度」が最も多くなっています。

中学2年生の困窮層では「3時間以上」が最も多く34.4%で、一般層より10ポイント以上上回っています。また、一般層は「1～2時間程度」が最も多くなっています。



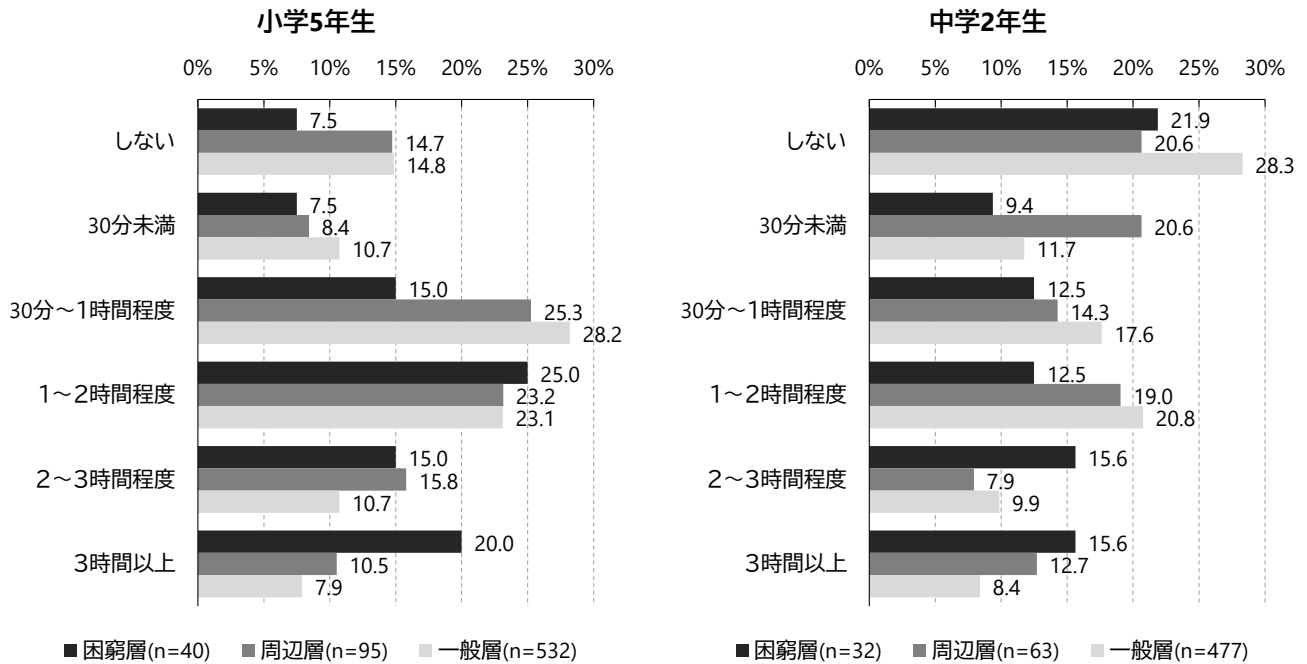
### (3)ゲームをする

学校のある日の放課後の過ごし方（時間）のうち、ゲームをするについてみると、小学5年生の困窮層では「1～2時間程度」が最も多く25.0%ですが、一般層と5ポイント未満の差で同程度となっています。

また、一般層は「30～1時間程度」が最も多くなっています。

中学2年生の困窮層では「しない」が最も多く21.9%で、一般層より5ポイント以上下回っています。

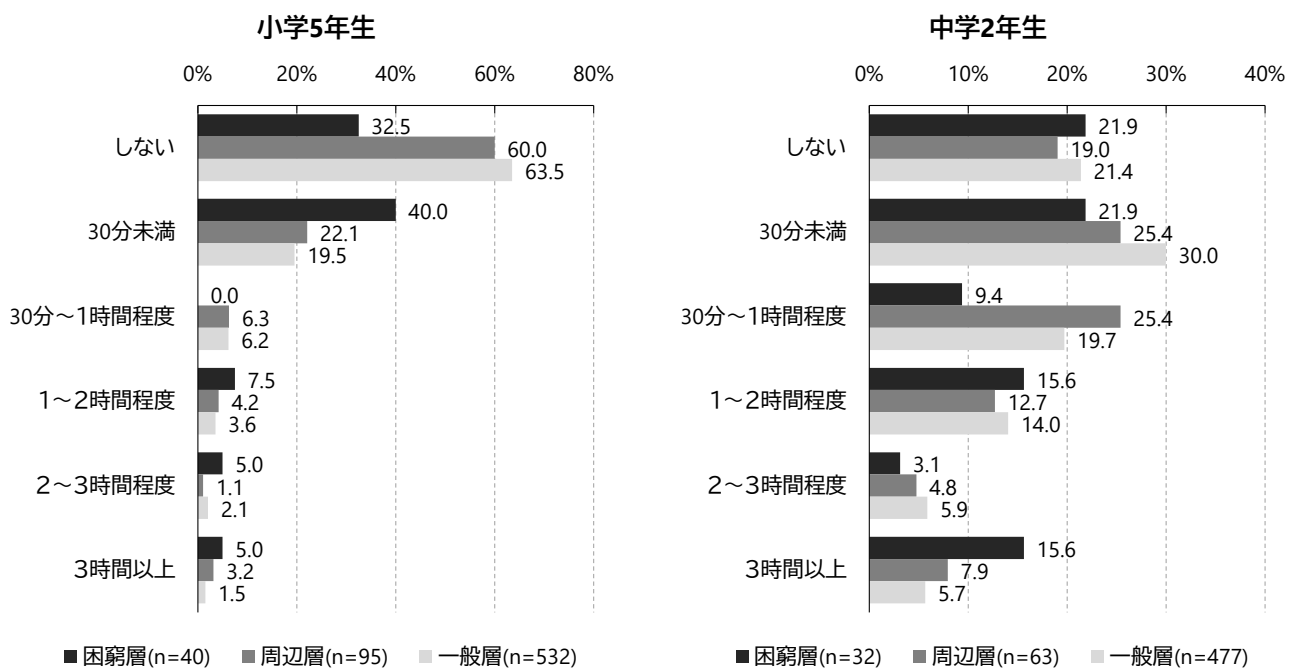
また、一般層も「しない」が最も多くなっています。



#### (4) SNS(LINE・インスタグラムなど)をする

学校のある日の放課後の過ごし方（時間）のうち、SNS（LINE・インスタグラムなど）をするについてみると、小学5年生の困窮層では「30分未満」が最も多く40.0%で、一般層より20ポイント以上上回っています。また、一般層は「しない」が最も多くなっています。

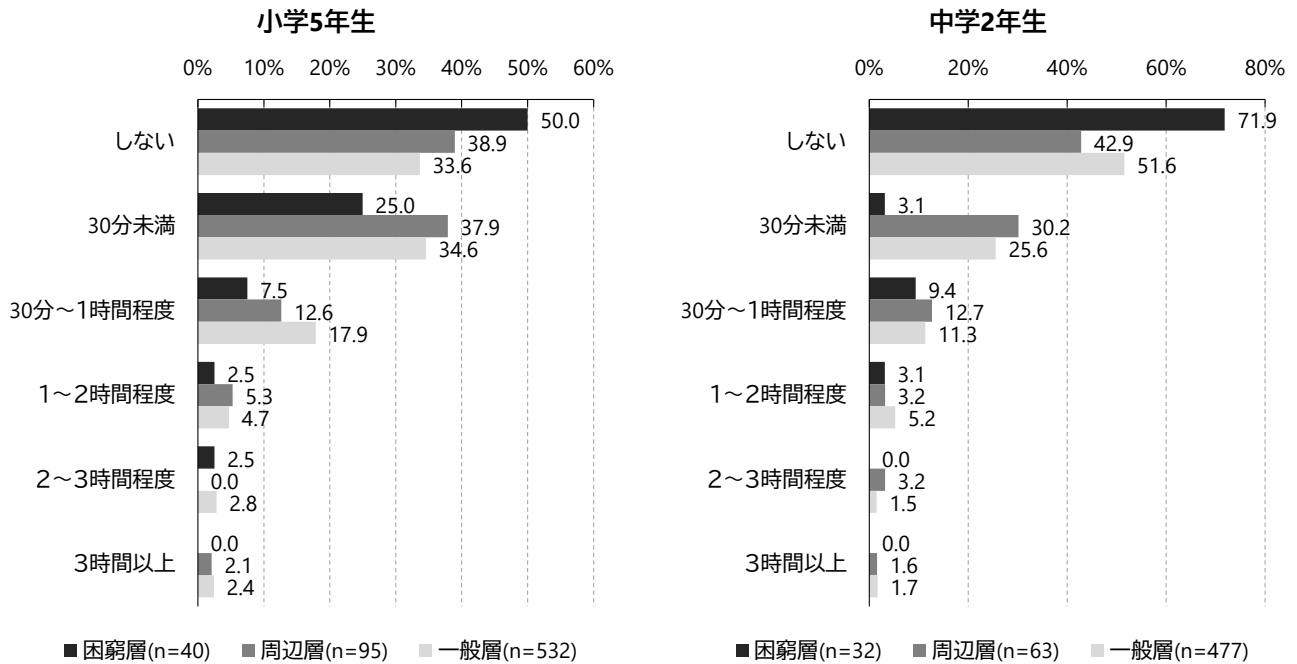
中学2年生の困窮層では「しない」と「30分未満」が多くそれぞれ21.9%で、「しない」は一般層と5ポイント未満の差で同程度ですが、「30分未満」は5ポイント以上下回っています。また、一般層は「30分未満」が最も多くなっています。



## (5)読書をする

学校のある日の放課後の過ごし方（時間）のうち、読書をするについてみると、小学5年生の困窮層では「しない」が最も多く50.0%で、一般層より15ポイント以上上回っています。また、一般層は「30分未満」が最も多くなっています。

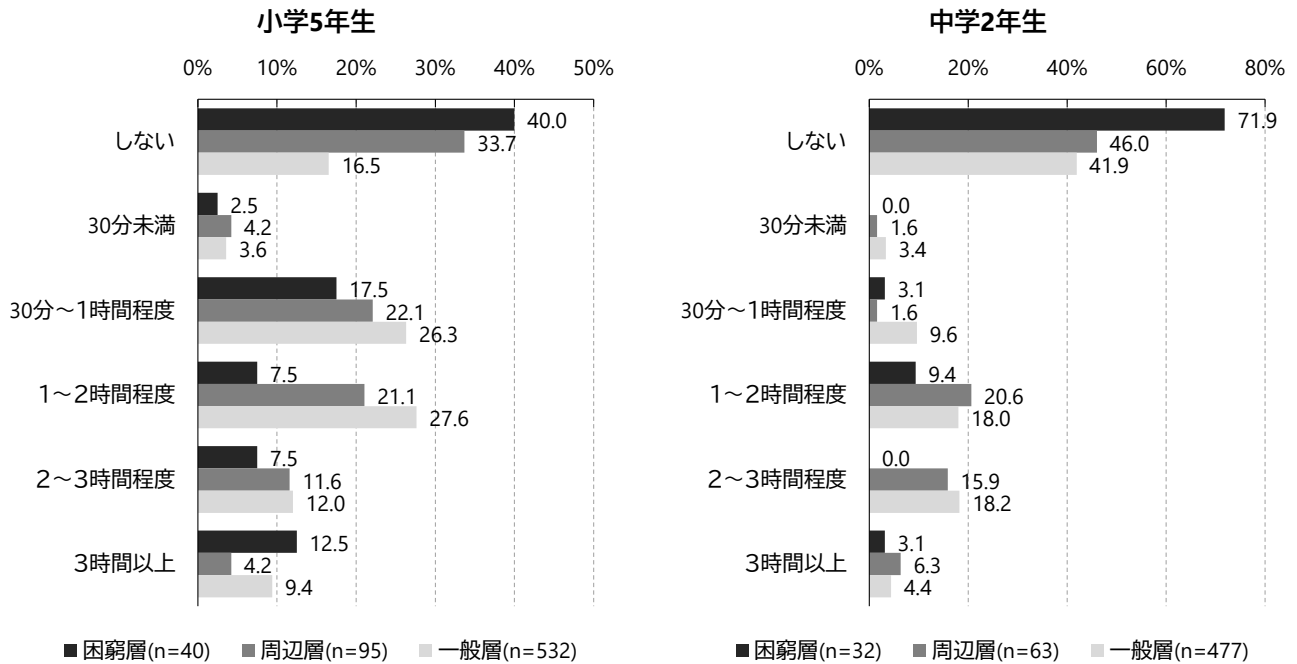
中学2年生の困窮層では「しない」が最も多く71.9%で、一般層より20ポイント以上上回っています。また、一般層も「しない」が最も多くなっています。



## (6) 習い事(学習じゅく以外)をする

学校のある日の放課後の過ごし方(時間)のうち、習い事(学習じゅく以外)をするについてみると、小学5年生の困窮層では「しない」が最も多く40.0%で、一般層より20ポイント以上上回っています。また、一般層は「1～2時間程度」が最も多くなっています。

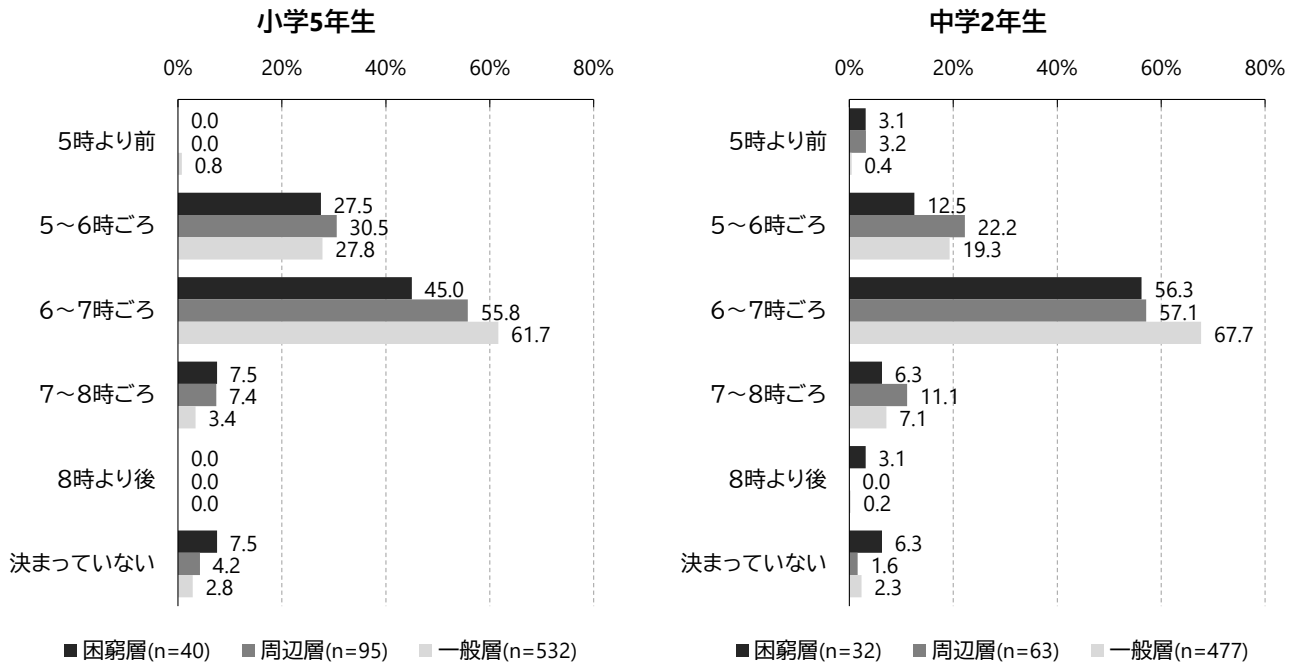
中学2年生の困窮層では「しない」が最も多く71.9%で、一般層より30ポイント上回っています。また、一般層も「しない」が最も多くなっています。



問 12 あなたは、学校のある日(月～金曜日)の起きる時こくとねる時こくは何時ごろですか。

(1)学校のある日の起きる時こく(月～金曜日)

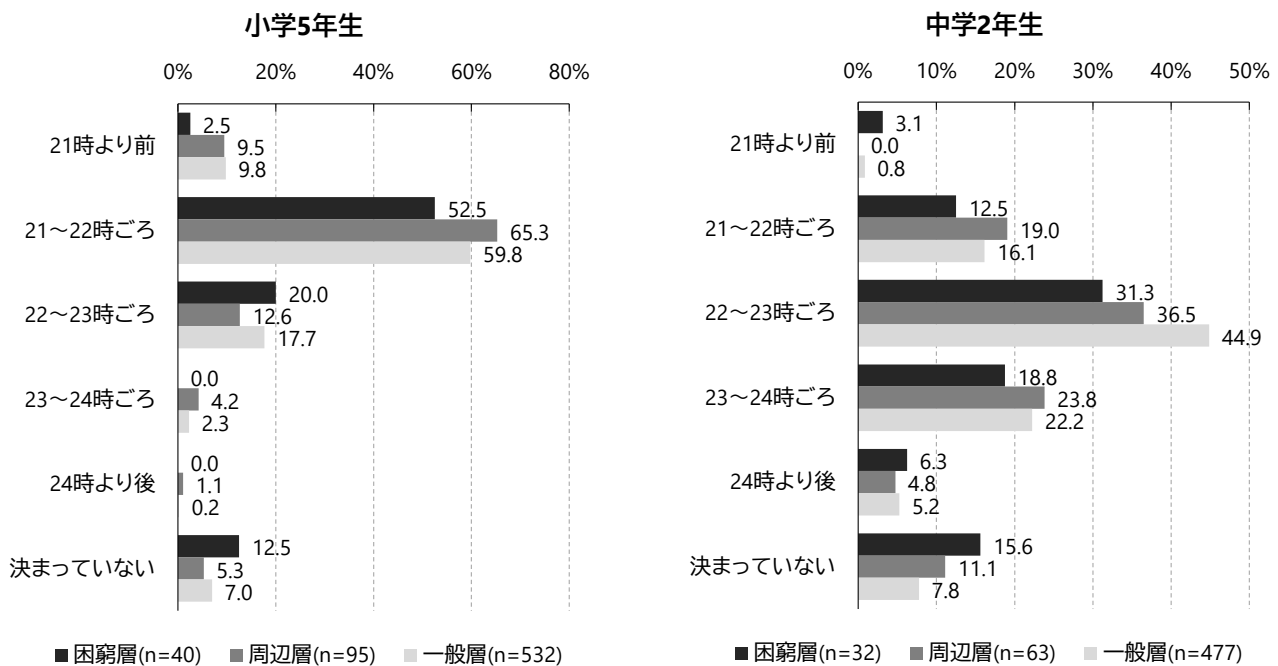
学校のある日の起きる時こく・ねる時こくのうち、起きる時こくについてみると、小学5年生、中学2年生の困窮層、一般層のいずれも「6～7時ごろ」が最も多い回答ですが、困窮層が一般層より10ポイント以上下回っています。



(2)学校のある日のねる時こく(月～金曜日)

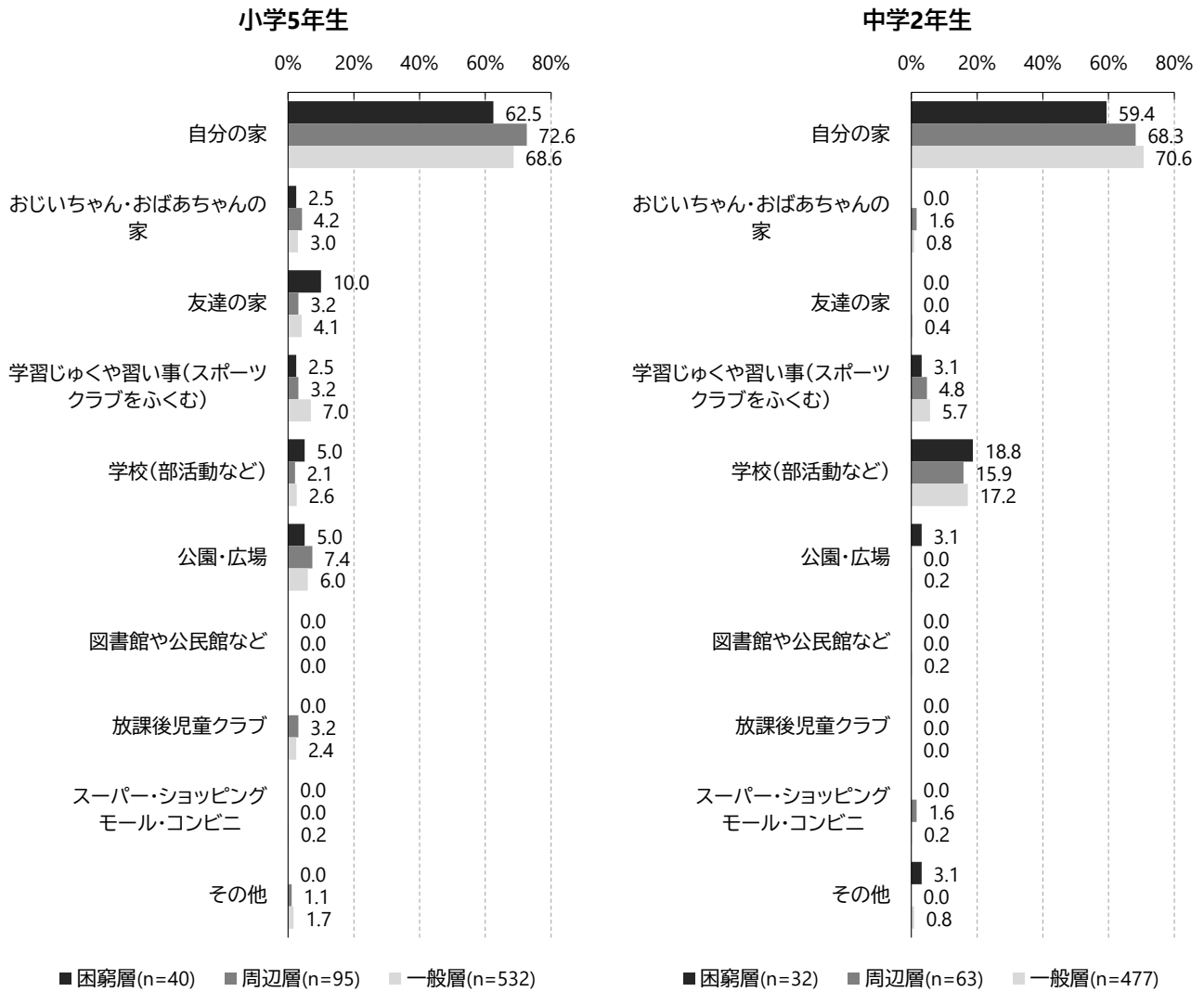
学校のある日の起きる時こく・ねる時こくのうち、ねる時こくについてみると、小学5年生の困窮層、一般層のどちらも「21～22時ごろ」が最も多く、困窮層が一般層より5ポイント以上下回っています。

また、中学2年生の困窮層、一般層のどちらも「22～23時ごろ」が最も多い回答で、困窮層が一般層より10ポイント以上下回っています。



問 13 あなたは、学校のある日(月～金曜日)の放課後はどこで過ごすことが一番多いですか。

学校のある日の放課後に過ごす場所についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「自分の家」が最も多くなっており、小学5年生では困窮層が一般層より5ポイント以上、中学2年生では10ポイント以上下回っています。





### (3) ふだんの過ごし方についてのまとめ

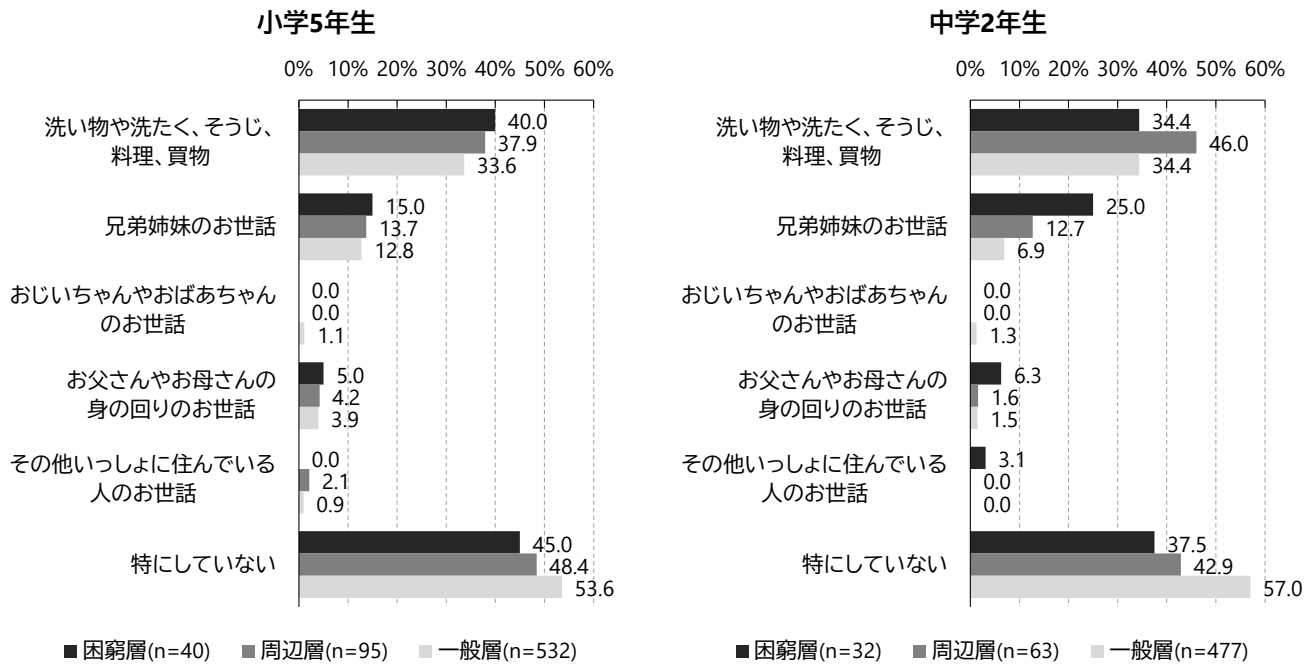
- 困窮層の家庭の子どもは、学校のある平日の放課後の過ごし方として、“勉強や宿題（学習じゅくをふくむ）”と“習い事（学習じゅく以外）”を「しない」と回答している割合が一般層と比べて高く、“動画を見る（テレビ、インターネット等）”と“ゲームをする”を「2～3時間または3時間以上」と回答している割合が高くなっており、学習塾や習い事に通わない時間の使い方の違いから一般層と学力面で格差が生じてしまうことが懸念されます。

## ご家族のお世話について

問 14 あなたは、ふだん、次のような家のことや家族のお世話をしていますか。(複数回答)

ふだん、家のことや家族のお世話をしているかについてみると、小学5年生では「洗い物や洗たく、そうじ、料理、買物」は、困窮層が一般層より5ポイント以上上回っています。

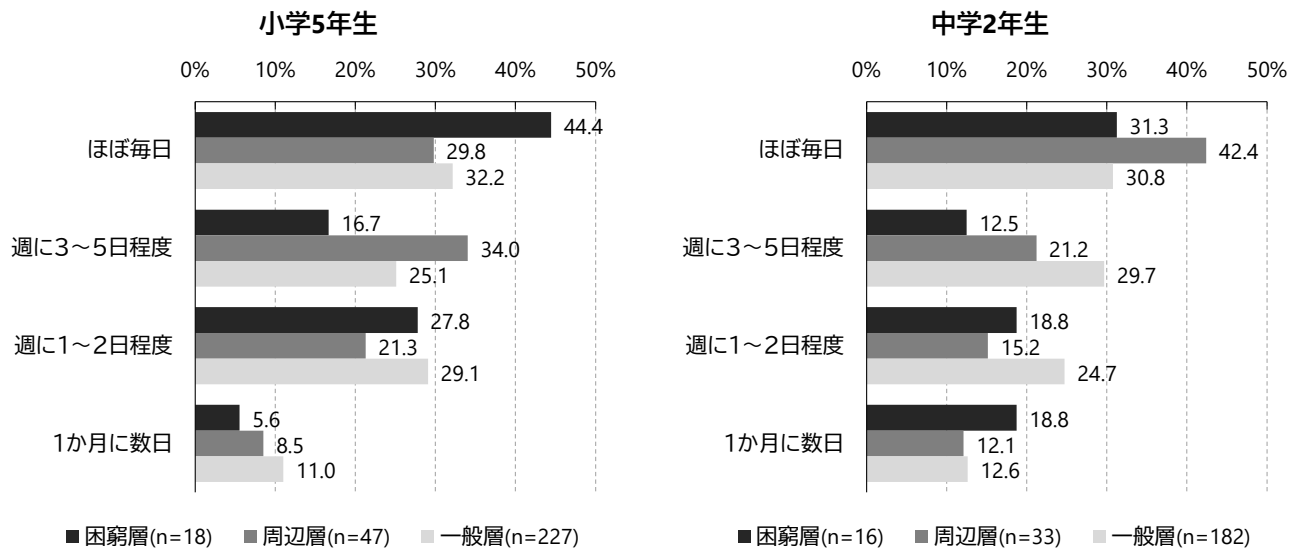
また、中学2年生では「兄弟姉妹のお世話」は、困窮層が一般層より15ポイント以上上回っています。



問 15～17 は、問 14 で何かしらの家のことや家族のお世話をしていると回答した方

問 15 家のことや家族のお世話はどれくらいしていますか。

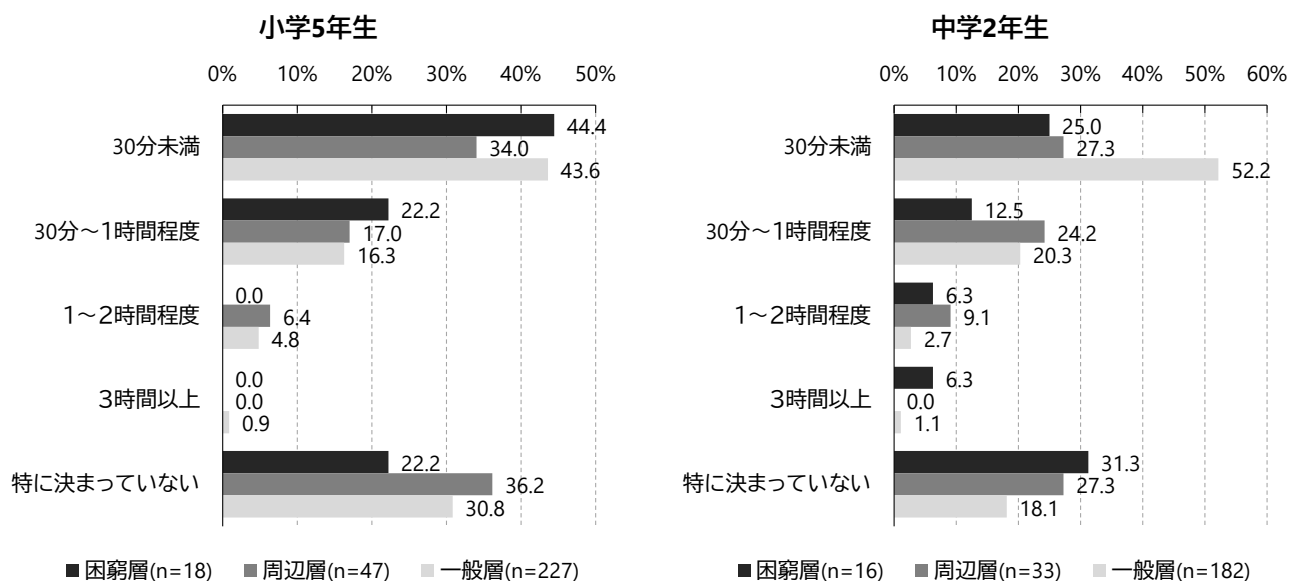
家のことや家族のお世話をする頻度についてみると、小学5年生では「ほぼ毎日」は、困窮層が一般層より10ポイント以上、小学2年生は5ポイント未満の差で同程度となっています。



問 16 家のことや家族のお世話は1日にどれくらいしていますか。

家のことや家族のお世話を1日にする時間についてみると、小学5年生の困窮層と一般層はどちらも「30分未満」が最も多く、困窮層は44.4%、一般層は43.6%と、5ポイント未満の差で同程度となっています。

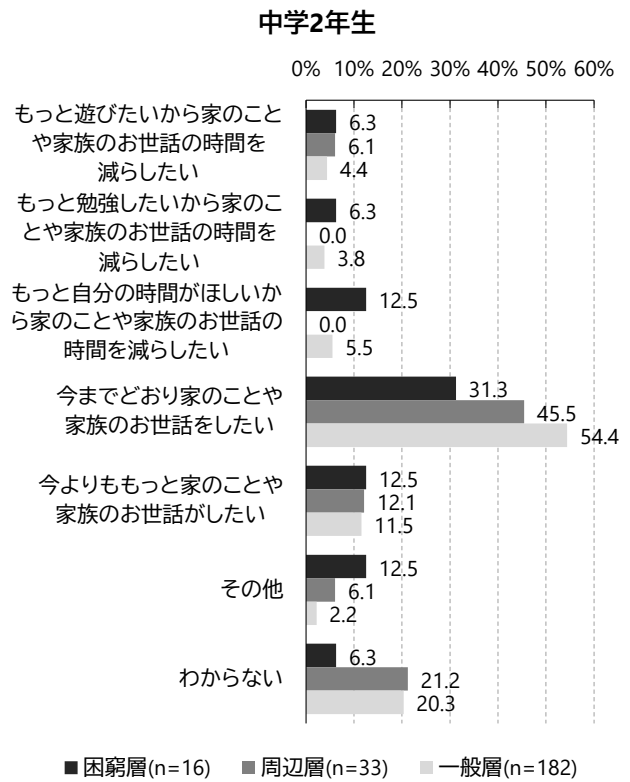
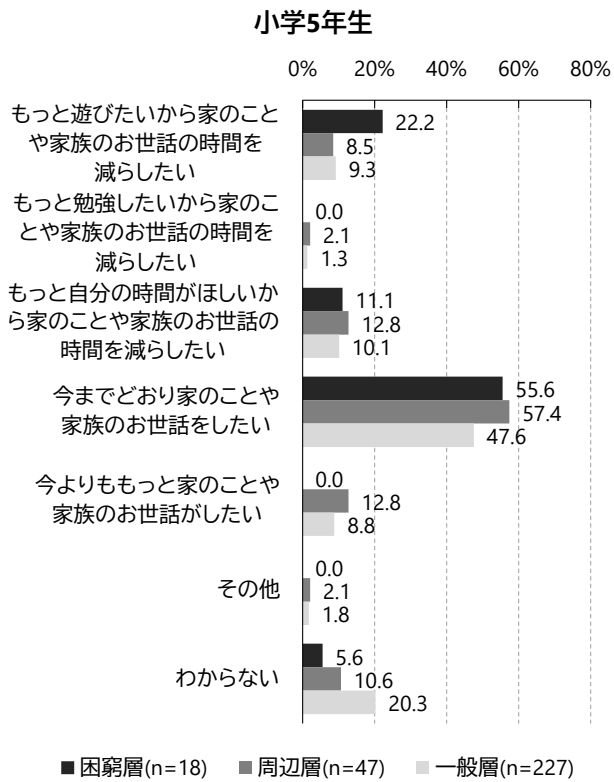
また、中学2年生の困窮層は「特に決まっていない」が最も多く31.3%で、一般層より10ポイント以上上回っています。一般層は「30分未満」が最も多くなっています。



問 17 家のことや家族のお世話についてどう感じていますか。(複数回答)

家のことや家族のお世話について感じることにしてみると、小学5年生では「もっと遊びたいから家のことや家族のお世話の時間を減らしたい」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っています。

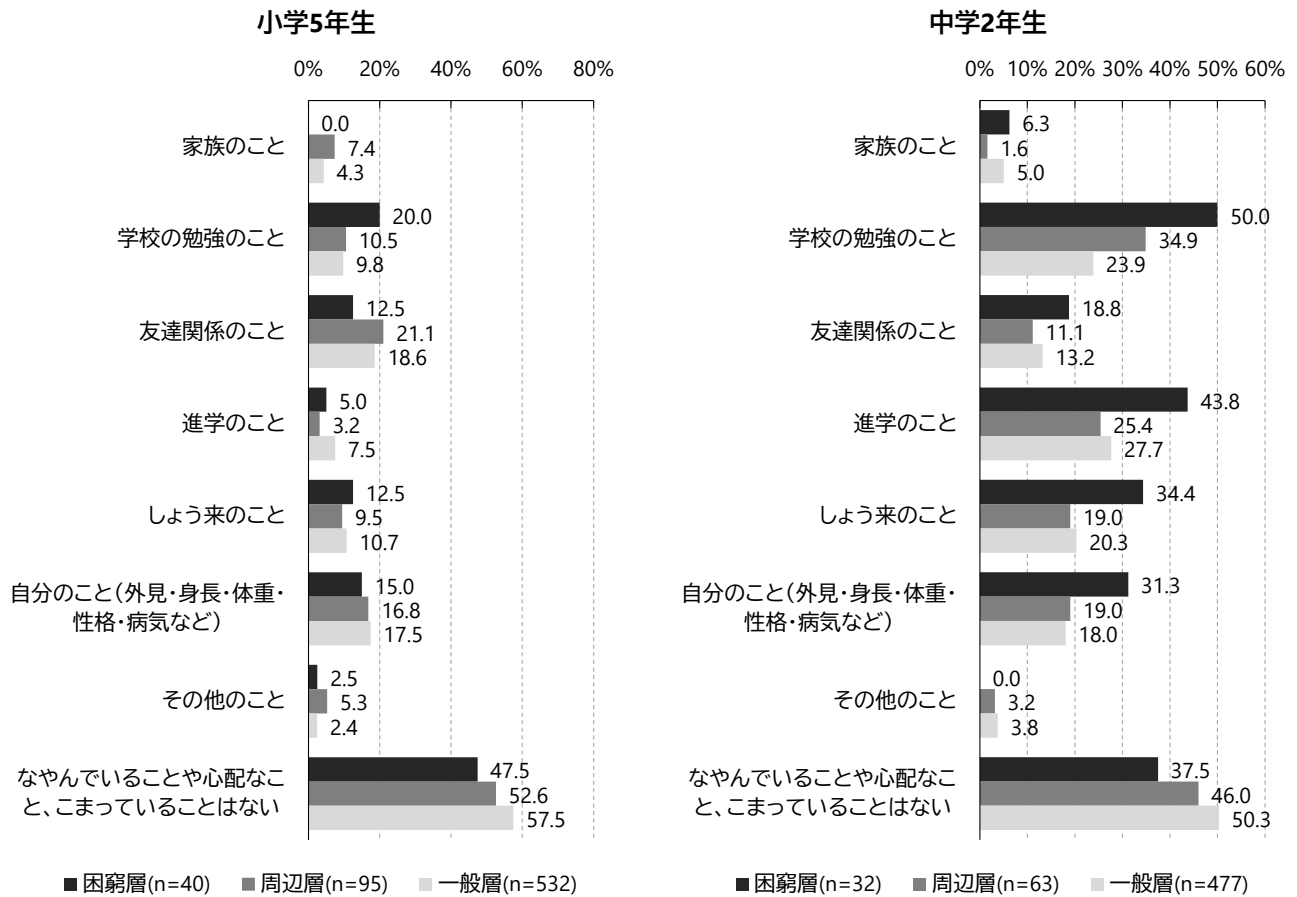
また、中学2年生では「今までどおり家のことや家族の世話をしたい」は、困窮層が一般層より20ポイント以上上回っています。



問 18 あなたが今なやんでいることや心配なこと、こまっていることなど、だれかに相談したいと思っ  
ていることはどんなことですか。(複数回答)

今なやんでいることや心配なこと、こまっていることなどについてみると、小学5年生では「学校の勉強のこと」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っています。

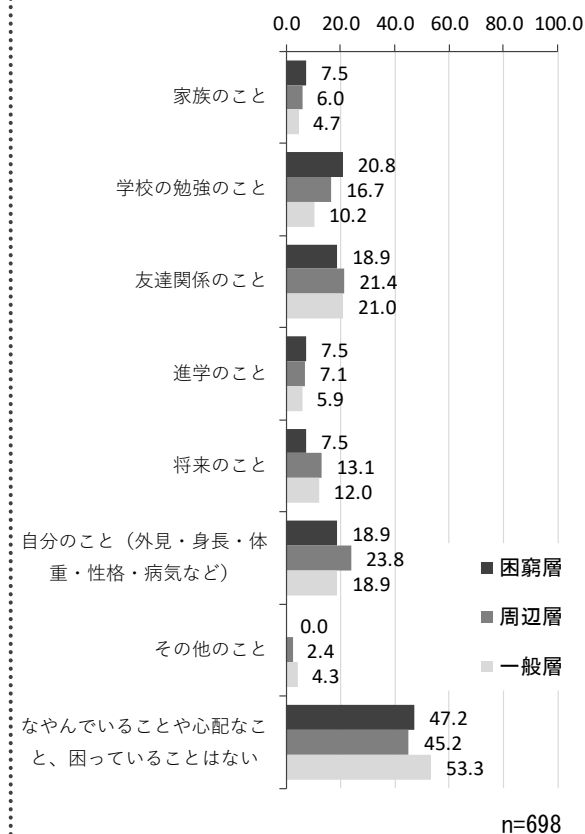
また、中学2年生では「学校の勉強のこと」は、困窮層が一般層より25ポイント以上、「進学のこと」は15ポイント以上、「しょう来のこと」と「自分のこと（外見・身長・体重・性格・病気など）」はそれぞれ10ポイント以上、上回っています。



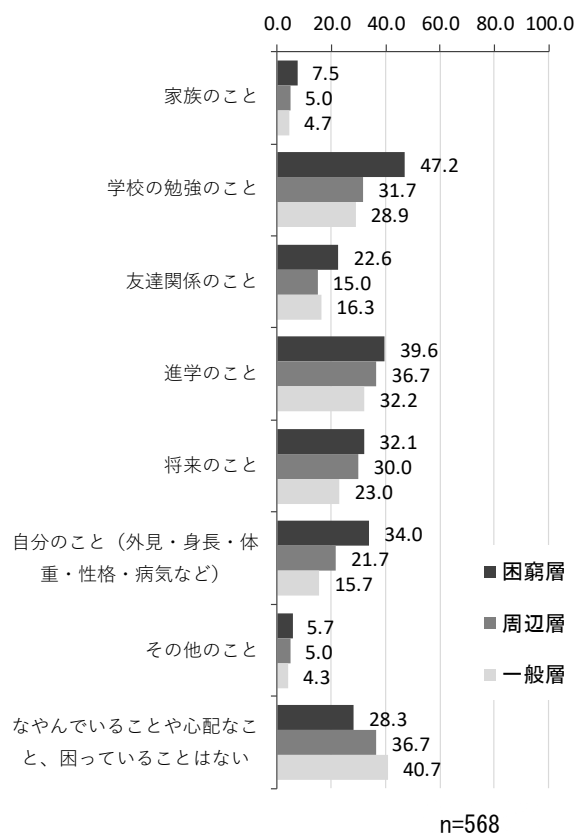
## 前回調査結果との比較

前回調査結果における今なやんでいることや心配なこと、こまっていることなどについてみると、小学5年生、中学2年生の貧困層で「学校の勉強のこと」は困窮層が一般層より上回っています。この傾向は今回調査と比べて変わりありません。

小学5年生保護者



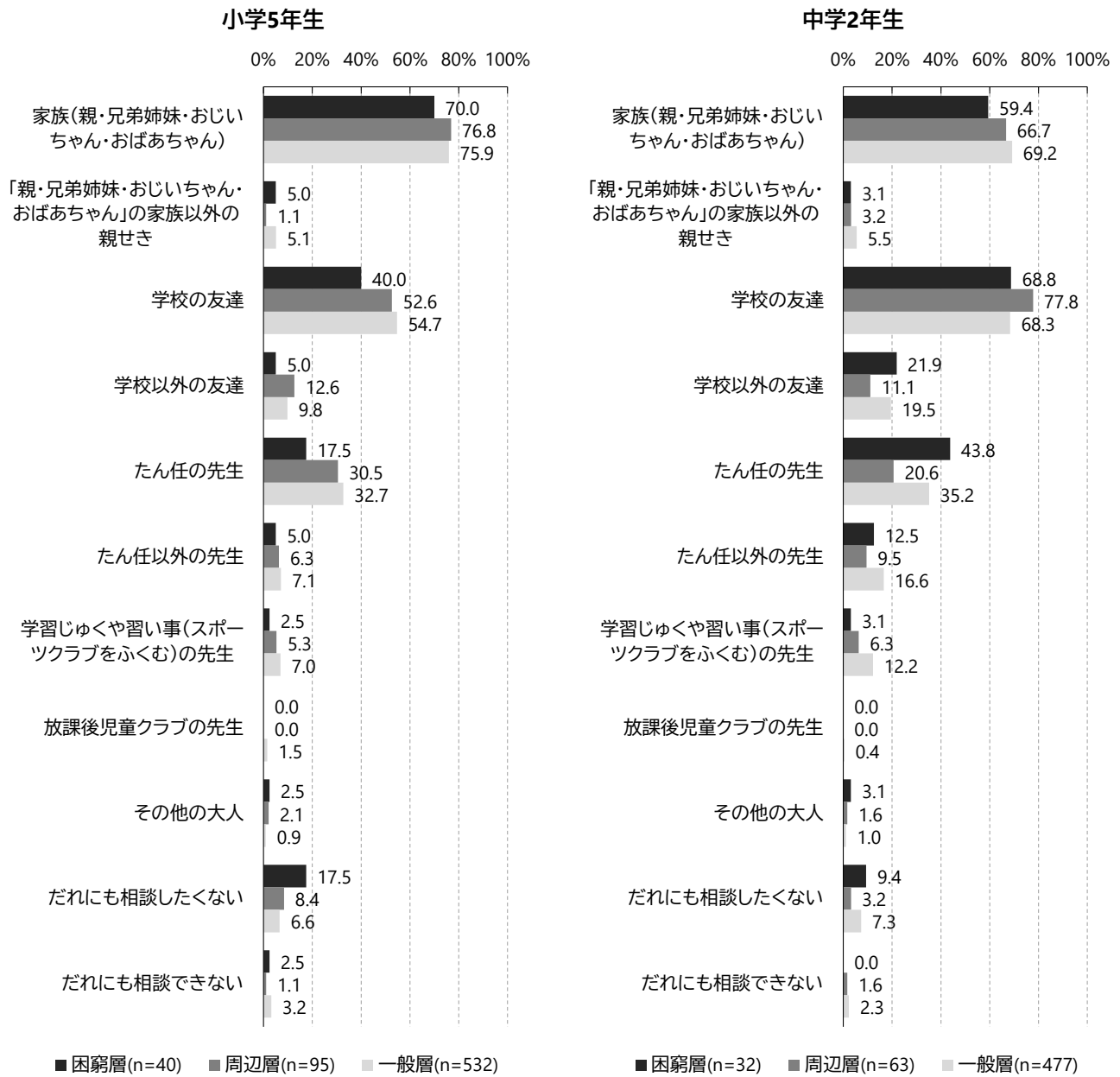
中学2年生保護者



問 19 あなたがなやんでいるときに相談できる人はだれですか。(複数回答)

なやんでいるときに相談できる人についてみると、小学5年生では「だれにも相談したくない」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っています。

また、中学2年生では「家族(親・兄弟姉妹・おじいちゃん・おばあちゃん)」は、困窮層が一般層より5ポイント以上下回っています。

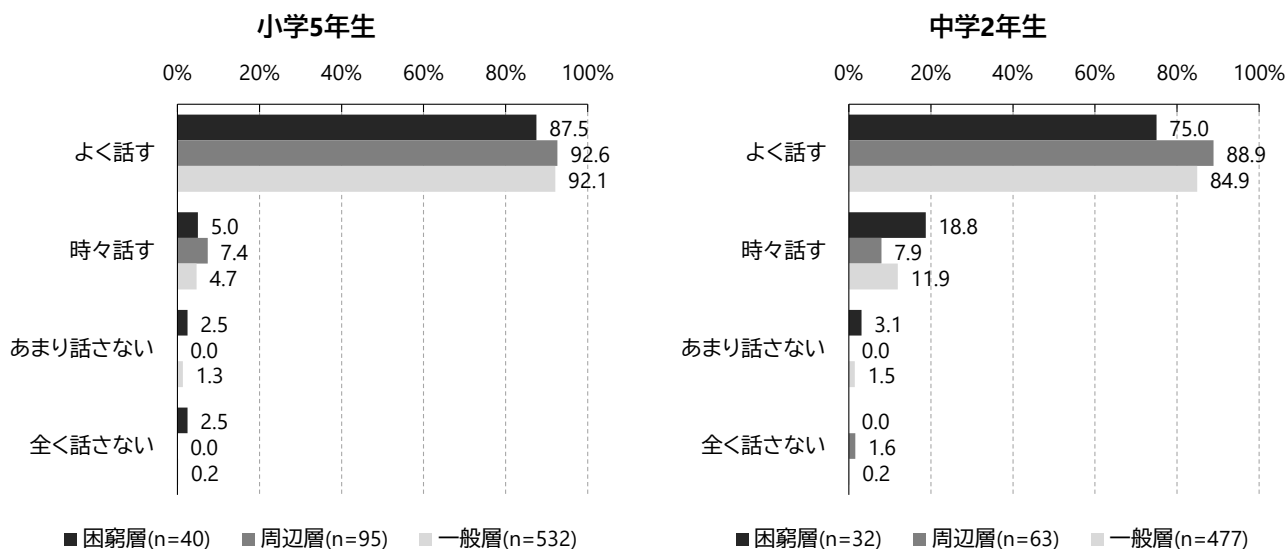


問 20 あなたは、ふだん、だれとどれくらい会話をしますか。

①家族(親・兄弟姉妹・おじいちゃん・おばあちゃん)

ふだん会話する相手との頻度のうち、家族(親・兄弟姉妹・おじいちゃん・おばあちゃん)についてみると、小学5年生の困窮層と一般層のどちらも「よく話す」が最も多く、困窮層は87.5%で、一般層と5ポイント未満で同程度です。

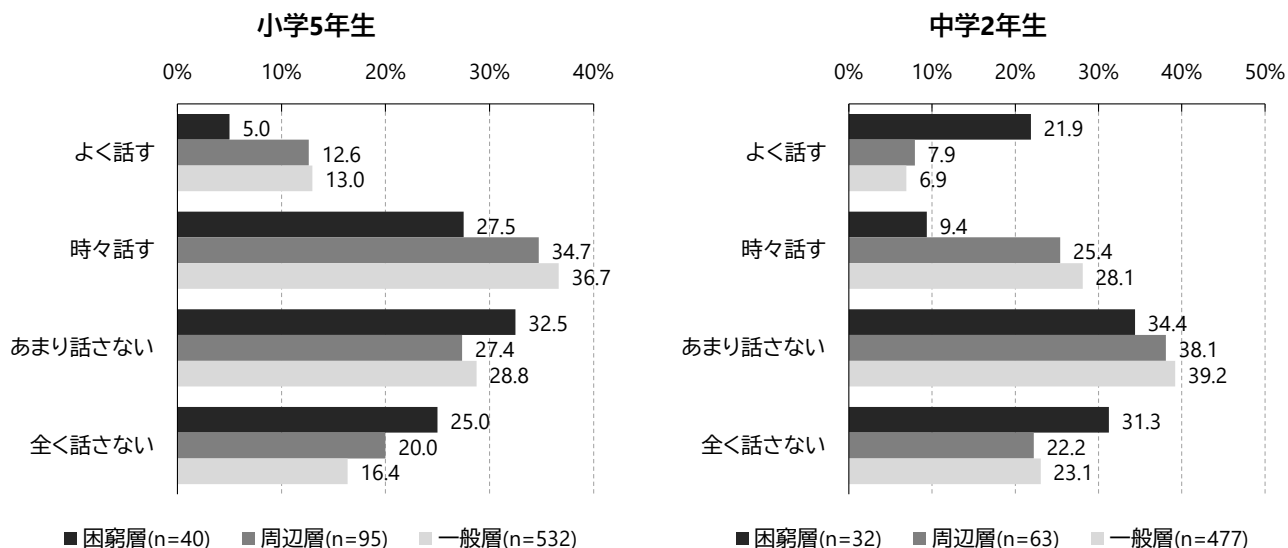
また、中学2年生の困窮層と一般層のどちらも「よく話す」が最も多く、困窮層は75.0%で、一般層より5ポイント以上下回っています。



②「家族(親・兄弟姉妹・おじいちゃん・おばあちゃん)」の家族以外の親せき

ふだん会話する相手との頻度のうち、家族(親・兄弟姉妹・おじいちゃん・おばあちゃん)の家族以外の親せきについてみると、小学5年生の困窮層は「あまり話さない」が最も多く32.5%で、一般層と5ポイント未満で同程度です。一般層は「時々話す」が最も多くなっています。

また、中学2年生の困窮層と一般層のどちらも「あまり話さない」が最も多く、困窮層は34.4%で、一般層と5ポイント未満で同程度です。

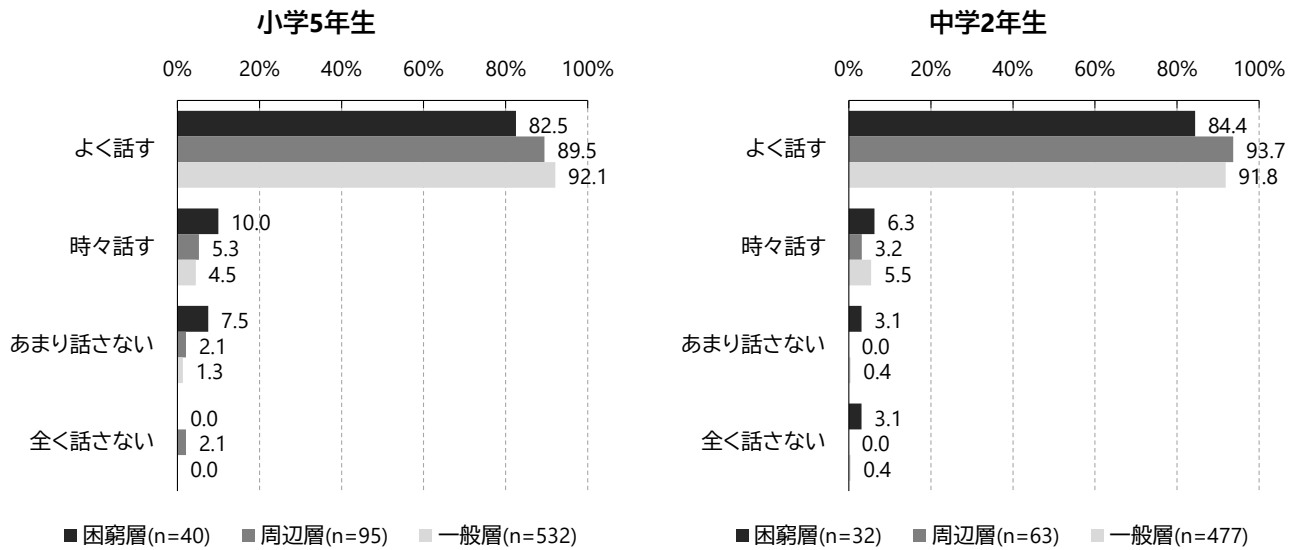




### ③学校の友達

ふだん会話する相手との頻度のうち、学校の友達についてみると、小学5年生の困窮層と一般層のどちらも「よく話す」が最も多く、困窮層は82.5%で、一般層より5ポイント以上下回っています。

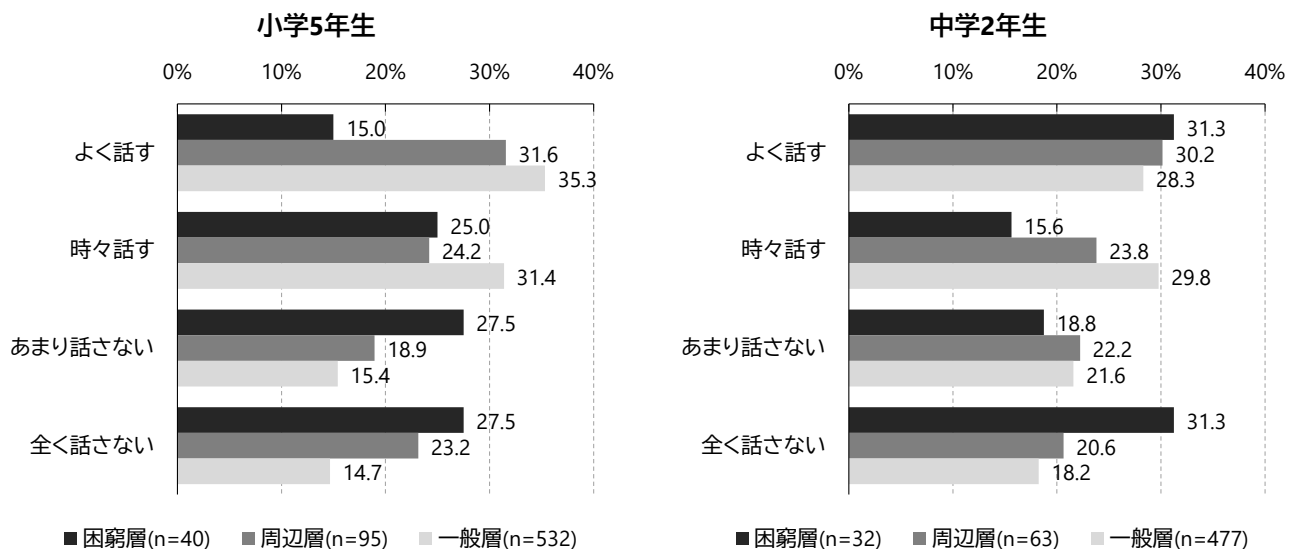
また、中学2年生の困窮層と一般層のどちらも「よく話す」が最も多く、困窮層は84.4%で、一般層より5ポイント以上下回っています。



### ④学校以外の友達

ふだん会話する相手との頻度のうち、学校以外の友達についてみると、小学5年生の困窮層は「あまり話さない」と「全く話さない」が多くどちらも27.5%で、一般層よりどちらも10ポイント以上上回っています。一般層は「よく話す」が最も多くなっています。

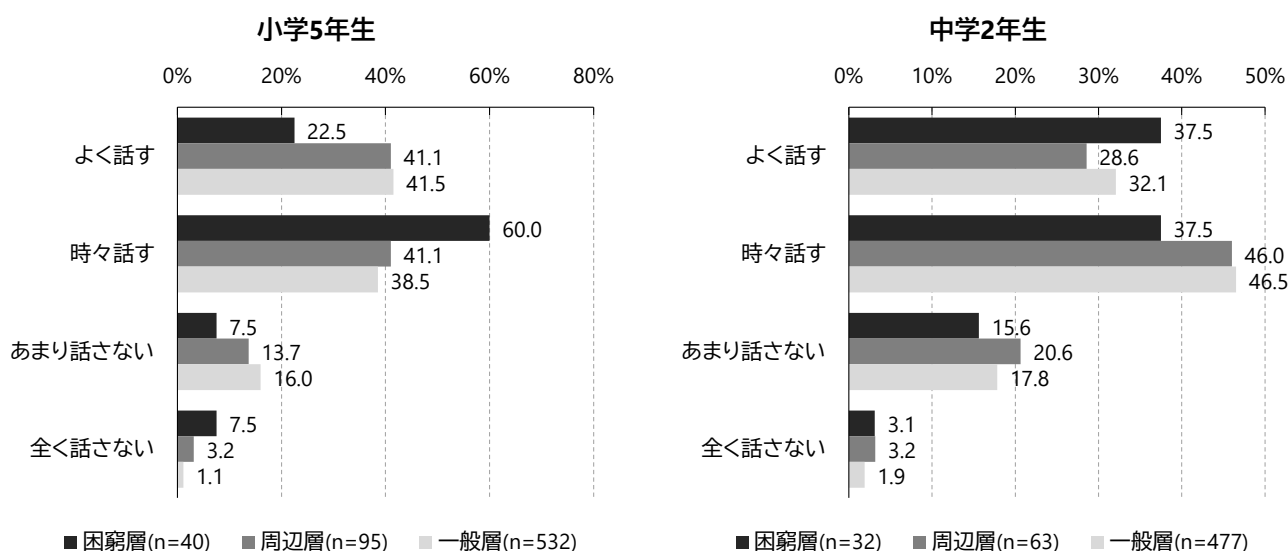
また、中学2年生の困窮層は「よく話す」と「全く話さない」が多くどちらも31.3%で、「よく話す」は一般層と5ポイント未満の差で同程度ですが、「全く話さない」は10ポイント以上上回っています。一般層は「時々話す」が最も多くなっています。



## ⑤たん任の先生

ふだん会話する相手との頻度のうち、たん任の先生についてみると、小学5年生の困窮層は「時々話す」が最も多く60.0%で、一般層より20ポイント以上上回っています。一般層は「よく話す」が最も多くなっています。

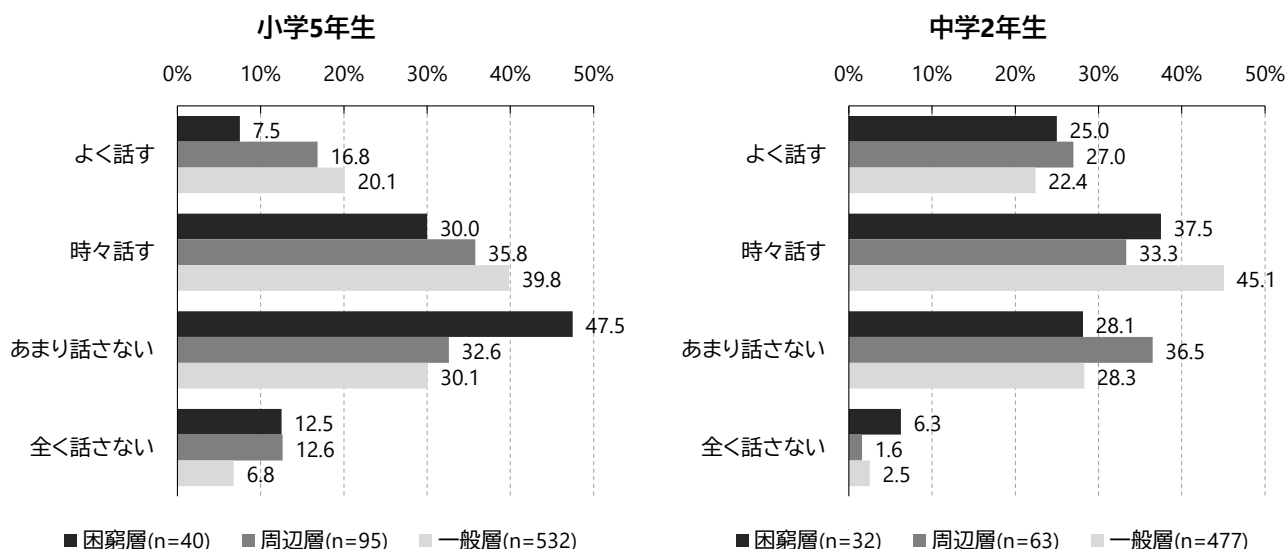
また、中学2年生の困窮層は「よく話す」と「時々話す」が多くどちらも37.5%で、「よく話す」は一般層より5ポイント以上上回っており、「時々話す」は5ポイント以上下回っています。一般層は「時々話す」が最も多くなっています。



## ⑥たん任以外の先生

ふだん会話する相手との頻度のうち、たん任以外の先生についてみると、小学5年生の困窮層は「あまり話さない」が最も多く47.5%で、一般層より15ポイント以上上回っています。一般層は「時々話す」が最も多くなっています。

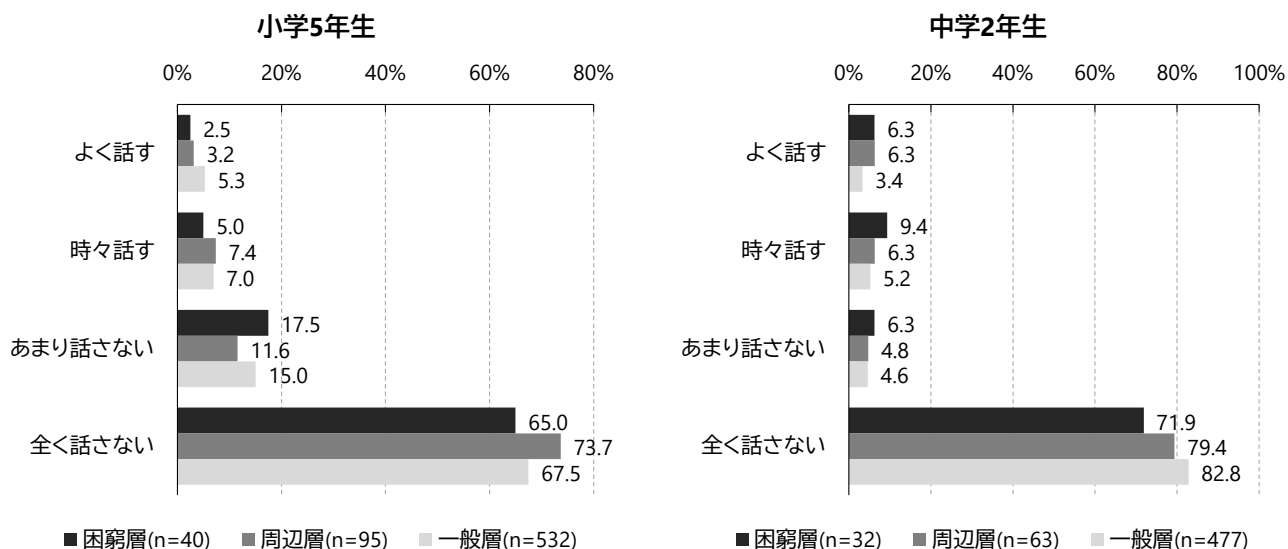
また、中学2年生の困窮層と一般層はどちらも「時々話す」が最も多く、困窮層は37.5%で、一般層より5ポイント以上下回っています。



## ⑦放課後児童クラブの先生

ふだん会話する相手との頻度のうち、放課後児童クラブの先生についてみると、小学5年生の困窮層と一般層はどちらも「全く話さない」が最も多く、困窮層は65.0%で、一般層と5ポイント未満の差で同程度です。

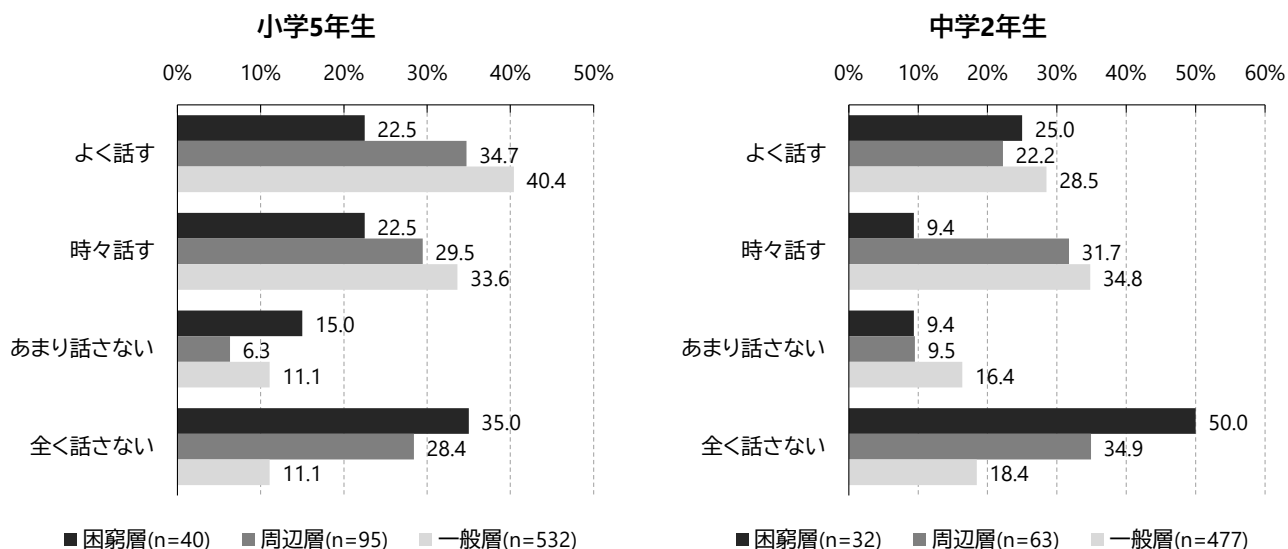
また、中学2年生の困窮層と一般層はどちらも「全く話さない」が最も多く、困窮層は71.9%で、一般層より10ポイント以上上回っています。



## ⑧学習じゅくや習い事の先生

ふだん会話する相手との頻度のうち、学習じゅくや習い事の先生についてみると、小学5年生の困窮層は「全く話さない」が最も多く35.0%で、一般層より20ポイント以上上回っています。一般層は「よく話す」が最も多くなっています。

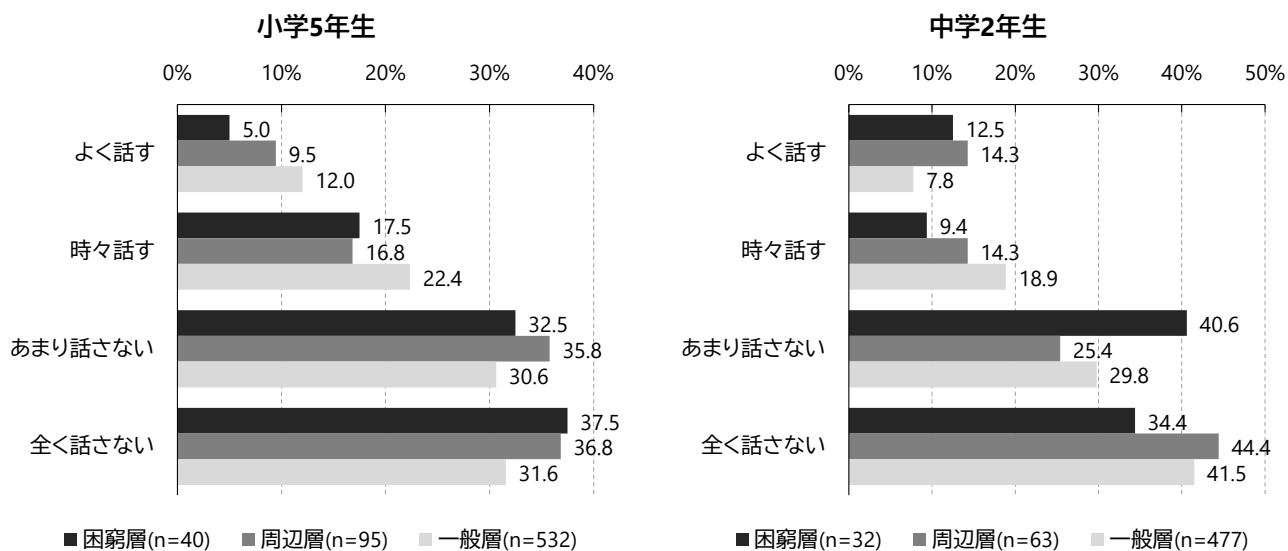
また、中学2年生の困窮層は「全く話さない」が最も多く50.0%で、一般層より30ポイント以上上回っています。一般層は「時々話す」が最も多くなっています。



## ⑨その他の大人

ふだん会話する相手との頻度のうち、その他の大人についてみると、小学5年生の困窮層と一般層はどちらも「全く話さない」が最も多く、困窮層は37.5%で、一般層より5ポイント以上上回っています。

また、中学2年生の困窮層は「あまり話さない」が最も多く40.6%で、一般層より10ポイント以上上回っています。一般層は「全く話さない」が最も多くなっています。



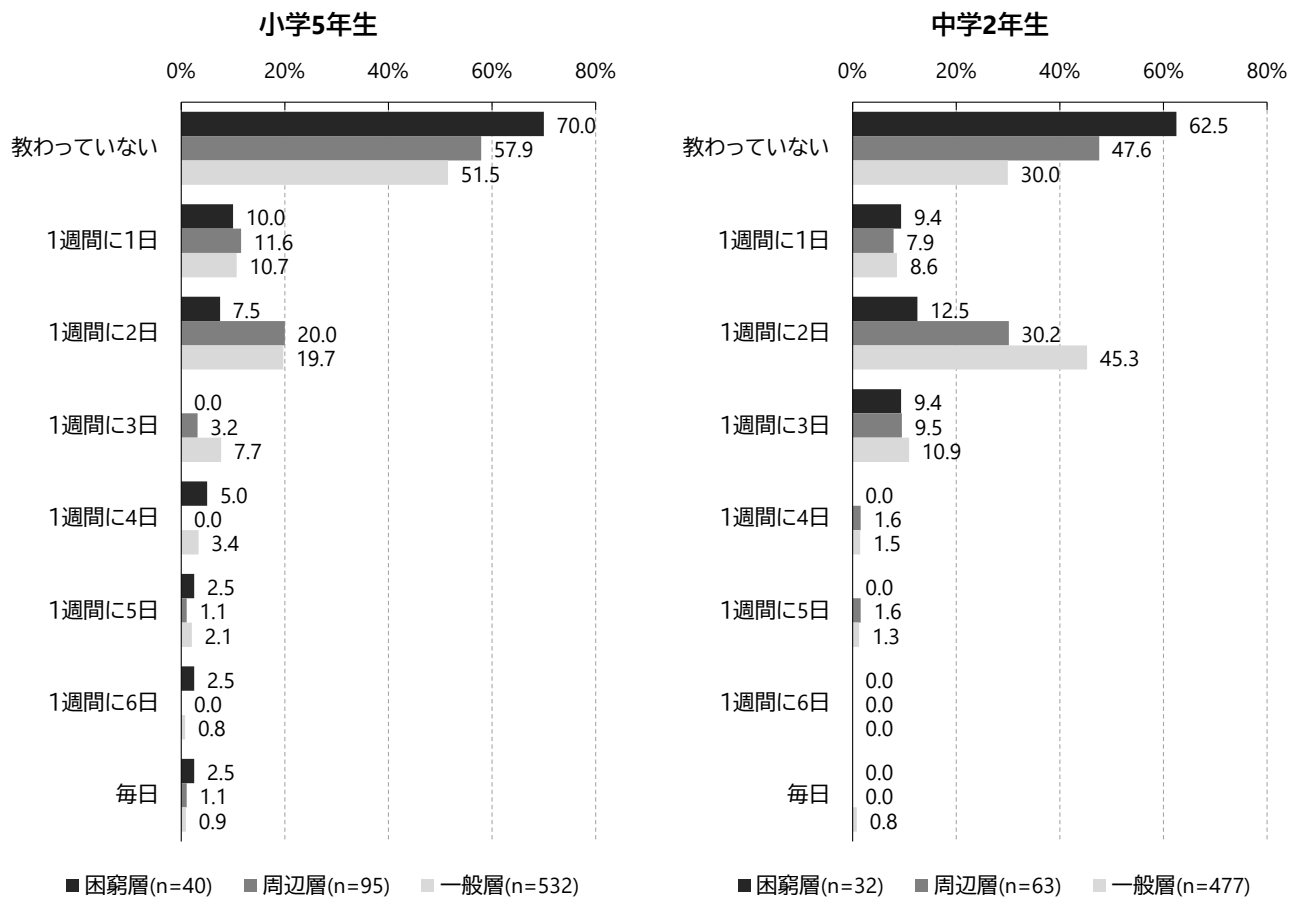
### (4) ご家族のお世話や悩み事などについてのまとめ

- 困窮層の家庭の子どもは、ふだん家のことや家族のお世話を「特にしていない」と回答している割合が一般層と比べて低くなっており、主に“洗い物や洗たく、そうじ、料理、買物”と“兄弟姉妹のお世話”を「している」と回答している割合が高くなっています。
- 誰かに相談したい悩み事や心配事があるかという設問に対して、困窮層の家庭の子どもうち、小学5年生では大きな差は見られませんが、中学2年生では一般層と比べてすべての項目で割合が高く、一人が複数の悩み事や心配事を抱えています。そのうち、特に「学校の勉強のこと」と回答している割合は高く、半数を占めています。この傾向は、5年前の調査結果から大きく変わっていません。

## 学校のことや勉強のことについて

問 21 あなたは、学習じゅくや家庭教師に勉強を教わっていますか。教わっている場合、1週間に何日教わっていますか。

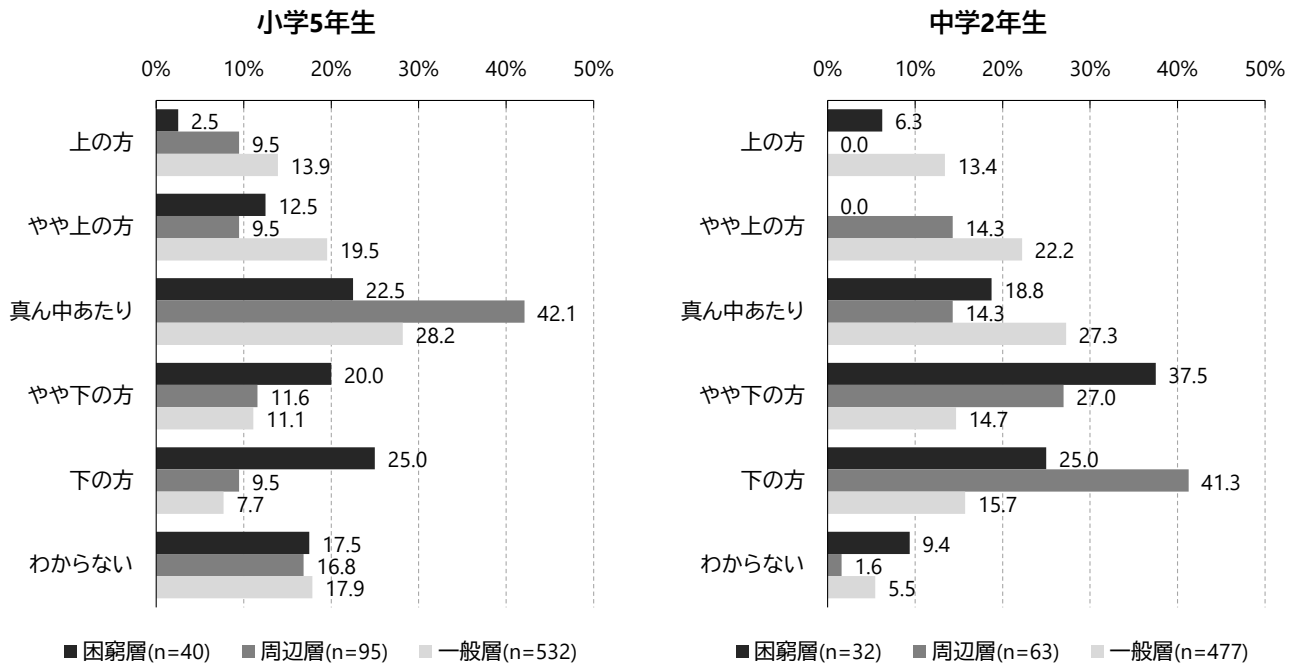
学習じゅくや家庭教師に勉強を教わっている週単位の頻度についてみると、小学5年生では「教わっていない」は、困窮層が一般層より15ポイント以上、中学2年生は30ポイント以上上回っています。



問 22 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。

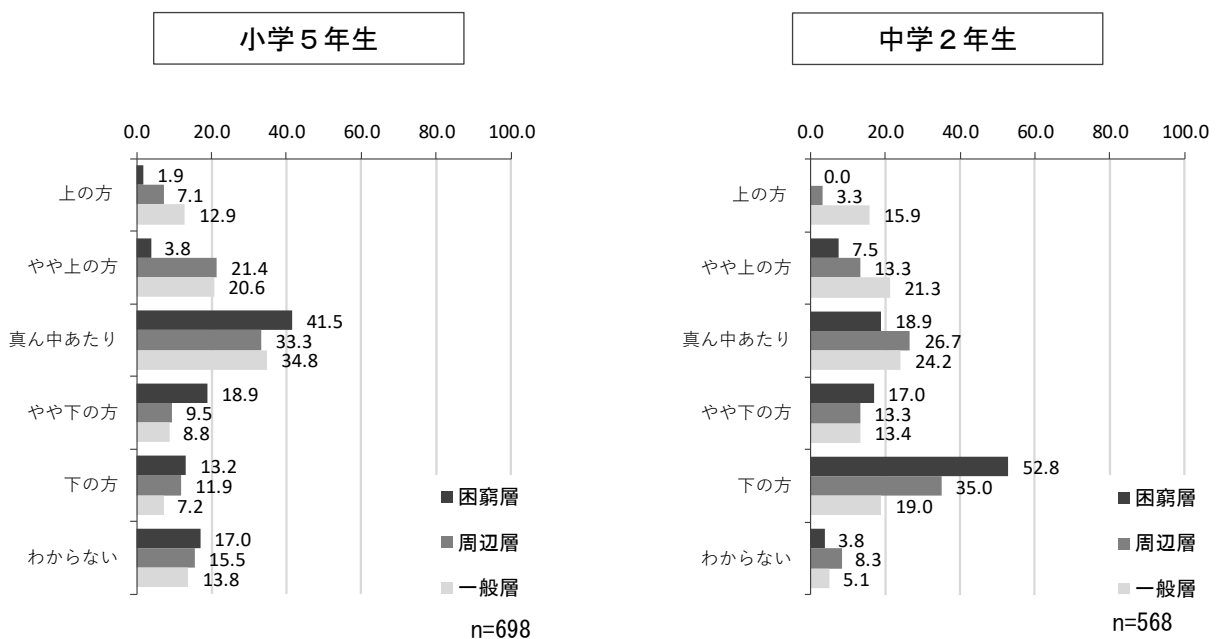
クラスにおける自分の成績の位置について、小学5年生の困窮層は「下の方」が最も多く25.0%で、一般層より15ポイント以上上回っています。一般層は「真ん中あたり」が最も多くなっています。

また、中学2年生の困窮層は「やや下の方」が最も多く37.5%で、一般層より20ポイント以上上回っています。一般層は「真ん中あたり」が最も多くなっています。



前回調査結果との比較

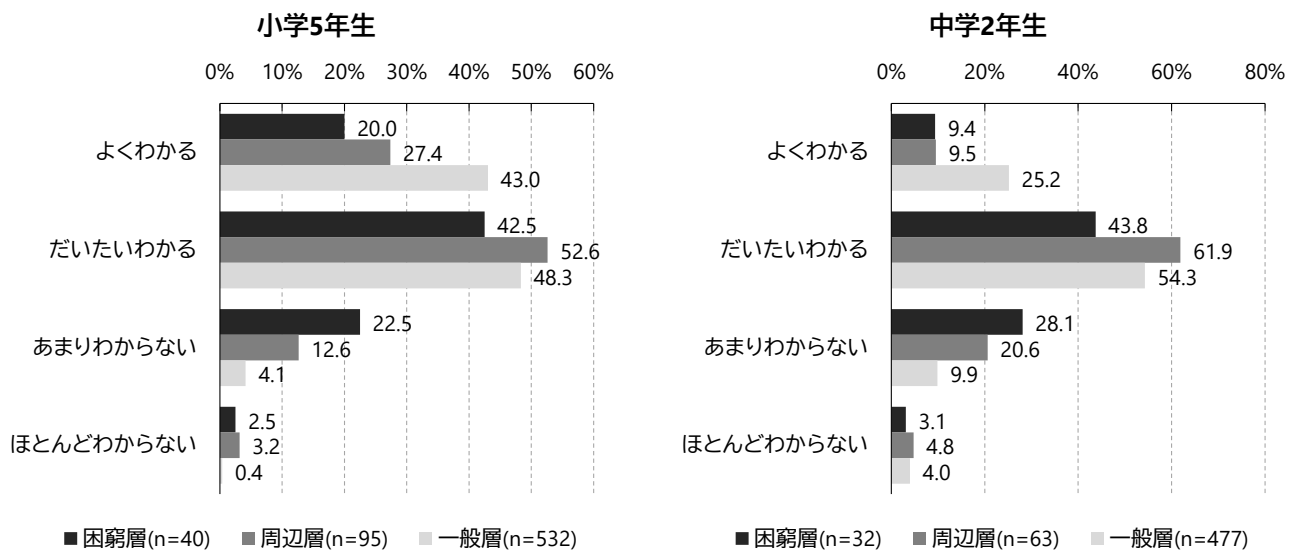
前回調査結果におけるクラスにおける自分の成績の位置についてみると、小学5年生の貧困層では「真ん中あたり」が最も多い回答でしたが、今回調査では「下の方」が最も多くなっています。また、中学2年生の貧困層では「下の方」が最も多い回答でしたが、今回調査では「やや下の方」が最も多くなっています。



問 23 あなたは、学校の授業の内容はどれくらいわかりますか。

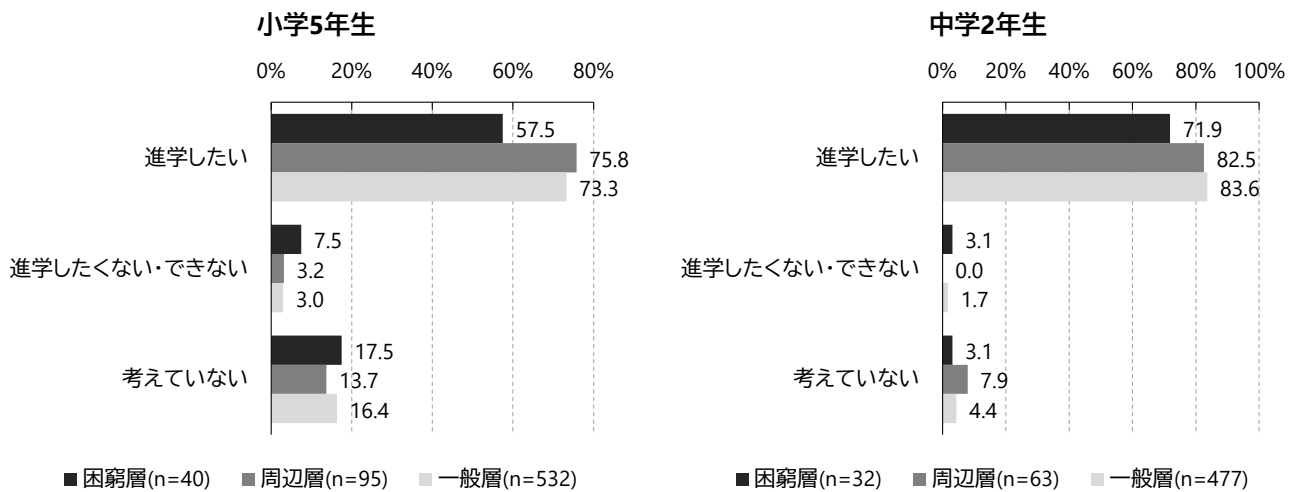
学校の授業の理解度についてみると、小学5年生では「だいたいわかる」は、困窮層が一般層より5ポイント以上、中学2年生は10ポイント以上下回っています。

また、小学5年生、中学2年生ともに「あまりわからない」は、困窮層が一般層より15ポイント以上上回っています。



問 24 あなたは、しょう来、高校(高等学校)に進学したいと思いますか。

しょう来、高校（高等学校）に進学したいかについてみると、小学5年生では「進学したい」は、困窮層が一般層より15ポイント以上、中学2年生は10ポイント以上上回っています。

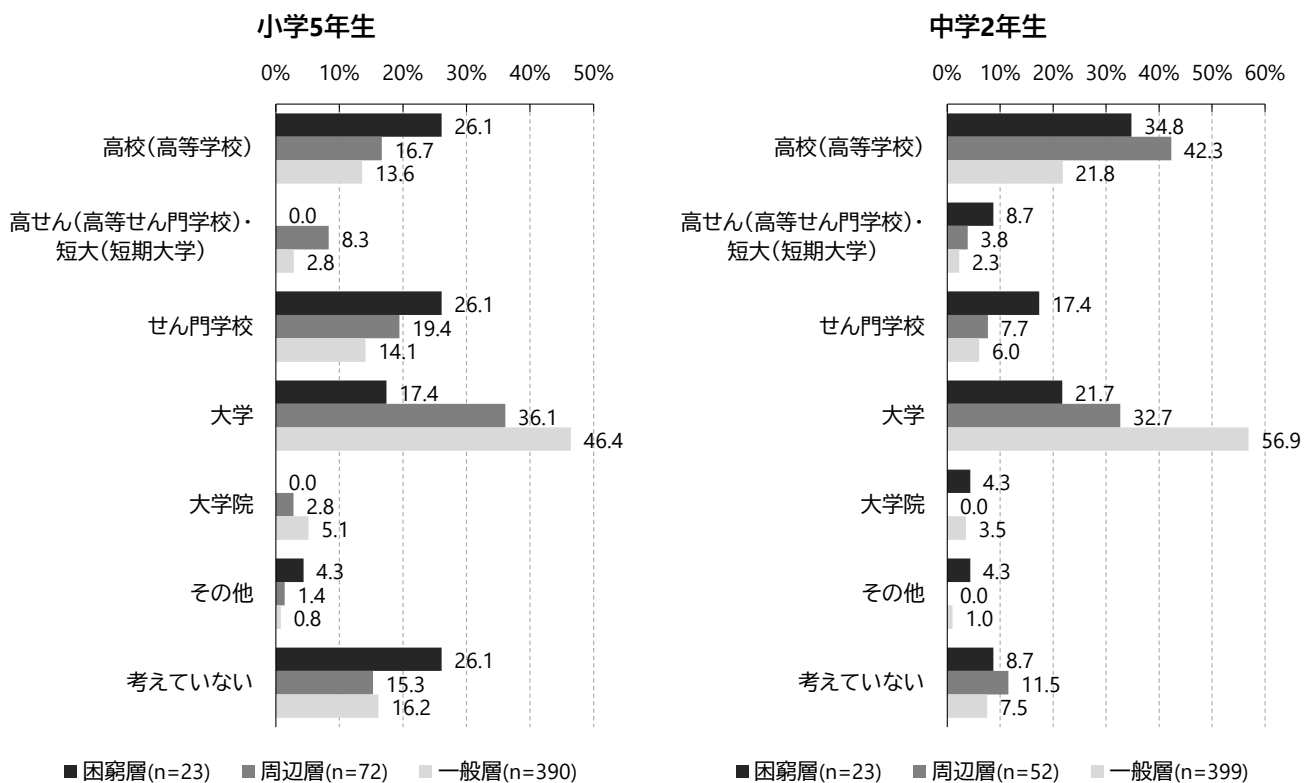


問 24 で「進学したい」と回答した方

問 25 あなたは、しょう来どの学校までできれば行きたいと思いますか。

しょう来の進学希望についてみると、小学5年生、中学2年生ともに「高校（高等学校）」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っています。

また、小学5年生では「大学」は、困窮層が一般層より25ポイント以上、中学2年生は35ポイント以上上回っています。

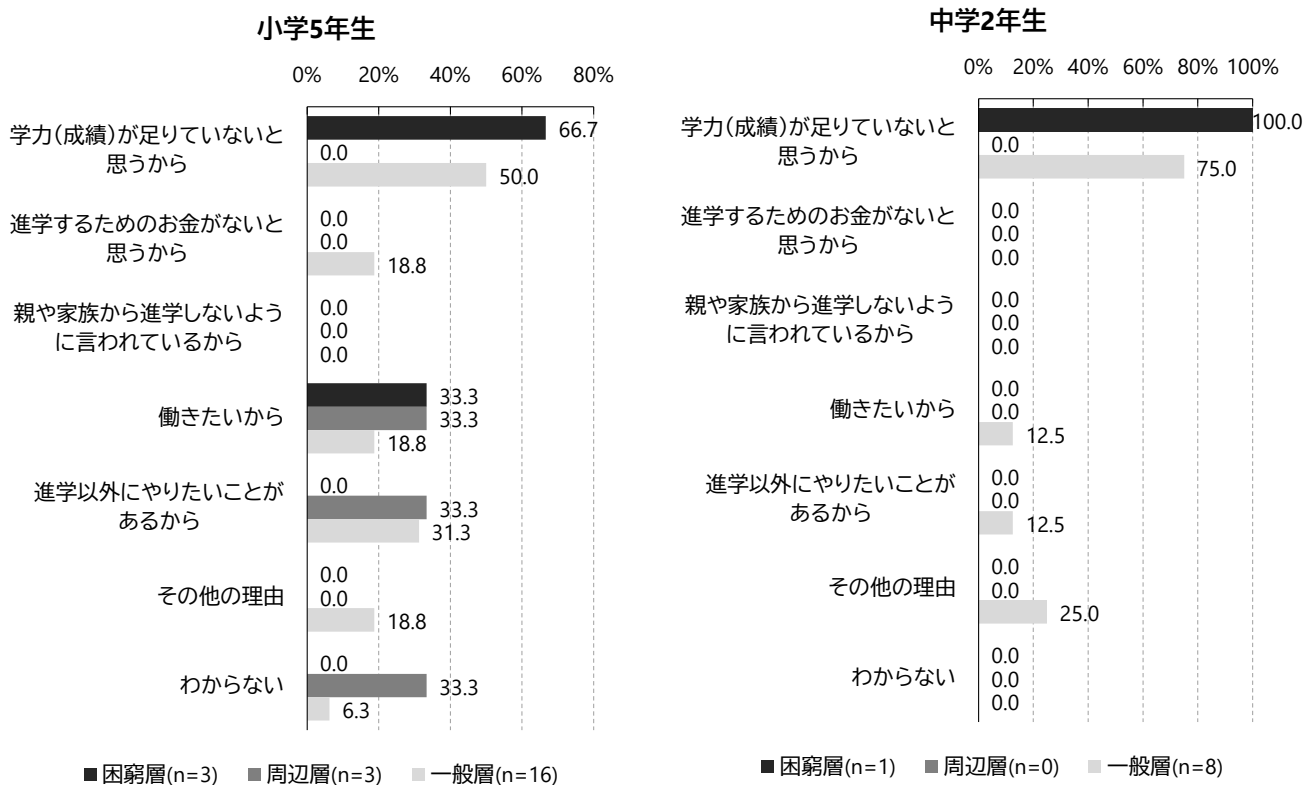




問 24 で「進学したくない・できない」と回答した方

問 26 しょう来、高校(高等学校)に進学したくない・できない理由を教えてください。(複数回答)

しょう来、高校(高等学校)に進学したくない・できない理由についてみると、小学5年生、中学2年生の困窮層のいずれも「学力(成績)が足りていないと思うから」が最も多く、それぞれ66.7%、100.0%となっています。



(5) 学校のことや勉強のことについてのまとめ

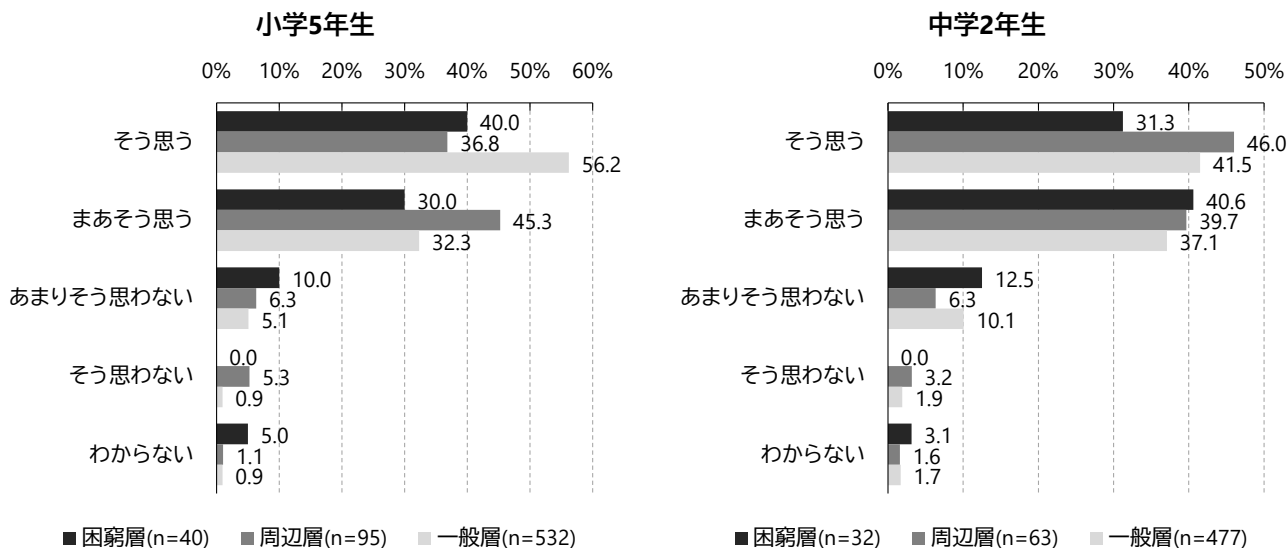
- 困窮層の家庭の子どもは、学習じゅくや家庭教師に「勉強を教わっていない」と回答している割合が一般層と比べて低く、特に中学2年生では2倍以上の差があります。
- 困窮層の家庭の子どもは、クラスの中での成績の順位を「やや下の方、または下の方」と回答している割合が高く、特に中学2年生では6割以上が回答しており、一般層と比べて2倍以上の差があります。また、学校の授業について、困窮層の家庭の子どもは、「あまりわからない」と回答している割合が一般層と比べて高くなっており、勉強に対する自信や楽しいと感じる意識に格差が生じてしまっていることが懸念されます。
- 困窮層の家庭の子どもは、将来の進学先として「大学まで進学したい」と回答している割合が一般層と比べて低く、2倍以上の差があります。一方、“高校(高等学校)”と“せん門学校”まで「進学したい」と回答している割合は高くなっています。

## 日常生活の中で感じていることについて

問 27 あなたが日常生活の中で感じていることについて、教えてください。

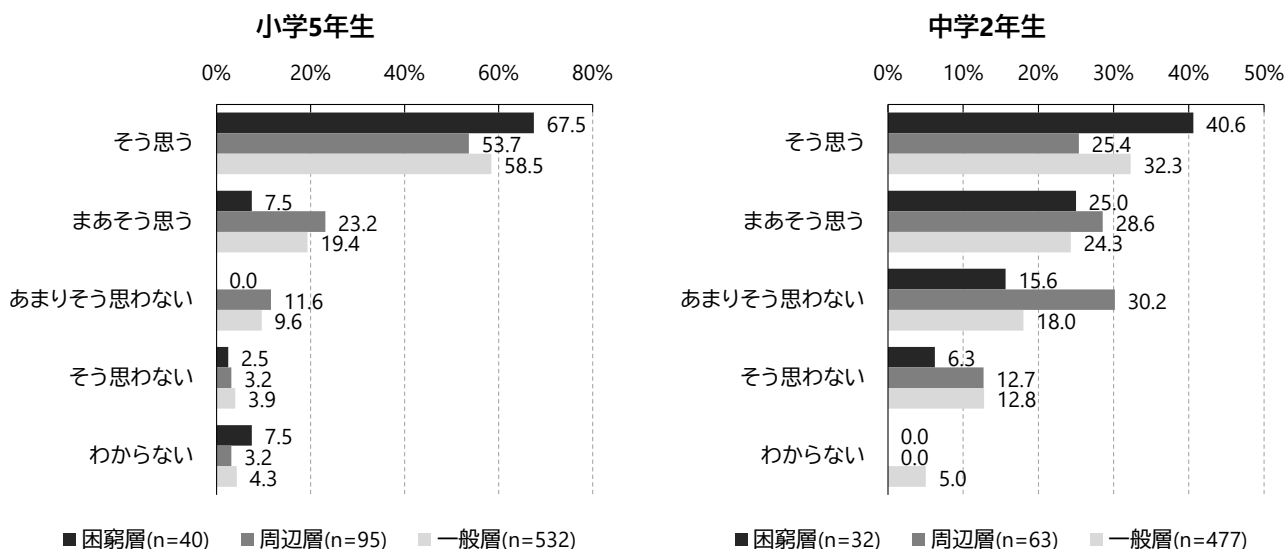
### ①努力すればできるようになる

日常生活の中で感じていることのうち、努力すればできるようになるについてみると、小学5年生では「そう思う」は、困窮層が一般層より15ポイント以上、中学2年生は10ポイント以上下回っています。



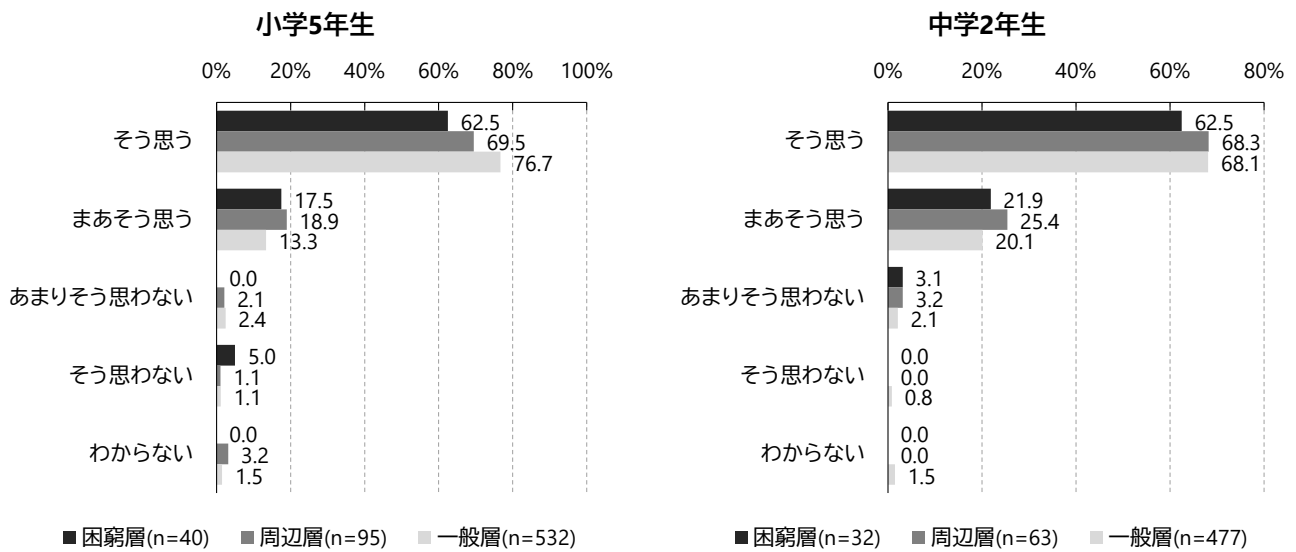
### ②自分にはしょう来の夢や目標がある

日常生活の中で感じていることのうち、自分にはしょう来の夢や目標があるについてみると、小学5年生、中学2年生ともに「そう思う」は、困窮層が一般層より5ポイント以上上回っています。



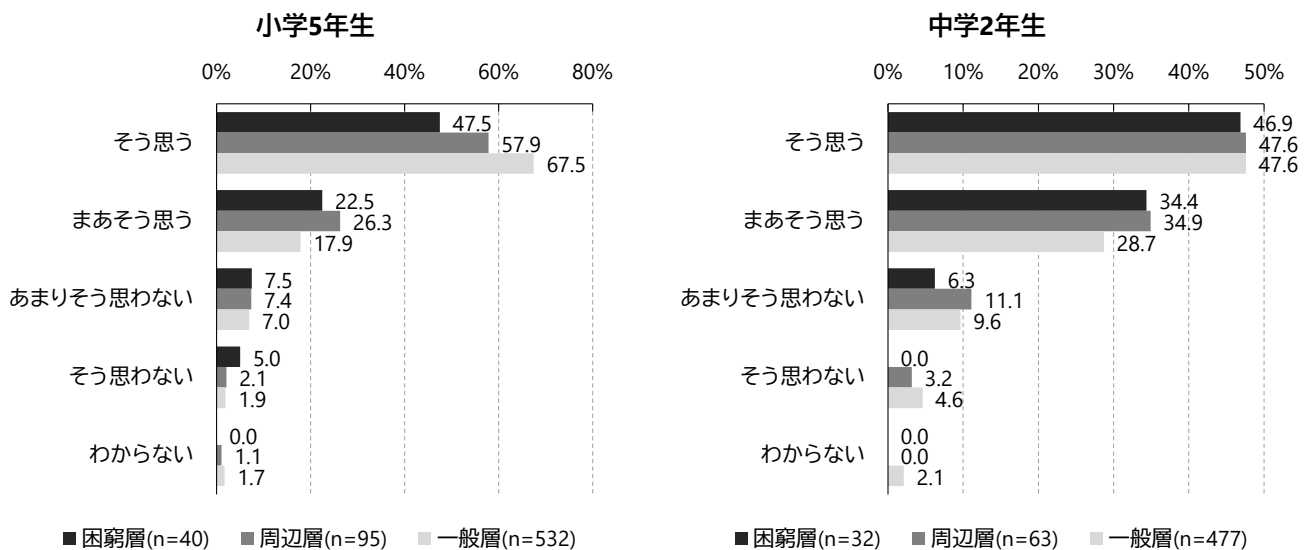
### ③家族は自分を大切にしてくれる

日常生活の中で感じていることのうち、家族は自分を大切にしてくれるについてみると、小学5年生では「そう思う」は、困窮層が一般層より10ポイント以上、中学2年生は5ポイント以上下回っています。



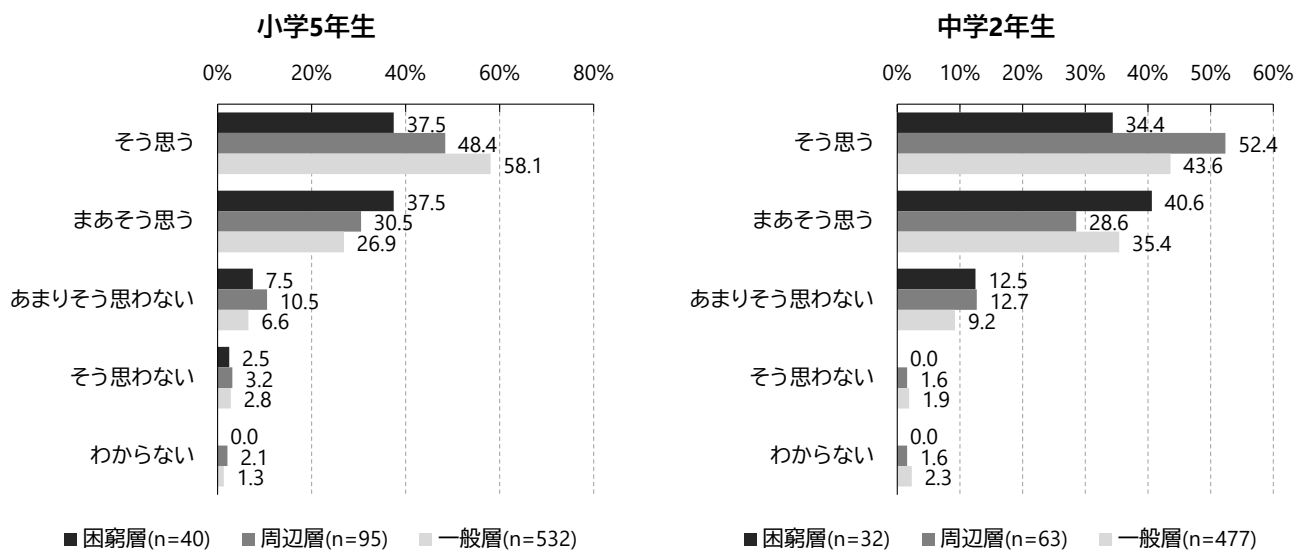
### ④がんばれば、いいことがある

日常生活の中で感じていることのうち、がんばれば、いいことがあるについてみると、小学5年生では「そう思う」は、困窮層が一般層より20ポイント下回っており、中学2年生は困窮層と一般層の差が5ポイント未満で同程度となっています。



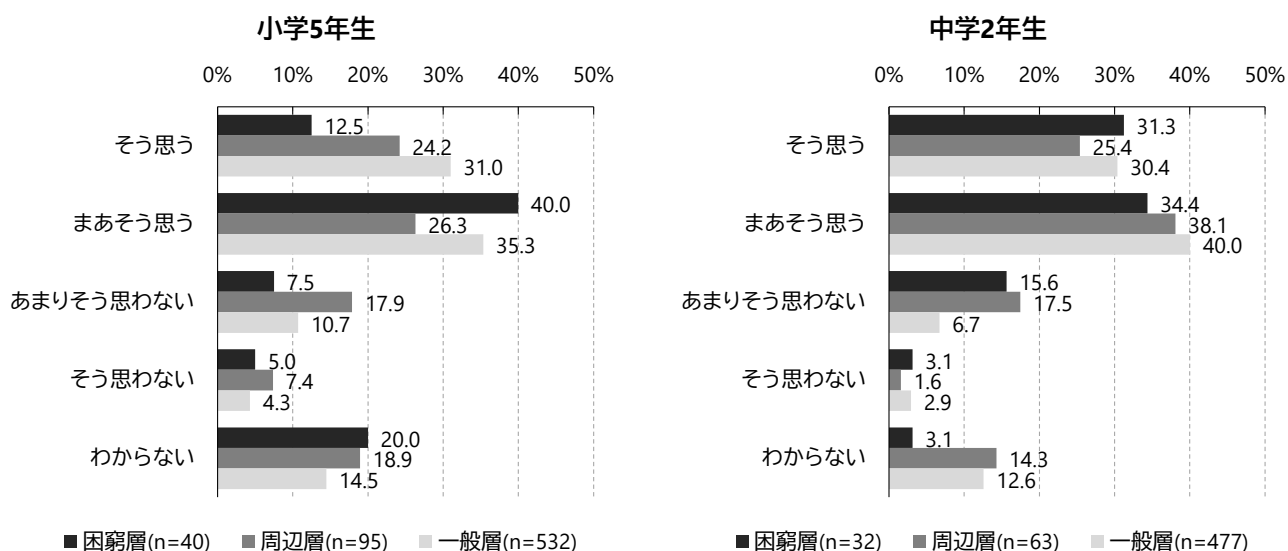
### ⑤毎日の生活が楽しい

日常生活の中で感じていることのうち、毎日の生活が楽しいについてみると、小学5年生では「そう思う」は、困窮層が一般層より20ポイント以上、中学2年生は5ポイント以上下回っています。



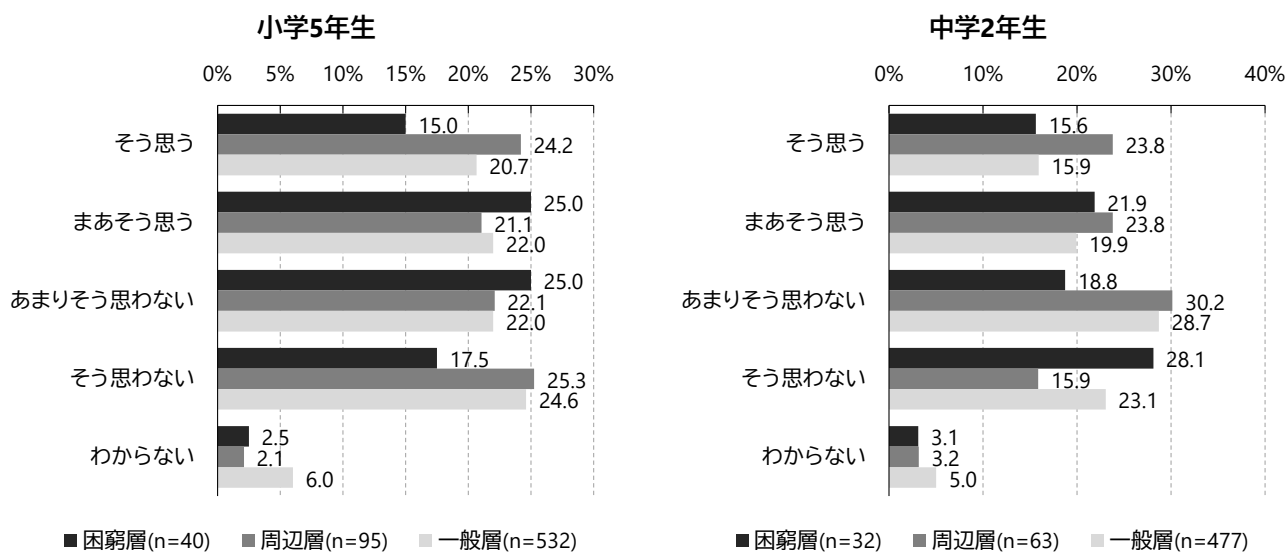
### ⑥自分は友達に好かれている

日常生活の中で感じていることのうち、自分は友達に好かれているについてみると、小学5年生では「そう思う」は、困窮層が一般層より15ポイント下回っており、中学2年生は困窮層と一般層の差が5ポイント未満で同程度となっています。



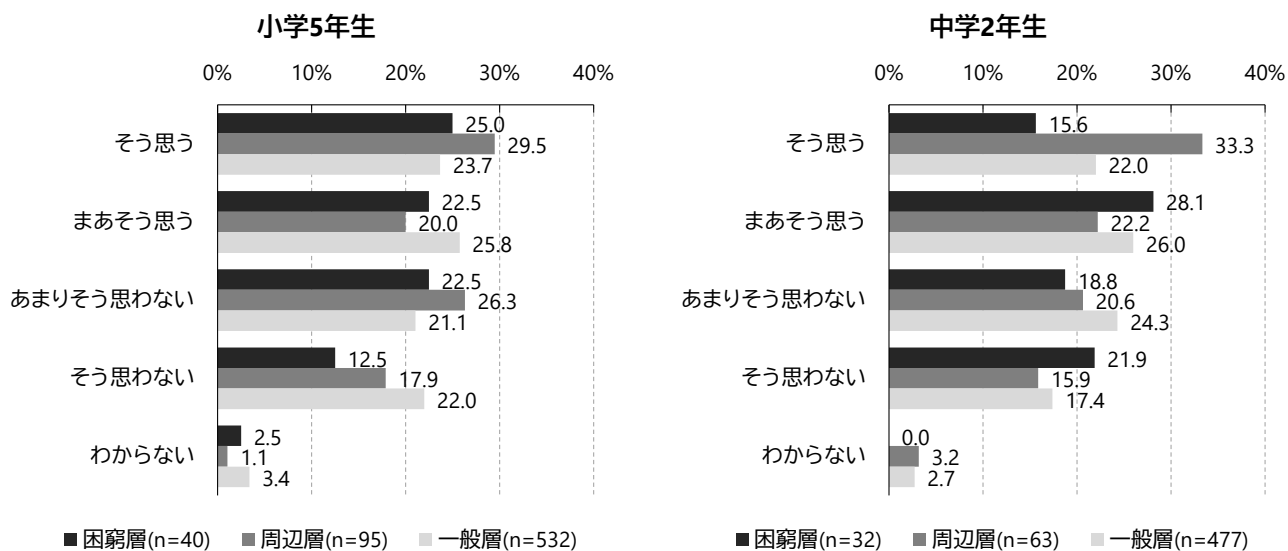
### ⑦さびしいと感じることがある

日常生活の中で感じていることのうち、さびしいと感じることがあるについてみると、小学5年生では「そう思う」は、困窮層が一般層より5ポイント以上下回っており、中学2年生は困窮層と一般層の差が5ポイント未満で同程度となっています。



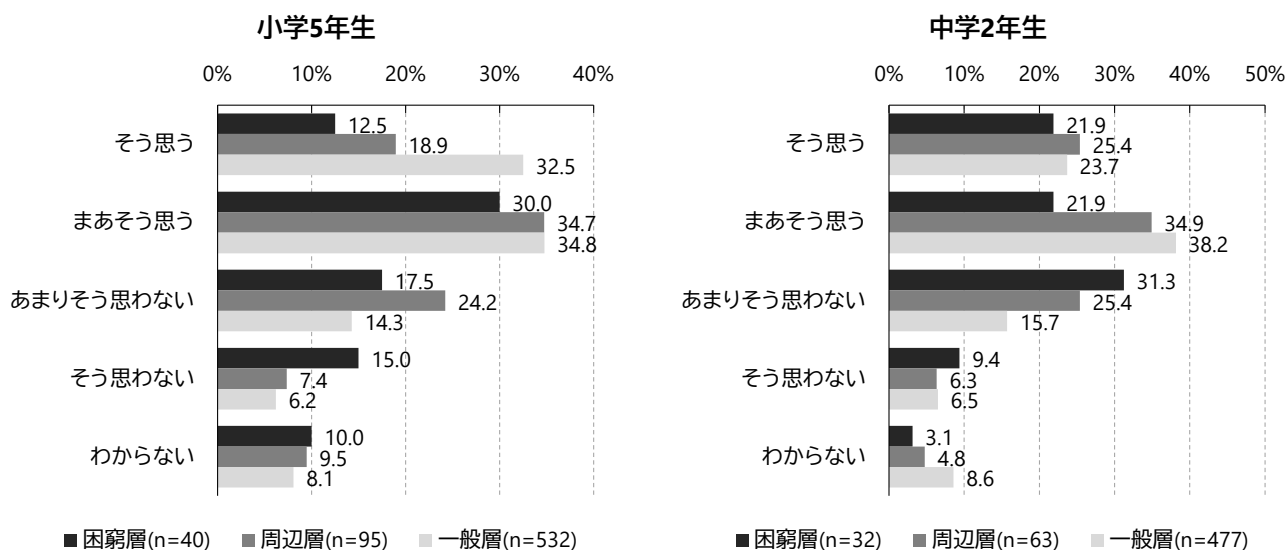
### ⑧不安に感じる

日常生活の中で感じていることのうち、不安に感じるについてみると、小学5年生では「そう思う」は、困窮層と一般層の差が5ポイント未満で同程度となっており、中学2年生は困窮層が一般層より5ポイント以上下回っています



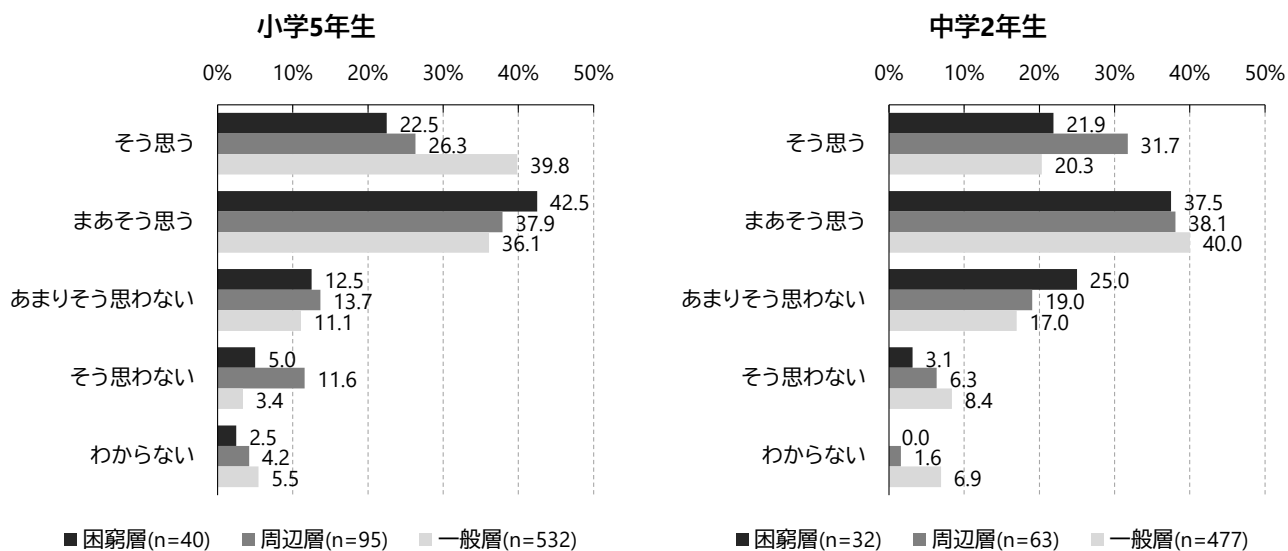
### ⑨自分はだれかの役に立つことができる

日常生活の中で感じていることのうち、自分はだれかの役に立つことができるについてみると、小学5年生では「そう思う」は、困窮層が一般層より 20 ポイント下回っており、中学2年生は困窮層と一般層の差が5ポイント未満で同程度となっています。



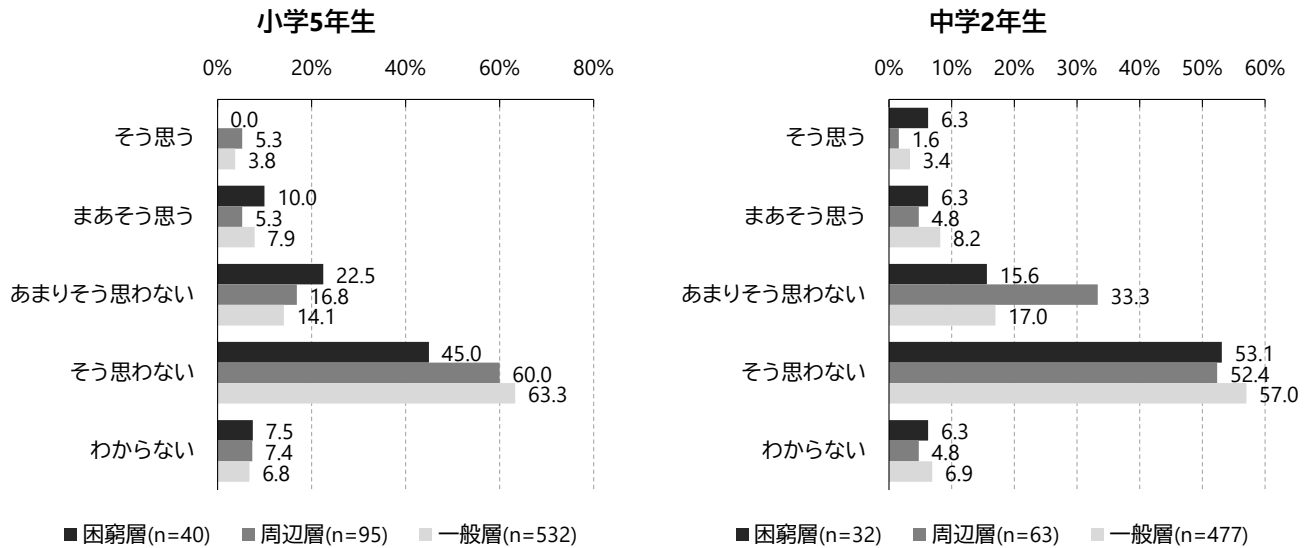
### ⑩大人は信用できる

日常生活の中で感じていることのうち、大人は信用できるについてみると、小学5年生では「そう思う」は、困窮層が一般層より 15 ポイント以上下回っており、中学2年生は困窮層と一般層の差が5ポイント未満で同程度となっています。



### ⑪家族のせいでやりたいことができない

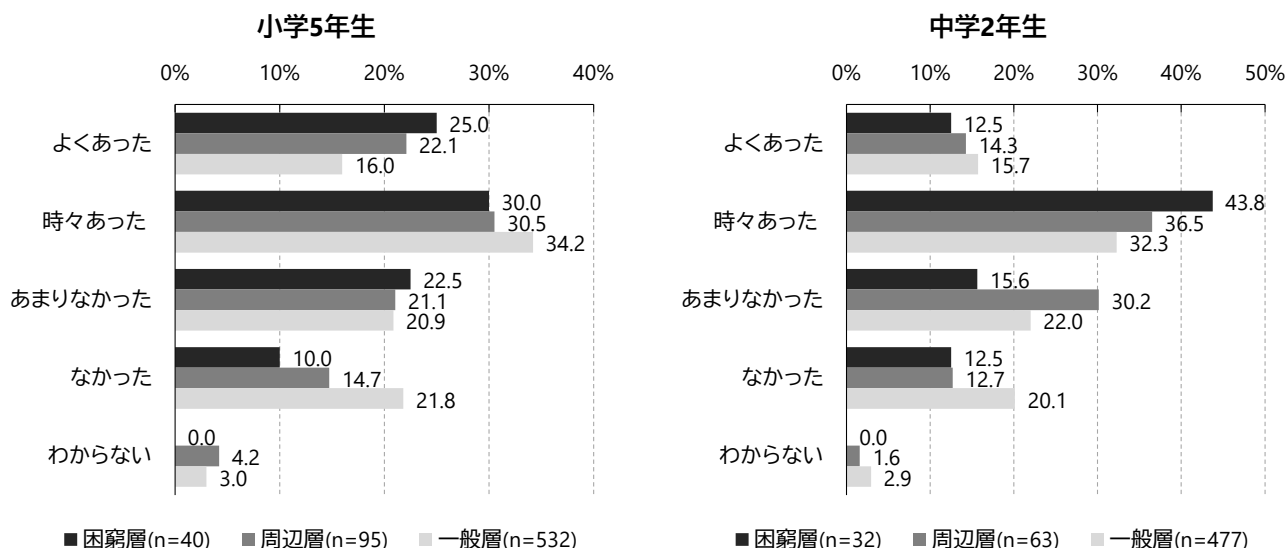
日常生活の中で感じていることのうち、家族のせいでやりたいことができないについてみると、小学5年生では「そう思わない」は、困窮層が一般層より15ポイント以上下回っており、中学2年生は困窮層と一般層の差が5ポイント未満で同程度となっています。



問 28 あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。

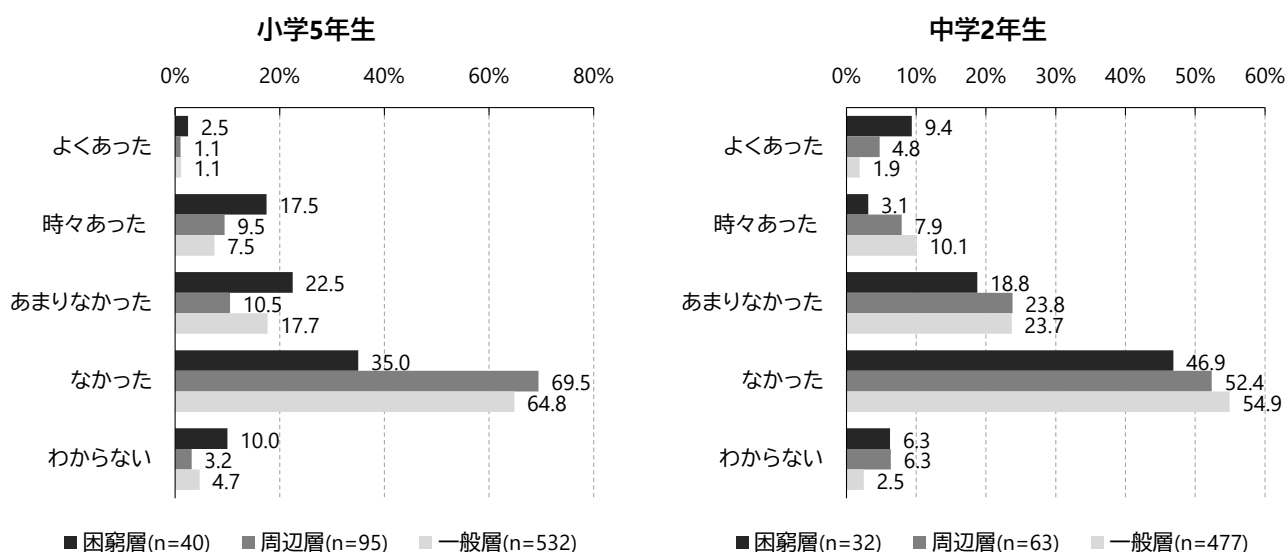
(1)学校に行きたくないと考えたことがあった

これまでのことのうち、学校に行きたくないと考えたことがあったについてみると、小学5年生では「よくあった」は、困窮層が一般層より5ポイント以上上回っており、中学2年生は「時々あった」が10ポイント以上上回っています。



(2)夜おそくまで子どもだけで過ごしたことがあった

これまでのことのうち、夜おそくまで子どもだけで過ごしたことがあったについてみると、小学5年生では「時々あった」は、困窮層が一般層より10ポイント上回っており、中学2年生は「よくあった」が5ポイント以上上回っています。

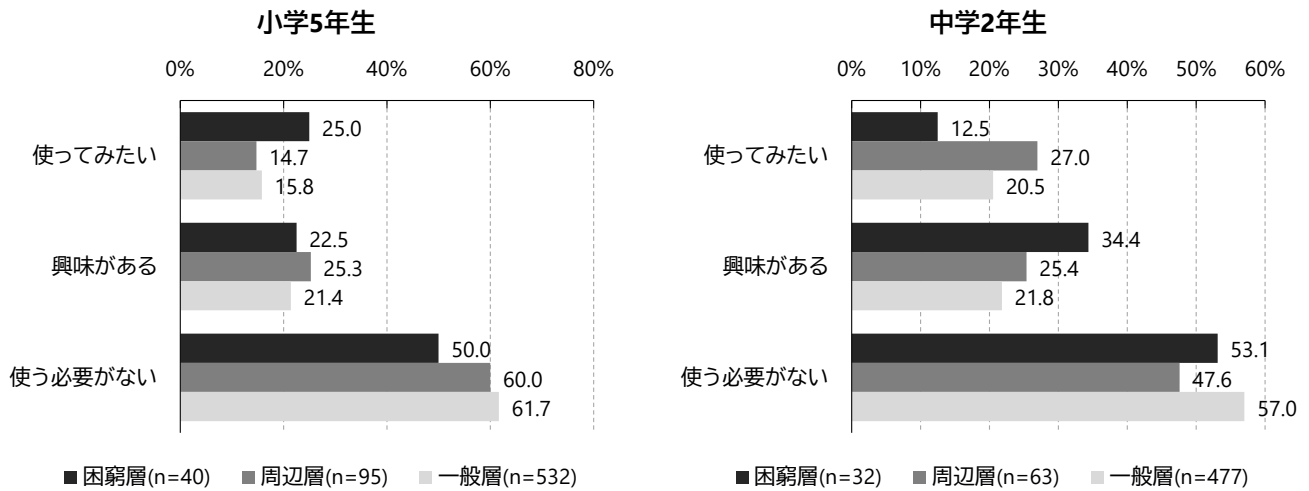




問 29 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。

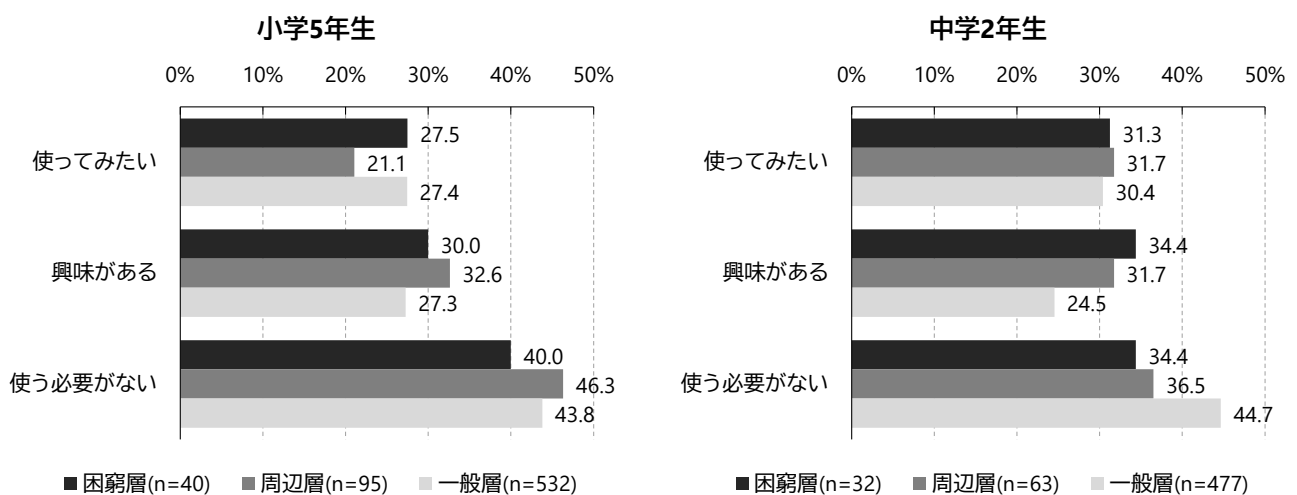
①(家以外で)平日の放課後に夜までいることができる場所

子どもが利用する場所のうち、(家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所についてみると、小学5年生では「使ってみたい」は、困窮層が一般層より5ポイント以上上回っており、中学2年生は「興味がある」が10ポイント以上上回っています。



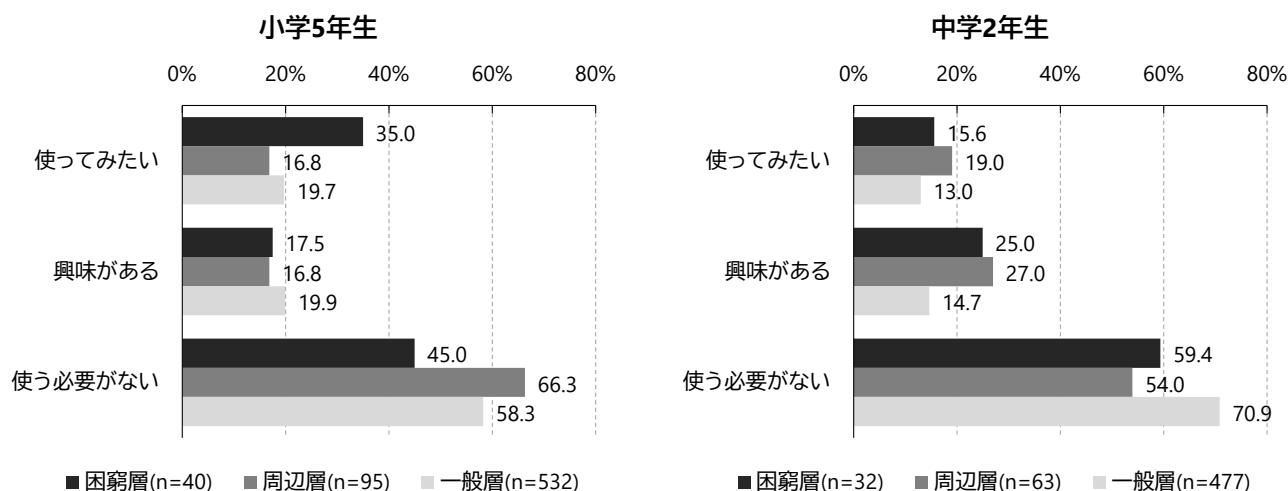
②(家以外で)休日にいることができる場所

子どもが利用する場所のうち、(家以外で) 休日にいることができる場所についてみると、小学5年生ではいずれの項目も、困窮層と一般層で5ポイント未満の差で同程度となっており、中学2年生は「興味がある」が5ポイント以上上回っています。



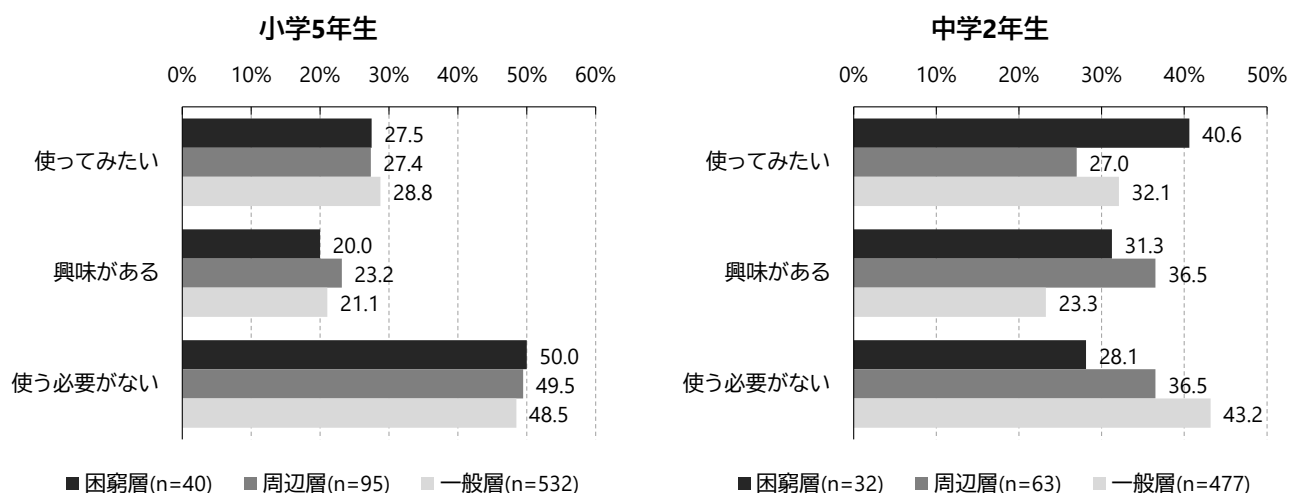
### ③家の人がないとき、夕ご飯を食べることができる場所

子どもが利用する場所のうち、家の人がないとき、夕ご飯を食べることができる場所についてみると、小学5年生では「使ってみたい」は、困窮層が一般層より15ポイント以上上回っており、中学2年生は「興味がある」が10ポイント以上上回っています。



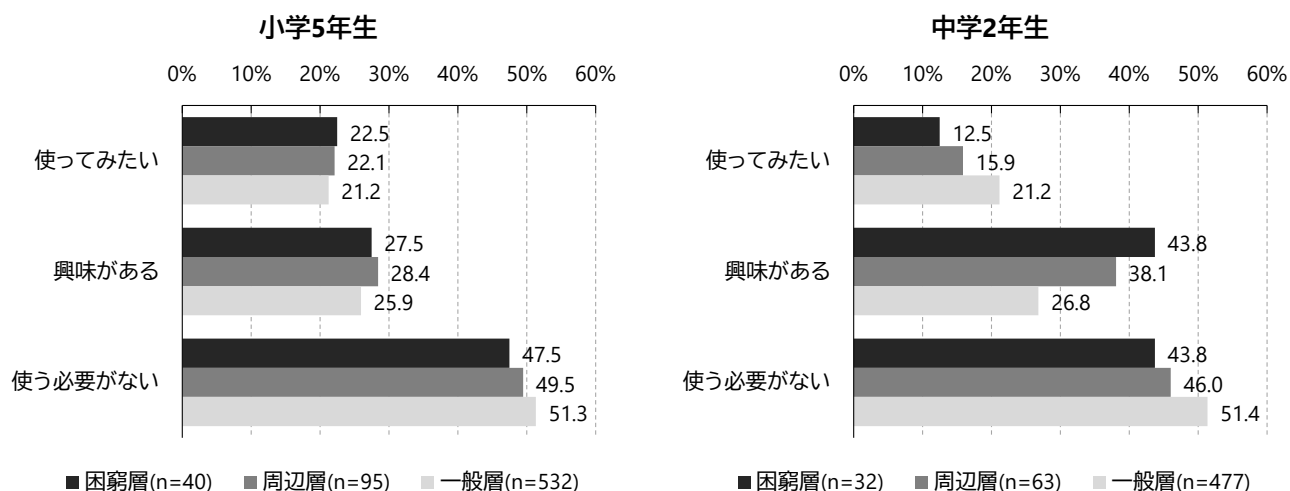
### ④家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所

子どもが利用する場所のうち、家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所についてみると、小学5年生ではいずれの項目も、困窮層と一般層で5ポイント未満の差で同程度となっており、中学2年生は「使ってみたい」と「興味がある」がそれぞれ5ポイント以上上回っています。



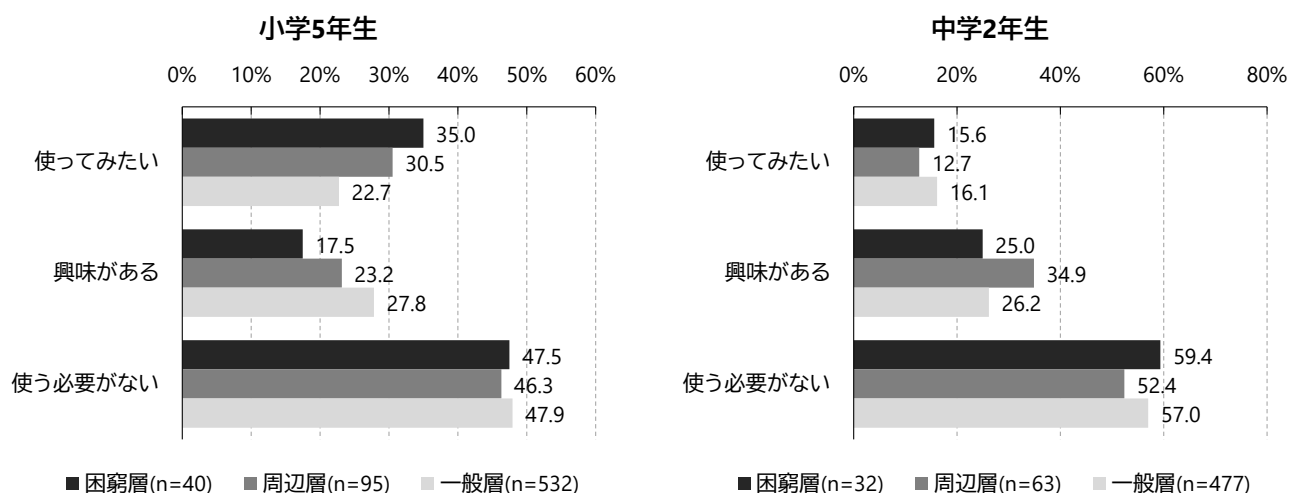
## ⑤年上の人が勉強を教えてくれる場所

子どもが利用する場所のうち、年上の人が勉強を教えてくれる場所についてみると、小学5年生ではいずれの項目も、困窮層と一般層で5ポイント未満の差で同程度となっており、中学2年生は「興味がある」が15ポイント以上上回っています。



## ⑥(学校以外で)何でも相談できる場所

子どもが利用する場所のうち、(学校以外で)何でも相談できる場所についてみると、小学5年生では「使ってみたい」は、困窮層が一般層より10ポイント以上上回っており、中学2年生はいずれの項目も、困窮層と一般層で5ポイント未満の差で同程度となっています。



(6) 日常生活の中で感じていることについてのまとめ

- 日常生活の中で感じることとして、“努力すればできるようになる”、“自分にはしょう来の夢や目標がある”などの自己肯定感や向上心などに関係する項目について、「そう思う」と「まあそう思う」の割合の合計と、「あまりそう思わない」と「そう思わない」の割合の合計でみると、ほとんどの項目で困窮層、周辺層、一般層の順で段階的に割合が増減している傾向がみられないことから、生活困窮家庭であることの影響は大きくないと思われます。しかし、“自分はだれかの役に立つことができる”という自分の行いが他者の幸福や満足に貢献できるという行動への自信は一般層、周辺層、困窮層の順で段階的に割合が低くなっていることから、生活困窮状況の影響を受けている可能性が考えられます。
- これまでに、“学校に行きたくないと思ったことがあった”について「よくあった」と「時々あった」の割合の合計でみると、一般層、周辺層、困窮層の順で段階的に割合が高くなっていることから、生活困窮の影響を受けている可能性が考えられます。また、“夜おそくまで子どもだけで過ごしたことがあった”については、小学5年生のみ生活困窮状況の影響を受けている可能性が考えられます。
- 使ってみたい場所について、困窮層の家庭の小学5年生は、“（家以外で）平日の放課後に夜までいることができる場所”と“家の人がいなくて、夕ご飯を食べることができる場所”、“（学校以外で）何でも相談できる場所”の回答の割合が一般層と比べて高くなっており、親の帰りが遅かったり、夕食を1人または兄弟と取っているところから利用ニーズが高まっている可能性が示唆されます。また、中学2年生は、“家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所”の回答の割合が一般層と比べて高くなっており、学習環境の充実を家以外で求めていると考えられます。

問 30 学校や家での生活の中で、こまっていること、なやんでいること、こうだったらいいなと思うことがあれば、何でも自由に書いてください。(自由記述)

▼小学5年生子ども票\_生活困難度別区分別の意見等(一部抜粋・要約)

【困窮層の意見等】

勉強以外の授業や行事	●歌の練習をして、大きくせいかを出せるようにしたい。【女・ひとり親】
友だちやクラスメイト	●自分の意見がうまく言えればと思ってる。しつこい人がいるからその人との関係をたちたい。友達がいなくなることが心配。きれいな人がいる。その人のことを前からがまんしている、自分の意見は聞いてくれないから。【男・ふたり親】
	●あんまり友達とうまくいっていないから悩んでいる。【男・ふたり親】
	●好きな人をからかわれること。【女・ひとり親】
将来	●大学に合格できるか。【男・ふたり親】
学校環境	●学校にスマホを持ってきたい。【女・ひとり親】
生活環境	●もうちょっと、ねる時間が長かったらいいなと思う。【女・ふたり親】
自分の性格、外見、健康等	●自分が運動しんけいがないこと。【男・ふたり親】

【周辺層の意見等】

家族	●おかあさんが、自由にさせてくれない。【男・ふたり親】
	●最近、親が気持ち悪く感じるようになりました。お母さんは、大丈夫なんですけど、お父さんを気持ち悪いと思うようになりました。お父さんは、そんなこと思ってないんだろうけど…。【女・ふたり親】
勉強	●宿題をなくしてほしい。【女・ひとり親】
	●宿題をなくしてほしい。【男・ふたり親】
友だちやクラスメイト	●友だちが自分のことを何か言っているような気がしている(最近)。【女・ひとり親】
	●友だちにわるぎはないと思うけど、物をかくされたり、トイレに行くたびに、うわばきをかくされる。【女・その他】
	●よく話す子がいて、その子はクラスで嫌われてる方だからか、友達が前より話してくれなくなった。正直よく話す子とあまりしゃべりたくない。【女・ふたり親】
先生	●担任の先生が差別をしたり、怒るところではないようなことで怒ってくるので辛いです。【女・ふたり親】
将来	●色々な夢を持った人が、その夢に挑戦している人たちに、学ばせてもらえる場所があったらいいなと思います。【女・ふたり親】
学校環境	●給食を減らせるようにしてほしいです。【女・ふたり親】
	●学校にエレベーターがほしい。理由：毎年けがをしていて、階段が辛いから。体育館にエアコンがほしい。理由：夏はあつくて、ぶったおれそうだから。送迎バスがほしい(行きも帰りも)(家のまえまで)。理由：家が遠いから。けがをしていても、みんなといっしょの時間に学校に行ける。よろしくおねがいます!【女・ふたり親】

●I'm a Filipino and a transferee here in Mishima. I want and wish that my classmates and teachers understand me and hoping that they extend more in assisting my needs not to be felt neglected because of the language. (私はフィリピン人で、ここ三島に転勤してきました。私はクラスメートや先生が私のことを理解してくれることを願っていますし、言葉のせいで私のニーズが無視されていると感じられないように、彼らがもっと協力してくれることを願っています。)【男・ふたり親】
相談・登校拒否
●学校に行きたくないから、行かなくてもよかったらいい。【女・ひとり親】
●学校は、行きたい時に行きたい。【男・ふたり親】
放課後の居場所・学習スペース
●夏は放課後5時まで遊べて、冬は放課後4時半まで遊べるようになってほしいなと思います。【女・ふたり親】
生活環境
●おこづかいで買いたい物があっても、消費税や物価高で買いたい物が買えません…。【女・ふたり親】
●朝起きられないのに夜眠れない。なぜ?【女・ふたり親】
●たのしく生活したい。【男・ふたり親】
自分の性格、外見、健康等
●自分の見ためや声が男の子っぽくてやだ、スカートとかワンピースとか着てみたいけど似合わないし、やっぱりズボンでいいやってなる。わたしも友達みたいにかわいい洋服を着れたらいいな。【女・ふたり親】
●自分が相手にどう思われているかわからない。【男・ひとり親】
●自分はよく、ネガティブになったり、他人とくらべて落ち込んでいることが多いのです。どうしたらいいのですか。【女・-】
その他
●保護犬などをただで買えるお店。犬にひどいことをした人が捕まる刑務所。【女・ひとり親】

## 【一般層の意見等】

家族
●弟が暴言を言ったり、さげんだり、タブレットを投げたりしないでほしい。【女・ひとり親】
●親が早く寝るとせかしてくる。家族に会社などで嫌な都合があると子ども(自分、兄弟)に怒鳴りつけてくる。脅されてるようで怖い。【男・ふたり親】
●弟をもっとわがままじゃなくしてほしい。【男・ひとり親】
勉強
●しゅくだいをなくしたい。【男・ひとり親】
●学校の勉強は分かるけれど、いつかおいていかれると思うとすごくこわいし不安です。【女・ふたり親】
●勉強があまりわからなくて、教えてもらうことが多い。【女・ふたり親】
勉強以外の授業や行事
●学校でもっと行事があったら良い。クラブがもっといろんな種類があったら良い。【女・ひとり親】
●コロナ前の時のように、行事や、運動会などをきちんとやってほしい。【女・その他】
●学校でプログラミングやゲームの時間をふやしてほしい。【男・ひとり親】
友だちやクラスメイト
●クラスの中でいじめられている人が、いじめられているところを見たくない。【女・ふたり親】
●他にいじめられている人がいる。私の行動をまねされる。学校が怖く感じるがあった。自然教室の時に嫌な人と同じで嫌なことをされてほとんど泣いた。友達と話している途中なのに帰ってしまって悲しかった。ひいきしているかのように私のことだけ強く言われる(いじめてる人)。【女・ひとり親】
●いっしょに帰ってる友達と友達がよくケンカをします。どうやったら、ケンカしなくなるでしょうか?【女・ふたり親】
将来
●自身が悪いが学力が低いから進学できるかが心配(高校)。【女・ひとり親】

●将来が不安でいっぱい。勉強して将来こまらないようにしなきゃとあせったり将来などのことにネガティブに考えてしまう。そのことから遊ぶ機会が少なく、もう少し友達と遊びたい。【男・ふたり親】
●中学校への進学や受験、友達などのコミュニケーションがとれるかが心配です。【女・ふたり親】
<b>学校環境</b>
●学校の10分休みなどでクラスの何人かが大きい声を出したり、教室を走りまわったりしてとてもあぶないと思います。注意はしているのですが、あまり聞いてくれません。朝の時間も大きい声でさわいだりしている子が何人かいるので、朝の放送が聞こえなかったりすることがあるので、そこがこまっていることです。【男・ふたり親】
●学校の図書室を広くしてほしい。図書室の本を増やしてほしい。教室を広くしてほしい。【女・ふたり親】
●学校の机をもう少し大きくしてほしいです。具体的にいうと広さやひき出しみたいなものがほしいです。【女・ひとり親】
<b>相談・登校拒否</b>
●悩み事が多すぎて辛くて行きたくなかったことがある(学校へ)。【女・ふたり親】
●学校や家で僕は良くストレスがたまります。ストレスの原因が分かりませんが、僕は毎日お腹がすごく痛くなります。親に相談しても、遅刻で学校へ行かしてくれませんが、やはりまたストレスがたまるような事を言われてお腹が痛くなりました。急に話が変わりますが、僕がストレスがたまるようになったのは、3年生からでした。3年生に初めて痛くなった時は大丈夫と思いましたが、その日から一か月に十回はお腹が痛くなるようになりました。四年生になったら一か月に二十回お腹が痛くなるようになりました。そして、五年生になったら、一日に一回はお腹が痛くなるようになりました。良い解決方法が見つかるとうれしいです。【男・ふたり親】
●学校やだな。何も考えずにお風呂に入りたい。1人の時間がもっとほしい。安心したい。もっと早くねむれるようになりたい。1回、自分の好きに正直になりたい。4年生の最初からやり直したい。【女・ふたり親】
<b>放課後の居場所・学習スペース</b>
●家以外でおちつくところがほしい。【女・ふたり親】
●いつでも友達と話せる場所。【男・ふたり親】
●静かに勉強ができる場所がほしい。【女・ふたり親】
<b>生活環境</b>
●自分だけの部屋があったら良い。【男・ふたり親】
●近くに自然や森があったらいいなと思う。【男・ふたり親】
●習い事などの行く時間を自由にしてほしい。【男・ふたり親】
<b>自分の性格、外見、健康等</b>
●なんでもチャレンジしてできる方だけけど、周りからどう思われるか心配。自分の感情を使い分けられる自分がいい。私が生きている意味は、誰のために会って、なんで生きてなきゃいけないの?苦しい悲しいから逃げだしたい。【女・ふたり親】
●家族のお母さんに怒られた時に兄弟に当たっちゃってるから直したい。自分の性格がちょっとしたことで怒っちゃうから、友達を傷つけてるかが不安で、自分も直したいと思ってるけどなかなか直らない。自分が悩み事があると人にあたってしまう。そして、自分の心がきつくなって行って怒ってその後泣いてしまう。【女・ふたり親】
ストレスがたまっているせいか家にいる時に人にあたってしまいます。【女・ふたり親】
<b>余暇</b>
●一人になりたい。少一人になって何もせずに色々考えてみたい。友達がいるより一人でいた方が気楽な気がする。【女・ふたり親】
●他校の小学校と交流する時間がほしいです。【女・ふたり親】
●三島市に水族館がほしい。理由は、三島には海がないから。あと、生がい学習センターの図書館に「サバイバル」シリーズや、歴史のマンガをおいてほしい。【女・ふたり親】
<b>その他</b>
●もっと福祉に力をいれてほしい(家族が障がい者だから)。【男・ふたり親】
●いじめや言い争い、ささいなことでも人はけんかしちゃうから、少しでも苦しむ人がへりますように。【女・-】
●どんなときでも一人ぼっちにしないということ。【男・ふたり親】

▼中学2年生子ども票\_生活困難度別区分別の意見等(一部抜粋・要約)

【困窮層の意見等】

勉強	●勉強がわからない。【女・ひとり親】
相談・登校拒否	●学校の先生があわなくて、休みがちになっている。【女・ふたり親】 ●学級担任がもっと相談のできる時間や、担任以外と相談の気軽にできるところ。【男・ふたり親】
放課後の居場所・学習スペース	●勉強が苦手なので1対1で勉強できるスペースがほしい。【男・ふたり親】
余暇	●お金がある生活。家族と旅行。【男・ひとり親】

【周辺層の意見等】

勉強以外の授業や行事	●持久走がいらないと思います。【男・ふたり親】
友だちやクラスメイト	●もう少し、1人1人に寄りそった人達が増えるといいと思います。【男・ふたり親】 ●人間関係。【女・ひとり親】
先生	●授業の進め方がよく分かりにくい先生もいる。【男・ふたり親】
学校環境	●肩にかみの毛がついていても、しばらくなくていい校則にしてほしい。【女・ふたり親】 ●学校の空き教室をどうにか活用してほしいなと思います。(遊んじゃう人もいるので…)。【女・ふたり親】
部活動	●部活の活気があまりないことに困っています。みんな練習をがんばっているのはわかりますが、どうもよびかけに対する返事やアクションが弱くて活気がありません。副部長としてはなんとかしたいのですが、どうすればいいかわかりません。顧問もあまりやる気がないように感じます。あと少しの間なので、気持ちよく引退したいです。【女・ひとり親】
相談・登校拒否	●よく起き上がった時にふらふらしたり動悸がしたり、目の前が真っ暗になったりしたり、みんなの前で発表などする時に足と手が震えて頭が真っ白になってしまう。病気なのか知りたいけど親に相談できないからどうしたらいいかわかりません。【女・ふたり親】
自分の性格、外見、健康等のこと・悩み	●自分が周りの人のめいわくになっていないのかなど。【女・ふたり親】 ●今自分がした選択で将来が変わってしまうのではないかな、人からどう見られているんだろう、自分のせいで誰か傷ついていないかな、自分の事どう思われているんだろうなど、色々考えてしまい、学校が苦しくなったり、人に会いたくないことが多くあります。自分が嫌いで人と比べてしまうことがあります。見た目や性格でよく悩んでしまうことがあります。面倒くさいと思われたくなくて自分の話をあまり人にすることができません。【女・ひとり親】

【一般層の意見等】

家族	●父親と母親が時々私の勉強方法でもめること(父は私に努力をさせたいが母は私に無理をさせたくない)。【女・ふたり親】
勉強	●学校での補講をふやしてほしい。宿題を毎日出してほしい。【男・-】 ●自分に合った勉強方法が、知りたいです。あと自分でも高校に行けるかのう性がほしい。【男・ふたり親】 ●学校で苦手な教科の授業でついていけるか心配。【男・ひとり親】



勉強以外の授業や行事
●学校で、1人1人の個性を生かした行事等があれば、やってみたいです。理由は、1人1人の個性というものはとても大切なものであり、個性を尊重してくれる人が1人でもいれば、それが自分自身の自信になると思ったからです。【男・ふたり親】
●文化祭でのチームワークもあまりなく、不満がたまる。しかたないのかもしれないが。【女・ふたり親】
●小学校のときはプールがあったのに中学校にはなく、水泳の授業が受けられないのが非常に残念だと思っている。(各校に1つ整備しなくても、市営プールを使ってもいいので)水泳の授業を行ってほしい。【男・ふたり親】
友だちやクラスメイト
●人と関わるのが難しく感じる事が最近よくある(家でも学校でも)。【女・ふたり親】
●周りにいじめといじりの差別化ができていない人が多い。【男・ふたり親】
●全体的に先輩や先生方、同級生をバカにするような言動をする人が多くみられる。【女・ふたり親】
先生
●顧問の先生がもっと責任を持ってほしい。不安になって挙手ができない。【女・ふたり親】
●中学2年の生徒指導の先生が嫌いな生徒に対してあたりが強い。【男・ふたり親】
●学年の先生との相談事があってもあまりよく対応してくれない。先生が把握しているだけなので、解決につながらない。【女・ふたり親】
学校環境
●学校が何でもタブレットを「活用」しているので、目がつかれてしまう。紙の方がやりやすかったものも全てタブレットなので、紙の方が生徒にとってやりやすいものは紙にしてほしい。【男・ふたり親】
●校則が多いと感じます。髪型などもなぜ自由じゃないのか、よく分かりません。社会に出たら、メイクをしないとだらしがないと言われるのに、今時間がある時になぜ、練習させてくれないのか。メイクできたほうがモチベも上がると思います。でも、メイクは少しお金もかかり、貧富の差が出るからダメなのかもしれませんが、髪型はいいと思います。もう少し髪型に関する校則をゆるくしたらいのにな、と思います。【女・ふたり親】
●学校から支給されるタブレットで調べる学習をしている時、規制がかからなかったらいいなと思います。あと、メタモジクラスルームが時々フリーズしてしまうので、勉強の時に使えないと困るので、もう少しフリーズしないようにしてほしいです。【女・ふたり親】
部活動
●学校の部活や塾・生徒会など、忙しい。休むひまがない。【男・ふたり親】
●部活の友達のパースナルスペースが近い。【女・ひとり親】
●私は吹奏楽部に所属しているのですが、浜松市のように駅前などの大勢の方の前で毎週市内のどこかの中学校が曲を演奏するという場を設けてもらいたいです。理由は北中では年に2、3回程体育館でコンサートを行うのですが、あまり人に聞いてもらえなかったり、本番の回数が少ないのでコンクールの時に人に聞いてもらうということに慣れていないため、あまりしっかり吹けないということが多くあります。そのため県大会では浜松などの西部の学校と比べて中部、東部の学校が弱いということがよくあります。以下の理由で駅前前で演奏をする場を設けていただきたいです。ご検討よろしくお願い致します。【女・ふたり親】
相談・登校拒否
●相談です。僕は学校に行きたくないです。毎日、提出物や勉強、友達との関係、部活に追われる日々で疲れてしまいます。さらに、僕は成績が悪くなく、自分の将来像が見えず不安でしかたありません。ただ、このことを誰かに相談すると、ならちゃんと勉強をすればいいじゃん。ちゃんと提出物を出せばいいじゃんと言われるのがこわくて、誰にも相談することができませんでした。なので、この調査を機に相談することにしました。まだ言いたいことはたくさんありますが、マスや時間がもうないので、ここで終わりたいと思います。ここまで読んでくださり、ありがとうございます。【男・ひとり親】
●学校に行くのが辛い。毎日行かなきゃと思い、頑張っている。親は無理しなくてもいいと言われてたが、友達がいつも一緒にいてくれるけど急に休んだらその子が1人になってしまうと考えると休みづらく、もう学校なんてやめたい。【女・ふたり親】
●少しでも誰かに相談できること、ストレスや疲れが取れる方法を知りたい。【女・ふたり親】

放課後の居場所・学習スペース	
●ひとりでいたい人だけが行ける、静かな個別空間。【女・ふたり親】	
●家で勉強する時に、弟や妹がうるさくて勉強に集中出来ないので、静かに勉強出来るような所があったらいいなと思います。【女・ひとり親】	
●スケボーなどを道路でやることが禁止されているため、そうした自由に体を動かせる場所や、多種多様なスポーツができる場所がほしいです。【女・ひとり親】	
生活環境	
●友達と遊びに行くときや、図書館などへ行くとき、あまりバスがないため少し不便です。【女・ひとり親】	
●好きなものがたくさん買える（推しの物）お金があったらいいなと思う。【女・ふたり親】	
●もうちょっと、いろいろな事に、たくさんの時間をかけたら、もっと生活が楽しくなるなと思う。【男・ふたり親】	
自分の性格、外見、健康等のこと・悩み	
●自分は自分に出来る精一杯の事をしているつもりで、友人や周りの大人にも前より少しは良く思ってもらっているはずだけど、本当はみんな自分の事を嫌っているのではないか、もっと言うと興味すらないのではないかとたまに不安になり、勝手に落ち込んでメンタルがボロボロになる。これを改善したいなどの考えはない。【男・ふたり親】	
●人の声がとてもうるさく感じます。声が高ければ高いほど不快感と気持ち悪さが増します。私のわがままなのかもしれないけれど、えずくようなものがわいてきて、本当に嫌です。今までうるさく感じなかった声は数えるほどしかないで、人と話すのが怖くてためらってしまいます。【回答しない・ひとり親】	
●学校が楽しくない。勉強が分からない。進学できるか分からない。生きてて何になるのか。【男・ふたり親】	
その他	
●今の学校の生活や家の生活はとても充実して楽しい毎日を過ごすことができているのでとくに困っていることなどはありません。【男・ふたり親】	
●しあわせです。【女・ふたり親】	

# 三島市子どもの生活実態調査課題の整理

## 支援対象と支援方針

- アンケート調査結果に基づく三島市の生活困窮割合は、困窮層の割合が小学5年生で4.8%、中学2年生で4.4%※<sup>1</sup>と1割を下回ることから、決して高い割合ではないものの、支援を必要とする生活困難世帯とその子どもは存在しています。
- 特に、困窮層の家庭はひとり親世帯に多い傾向があり※<sup>2</sup>、また多子世帯も困窮層の割合が少ない※<sup>3</sup>と考えられます。これらを含めた困窮層の家庭の子どもは、一般層の家庭と比べて学習塾や習い事をしていない場合が多く※<sup>4</sup>、学力や学習意欲の低下にも影響していることが示唆されます。また、困窮層の家庭では、親が子どもの勉強をみる機会が一般層に比べて少なく※<sup>5</sup>、子どもの家庭学習の機会が十分に保たれていないことが懸念されます。
- こうしたことから、三島市では、子育てや家事、仕事で多忙な家庭とその子どもへの相談支援やサポート体制の充実など総合的な支援体制の構築を推進していくとともに、特にひとり親世帯や多子世帯などへの各家庭への個別支援の充実と、学校以外での学習機会・環境の整備に取り組み、子どもたちが経済的・環境的な要因に関わらず、等しく学びの機会と充実が得られるよう施策を検討します。

### 関連する調査結果

- ※<sup>1</sup> 3頁 調査の概要 「生活困難」について (4)生活困難層の割合
- ※<sup>2</sup> 8頁 保護者票 あなた(ご回答者)とご家族について 世帯タイプ別(「ひとり親世帯」と「ふたり親世帯」)の生活困難度
- ※<sup>3</sup> 6頁 保護者票 あなた(ご回答者)とご家族について 問1(2)17歳以下の子ども的人数(生活困難度別)
- ※<sup>4</sup> 26頁 保護者票 お子さまについて 問14 現在、子どもが通っている習い事等
- ※<sup>5</sup> 20頁 保護者票 お子さまについて 問10 子どもと過ごす時間(①勉強をみる)

## 主な課題

### (1)教育、学習環境の不足による学習意欲の低下

- 困窮層の家庭の子どもは、学習塾や家庭教師に勉強を「教わっていない」と回答している割合は小学5年生が70.0%、中学2年生が62.5%で一般層と比べて高く、特に中学2年生では一般層と2倍以上の差があります※<sup>6</sup>。
- 困窮層の家庭の子どもは、クラスの中での成績の順位を「やや下の方」または「下の方」と回答している割合の合計は小学5年生が45.0%、中学2年生が62.5%で一般層と比べて2倍以上の差があります※<sup>7</sup>。また、学校の授業について、困窮層の家庭の子どもで、「あまりわからない」または「ほとんどわからない」と回答している割合は小学5年生が25.0%、中学2年生が31.2%で一般層と比べて高くなっており※<sup>8</sup>、勉強に対する自信や楽しいと感じる意識に格差が生じてしまっていることが懸念されます。
- 使ってみたい場所について、困窮層の家庭の中学2年生は、“家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所”の回答の割合が40.6%で一般層と比べて高くなっています※<sup>9</sup>。
- こうしたことから、特に困窮層の家庭の子どもへの学習支援の観点から、家や学校以外の地域の中で学習機会の充実と環境の整備を推進していくことで、経済的な事情や家庭内の環境に関わらず、

全ての子どもたちに平等な学びの機会を提供できることが期待されます。

#### 関連する調査結果

- ※6 115 頁 子ども票 学校のことや勉強のことについて 問 21 学習じゅくや家庭教師に勉強を教わっているか
- ※7 116 頁 子ども票 学校のことや勉強のことについて 問 22 クラスの中での成績の順位
- ※8 117 頁 子ども票 学校のことや勉強のことについて 問 23 学校の授業の理解状況
- ※9 128 頁 子ども票 日常生活の中で感じていることについて 問 29 使ってみたい場所(④静かに勉強ができる場所)

## (2)進学に関わる貧困の連鎖

- 困窮層の家庭の保護者の悩みや不安は子どもの教育費や進学に係る費用で特に多く、中学2年生の保護者では「子どもの教育費のことが心配である」と「子どもの進学や受験のことが心配である」と回答した割合はそれぞれ68.8%<sup>※10</sup>となっています。
- また、中学2年生の困窮層の家庭の保護者の71.9%が、子どもが希望したとき大学等への進学は「(金銭的な理由で)与えられそうにない」と回答しており<sup>※11</sup>、中学2年生の困窮層の家庭の子どもの34.8%、周辺層の家庭の子どもの42.3%が将来進学したい最終学歴を「高校(高等学校)」と回答しています<sup>※12</sup>。
- さらに、中学2年生の子どものうち、「大学」を目指している困窮層の家庭の子どもの21.7%となっており、周辺層の家庭の子どもの32.7%、一般層の家庭の子どもの56.9%であることと比べると低い割合です<sup>※13</sup>。
- 困窮層の家庭の中学2年生の母親と父親の最終学歴は「大学卒業」が9.4%と15.6%であるのに対して、一般層の家庭は母親が26.3%、父親が45.3%であることから<sup>※14</sup>、大学進学状況と生活困窮状況は少なからず関係していると考えられます。このことから、子どもたちの大学進学に必要な各種支援が求められます。

#### 関連する調査結果

- ※10 36～38 頁 保護者票 子育ての悩みや相談について 問 16～18 子どもに関する悩みや不安
- ※11 34 頁 保護者票 お子さまについて 問 15 子どもに与えているもの、そうでないもの(⑬希望すれば大学等への進学)
- ※12・13 118 頁 子ども票 学校のことや勉強のことについて 問 25 希望する将来の最終進学先
- ※14 16～17 頁 保護者票 あて名のお子さまのご両親について 問9 両親が最後に通った学校

### (3)子どもの居場所づくりと心身のケア

- 困窮層の家庭の子どもは、平日の朝食や夕食を「毎日食べない（週に1～2日、3～4日）」、食べるときは「一人」または「兄弟だけで食べる」、「カップ麺・インスタント麺」、「コンビニのおにぎり・お弁当」を「1週間に1～2日程度食べている」割合が一般層の子どもと比べて高く<sup>※15</sup>、食習慣に偏りが生じてしまっている可能性があります。
- 困窮層の家庭の小学5年生の子どもは、夜遅くまで子どもたちだけで過ごした経験の割合が一般層の子どもより高いこと<sup>※16</sup>、使ってみたい場所について、“（家以外で）平日の放課後に夜までいることができる場所”が25.0%、“家の人がいないとき、夕ご飯を食べることができる場所”と“（学校以外で）何でも相談できる場所”がそれぞれ35.0%の割合で一般層と比べて高くなっており<sup>※17</sup>、学校と家以外の居場所を求める傾向がうかがえます。
- こうした実態の背景には、保護者がひとり親であったり、多子世帯であったり、あるいは共働きであっても忙しく、放課後の時間以降もなかなか家にいられなかったり、子どもと接する余裕がなかったりしている場合が考えられます。そうした家庭をはじめとして、子どもたちだけで過ごせる家や学校以外の地域の居場所を充実させることや、楽しい食事の機会、なかなか親や友達に相談できないことを話せる第3の居場所、第3者の存在が求められていると考えられます。そして、家以外の環境でも子どもたちの健康面や精神面をサポートする周囲の支えが重要であり、それにより子どもたちの生活環境の改善につなげていく必要があると考えます。

#### 関連する調査結果

- ※15 76・78・86 頁 子ども票 ふだんの食事について 問9 ふだん食事として食べているもの(①カップめん・インスタントめん、②コンビニのおにぎり・お弁当)
- ※16 126 頁 子ども票 日常生活の中で感じていることについて 問28 これまでの経験((2)夜中まで子どもだけで過ごした)
- ※17 127～129 頁 子ども票 日常生活の中で感じていることについて 問29 使ってみたい場所(①放課後に夜までいることができる場所、③家の人がいないとき夕ご飯を食べられる場所、⑥学校以外で何でも相談できる場所)

### (4)子どもの親や家庭へのサポート

- 困窮層の家庭では、小学5年生の子どもへの悩みのうち勉強や進学以外では、「子どもが反抗的で、なかなか言うことを聞かない」の割合が30.0%で一般層の12.5%と比べて差が大きくなっています。中学2年生の子どもへの悩みとしては、「子どもに対するしつけや教育に自信が持てない」の割合が37.5%で、一般層の22.8%と比べて差が大きくなっています<sup>※18</sup>。
- 困窮層の家庭の親の、頼れる相手や心おきなく相談できる相手がいる割合は小学5年生が65.0%、中学2年生が71.9%で一般層と比べて低くなっています<sup>※19</sup>。この傾向は、5年前の調査結果から変わっていません。
- 困窮層の家庭が必要としている支援のうち、「住宅支援」の割合は小学5年生が55.0%、中学2年生が50.0%で一般層と比べて最も差が大きく<sup>※20</sup>、高い要望となっています。次いで一般層と比べて差が大きい支援・サービスは、小学5年生では「塾の費用等の貸付けや助成」で47.5%の割合で、子どもの学校外での学習機会を求めていることが分かります。中学2年生では、「奨学金制度の充実」の割合が68.8%と高く<sup>※20</sup>、高等学校以上の進学費用の確保を強く望んでいることがうかがえます。
- 子どもの健全な育ちには、親や家庭が健全であり、できるだけ余裕を持って子どもと接することが重要です。様々な悩みや不安にとらわれて、忙しさから子どもと接する時間もなくなってしまうような状況の場合、市の支援や専門機関のサポートも大きな役割を担うものと考えます。そのために

は、まず市の支援内容や市内の各種機関や事業所、活動団体の取組などを周知し、つなげていく必要があります。

- 市の子育て支援に関する情報の希望する取得先について、小学5年生の子どものいる困窮層の家庭では、「広報紙」と「町内会・自治会の回覧板」の割合が一般層と比べて特に低く、それぞれ25.0%、10.0%<sup>※21</sup>で地域との関わりの希薄さが影響している可能性が考えられます。中学2年生の子どものいる困窮層の家庭では、「スマートフォンアプリ」の割合が50.0%で一般層の37.8%と比べて高く<sup>※21</sup>、情報を取得する媒体として活用したいことがうかがえるため、アプリケーションの内容の充実を図っていく検討が有効であると考えられます。また、これらの情報や支援を提供する窓口やアナウンス、専門員によるアドバイス、学校や地域と連携したアウトリーチへの取組や連携体制の整備を行っていくことも重要です。

#### 関連する調査結果

- ※18 36 頁 保護者票 子育ての悩みや相談について 問 16 子どもに関する悩みや不安
- ※19 40 頁 保護者票 子育ての悩みや相談について 問 20 心おきなく相談できる相手がいるか
- ※20 47 頁 保護者票 各種支援・サービスについて 問 23 必要だと思う支援
- ※21 48 頁 保護者票 各種支援・サービスについて 問 24 子育て支援情報の入手先

## 三島市 子どもの生活実態調査報告書

---

令和6年3月発行

発 行 三島市

編 集 三島市 社会福祉部 子育て支援課

静岡県三島市北町4番 47 号

電 話 055(983)2712